宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第３３集

権現原第2遺跡

杉木原遺跡

永ノ原遺跡

東九州自動車道(西都～清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

2001年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

権現原第２遺跡・杉木原遺跡・永ノ原遺跡－東九州自動車道（西都～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅳ－正誤表

訂　正　箇　所	誤	正
挿図目次	第４図権現原第２遺跡集石遺構２側図（1） 第５図権現原第２遺跡集石遺構２側図（2） 第６図権現原第２遺跡集石遺構２側図（3）	第４図権現原第２遺跡集石遺構実測図（１） 第５図権現原第２遺跡集石遺構実測図（2） 第６図権現原第２遺跡集石遺構実測図（3）
図版目次　図版９	杉木原遺跡縄文早期土器 38（底部）	杉木原遺跡縄文早期土器 38（底部） 杉木原遺跡縄文早期土器 39（底部） 杉木原遺跡縄文早期土器 40（底部）
Ｐ２６	表１　権現原第２遺跡縄文観察表（４）	表１　権現原第２遺跡縄文土器観察表（4）

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第３３集

権現原第2遺跡

杉木原遺跡

永ノ原遺跡

東九州自動車道(西都～清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

2001年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道西都～清武間建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成７年度から10年度にかけて実施してまいりました。本書は、東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

本書に掲載した清武町所在の権現原第２遺跡、杉木原遺跡は平成７年度に、永ノ原遺跡は平成７～８年度に発掘調査を行ったものです。調査によって、旧石器から古墳時代にいたる各時代の遺構・遺物を確認することができました。

これらの遺構・遺物は、今後、当地域の歴史を解明するうえで貴重な資料になることと思います。

ここに報告する内容が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になることを期待しています。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成１３年２月

宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　　矢　野　　剛

例　　言

1　本書は、東九州自動車道（西都～清武間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎郡清武町所在の権現原第２遺跡、杉木原遺跡、永ノ原遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、日本道路公団の依頼により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県教育庁文化課・埋蔵文化財センターが実施した。

3　現地での実測等の記録は、各遺跡調査担当者が行い、地形測量については(有)大淀測量設計事務所(永ノ原遺跡)・(有)小城測量設計事務所(杉木原遺跡)に委託した。

4　本書で使用した写真については各遺跡調査担当者が撮影し、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。

5　各遺跡におけるテフラ分布等自然科学分析は、㈱古環境研究所に委託した。

6　土層断面及び土器の色調については、「新版標準土色帖」に拠った。

7　石材鑑定は一部を青山尚友氏（現宮崎県総合博物館）・松田清孝（宮崎県埋蔵文化財センター）に鑑定していただきそれを基に各調査員が行った。

8　本書に使用した位置図は、国土地理院発行の５万分の１図をもとに、また、各遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の千分の１図をもとに作成した。

9　整理作業は埋蔵文化財センターで行い、図面の作成、遺物実測、トレースは整理作業員の協力をえて、各遺跡調査担当者が行った。

10　本書に使用した記号は以下の通りである。

　ＳＡ…竪穴住居　　ＳＣ…土坑　　ＳＥ…溝状遺構　　ＳＩ…集石遺構

11　本書に使用した方位は主に磁北（Ｍ．Ｎ．）である。位置図など一部は座標北（Ġ．Ｎ．）である。また、レベルは海抜絶対高である。

12　出土遺物その他諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

13　本書の執筆は各遺跡の調査内容を各遺跡調査担当者が行い、編集は山田が行った。

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに　（山田洋一郎）
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　遺跡の位置と環境 …… 2

第Ⅱ章　権現原第二遺跡　（日高裕司）
第１節　調査の経過と概要 …… 5
第２節　遺跡の層序 …… 6
第３節　縄文早期の遺構と遺物
（１）遺構 …… １１
（２）遺物 …… １２
第４節　まとめ …… ３５

第Ⅲ章　杉木原遺跡　（髙山・山田）
第１節 調査の経過と概要 …… ４３
第２節　遺跡の層序 …… ４３
第３節 旧石器時代の遺物 …… ４４
第４節 縄文時代の遺構と遺物
１．草創期の遺物 …… ４９
２．早期の遺構と遺物
（１）遺構 …… ４９
（２）遺物 …… ７１
第５節　まとめ …… 125
第６節　杉木原遺跡の自然科学分析 …… 129

第Ⅳ章　永ノ原遺跡　（日髙広人）
第１節　調査の経過と概要 …… 166
第２節　遺跡の層序 …… 167
第３節　調査の成果
１．旧石器時代の遺物 …… 168
２．縄文時代早期の遺構・遺物
（１）遺構 …… 170
（２）遺物 …… 177
３．縄文時代前期・後期の遺物 …… 186
４．弥生時代から古墳時代の遺構・遺物
（１）遺構 …… 193
（２）遺物 …… 194
５．その他の遺構・遺物
（１）遺構 …… 196
（２）遺物 …… 206
第４節　まとめ …… 207

挿図目次

第Ⅰ章　はじめに

第１図　遺跡位置図 …… 4

第Ⅱ章　権現原第２遺跡

第１図　権現原第２遺跡周辺地形図 …… 5
第２図　権現原第２遺跡遺構分布図 …… 7
第３図　権現原第２遺跡トレンチ設定図 …… 7
第４図　権現原第２遺跡集石遺構２測図（1） …… 8
第５図　権現原第２遺跡集石遺構２測図（2） …… 9
第６図　権現原第２遺跡集石遺構２測図（3） …… 10
第７図　権現原第２遺跡縄文土器分布図 …… 13
第８図　権現原第２遺跡縄文土器類型別分布状況図 …… 14
第９図　権現原第２遺跡土器実測図（1） …… 15
第10図　権現原第２遺跡土器実測図（2） …… 16
第11図　権現原第２遺跡土器実測図（3） …… 17
第12図　権現原第２遺跡土器実測図（4） …… 18
第13図　権現原第２遺跡土器実測図（5） …… 19
第14図　権現原第２遺跡土器実測図（6） …… 20
第15図　権現原第２遺跡土器実測図（7） …… 21
第16図　権現原第２遺跡土器実測図（8） …… 22
第17図　権現原第２遺跡石器分布図 …… 28
第18図　権現原第２遺跡石器実測図（1） …… 29
第19図　権現原第２遺跡石器実測図（2） …… 30
第20図　権現原第２遺跡石器実測図（3） …… 31

第Ⅲ章　杉木原遺跡

第１図　杉木原遺跡調査区周辺地形図(1／2.000) …… 45
第２図　杉木原遺跡旧石器遺物分布図 …… 46
第３図　杉木原遺跡旧石器実測図 …… 47
第４図　杉木原遺跡集石遺構と礫の分布状況図 …… 55～56
第５図　杉木原遺跡集石遺構実測図（1） …… 58
第６図　杉木原遺跡集石遺構実測図（2） …… 59
第７図　杉木原遺跡集石遺構実測図（3） …… 60
第８図　杉木原遺跡集石遺構実測図（4） …… 61
第９図　杉木原遺跡集石遺構実測図（5） …… 62
第10図　杉木原遺跡集石遺構実測図（6） …… 63
第11図　杉木原遺跡集石遺構実測図（7） …… 64
第12図　杉木原遺跡集石遺構実測図（8） …… 65
第13図　杉木原遺跡集石遺構実測図（9） …… 66
第14図　杉木原遺跡集石遺構実測図（10） …… 67
第15図　杉木原遺跡集石遺構実測図（11） …… 68
第16図　杉木原遺跡集石遺構実測図（12） …… 69
第17図　杉木原遺跡集石遺構実測図（13） …… 70
第18図　杉木原遺跡集石遺構実測図（14） …… 71
第19図　杉木原遺跡土壙1号・3号実測図 …… 73
第20図　杉木原遺跡土壙2号・4号実測図 …… 74
第21図　杉木原遺跡Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類土器出土分布図 …… 75
第22図　杉木原遺跡Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類・Ⅶ類出土分布図 …… 76
第23図　杉木原遺跡押型文土器出土分布図 …… 77
第24図　杉木原遺跡塞ノ神式土器出土分布図 …… 78
第25図　杉木原遺跡縄文時代草創期土器実測図 …… 81
第26図　杉木原遺跡土器実測図（1） …… 81
第27図　杉木原遺跡土器実測図（2） …… 82
第28図　杉木原遺跡土器実測図（3） …… 83
第29図　杉木原遺跡土器実測図（4） …… 84
第30図　杉木原遺跡土器実測図（5） …… 85
第31図　杉木原遺跡土器実測図（6） …… 86
第32図　杉木原遺跡土器実測図（7） …… 87
第33図　杉木原遺跡土器実測図（8） …… 88
第34図　杉木原遺跡土器実測図（9） …… 89
第35図　杉木原遺跡土器実測図（10） …… 90
第36図　杉木原遺跡土器実測図（11） …… 91
第37図　杉木原遺跡土器実測図（12） …… 92
第38図　杉木原遺跡土器実測図（13） …… 93
第39図　杉木原遺跡土器実測図（14） …… 94
第40図　杉木原遺跡土器実測図（15） …… 95
第41図　杉木原遺跡土器実測図（16） …… 96
第42図　杉木原遺跡縄文石鏃分布図 …… 108
第43図　杉木原遺跡縄文石器分布図 …… 109
第44図　杉木原遺跡縄文石器実測図（1） …… 110
第45図　杉木原遺跡縄文石器実測図（2） …… 111
第46図　杉木原遺跡縄文石器実測図（3） …… 112
第47図　杉木原遺跡縄文石器実測図（4） …… 113
第48図　杉木原遺跡縄文石器実測図（5） …… 114
第49図　杉木原遺跡縄文石器実測図（6） …… 115
第50図　杉木原遺跡縄文石器実測図（7） …… 116
第51図　杉木原遺跡縄文石器実測図（8） …… 117

第Ⅳ章　永ノ原遺跡

第１図　永ノ原遺跡調査区及びグリッド配置図 …… 165
第２図　永ノ原遺跡基本土層柱状図 …… 168
第３図　永ノ原遺跡旧石器時代遺物実測図 …… 168
第４図　永ノ原遺跡縄文時代早期遺構分布図 …… 169
第５図　永ノ原遺跡ＳＩ１・２遺構実測図 …… 171
第６図　永ノ原遺跡ＳＩ３～５遺構実測図及びＳＩ４出土遺物実測図 …… 172
第７図　永ノ原遺跡ＳＩ６～８遺構実測図 …… 173
第８図　永ノ原遺跡ＳＩ９～11遺構実測図及びＳＩ10出土遺物実測図 …… 175
第９図　永ノ原遺跡ＳＩ１２～１４遺構実測図 …… 176
第10図　永ノ原遺跡縄文時代早期遺物分布図 …… 178
第11図　永ノ原遺跡縄文時代早期土器実測図 …… 179
第12図　永ノ原遺跡縄文時代早期石器実測図 …… 182
第13図　永ノ原遺跡縄文時代早期石器実測図（2） …… 183
第14図　永ノ原遺跡Ⅳb層面検出遺構分布図 …… 185
第15図　永ノ原遺跡縄文時代前期・後期土器実測図 …… 187
第16図　永ノ原遺跡縄文時代石器実測図 …… 189
第17図　永ノ原遺跡縄文時代石器実測図（2） …… 190
第18図　永ノ原遺跡SA1遺構実測図及び出土遺物実測図 …… 192
第19図　永ノ原遺跡SA1出土遺物実測図（2） …… 193
第20図　永ノ原遺跡弥生～古墳時代土器実測図 …… 194
第21図　永ノ原遺跡SA2・3遺構実測図 …… 197
第22図　永ノ原遺跡SA3出土遺物実測図 …… 198
第23図　永ノ原遺跡SA4遺構実測図及び出土遺物実測図 …… 199
第24図　永ノ原遺跡SA4出土遺物実測図（2） …… 200
第25図　永ノ原遺跡SA4出土遺物実測図（3） …… 201
第26図　永ノ原遺跡SB1～3遺構実測図 …… 203
第27図　永ノ原遺跡SB4～７遺構実測図 …… 204
第28図　永ノ原遺跡SB8・SC1遺構実測図 …… 206
第29図　永ノ原遺跡土錘実測図 …… 206

表目次

第Ⅱ章　権現原第２遺跡

表　1　権現原第２遺跡縄文土器観察表（1）…… 23
権現原第２遺跡縄文土器観察表（2）…… 24
権現原第２遺跡縄文土器観察表（3）…… 25
権現原第２遺跡縄文土器観察表（4）…… 26
表　2　権現原第２遺跡石器計測表 …… 32

第Ⅲ章　杉木原遺跡

表　1　杉木原遺跡旧石器観察表（1）…… 48
杉木原遺跡旧石器観察表（2）…… 49
表　2　杉木原遺跡集石遺構計測表 …… 72
表　3　杉木原遺跡縄文時代（草創期）の遺物観察表 …… 97
表　4　杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(1) …… 97
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(2) …… 98
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(3) …… 99
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(4) …… 100
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(5) …… 101
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(6) …… 102
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(7) …… 103
杉木原遺跡縄文時代(早期)の遺物観察表(8) …… 104
表　5　杉木原遺跡縄文石器計測表（1）…… 118
杉木原遺跡縄文石器計測表（2）…… 119
杉木原遺跡縄文石器計測表（3）…… 120
杉木原遺跡縄文石器計測表（4）…… 121
杉木原遺跡縄文石器計測表（5）…… 122
杉木原遺跡縄文石器計測表（6）…… 123

第Ⅳ章　永ノ原遺跡

表　1　永ノ原遺跡旧石器時代遺物計測表 …… 168
表　2　永ノ原遺跡縄文時代早期土器観察表 …… 180
表　3　永ノ原遺跡縄文時代早期石器計測表 …… 184
表　4　永ノ原遺跡縄文時代前・後期土器観察表 …… 187
表　5　永ノ原遺跡縄文時代石器計測表 …… 191
表　6　永ノ原遺跡ＳＡ1出土遺物観察表 …… 195
表　7　永ノ原遺跡弥生時代～古墳時代出土土器観察表 …… 195
表　8　永ノ原遺跡ＳＡ３出土遺物観察表 …… 198
表　9　永ノ原遺跡ＳＡ４出土遺物観察表 …… 198
表　10　永ノ原遺跡土錘計測表…… 206

図版目次

第Ⅱ章　権現原第２遺跡

図版１　権現原第２遺跡遠景 …… 37
権現原第２遺跡全景
権現原第２遺跡近景
Ⅲ層遺物出土状況
図版２　集石遺構検出作業 …… 38
１号集石・２号集石
３号集石
４号集石
５号集石
６号集石
７号集石
８号集石
図版３　権現原第２遺跡縄文時代早期土器（1） …… 39
図版４　権現原第２遺跡縄文時代早期土器（2） …… 40
図版５　権現原第２遺跡縄文時代早期土器（3） …… 41
図版６　権現原第２遺跡縄文時代早期石器 …… 42

第Ⅲ章　杉木原遺跡

図版１　杉木原遺跡全景 …… 153
杉木原遺跡集石遺構検出状況
杉木原遺跡３号集石検出状況
杉木原遺跡４号集石検出状況
図版２　杉木原遺跡６号集石検出状況 …… 154
杉木原遺跡27号集石検出状況
杉木原遺跡29号集石検出状況
図版３　杉木原遺跡30号集石検出状況 …… 155
杉木原遺跡42号集石検出状況
杉木原遺跡陥し穴遺構検出状況
図版４　杉木原遺跡縄文草創期土器 …… 156
杉木原遺跡縄文早期土器１（Ⅰ類）
杉木原遺跡縄文早期土器２（Ⅱ類）
杉木原遺跡縄文早期土器３（Ⅱ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器４（Ⅲ類）
杉木原遺跡縄文早期土器５（Ⅳ類）
図版５　杉木原遺跡縄文早期土器６（Ⅴ類） …… 157
杉木原遺跡縄文早期土器７（Ⅵ類）
杉木原遺跡縄文早期土器８（Ⅵ類底部）
杉木原遺跡縄文早期土器９（Ⅵ類）
杉木原遺跡縄文早期土器10（Ⅶ類）
杉木原遺跡縄文早期土器11（Ⅴ類） …… 158
図版６　杉木原遺跡縄文早期土器12（Ⅷa類）
杉木原遺跡縄文早期土器13（Ⅷa類）
杉木原遺跡縄文早期土器14（Ⅷb1類）
杉木原遺跡縄文早期土器15（Ⅷb1類）
杉木原遺跡縄文早期土器16（Ⅷb1類）
杉木原遺跡縄文早期土器17（Ⅷb1類）
図版７　杉木原遺跡縄文早期土器18（Ⅷb1類） …… 159
杉木原遺跡縄文早期土器19（Ⅷb1類）
杉木原遺跡縄文早期土器20（Ⅷb2類）
杉木原遺跡縄文早期土器21（Ⅷb2類）
杉木原遺跡縄文早期土器22（Ⅷb2類）
杉木原遺跡縄文早期土器23（Ⅷc1・Ⅷc2類）
杉木原遺跡縄文早期土器24（Ⅷc2類）
杉木原遺跡縄文早期土器25（Ⅷc2類）
図版８　杉木原遺跡縄文早期土器26（Ⅷc3類） …… 160
杉木原遺跡縄文早期土器27（Ⅷc3類）
杉木原遺跡縄文早期土器28（Ⅷ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器28（Ⅷ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器29（Ⅷ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器30（Ⅷ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器31（Ⅷ類底部）
杉木原遺跡縄文早期土器32（Ⅷ類底部）
杉木原遺跡縄文早期土器33（Ⅷ類底部）
図版９　杉木原遺跡縄文早期土器34（Ⅸ類） …… 161
杉木原遺跡縄文早期土器35（Ⅸ類）
杉木原遺跡縄文早期土器36（Ⅸ類胴部）
杉木原遺跡縄文早期土器37（Ⅹ類）
杉木原遺跡縄文早期土器38（底部）
図版10　杉木原遺跡旧石器（1） …… 162
杉木原遺跡旧石器（2）
杉木原遺跡旧石器（3）
杉木原遺跡縄文石器（1）
杉木原遺跡縄文石器（2）
杉木原遺跡縄文石器（3）
杉木原遺跡縄文石器（4）
杉木原遺跡縄文石器（5）
図版11　杉木原遺跡縄文石器（6） …… 163
杉木原遺跡縄文石器（7）
杉木原遺跡縄文石器（8）
杉木原遺跡縄文石器（9）
杉木原遺跡縄文石器（10）
杉木原遺跡縄文石器（11）
杉木原遺跡縄文石器（12）
杉木原遺跡縄文石器（13）
杉木原遺跡縄文石器（14）

第Ⅳ章　永ノ原遺跡

図版１　永ノ原遺跡遠景 …… 208
永ノ原遺跡遠景
図版２　Ａ区土層断面 …… 209
集石遺構検出作業
ＳＩ２
ＳＩ３
ＳＩ４
ＳＩ５
ＳＩ６
ＳＩ６下土坑
図版３　ＳＩ７ …… 210
ＳＩ９
ＳＩ１０
ＳＩ１１
ＳＩ１２
ＳＩ１３
ＳＩ１４
ＳＩ１４下土坑
Ｂ区Ⅵ層遺物出土状況
図版４　ＳＡ１ …… 211
ＳＡ２
ＳＡ３
ＳＡ４遺物出土状況
ＳＡ４（２）
ＳＣ１
ピット群
ピット群（２）
図版５　ピット群（３） …… 212
ＳＢ２～８
図版６　旧石器時代遺物 …… 213
縄文時代早期土器
縄文時代早期石器
縄文時代早期石器（２）
縄文時代前・後期土器
縄文時代前・後期石器
図版７　縄文時代前・後期石器（２） …… 214
ＳＡ１出土遺物
ＳＡ１出土遺物（２）
ＳＡ１出土遺物（３）
ＳＡ３出土遺物
ＳＡ４出土遺物
弥生土器
弥生～古墳時代の土器
土錘実測図

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

東九州自動車道延岡～清武間は平成元年２月に基本計画がなされ、平成３年１２月には西都～清武間については整備計画路線となっている。西都～清武間は、平成５年１１月に建設大臣から日本道路公団へ施工命令が出され、公団では平成６年度から事業に着手している。その間、県教育委員会文化課では、平成３年度に西都～清武間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は、平成７年度の清武工事区の７遺跡から調査を開始した。調査にあたっては高速道対策局・日本道路公団九州支社宮崎工事事務所・東九州自動車道用地事務所と綿密な打合せを行い、調査の時期や問題点、確認調査の場所設定について協議を行った。

第２節　調査の組織

権現原第２遺跡、杉木原遺跡、（平成７年度）、永ノ原遺跡（平成７年度～平成８年度）の調査組織は次のとおりである。

調査主体　宮崎県教育委員会

教　育　長	田原直廣（平成８年度）
	岩切重厚（平成９年度）
	笹山竹義（平成10年度～12年度）
文　化　課　長	江崎富治（平成８年度）
	仲田俊彦（平成９年度～11年度）
	黒岩正博（平成12年度）
主幹兼埋蔵文化財第二係長	岩永哲夫（平成７年度）
埋蔵文化財係長	面髙哲郎（平成８年度）
	北郷泰道（平成９年度～11年度）
	石川悦雄（平成12年度）
主事(調整担当)	飯田博之（平成７年度）
主任主事(調整担当)	飯田博之（平成12年度）
主査(調整担当)	永友良典（平成８年度）
主査(調整担当)	柳田宏一（平成９年度）
主任主事(調整担当)	重山郁子（平成10年度～11年度）
主査(調査担当)	日高裕司（権現原第２遺跡）
主査(調査担当)	髙山富雄（杉木原遺跡）
主任主事(調査担当)	山田洋一郎（杉木原遺跡）
主事(調査担当)	日髙広人（永ノ原遺跡）
調査員（嘱託）	白石　修（永ノ原遺跡）

調査主体　宮崎県埋蔵文化財センター

所　長	藤本健一(平成８・９年度)
	田中　守(平成１０・１１年度)
	矢野　剛(平成１２年度)
副参事	木幡文夫(平成８年度)
副所長	岩永哲夫(平成８・９・１２年度)
	江口京子(平成１１年度)
	菊地茂仁(平成１２年度)
調査第一課長	面髙哲郎(平成１２年度)
調査第一係長	岩永哲夫(平成８年度兼務)
	面髙哲郎(平成９年度～平成１１年度)
	面髙哲郎(平成１２年度兼務)
主事(調整担当)	飯田博之(平成８年度)
主査(調整担当)	菅付和樹(平成９年度～平成１１年度)
主査(整理作業調整担当)	倉永英季(平成１２年度)
主査(報告書担当)	日高裕司(平成８年度～１１年度)
主査(報告書担当)	髙山富雄(平成８年度～１１年度)
主査(報告書担当)	山田洋一郎
主任主事(報告書担当)	日髙広人
主査(調査担当･報告書担当)	髙橋祐二(永ノ原遺跡、平成8年度~10年度)
調査員(嘱託)	白岩　修(平成８年度)

第３節　遺跡の位置と環境

清武町は、県央、宮崎平野の南西部に位置し、日南山塊から延びる丘陵の先端部及びその間を流れる清武川とその支流水無川を中心とした低地からなり、川沿いの丘陵地には河岸段丘が発達し、町内の遺跡の大半はこの段丘上平坦面に形成されている。

近年、清武町では本合本に記載の遺跡を含む東九州自動車道に伴う発掘調査をはじめ、県営農地保全整備事業時屋地区における発掘調査等が実施されている。以下、町内の歴史、及び、主要な遺跡について、簡単に紹介してみたい。

清武町は古代から交通の要所として開け、後には飫肥街道も縦断し、清武城をはじめ中近世を中心とした史跡が町内に散在し、ひとつの町の雰囲気を醸し出している。特に室町時代には伊東氏の所領が日向のほぼ全域に及び、清武城を含む４８城を有するまでになる。　安土桃山時代、元亀３年の木崎原合戦に敗れ、一時、島津氏の所領となるが、天正１５年、豊臣秀吉の九州征伐の功により伊東祐兵の時から再び伊東氏の所領となり、幕末まで至る。このように、中近世の清武町は、伊

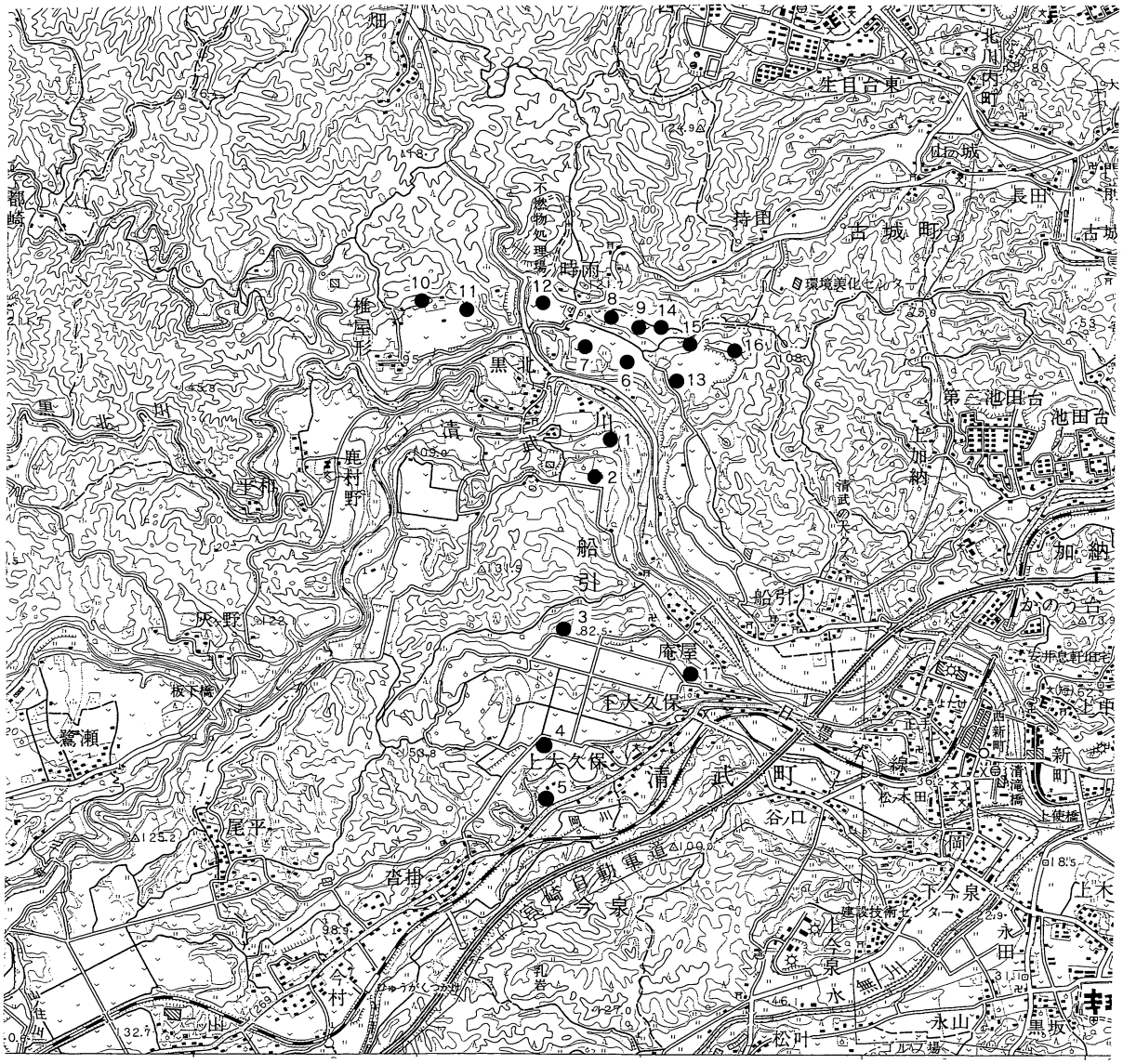
東氏の所領期が長いこともあって、広くその武士文化が浸透する基盤を持っており、特に現市街地を取り囲む丘陵地帯には、神社仏閣が数多く建立され、『日向地誌』によれば、寺院１６、神社５を数える。なかでも明治５年に廃寺となった勢田寺は日向七堂伽藍のひとつに数えられ、飫肥街道沿いに立地し、十二支院を持つ大伽藍であったとされ、宮崎学園都市遺跡群中の山内石塔群及び県指定有形文化財の五輪塔はこの勢田寺に由来するものとされる。山内石塔群は、記年在銘からは文明年間から天明年間にかけての約４５０基余りの五輪塔や板碑で構成されている。

その他、町内及び隣接地では、近年、発掘調査が急増し、古代以前の遺跡についても調査結果が報告されるようになり、貴重な文化遺産が紹介されている。杉木原遺跡の東に位置する竹ノ内遺跡では、旧石器時代から近世までの遺構・遺物が多数検出されており特に縄文時代後期の竪穴式住居が５１軒ほど検出されている。また、包含層から軽石製の岩偶が１個検出された。この岩偶は、鹿児島県の垂水市の柊原遺跡ににたものが検出されている。また、辻遺跡では貝殻復縁刺突文を連続した山形あるいは鋸歯状に施文する辻タイプと分類される縄文早期の土器が出土したことでも知られている。

本合本遺跡の北側の台地には県営農地保全整備事業関連の複合遺跡群が立地している。その中で椎屋形第１遺跡・椎屋形第２遺跡では、縄文時代草創期の土器が多量に出土するとともに、第１遺跡では弥生時代後期初頭の「花弁状住居跡」が検出されている。上ノ原第１遺跡・上ノ原第２遺跡では、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡・土壙群が検出されている。また、白ヶ野第１・第２・第３遺跡では、縄文時代早期を中心とする遺構・遺物が出土しており、特に第３遺跡Ｂ地区の古代の竪穴式住居群は特筆に価する。また、東九州関連の白ケ野遺跡は、縄文時代を中心とする遺構・遺物の検出量が非常に多い。

＜参考文献＞

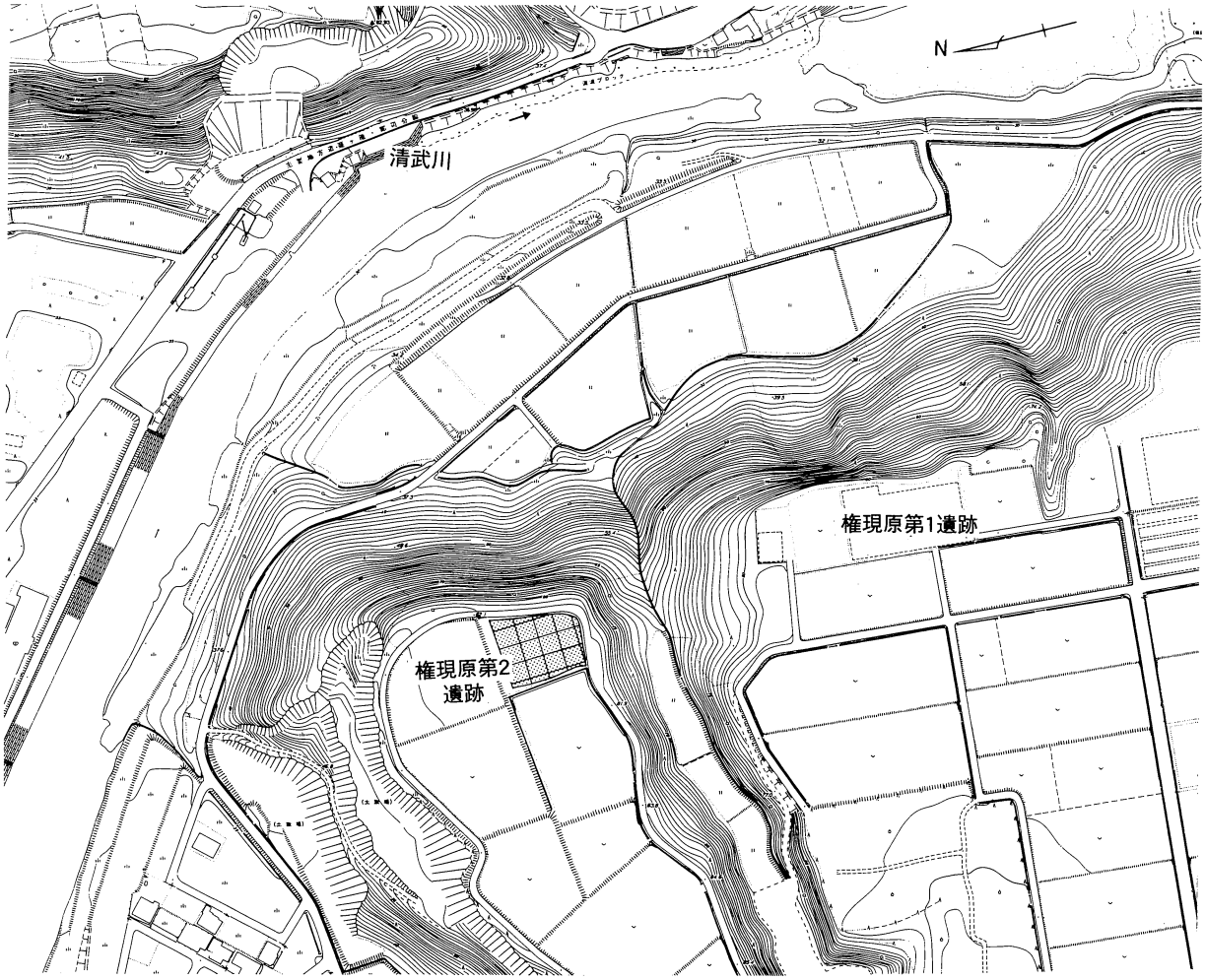
清武町教育委員会１９９０　『清武町遺跡詳細分布調査報告書』清武町埋蔵文化財調査報告書第４集



1：権現原第２遺跡　2：権現原第１遺跡　3：杉木原遺跡　4：下星野遺跡
5：永ノ原遺跡　6：上の原第１遺跡　7：上の原第２遺跡　8：上の原第３遺跡
9：上の原第４遺跡　10：椎屋形第２遺跡　11：椎屋形第１遺跡　12：上の原遺跡
13：白ケ野第１遺跡　14：白ケ野第３遺跡　15：白ケ野第２遺跡　16：白ケ野第４遺跡
17：竹ノ内遺跡

第１図　遺跡位置図

権現原第２遺跡



第１図　　権現原第２遺跡　周辺地形図　（１：4000）

第II章　　権現原第２遺跡

第１節　調査の経過と概要

権現原第２遺跡は、宮崎県宮崎郡清武町大字船引字安ヶ野にある。遺跡は、清武町北東端の標高約８０ｍのシラス台地上の縁辺部に立地し、北は清武川を挟んで上ノ原第１遺跡に、南は谷間を挟んで権現原第１遺跡に面している。

調査対象区域は、北西から南東に向けて緩やかに傾斜する地形で、調査前はたばこ、大根の耕作が行われていた。事前の確認調査で第Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）の残存範囲の確認、その下位から縄文土器、打製石鏃が検出された。その結果、調査対象範囲を当初の４，６００㎡から、第Ⅴ層（小林軽石を含む層）が残存している１，２００㎡に限定し、縄文時代の包含層を対象として調査に着手、平成７年１２月５日から平成８年３月１３日まで本調査を行った。

調査に際しては、重機で第Ⅰ層（表土）を除去した後、国土座標軸を基準とした１０ｍグリッドを設定し、北から南を３２、３１、３０区、東から西をＲＳ、Ｔ区として、その組み合せで区画を表示した。第Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）以下を人力で除去し、第Ⅲ層以下での遺構、遺物の検出に努めた。

まず、調査区中央にグリッドラインに沿って、南北、東西に各１本幅約１ｍの先行トレンチを設定

し、層位を確認しながら掘り下げを行った。
その結果、遺構として第Ⅲ層下位から第Ⅳ層上位にかけて、集石遺構８基が検出された。また、遺物として第Ⅲ層上位から第Ⅳ層上位にかけて、縄文時代早期の土器４４５点（貝殻条痕文円筒形土器、押型文土器、貝殻刺突文土器、その他）、石器５６４点（打製石鏃、敲石、剥片、チップ）が出土した。また、旧地形確認のため、第Ⅴ層直上で等高線の実測を行った。
その後、旧石器時代の包含層を確認するため、トレンチを設定して第Ⅶ層面まで掘り下げたが、第Ⅴ層以下では遺構、遺物は検出できなかった。

第２節 遺跡の層序

権現原第２遺跡では、右図に示す第Ⅰ層から第Ⅶ層が基本層序として確認された。第Ⅲ層、第Ⅳ層が縄文時代早期の包含層で、各層の状態については次の通りである。

第Ⅰ層	表土
第Ⅱ層	黄褐色土層（アカホヤ火山灰）
第Ⅲ層	明黄褐色土層（縄文時代早期包含層）
第Ⅳ層	褐色土層（縄文時代早期包含層）
第Ⅴ層	黒褐色土層（小林軽石をまばらに含む）
第Ⅵ層	黒褐色土層（小林軽石を多く含む）
第Ⅶ層	褐色土層

第Ⅰ層　表土（耕作土）

第Ⅱ層　黄褐色土層（Ｈｕｅ５ＹＲ　６／８）

黄橙色のパミスを含む黄褐色土層で、約６，３００年前に鬼界カルデラから噴出したアカホヤ火山灰に相当する。地形の関係で調査区南半の一部にのみ残存していた。

第Ⅲ層　明黄褐色土層（Ｈｕｅ１０ＹＲ　６／６）

粘性を持つ明るい褐色土層で、全体に微細な黄色粒、灰白色粒がまじる。上位から下位にかけて遺物が、また下位から集石遺構が検出された。

第Ⅳ層　褐色土層（Ｈｕｅ７．５ＹＲ　５／６）

第Ⅲ層より軟質な褐色土。上位で遺構、遺物が検出された。

第Ⅴ層　黒褐色土層（Ｈｕｅ７．５ＹＲ　３／２）

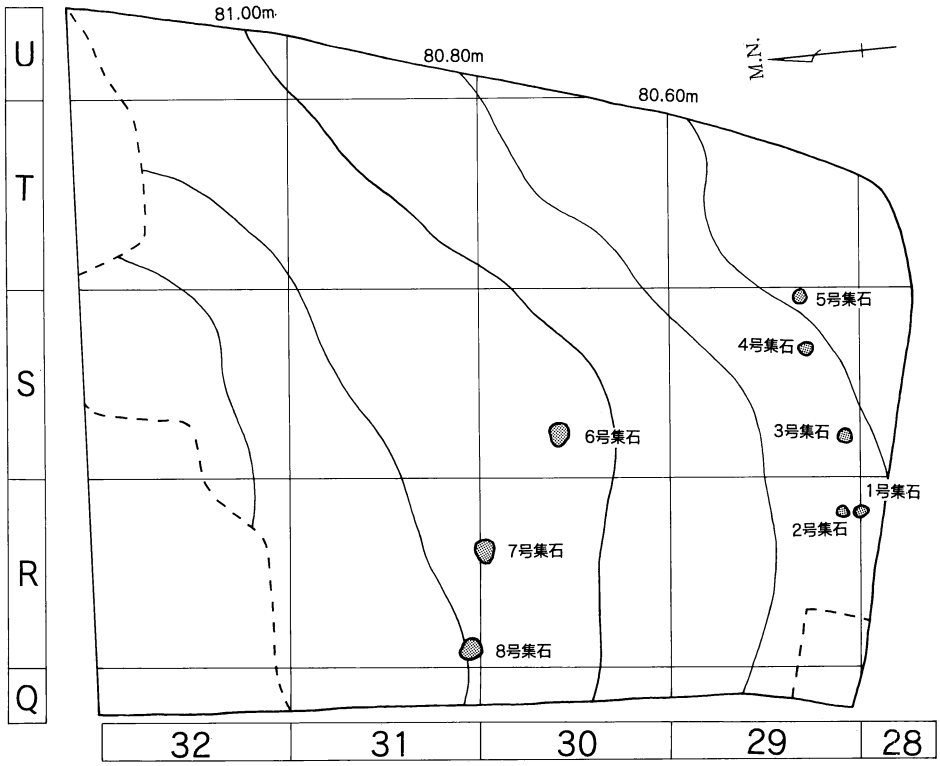
硬質でしまっている。全体に黒褐色のブロックがみられる。まばらに黄橙色軽石粒を含む。これは約１万４千年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石に相当する。

第Ⅵ層　黒褐色土層（Ｈｕｅ１０ＹＲ　２／２）

Ⅴ層に含まれる黒褐色土が全体に広がり、黄橙色軽石粒を多く含むブロックがみられる。硬質で乾燥すると縦にクラックが入りやすい。地形の関係で調査区の北端には残存していない。

第Ⅶ層　褐色土層（Ｈｕｅ７．５ＹＲ　４／３）

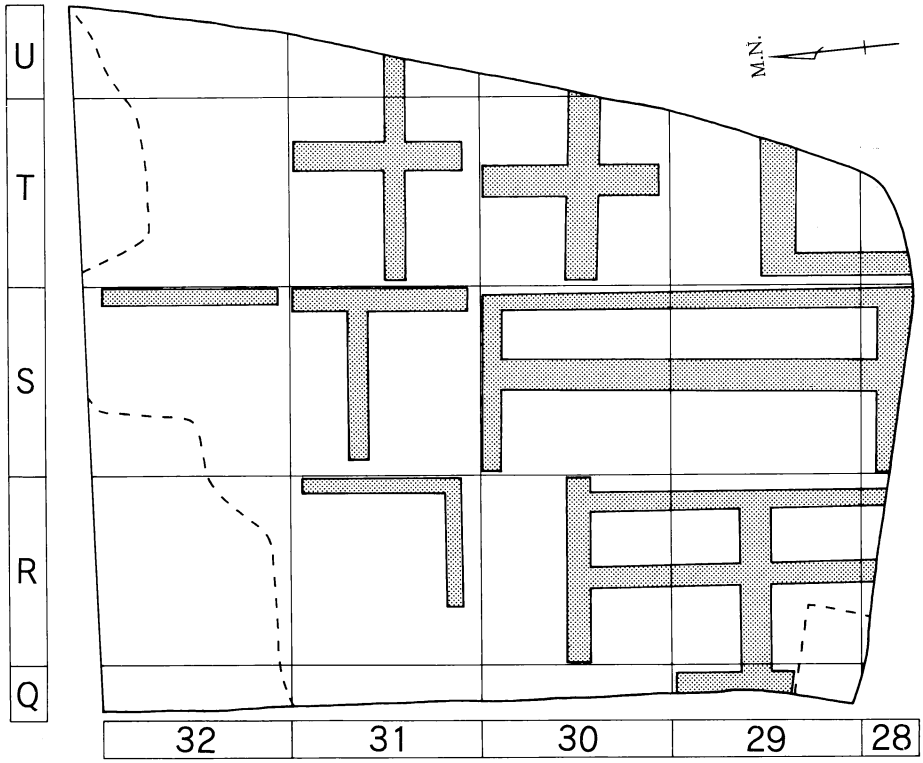
粘性をもつ褐色土で、ハードローム層と呼ばれる層である。



※等高線は、Ⅴ層直上で作成
※破線は、Ⅴ層の残存範囲を示す

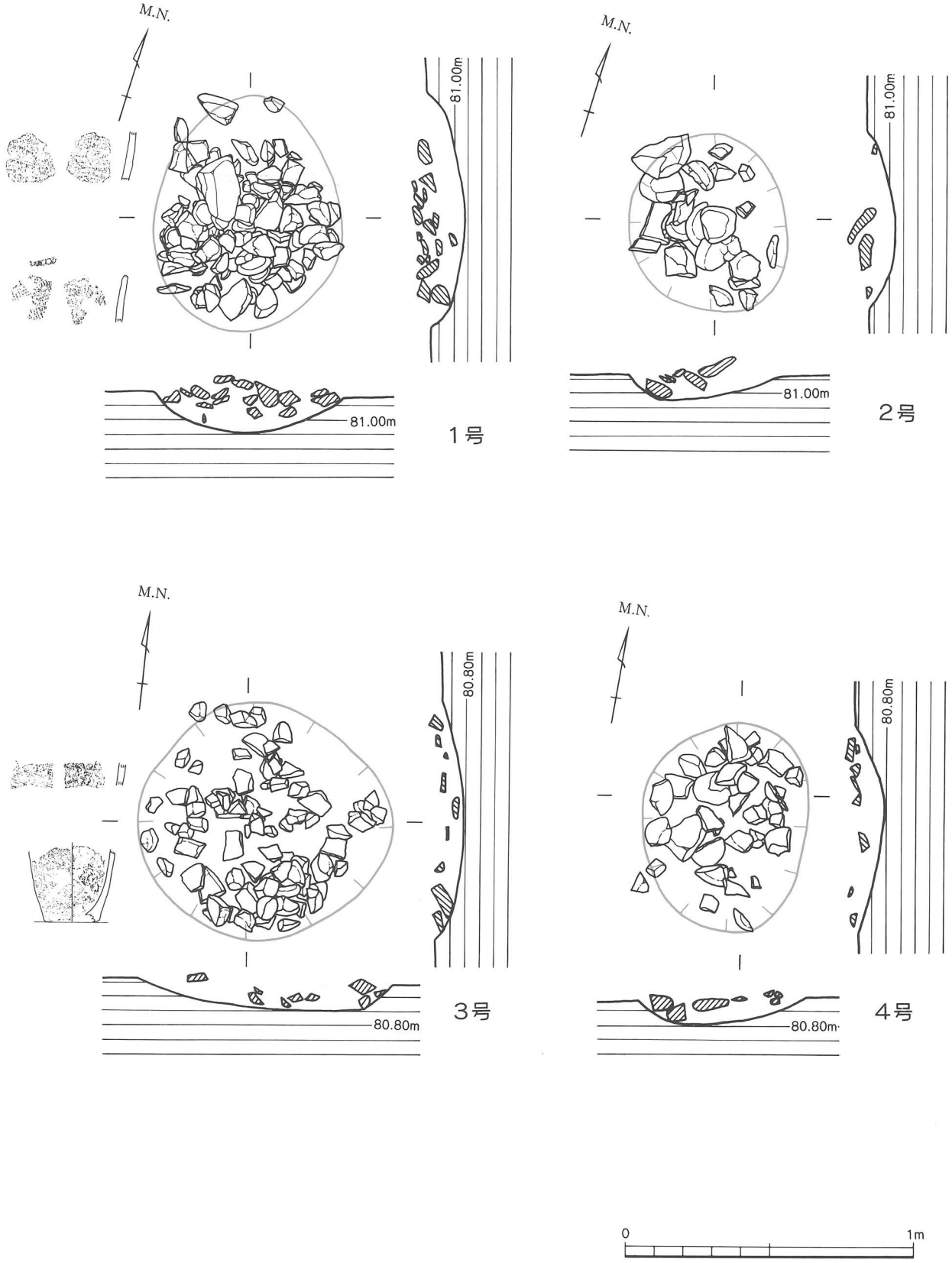
0 10m

第2図　権現原第2遺跡　遺構分布図（1/20）

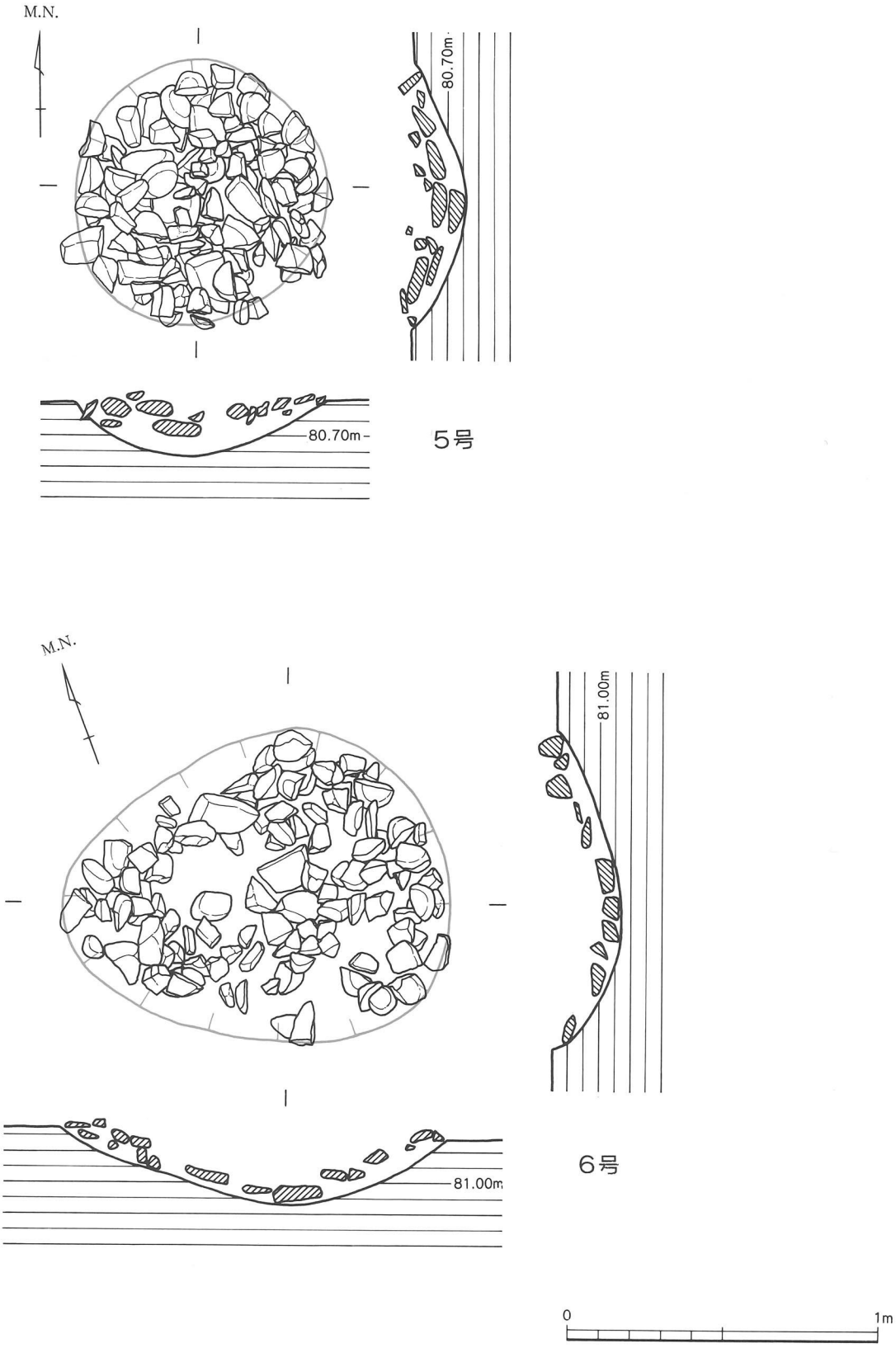


※トレンチ(アミかけ部分)
は、Ⅶ層まで掘り下げ

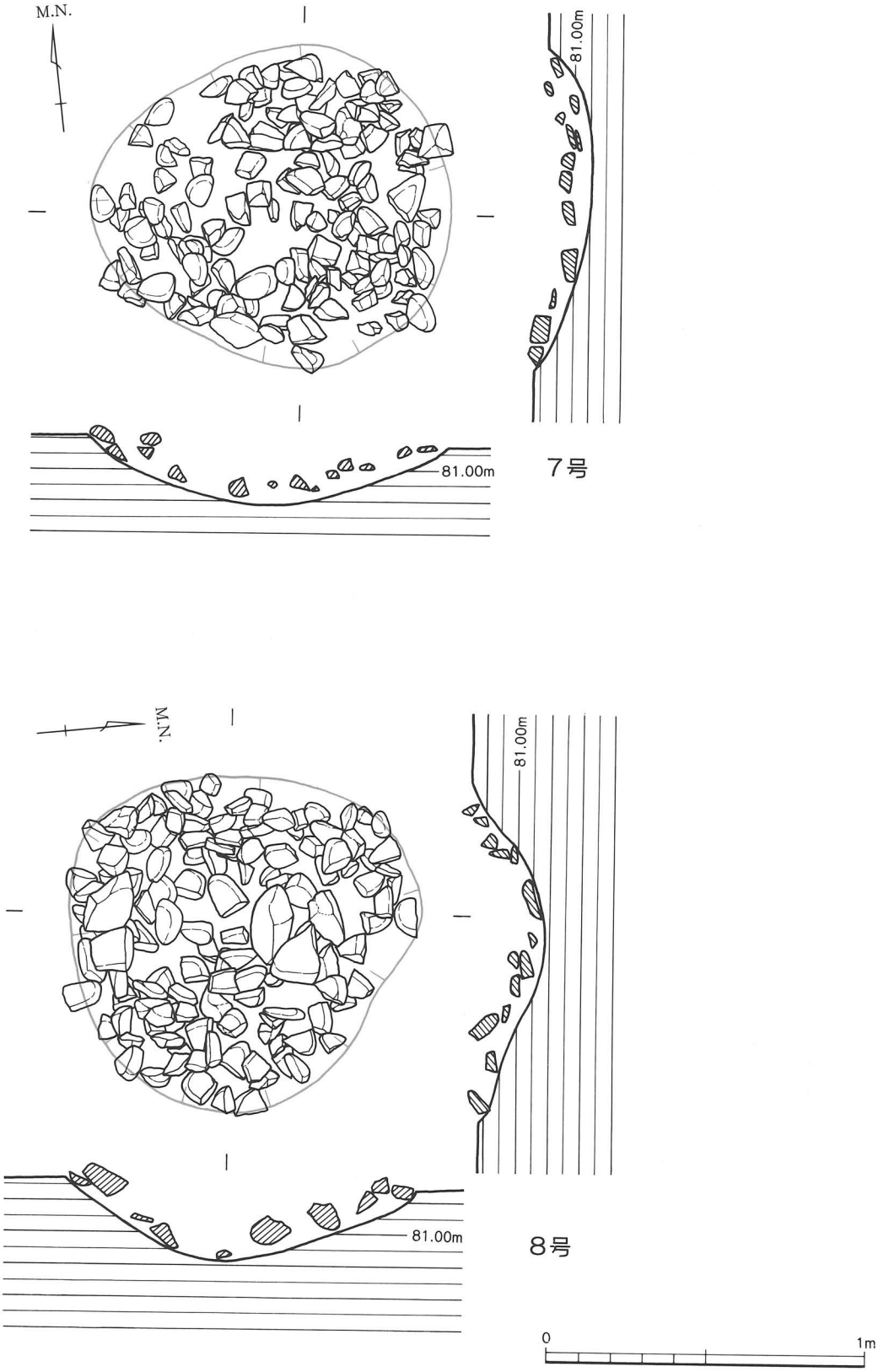
第3図　権現原第2遺跡　トレンチ設定図



第４図　　権現原第２遺跡　集石遺構実測図（1）



第5図　　権現原第2遺跡　集石遺構実測図(2)



第6図　　権現原第2遺跡　集石遺構実測図(3)

第３節　縄文時代早期の遺構と遺物

（１）遺構

集石遺構

集石遺構８基は第Ⅲ層下位から第Ⅳ層上位にかけて検出された。位置的には調査区の南端付近（Ｒ２８、２９、Ｓ２９区）に並ぶ１号から５号と、中央付近（Ｒ３０、３１、Ｓ３０区）の６号から８号の２群に分かれる。いずれも、構成礫は熱を受け赤化した破砕礫、円礫からなり、底部に配石は認められなかった。

１号集石（第４図）

Ｒ２８、２９区にまたがる位置の第Ⅲ層下位で検出。長径８２ｃｍ、短径６５ｃｍ、検出面からの深さ１５ｃｍの楕円形プランを呈し、本遺跡で検出された集石遺構の中では比較的小型なタイプに属する。円礫と小型の破砕礫が密集した形で使用されており、構成礫の除去後には皿状の掘り込みが確認された。遺構内上部で縄文土器（８１）、下部で無文土器（９２）が、どちらも構成礫の間から検出された。

２号集石（第４図）

Ｒ２９区南西端の第Ⅲ層下位で検出。長径６２ｃｍ、短径５４ｃｍ、検出面からの深さ８ｃｍの楕円形のプランを呈し、本遺跡で最も小型なものである。比較的大型の円礫があまり密集しない形で使用されており、構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。

３号集石（第４図）

Ｓ２９区南東端の第Ⅳ層上位で検出。長径８８ｃｍ、短径８４ｃｍ、検出面からの深さ１０ｃｍの円形プランを呈する。熱を受けて赤化した破砕礫が多く使用されているが、あまり密集はしていない。構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。遺構内上部で貝殻条痕文土器（１７、２７）が出土した。

４号集石（第４図）

Ｓ２９区中央付近の第Ⅳ層上位で検出。長径７３ｃｍ、短径５７ｃｍ、検出面からの深さ１０ｃｍの楕円形のプランを呈し、小型なタイプに属する。円礫と小形の破砕礫があまり密集しない形で使用されており、構成礫の除去後には、ごく浅い皿状の掘り込みが確認された。

５号集石（第５図）

Ｓ２９区西端の第Ⅳ層上位で検出。長径８６ｃｍ、短径８０ｃｍ、検出面からの深さ１８ｃｍの円形プランを呈する。大小の円礫と小形の破砕礫が密集した形で使用されており、構成礫の除去後には皿状の掘り込みが確認された。

６号集石（第５図）

Ｓ３０区東端の第Ⅲ層下位で検出。長径１２４ｃｍ、短径１０２ｃｍ、検出面からの深さ２４ｃｍの楕円形プランを呈し、本遺跡で最も大型なものである。構成礫は円礫と小型の破砕礫が使用されており、構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。なお、６号集石から８号集石は遺構上位の構成礫を除去した後、底面近くに残る礫だけを実測している。

７号集石（第６図）

Ｒ３０、３１区にまたがる位置の第Ⅳ層上位で検出。長径１１２ｃｍ、短径１０２ｃｍ、検出面からの深さ２０ｃｍの楕円形プランを呈し、大型のタイプに属する。構成礫の大半は熱を受け赤化した小型の破砕礫が、密集した形で使用されていた。構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。

８号集石（第６図）

Ｒ３１区南東端の第Ⅳ層上位で検出。長径１１０ｃｍ、短径１０５ｃｍ、検出面からの深さ２６ｃｍの不整円形プランを呈し、大型のタイプに属する。構成礫は大型の円礫と熱を受け赤化した小型の破砕礫が、密集した形で使用されていた。構成礫の除去後には深い皿状の掘り込みが確認された。

（２）遺物

土器

本遺跡では出土した土器は、いずれも第Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）直下の第Ⅲ層上位から第Ⅳ層上位にかけて検出されており、時期的には縄文時代早期の遺物と考えられる。

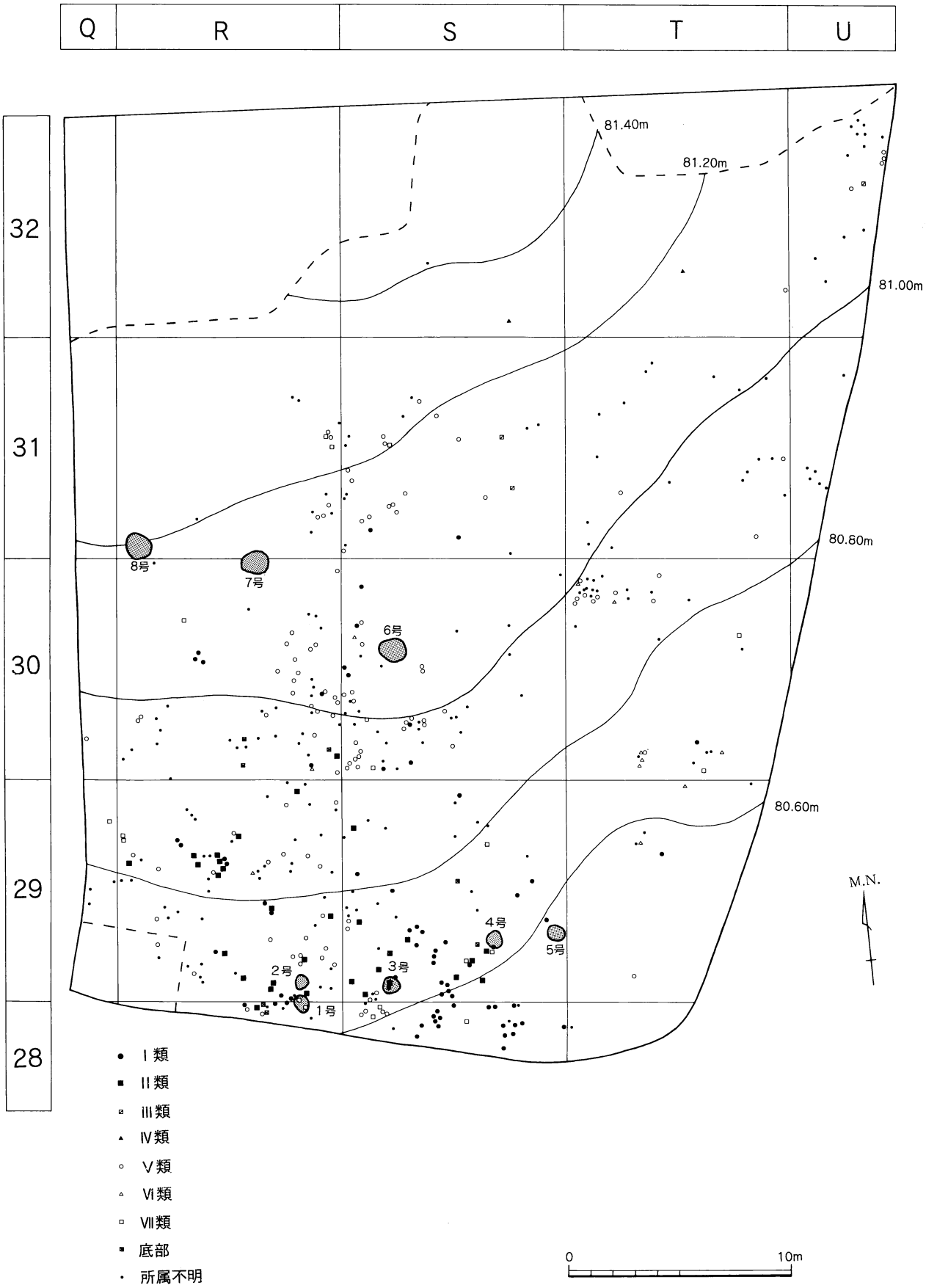
その種類は器面に施された文様、形態上の特徴をもとにⅠ類からⅧ類に分類できた。その中でもⅠ類１１６点（土器全体の２６％）、Ⅴ類７２点（１６％）、Ⅱ類２８点（６％）で全体の大半を占め、本遺跡での生活時期を考える上での参考になると思われる。

以下、類別にしたがって説明していく。

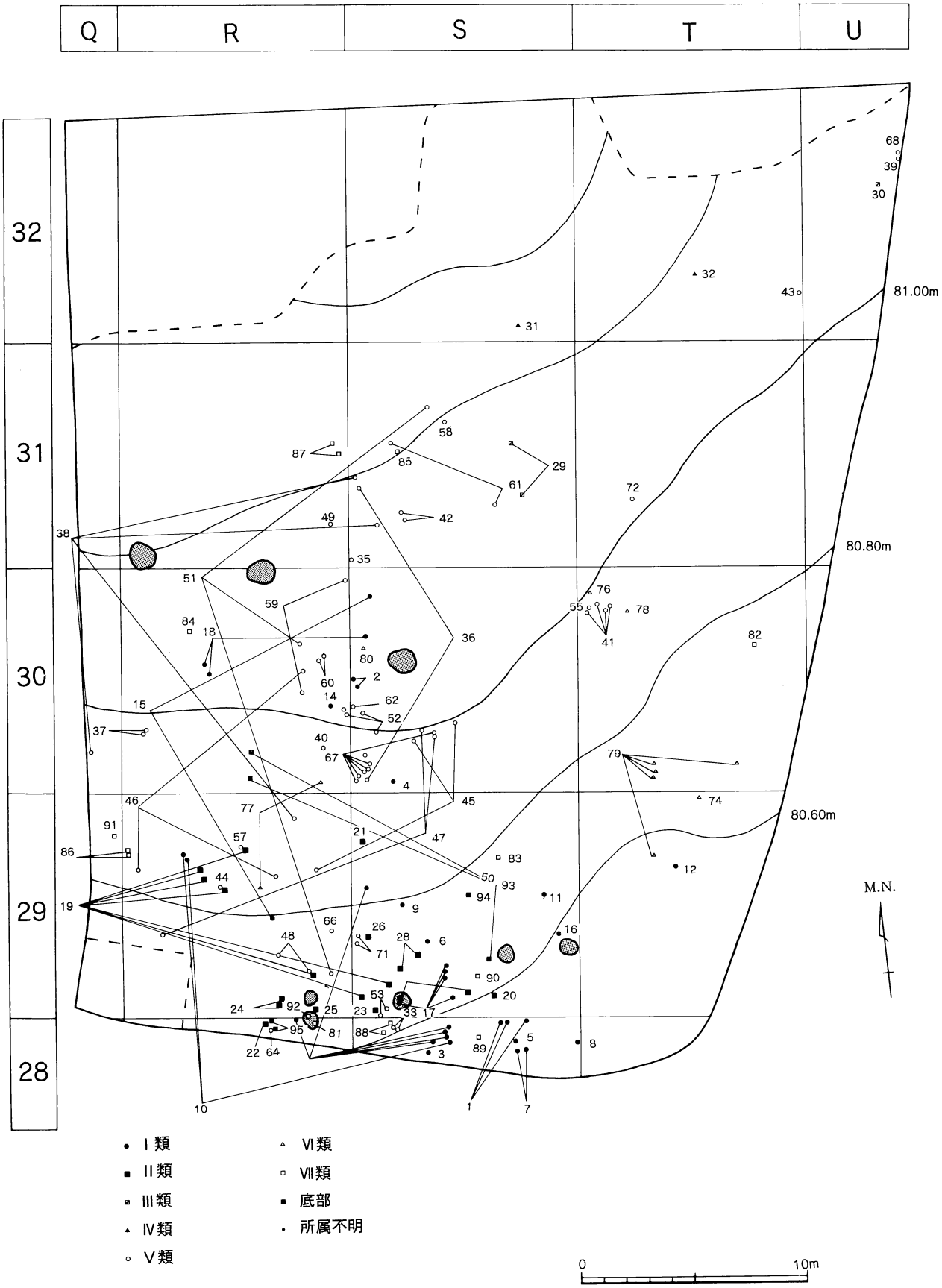
Ⅰ類（第９・１０図１～１８）

器形は円筒形を呈し、胴部器壁に斜方向、横方向の貝殻条痕文が施されているのが特徴である。口縁部は口縁部上端の施文によって、斜方向の短沈線文があるもの（１，５）、斜方向の貝殻腹縁刺突文があるもの（２～４，６，７）、縦方向の短沈線文があるもの（８）に分かれる。口唇部及び内面は丁寧なナデまたはミガキ調整である。

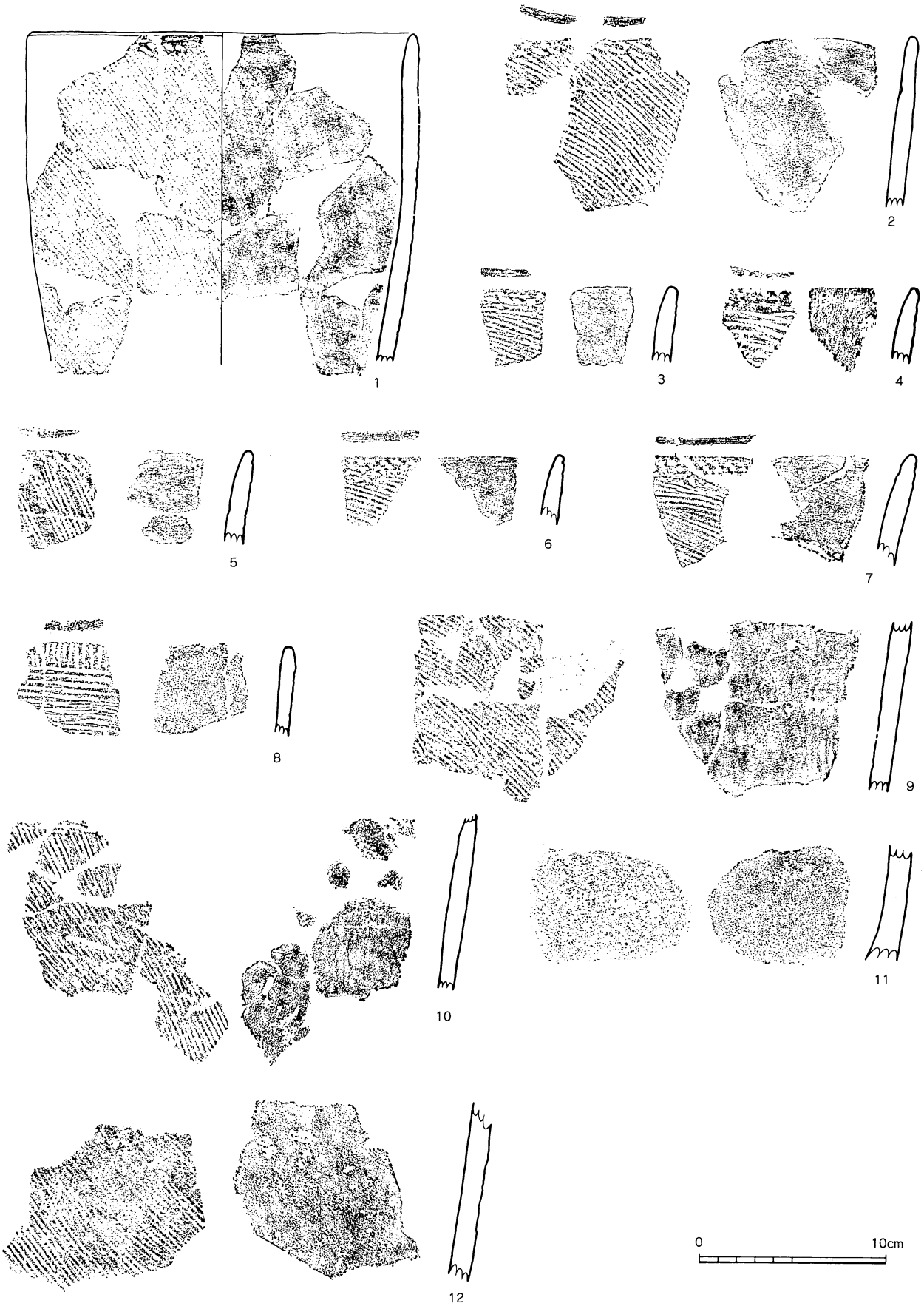
胴部施文には斜方向の貝殻条痕文（１０～１３）、横方向の貝殻条痕文（１４，１５）がある。底部（１６～１８）は平底で、外面には胴部から続く斜方向の貝殻条痕文の下位に丁寧なナデが施され、１７には指頭圧痕もみられる。また器形は円筒形であるが、底部は胴部に比較して径が小さくなる。



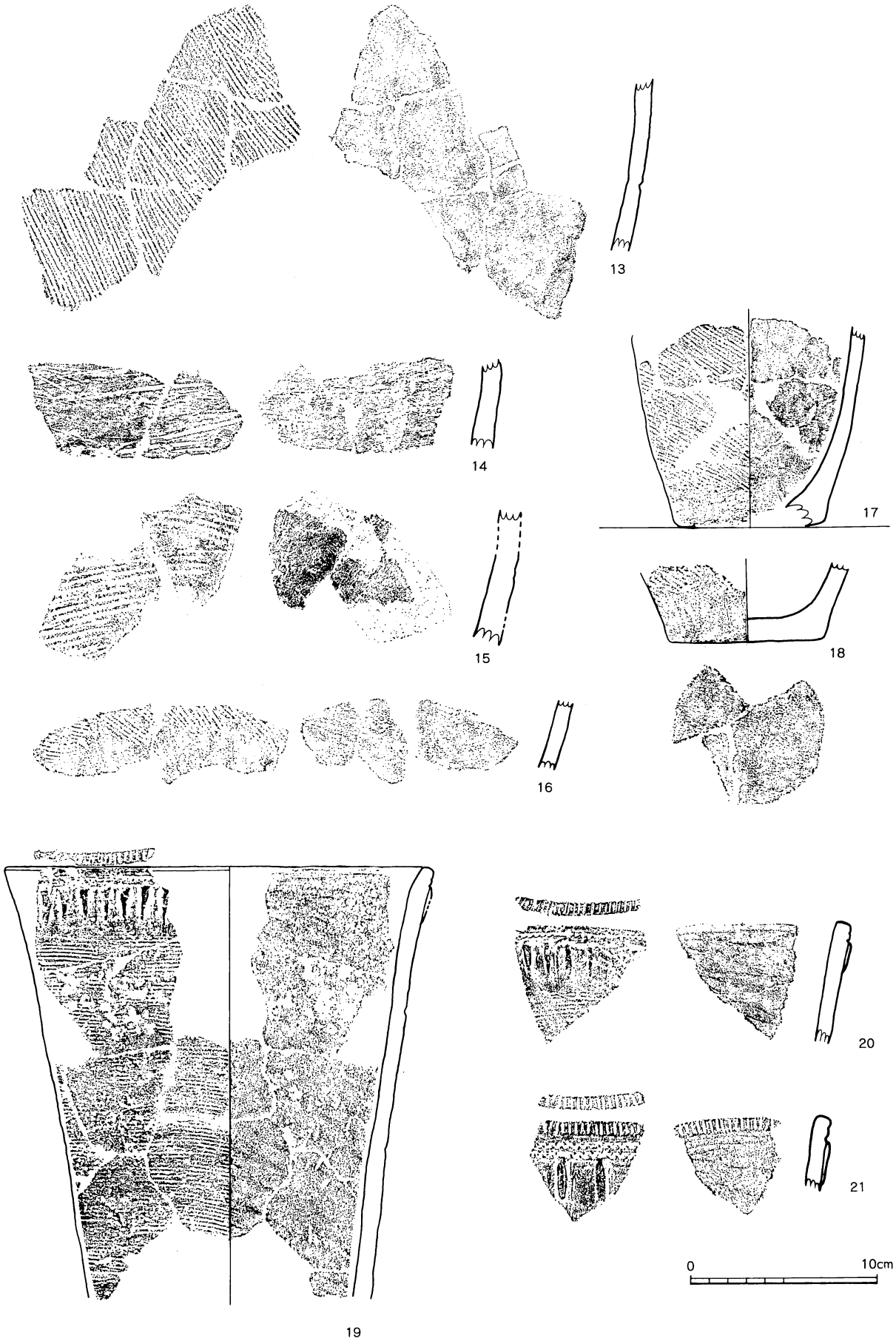
第７図　　権現原第２遺跡　縄文土器分布図



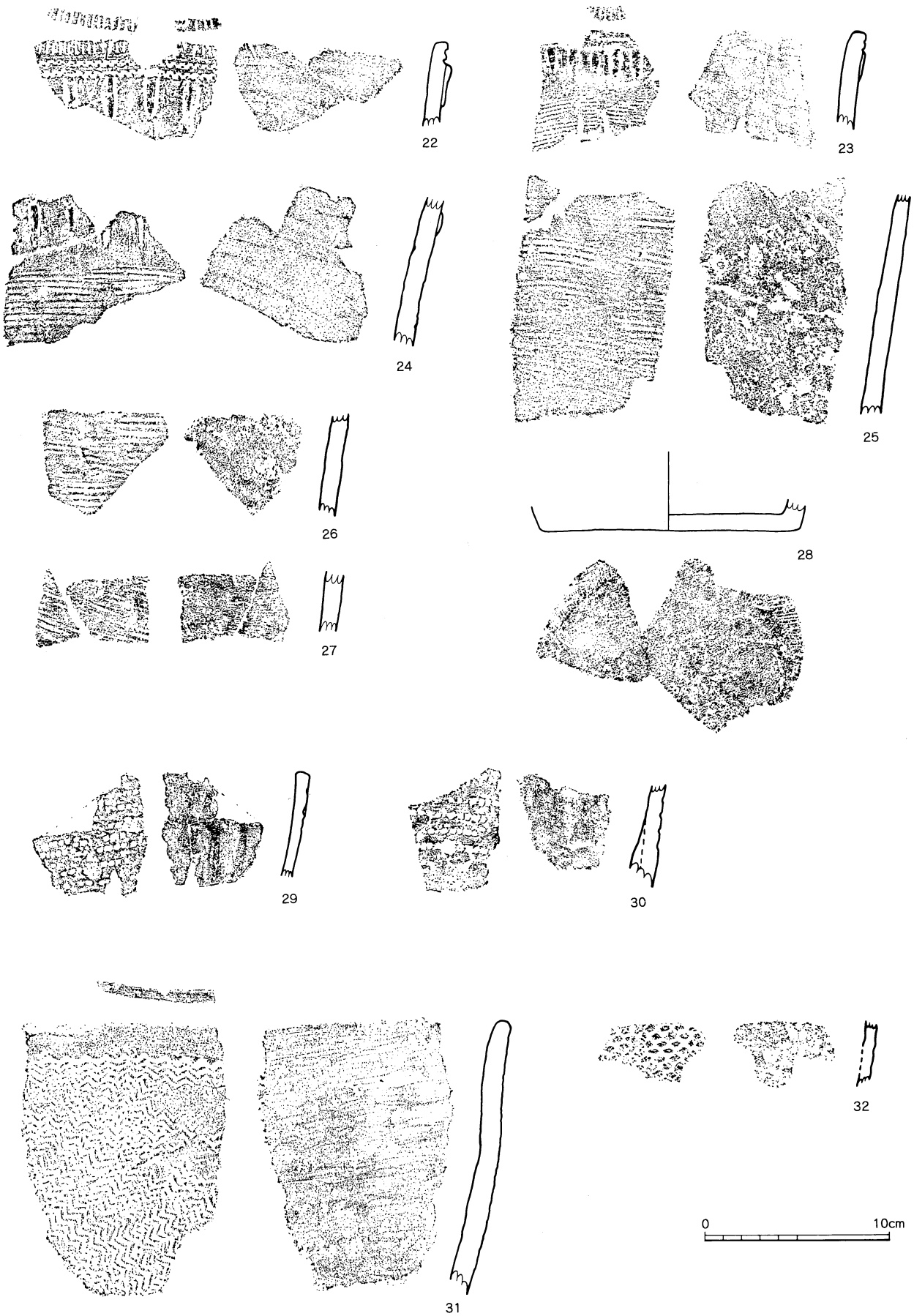
第8図　権現原第2遺跡　縄文土器類型別分布状況図



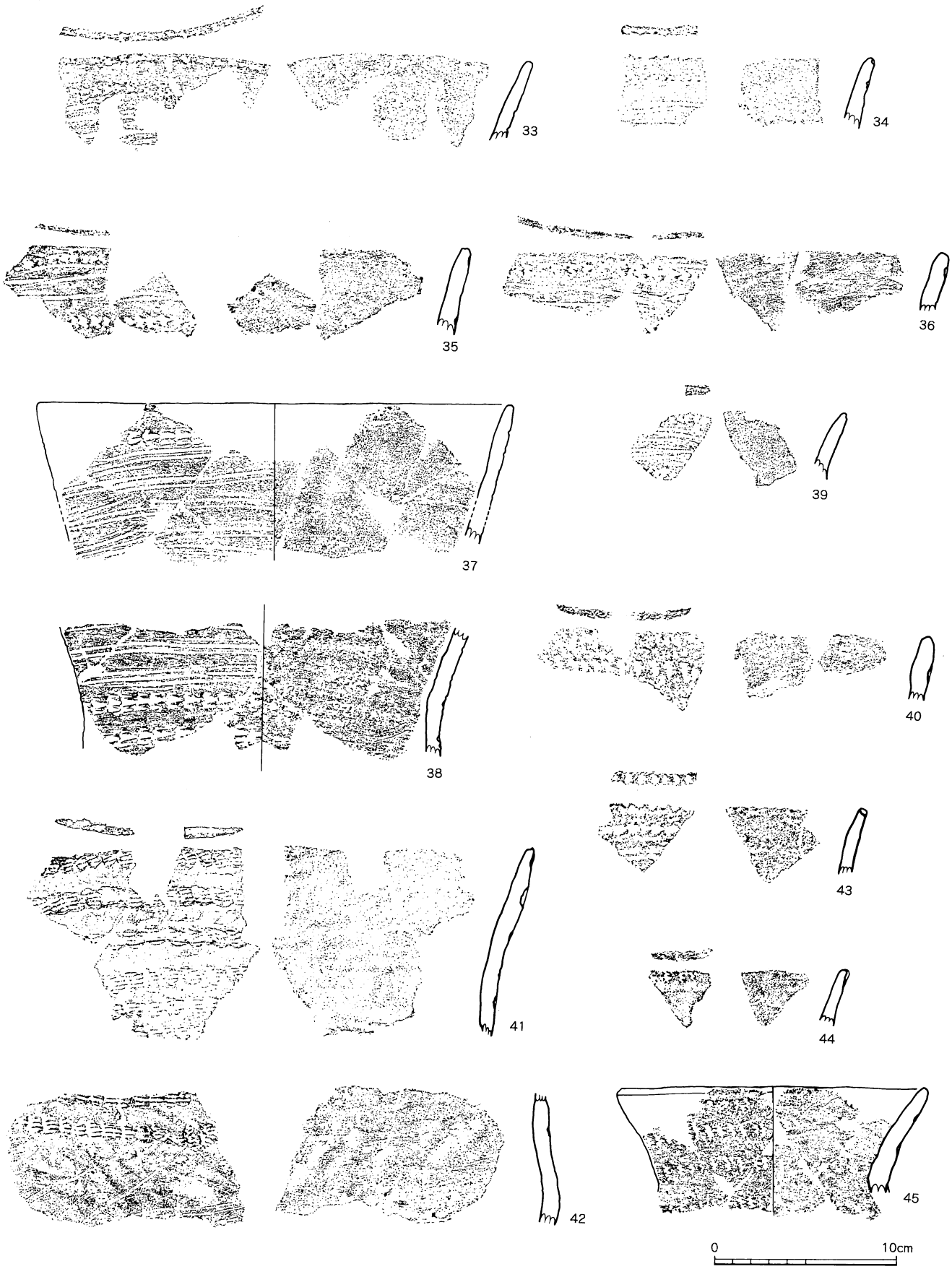
第９図　　権現原第２遺跡　土器実測図（1）



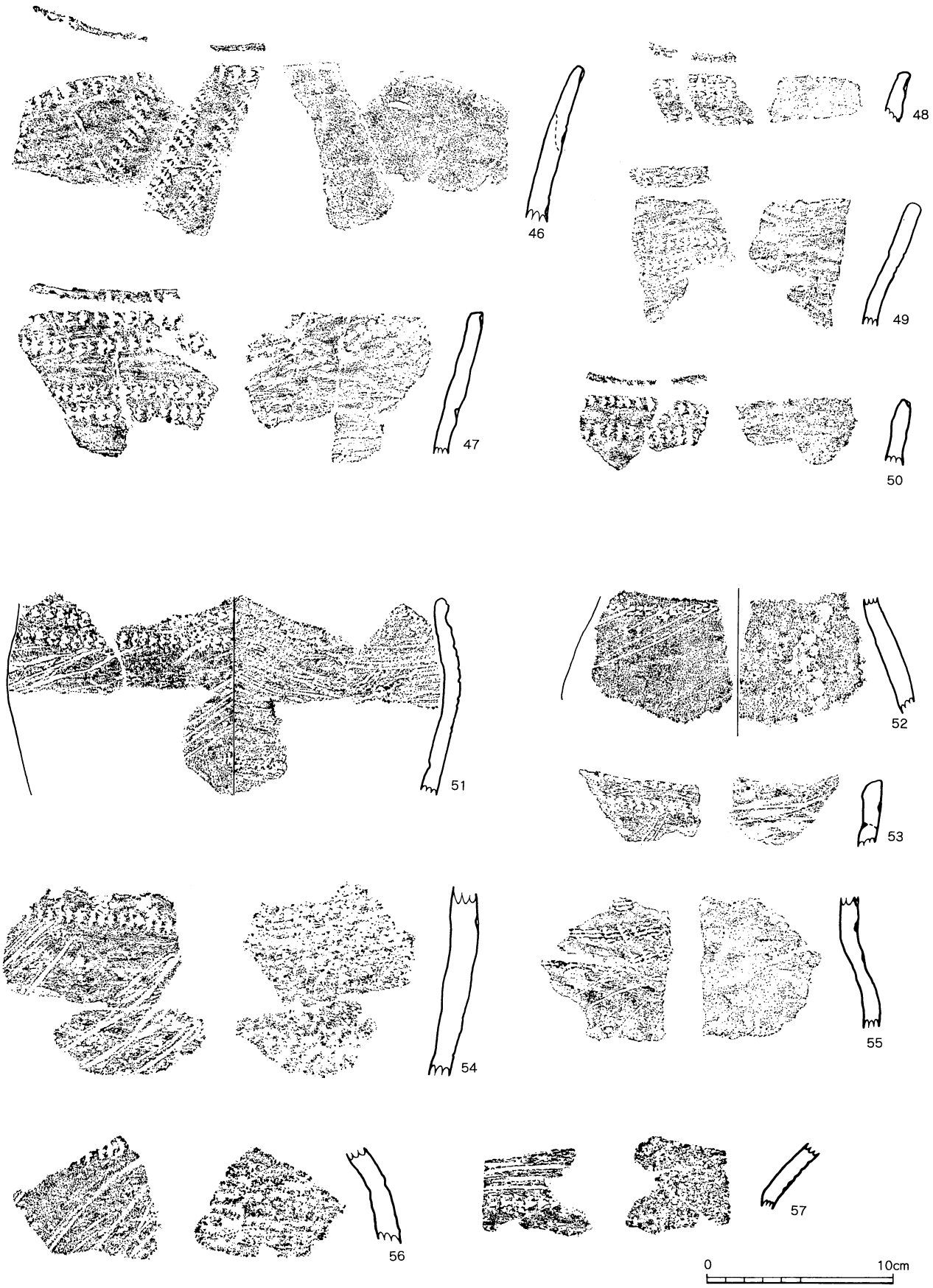
第１０図　　権現原第２遺跡　土器実測図（2）



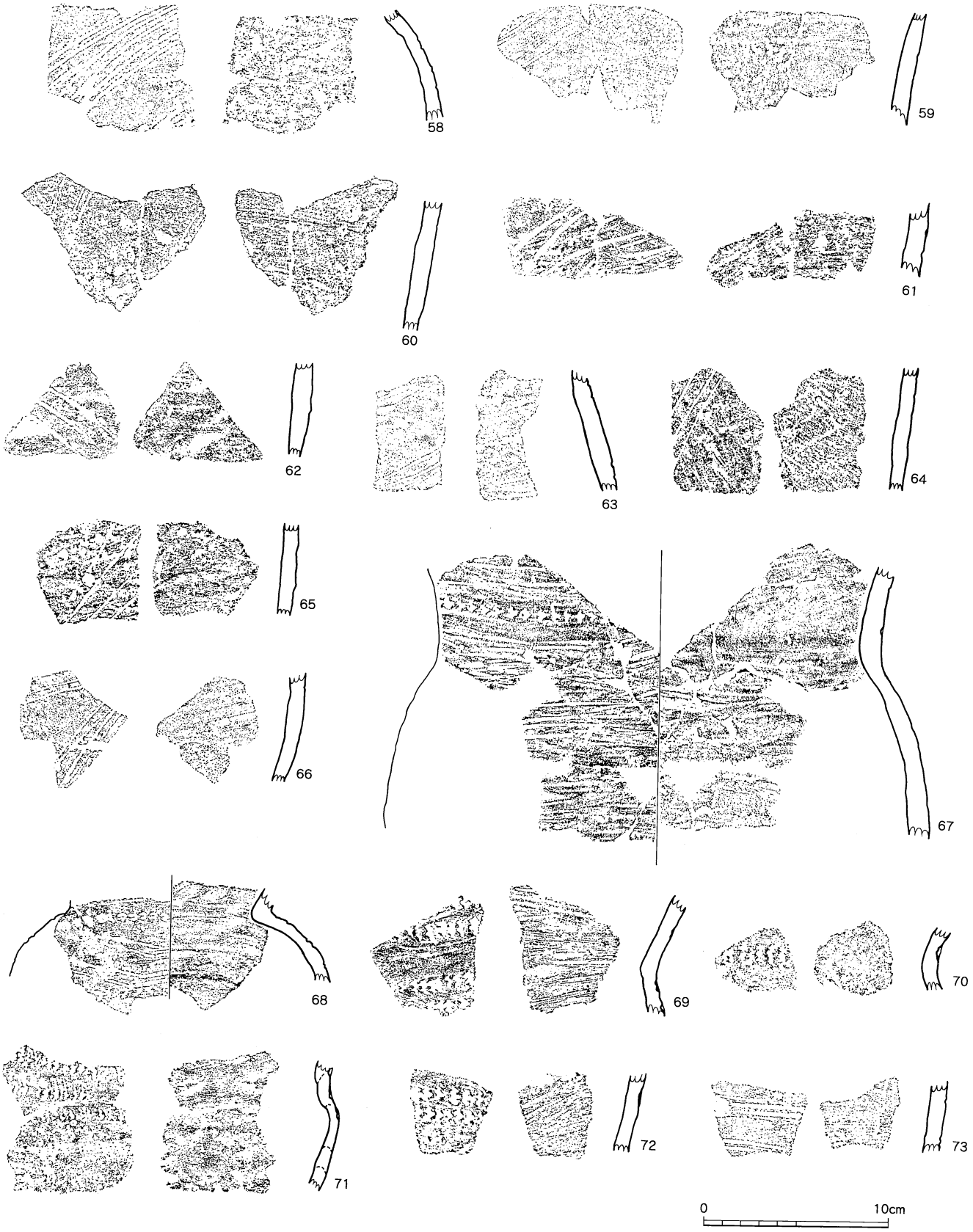
第１１図　　権現原第２遺跡　土器実測図（３）



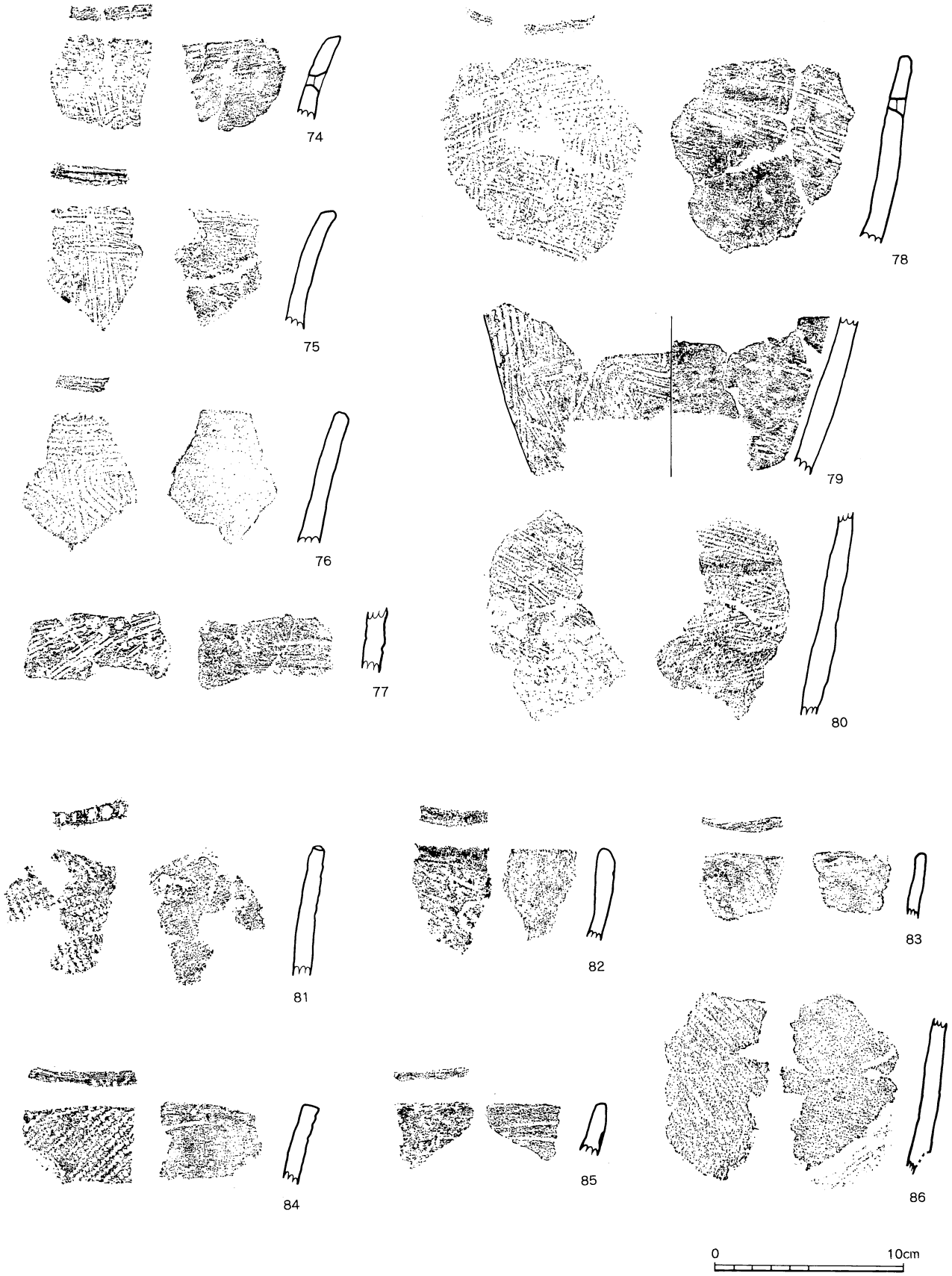
第１２図　　権現原第２遺跡　土器実測図（4）



第１３図　　権現原第２遺跡　土器実測図（5）



第１４図　　権現原第２遺跡　土器実測図（6）



第１５図　　権現原第２遺跡　土器実測図（7）

第１６図　　権現原第２遺跡　土器実測図（8）

出土位置は、Ｓ２８，２９区のⅣ層を中心に広がり、特に２号集石、３号集石を囲むように出土している。

Ⅱ類（第１０・１１図　１９～２８）

器形、器壁の貝殻条痕文はⅠ類に似るが、口縁部上端外面に貝殻刺突文を施し、その下位に楔形突帯が貼り付けられているのが特徴である。

口唇部には工具を用いた連続刻みが施され、口縁部上位に二条に貝殻腹縁刺突文を施し、その下位に楔形突帯が貼り付けられ、胴部には横方向の貝殻条痕文が施されている（１９～２４）。

胴部（２５～２７）、底部（２８）は、施文、胎土の状態からⅡ類に類すると思われ、胴部器壁には横方向の貝殻条痕文が施されている。底部は平底で、外面には斜方向の貝殻条痕文が施されている。出土位置はＲ２９、Ｓ２９区のⅣ層が主である。

表　1　　権現原第２遺跡　縄文土器観察表（1）

図番号	出土位置（出土層）	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
1	S28・Ⅲ S28・Ⅳ	深鉢	口縁部	斜方向の貝殻条痕文	斜方向のヘラミガキ	橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の白色粒、透明粒を含む	Ⅰ 黒変部分あり
2	S30・Ⅲ S30・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にミガキ、口縁部上位に貝殻腹縁による刺突文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	1.5ミリ以下の黒色粒、０．５ミリ以下の白色粒、黒色光沢柱状粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
3	S28・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にミガキ、口縁部上位に貝殻腹縁による刺突文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の白色粒、黒色光沢粒、ガラス質光沢粒を含む	Ⅰ
4	S30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁部上位に貝殻腹縁刺突文、下位にナデの上に沈線文	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	2ミリ以下の乳白色粒、金色光沢粒を含む	Ⅰ
5	S28・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部上位に工具による斜方向の短沈線文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	1～２ミリの白色粒、１ミリ以下の灰色粒、黒色光沢粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
6	S29・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にヘラミガキ、口縁部上位に貝殻腹縁による斜方向の刺突文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の灰色粒、白色粒、黒色粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
7	S28・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にミガキ、口縁部上位に貝殻腹縁による刺突文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の灰色粒、白色粒、黒色光沢粒、ガラス質光沢粒を含む	Ⅰ
8	S28・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部上位にヘラ状施文具による縦方向の押圧刻み、下位に横方向の貝殻条痕文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の茶色、黒灰色、白色、金色の砂粒を含む。	Ⅰ
9	S29・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	１ミリ以下の褐色粒、黒色粒、透明光沢粒を含む	Ⅰ
10	R29・Ⅲ S28・Ⅳ	深鉢	胴部	上位に貝殻腹縁による横方向の刺突文、下位に斜方向の貝殻条痕文	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の灰色粒、白色粒、黒色光沢粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
11	S29・Ⅳ	深鉢	胴部	風化の著しい斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	約１ミリの褐色粒、白色粒、１ミリ以下の透明光沢粒を含む	Ⅰ
12	T29・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	１ミリ以下の褐色粒、黒色粒を含む	Ⅰ
13	S28・Ⅳ S29・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の白色粒、褐色粒、黒色粒を含む	Ⅰ
14	R30・Ⅲ	深鉢	胴部	貝殻条痕の上に横ナデ	横方向のケズリ	にぶい黄橙	橙	良好	2～３ミリ以下の白色粒、灰色粒、褐色粒、黒色光沢柱状粒、０．５ミリ以下のガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
15	R29・Ⅲ S30・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	約１ミリの褐色粒、白色粒、１ミリ以下の透明光沢粒を含む	Ⅰ
16	S29・Ⅳ	深鉢	胴部	上位に斜方向の貝殻条痕文、下位にナデ	横ナデ	明黄褐	橙	良好	1ミリ以下の透明光沢粒、黒色光沢粒を含む	Ⅰ
17	S29・Ⅳ ＳⅠ-3	深鉢	底部	上位に斜方向の貝殻条痕文、下位に指頭圧痕	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の褐色粒、黒色粒、透明光沢粒を含む	Ⅰ
18	R30・Ⅲ R30・Ⅳ S30・Ⅳ	深鉢	底部	斜方向の貝殻条痕文、下位に条痕文の上を縦方向のヘラミガキ	縦、横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の白色粒、黒色粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅰ
19	R29・Ⅲ R29・Ⅳ S29・Ⅳ	深鉢	口縁部～胴部	口唇部に刻み、口縁部上位に横方向の沈線文、楔形貼付突帯文、下位に横方向の貝殻条痕文の上にナデ	横ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄褐	良好	1～２ミリの褐色粒、黒色粒、ガラス質透明粒を含む	Ⅱ
20	S29・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に刻み、口縁部上位に横方向の沈線文、楔形貼付突帯文、下位に横方向の貝殻条痕文の上にナデ	横ナデ	にぶい明赤褐	にぶい赤褐	良好	1～２ミリの褐色粒、黒色光沢粒、ガラス質透明粒を含む	Ⅱ
21	S29・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に押圧刻み、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文、下位に楔形貼付突帯文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む	Ⅱ
22	R28・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に押圧刻み、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文、下位に楔形貼付突帯文	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の黒色光沢柱状粒、透明光沢粒を含む	Ⅱ
23	S29・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に刻み、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文、楔形貼付突帯文、下位に横方向の貝殻条痕文	斜方向のナデ	橙	橙 明褐	良好	1ミリ以下の黒色光沢柱状粒、透明光沢粒を含む	Ⅱ
24	R29・Ⅲ R29・Ⅳ	深鉢	胴部	横ナデの上に突帯貼付、その下位に横方向の貝殻条痕文	工具による斜方向のナデ	橙	橙	良好	２ミリ大の褐色粒、１ミリ以下の白色粒、黒色粒、黒色光沢粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅱ
25	R29・Ⅳ	深鉢	胴部	横方向の貝殻条痕文	横ナデ	にぶい橙	明赤褐	良好	3ミリ以下の褐色粒、１ミリ以下の透明光沢粒を含む	Ⅱ

表　1　　権現原第２遺跡　縄文土器観察表（2）

図番号	出土位置（出土層）	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
26	R29・Ⅲ	深鉢	胴部	横方向の貝殻条痕文	横ナデ	橙	明赤褐	良好	1ミリ以下の灰色粒、白色粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅱ
27	S29・Ⅳ ＳＩ-3	深鉢	胴部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	１．５ミリ以下の褐色粒、黒色粒、透明光沢粒を含む	Ⅱ
28	S29・Ⅳ	深鉢	底部	斜方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	良好	２ミリ以下の褐色粒、ガラス質透明光沢粒、１ミリ以下の黒色粒、褐色粒を含む	Ⅱ
29	S31・Ⅲ S31・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向のナデの上に横方向の貝殻腹縁刺突文	縦方向のヘラミガキ	にぶい褐 にぶい黄橙	黄灰	良好	1ミリ以下の黒色粒、黒色光沢柱状粒、０．５ミリ以下の白色粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅲ
30	Ｕ３２・Ⅳ	深鉢	底部付近	横ナデの上に横方向の貝殻腹縁刺突文	縦ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	２ミリ以下の灰白色を含む。	Ⅲ
31	Ｓ３２・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部上位に横ナデ、下位に山形押型文	工具によるナデ	にぶい黄褐	明黄褐	良好	1～２ミリの白色粒、１ミリ以下の褐色砂粒	Ⅳ
32	T32・Ⅳ	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の黒色光沢柱状粒を含む	Ⅳ
33	S28・Ⅲ T31・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に刺突文、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文、下位に横方向の沈線文	風化気味のナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	１ミリ以下の褐色粒、ガラス質光沢粒を含む。	Ⅴ
34	R30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	橙	良好	2ミリ以下の透明光沢粒、黒色粒、乳白色粒を含む	Ⅴ
35	S31・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横ナデ	橙	褐	良好	3ミリ以下の灰色粒、２ミリ以下の透明光沢粒、黒色光沢粒を含む	Ⅴ
36	S30・Ⅲ S31・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横、斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の褐色粒、１ミリ以下の透明粒、黒色光沢粒を含む	Ⅴ
37	R30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に貝殻腹縁による刻み、口縁部に横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横ナデ	赤褐	にぶい赤褐	良好	1ミリ以下の白色粒、褐色粒、透明光沢粒を含む	38と同一個体 Ⅴ
38	S31・Ⅲ R29・Ⅲ	深鉢	頸部	横、斜方向のナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	斜方向のナデ	にぶい赤褐	暗赤褐	良好	1.5ミリ以下の褐色粒、透明光沢粒、	37と同一個体 Ⅴ
39	R29・Ⅱ S30・Ⅳ	深鉢	口縁部～胴部	口唇部にナデ、口縁部ナデの上に貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	１mm～２．５mmの白色粒、２mm以下の金色光沢粒を含む	Ⅴ
40	R30・Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデの上に横方向の貝殻腹縁押し引き文、斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良好	１ミリ程度の乳白色の粒を含む	Ⅴ
41	T30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部横方向の貝殻腹縁押し引き文	横ナデ	暗灰黄	黄褐	良好	２ミリ以下の乳白色、灰色、茶色、金色に光る砂粒を含む	42と同一個体 一部スス付着
42	S31・Ⅲ	深鉢	口縁部頸部	ナデの上に横方向の貝殻腹縁押し引き文、斜方向の沈線文	横ナデ	暗灰黄	黄褐	良好	２ミリ以下の乳白色、黄色、褐色、灰色の砂粒、金色光沢粒を含む	41と同一個体 一部スス付着
43	T32・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に工具による刻み、口縁部横ナデの上に貝殻腹縁押し引き文、横方向の沈線文	横ナデ	黄褐	にぶい黄	良好	１～２ミリの白色粒、黒色の光沢微細粒を含む。	Ⅴ
44	R29・Ⅲ	深鉢	口縁部	横ナデの上、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	１ミリ以下の金雲母、白色微細粒を含む	Ⅴ
45	U32・Ⅳ	深鉢	胴部	横ナデの上に、貝殻腹縁押し引き文、横方向の沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	良好	１ミリ以下の金雲母、褐色粒を含む	Ⅴ
46	R29・Ⅲ R30・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻腹縁刺突文	横、斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	3.5ミリ以下の白色粒、２．５ミリ以下の金色光沢粒、褐色粒を含む	Ⅴ
47	R29・Ⅲ S30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部工具によるナデの上に横方向の貝殻腹縁刺突文	工具による横ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	良好	1ミリ以下の白色粒、黒色粒を含む	Ⅴ
48	R29・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部にナデ、口縁部にナデの上に貝殻腹縁押し引き文	横ナデ	にぶい褐	にぶい褐	良好	1ミリ以下の金色光沢粒を含む	Ⅴ
49	R31・Ⅳ	深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁連続刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下のガラス質透明光沢粒、褐色粒を含む	Ⅴ
50	S30・Ⅳ	深鉢	口縁部	ナデの上、貝殻腹縁刺突文	横ナデ	明赤褐	褐	良好	2ミリ以下の乳白色粒を含む	Ⅴ
51	R29・Ⅲ R30・Ⅲ S31・Ⅲ	深鉢	頸部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	斜方向のナデ、横、斜方向のケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色粒、１ミリ以下の灰白色、無色透明粒を含む	Ⅴ
52	R30・Ⅲ S30・Ⅲ	深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい橙	橙	良好	３ミリ以下の褐色粒、２ミリ以下の乳白色粒を含む	Ⅴ

表　1　　権現原第２遺跡　縄文土器観察表（3）

図番号	出土位置（出土層）	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
53		深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	粗い斜方向のナデ	にぶい褐	暗灰黄	良好	1.5ミリ以下の白色粒を含む	継ぎ目あり V
54	SI-4	深鉢	胴部	横ナデの上に沈線文、貝殻腹縁刺突文	横ナデ（風化気味）	にぶい黄褐	にぶい明赤褐	良好	2ミリ以下の灰色粒、黒色粒、褐色粒、透明光沢粒を含む	V
55	T30・Ⅲ	深鉢	頸部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	風化気味の横ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の白色粒、灰色粒、金色光沢粒を含む	V
56	S31・Ⅲ	深鉢	胴部	ナデの下位に横方向の楕円押型文	縦方向の楕円押型文	にぶい黄橙	にぶい褐	良好	１ミリ程度の半透明、透明粒を含む。	V
57	R29・Ⅲ	深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	良好	0.5ミリの褐色粒を含む	V
58	S29・Ⅲ	深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の白色粒、褐色粒を含む	V
59	R30・Ⅲ	深鉢	胴部	横ナデの上に斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい橙	橙	良好	４ミリ以下の乳白色粒、２ミリ以下の白色光沢粒を含む	スス付着 V
60	R30・Ⅲ R30・Ⅳ	深鉢	胴部	風化気味のナデの上に斜方向の沈線文	ケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	1.5ミリ以下の白色粒、１ミリ以下の褐色粒、ガラス質光沢粒を含む	スス付着 V
61	S31・Ⅲ S31・Ⅳ	深鉢	胴部	粗いナデの上に斜方向の沈線文	横ケズリ	にぶい橙	にぶい橙	良好	3ミリ以下の褐色粒、２ミリ以下の黒色粒、０．５ミリ以下のガラス質光沢粒を含む	V
62		深鉢	胴部	横方向の上に斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	良好	2ミリ以下の白色粒、褐色粒、金色光沢粒を含む	V
63	S30・Ⅲ	深鉢	胴部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい橙	橙	良好	１ミリ以下の褐色粒、白色粒を含む	V
64	R28・Ⅲ	深鉢	胴部	斜方向のナデの上に斜方向の沈線文	横、斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の透明光沢粒を含む	V
65		深鉢	胴部	横ナデの上に斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	3ミリ以下の赤褐色粒、２ミリ以下の白色粒、金雲母を含む	スス付着 V
66	R29・Ⅲ	深鉢	胴部	ナデの上に斜方向の沈線文	工具による横ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	２ミリ以下の乳白色粒、１ミリ以下の金色光沢粒を含む	V
67	S30・Ⅲ S30・Ⅳ	深鉢	頸部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、斜方向の沈線文	工具による横、斜方向のナデ	にぶい橙 灰褐	にぶい橙	良好	3～８ミリの乳白色、白色、褐色の砂粒、ガラス質透明光沢粒及び２ミリ以下の黒色光沢粒、黒色光沢甲柱状粒を含む	V
68	U３２・Ⅳ	深鉢	頸部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、沈線文	横ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	良好	1.5ミリ以下の白色粒、金色光沢粒、１ミリ以下の灰色粒を含む	V
69		深鉢	頸部	横ナデの上に貝殻腹縁刺突文、貝殻腹縁押し引き文	横方向のケズリ	黄灰	暗灰黄	良好	1ミリ以下の白色粒、透明光沢粒、黒色透明微細粒を含む	スス付着 V
70		深鉢	頸部	ナデの上に貝殻腹縁刺突文	風化気味のナデ	にぶい褐	にぶい黄 にぶい橙	良好	2ミリ以下の白色粒、１．５ミリ以下の金色光沢粒を含む	V
71	S29・Ⅲ S29・Ⅳ	深鉢	頸部	横ナデの上に横方向の貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	5ミリ以下の白色粒、２．５ミリ以下の金色粒、１ミリ以下の褐色粒を含む	V
72	T31・Ⅳ	深鉢	胴部	横ナデの上に横方向の貝殻刺突文	横、斜方向のけずり	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む	V
73		深鉢	胴部	横ナデの上に横方向の沈線文	横ケズリ	にぶい赤褐	明赤褐	良好	1.5ミリ以下の白色粒、灰色粒、褐色粒、１ミリ以下の黒色光沢粒を含む	V
74	T29・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に櫛歯状工具による条痕文	工具による条痕の上を横ナデ	褐	褐	良好	白色微細粒を含む	穿孔あり Ⅵ
75		深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に櫛歯状工具による条痕文	工具による条痕の上を横ナデ	褐	褐	良好	ガラス質の透明光沢微細粒、白色微細粒を含む	Ⅵ
76	T30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に櫛歯状工具による条痕文	工具による条痕の上を横ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	ガラス質の透明光沢微細粒を含む	Ⅵ
77	R29・Ⅲ R30・Ⅲ	深鉢	胴部	ナデの上に斜方向の貝殻条痕文	横ナデ	にぶい褐	にぶい褐	良好	4.5ミリ以下の褐色粒、２ミリ以下の金色光沢粒、白色粒を含む	Ⅵ
78	T30・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に櫛歯状工具による条痕文	工具による条痕の上を横ナデ	にぶい橙	にぶい褐	良好	7ミリ以下の灰色粒、４ミリ以下の褐色粒を含む	79と同一個体 穿孔あり Ⅵ
79	T29・Ⅳ T30・Ⅲ	深鉢	胴部	櫛歯条工具による縦、斜方向の条痕文	工具による条痕の上を横ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の褐色粒、黒色光沢柱状粒を含む	78と同一個体 Ⅵ
80	S30・Ⅲ	深鉢	胴部	横、斜方向の貝殻条痕文、下位は風化が著しい	工具による横、横方向のナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	3ミリ以下の乳白色粒、１ミリ以下の金色光沢粒を含む	Ⅵ
81	ＳＩ-1	深鉢	口縁部	口唇部に棒状工具による押圧刻み、口縁部に羽状の縄文	斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	3.5ミリ以下の灰色粒、２ミリ以下の白色粒を含む	Ⅶ

表　1　　権現原第２遺跡　縄文観察表（4）

図番号	出土位置（出土層）	器種	部位	文様及び調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
82	T30・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に斜方向のナデの上に斜方向の沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	０．５～２．５ミリの白色粒、褐色粒を含む。	Ⅶ
83	S29・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部にていねいなナデ	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	0.5ミリ以下の灰色、褐色砂粒を含む	86と同一個体 Ⅶ
84	R30・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に横ナデの上に斜方向の撚糸文	横ナデ	にぶい黄橙	黄褐	良好	2ミリ以下の灰色粒、１ミリ以下の白色粒、ガラス質透明光沢粒を含む	Ⅶ
85	S31・Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に板状工具による刺突文	横ナデ	にぶい黄	黄褐	良好	2.5ミリ以下の白色粒、金色光沢粒を含む	Ⅶ
86	R29・Ⅲ	深鉢	胴部	斜方向のナデ	工具による斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1.5ミリ以下の白色粒、黒色粒、褐色粒、ガラス質透明光沢粒、黒色光沢柱状粒を含む	83と同一個体 Ⅶ
87	R31・Ⅳ	深鉢	胴部	斜方向ナデの上に斜方向の沈線文	斜方向の粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	３ミリの褐色粒、灰色粒、２ミリ以下の白色粒、１．５ミリ以下の金色光沢粒を含む	Ⅶ
88	S28・Ⅲ S28・Ⅳ	深鉢	胴部	ナデの上に斜方向の沈線文	斜方向の粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	良好	3ミリ以下の灰色粒、白色粒を含む	スス付着 Ⅶ
89	S28・Ⅳ	深鉢	胴部	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	良好	2ミリ以下の灰色、褐色、黒色の砂粒、黒色柱状粒を含む	Ⅶ
90	S29・Ⅳ	深鉢	口縁部	口唇部に横ナデ、口縁部に粗いナデ	横方向の粗いナデ	灰黄褐	灰黄褐	良好	2ミリ以下の白色粒、赤褐色を含む	Ⅶ
91	Q29・Ⅲ	深鉢	胴部	粗い横ナデ	粗い斜方向のナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	良好	2ミリ以下の白色粒、乳白色粒、金色光沢粒を含む	Ⅶ
92	SI-1	深鉢	胴部	斜方向のナデ	横ナデ	にぶい橙	にぶい褐	良好	2ミリ以下の金色光沢粒、１ミリ以下の褐色粒	Ⅶ
93	R30・Ⅲ S29・Ⅲ	深鉢	底部	ケズリ気味のナデ	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1～２ミリの白色粒、灰色粒、黒色柱状粒、１ミリ以下の黒色柱状粒を含む	
94	S29・Ⅲ	深鉢	底部	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の灰色、褐色の砂粒、透明光沢粒、黒色柱状粒を含む	
95	R28・Ⅳ	深鉢	底部	横ナデ	横ナデ	明褐	明赤褐	良好	2ミリ以下の透明光沢粒、褐色粒、１ミリ以下の黒色粒を含む	

Ⅲ類（第１１図　２９，３０）

器形は円筒形を呈し、胴部器壁に横方向の貝殻腹縁刺突文が施され、貝殻腹縁の圧痕が方形状に表現されるのが特徴である。Ｓ３１，Ｕ３２区の第Ⅳ層面で出土した。

Ⅳ類（第１１図　３１，３２）

器形は円筒形で、３１は口唇部横ナデ、口縁部上位に横ナデ、胴部器壁に斜方向の山形押型文が施されている。３２は胴部片で、器壁に横方向の楕円押型文が施されている。Ｓ３２，Ｔ３２区の第Ⅳ層から出土している。

Ⅴ類（第１２～１４図　３３～７３）

器形は頸部が「くの字形」にしまり口縁部が外反し、器壁に貝殻腹縁刺突文、沈線文が施されているのが特徴である。口縁部の施文、沈線文の様子等により、次のように細分される。

３３～３９は、口縁部に横方向の貝殻刺突文を複数条施し、その間に横方向の沈線文を施したもので、３７、３８は同一個体である。

４０～５０は、口縁部に横方向、斜方向の貝殻条痕文を施しているが、その間に沈線文は見られない。４１は口縁部上位から頸部にかけて横方向に六条の貝殻腹縁刺突文が巡らされ、４２は同一個体の頸部付近で、横方向の貝殻腹縁刺突文の下位に斜方向の貝殻による沈線文が帯状に施されている。４０、４３、４４は口縁部上位に横方向一条の貝殻腹縁刺突文が施されている。４５は口縁部上位から頸部にかけて横方向に四条の貝殻腹縁刺突文が施されている。４６は口縁部上端に横方向に一条の貝殻条痕文、その下位に斜方向に三条の貝殻条痕文が施されている。

５１～５７は頸部付近に横方向の貝殻腹縁刺突文、その下位に複数の沈線文が帯状に施されている。５８～６６は複数の帯状の沈線文が見られる。６７～７３は頸部または胴部片でいずれもⅤ類の特徴である貝殻腹縁刺突文、あるいは沈線文が見られるが、施文に前述のような規則性は見られない。

Ⅴ類土器は、Ｒ３０，Ｓ３０区にまたがる付近を中心に広い範囲で出土した。層的には第Ⅲ層、第Ⅳ層から出土している。

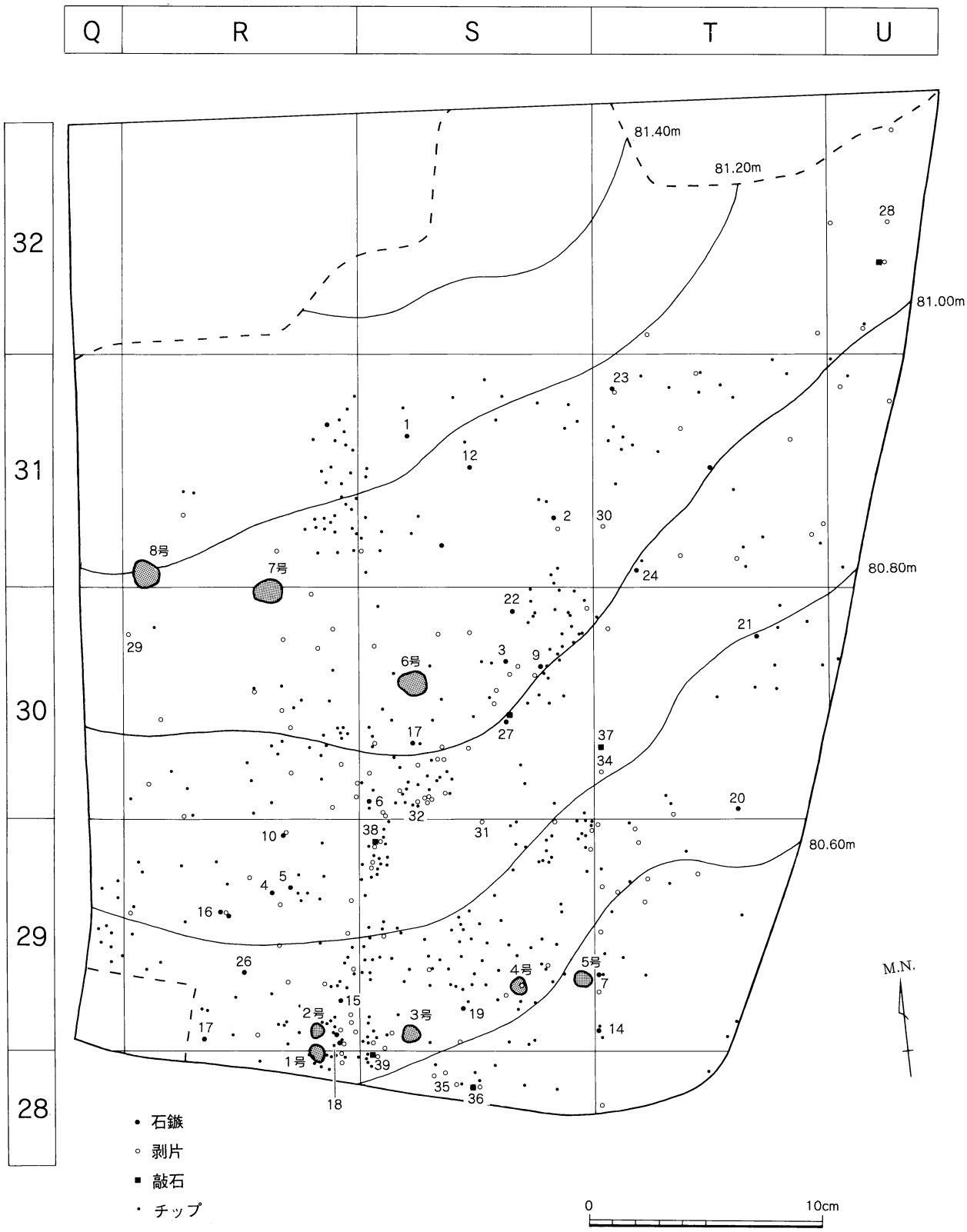
Ⅵ類（第１５図　７４～８０）

器形は円筒形を呈し、胴部外面には斜方向の貝殻条痕文を重ねて施し、内面は貝殻条痕文の後、丁寧なナデ調整が見られるのが特徴である。口唇部は横ナデを施し、７４，７８には穿孔がみられる。７８、７９は同一個体である。

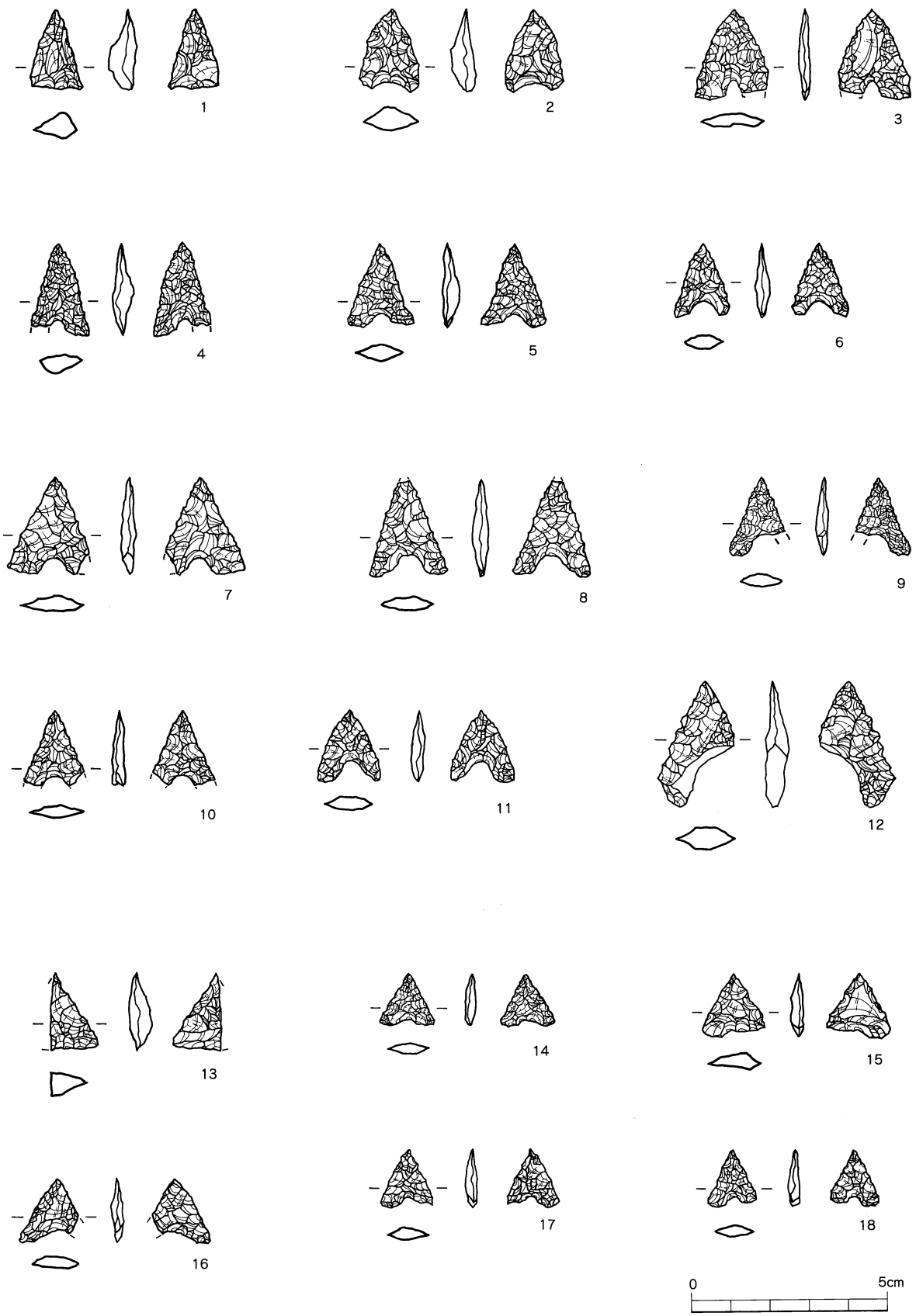
出土位置に偏りは見られないが、層的には主に第Ⅲ層から出土している。

Ⅶ類（第１５～１６図　８１～９２）

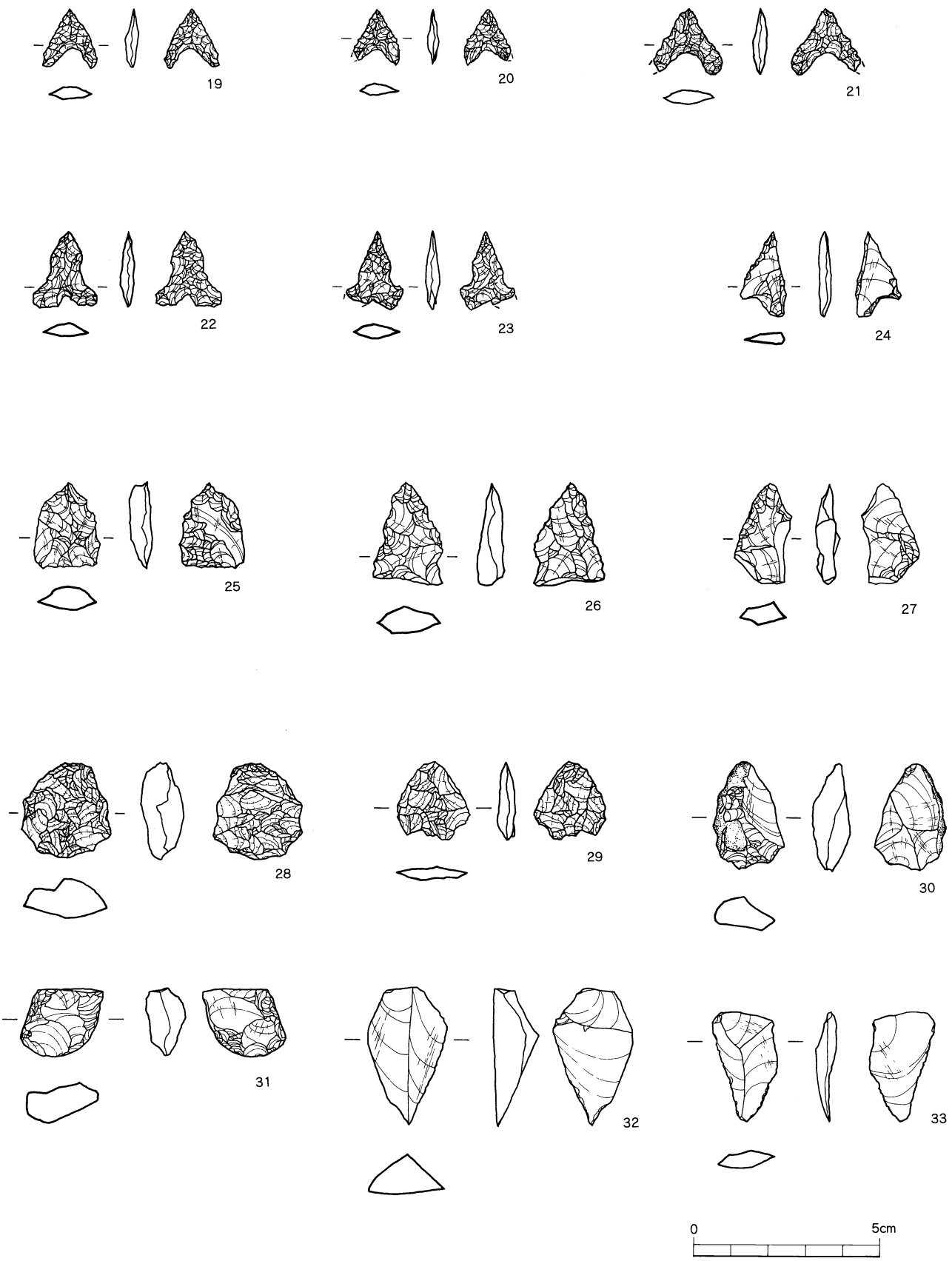
これまで分類したものに含まれないもの、時期や類別の判別が困難なものを、この類に集めた。８１は口唇部押圧刻み、口縁部に羽状の縄文が施され、１号集石内上部で出土した。８２は口唇部ナデ、口縁部に斜方向に工具による短沈線が施されている。８３は口唇部、口縁部ともに丁寧なナ



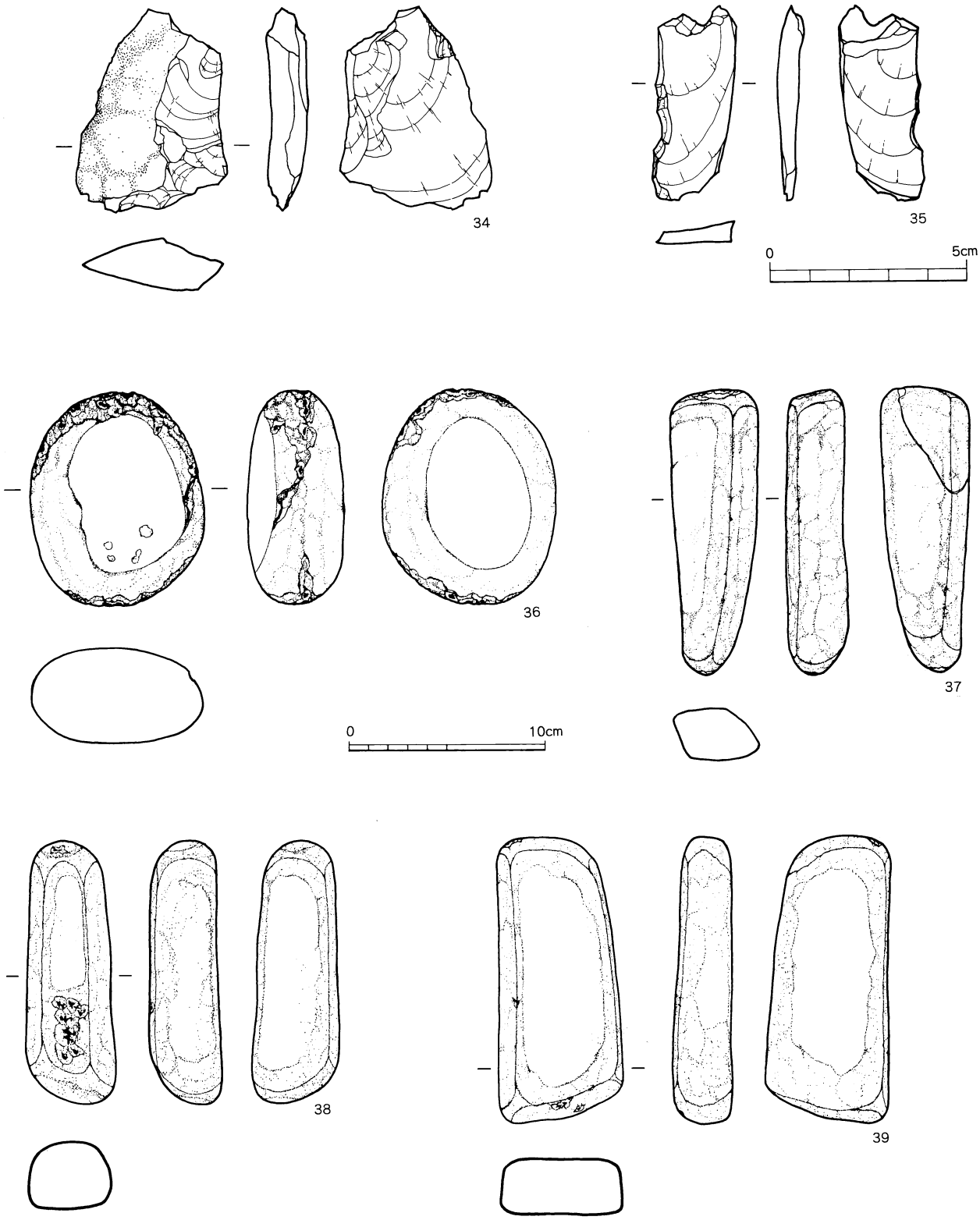
第１７図　　権現原第２遺跡　石器分布図



第１８図　　権現原第２遺跡　石器実測図（1）



第１９図　　権現原第２遺跡　石器実測図（２）



第２０図　　権現原第２遺跡　石器実測図（3）

表2　　権現原第2遺跡　石器計測表

図番号	出土位置（層）	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量（g）	石材	備考
1	S31・Ⅳ	石鏃	20.8	13.4	7.2	1.2	黒曜石	Ⅰa
2	S31・Ⅳ	石鏃	21.5	15.1	6.1	1.4	頁岩	Ⅰb
3	S30・Ⅲ	石鏃	23.2	(18.2)	2.9	(0.8)	黒曜石	Ⅰc　片脚端欠損
4	R29・Ⅲ	石鏃	24.2	(15.1)	5.7	(1.1)	黒曜石	Ⅰc　片脚端欠損
5	R29・Ⅲ	石鏃	21.5	17.0	4.8	0.8	黒曜石	Ⅰd
6	S30・Ⅲ	石鏃	18.7	14.5	4.1	0.5	黒曜石	Ⅰd
7	T29・Ⅲ	石鏃	25.3	(20.4)	4.5	(1.4)	黒曜石	Ⅰd　片脚欠損
8	S30・Ⅲ	石鏃	(24.8)	19.9	3.9	(1.2)	黒曜石	Ⅰd　先端部欠損
9	S30・Ⅲ	石鏃	20.5	(13.8)	3.5	(0.5)	黒曜石	Ⅰd　片脚欠損
10	R29・Ⅲ	石鏃	(19.2)	(15.7)	4.1	(0.7)	チャート	Ⅰd　両脚部端欠損
11	Ⅲ	石鏃	18.6	15.8	3.4	0.6	黒曜石	Ⅰd
12	S31・Ⅲ	石鏃	32.1	(16.1)	7.0	(2.1)	黒曜石	Ⅰd　片脚欠損
13	Ⅲ	石鏃	19.9	(12.7)	(6.2)	(0.9)	黒曜石	Ⅱa　半分欠損
14	T29・Ⅲ	石鏃	9.2	9.7	3.4	0.3	流紋岩	Ⅱb
15	R29・Ⅲ	石鏃	16.8	16.0	4.5	0.7	黒曜石	Ⅱb
16	R29・Ⅲ	石鏃	16.8	(14.8)	3.3	(0.4)	黒曜石	Ⅱb　片脚欠損
17	R29・Ⅲ	石鏃	15.3	(13.4)	3.1	(0.2)	黒曜石	Ⅱb　片脚端欠損
18	R29・Ⅲ	石鏃	14.8	(12.9)	3.1	(0.2)	黒曜石	Ⅱc　片脚端欠損
19	S29・Ⅲ	石鏃	16.1	14.6	3.6	0.4	黒曜石	Ⅱd
20	T30・Ⅲ	石鏃	15.4	12.6	3.1	0.3	黒曜石	Ⅱd
21	T30・Ⅲ	石鏃	17.9	(18.6)	3.9	(0.7)	チャート	Ⅱd　片脚端欠損
22	S30・Ⅲ	石鏃	20.7	17.4	4.6	0.9	黒曜石	Ⅲ
23	T31・Ⅲ	石鏃	21.4	(14.9)	4.5	(0.7)	黒曜石	Ⅲ　片脚端欠損
24	T31・Ⅲ	石鏃	23.1	(12.4)	(3.7)	(0.7)	黒曜石	Ⅳ　半分欠損
25	Ⅲ	石鏃	23.4	17.6	6.9	2.3	黒曜石	Ⅳ
26	R29・Ⅲ	石鏃	28.2	18.9	7.8	3.1	黒曜石	Ⅳ
27	S30・Ⅳ	石鏃	27.2	(15.3)	(5.9)	(2.1)	黒曜石	Ⅳ　両脚欠損
	R31・Ⅲ	石鏃	(15.1)	(6.3)	(3.6)	(0.1)	黒曜石	片脚のみ
	S31・Ⅲ	石鏃	(18.2)	(13.8)	(3.6)	(0.6)	黒曜石	Ⅰd　先端部・両脚欠損
	Ⅲ	石鏃	(18.3)	(15.3)	(4.3)	(0.7)	チャート	両脚欠損
	R29・Ⅲ	石鏃	(18.8)	(14.0)	(3.5)	(0.4)	黒曜石	Ⅰd　両脚欠損
	Ⅲ	石鏃	14.7	(12.6)	(2.7)	(0.1)	黒曜石	Ⅱd　片脚欠損
	R29・Ⅲ	石鏃	16.7	(12.6)	3.1	(0.1)	黒曜石	Ⅰd　片脚欠損
28	U31・Ⅲ	剥片	26.1	24.2	11.3	6.3	チャート	
29	R30・Ⅲ	剥片	16.4	15.6	3.3	0.8	チャート	
30	T31・Ⅲ	剥片	28.9	18.9	9.9	3.9	黒曜石	
31	S29・Ⅲ	剥片	18.4	21.9	8.4	3.3	黒曜石	
32	S30・Ⅲ	剥片	36.6	21.6	12.0	5.2	黒曜石	使用痕あり
33	Ⅲ	剥片	29.7	16.7	5.2	1.4	黒曜石	使用痕あり
34	T30・Ⅳ	剥片	52.0	38.7	12.6	24.1	頁岩	使用痕あり
35	S28・Ⅲ	剥片	50.2	21.4	6.0	7.2	頁岩	二次加工あり
36	S28・Ⅳ	敲石	109.5	88.2	48.6	613.6	砂岩	磨石を兼ねる
37	T30・Ⅳ	敲石	146.8	45.3	32.2	315.8	砂岩	磨石を兼ねる
38	S29・Ⅳ	敲石	134.8	45.5	35.0	345.3	砂岩	磨石を兼ねる
39	S29・Ⅳ	敲石	146.5	64.0	29.5	496.9	砂岩	磨石を兼ねる

デ調整で、８６と同一個体である。８４は口唇部横ナデ、口縁部には斜方向の撚糸文が施されている。

８７，８８は斜方向の沈線文が施されているが、Ｖ類土器に見られたような規則性は見られない。８９～９２は内面、外面ともにナデ調整だけが確認できる無文の土器である。９２は２号集石内下部で出土した。

底部（第１６図　９３～９５）

無文で所属不明の底部をまとめた。いずれも内面、外面ともにナデ調整を施し、９３は上げ底を呈している。

石器

石器は総数５６４点が出土し、その内訳は打製石鏃（３３点)、剥片（１１６点)、敲石（６点)、チップである。使用された石材は、打製石鏃、剥片では黒曜石８９％、チャート７％、その他（砂岩、頁岩、流紋岩）４％で、敲石はすべて砂岩が用いられていた。

石鏃の分布はＲ２９区の第Ⅲ層を中心に広がり、石材は黒曜石が８５％、チャート９％、砂岩・流紋岩が３％だった。

石鏃はその形状により二等辺三角形（Ⅰ類)、正三角形（Ⅱ類)、異形鏃（Ⅲ類)、未製品または所属不明のもの（Ⅳ類）の４類に大別し、Ⅰ類、Ⅱ類についてはその基部の形態により平基（ａ類)、浅い凹基（ｂ類)、Ｕ字形凹基（ｃ類)、Ｖ字形凹基（ｄ類）のように細分した。

Ⅰａ類（第１８図１）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部及び両側辺とも直線的に作り出されおり、基部に抉りは見られない。Ｓ３１区の第Ⅳ層から出土している。

Ⅰｂ類（第１８図２）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部は浅い凹基式で、側辺がやや膨らみ丸味を帯びている。Ｓ３１区の第Ⅳ層から出土している。

Ⅰｃ類（第１８図３，４）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部はＵ字形凹基式で、２点がＳ３０，Ｒ２９区第Ⅲ層から出土している。３は側辺に膨らみを持ち比較的幅広で、４は側辺が直線的に作りだされ、幅が狭く長身である。どちらも片脚端部が欠損している。

Ⅰｄ類（第１８図５～１２）

全体形が二等辺三角形を呈しており、基部はＶ字形凹基式で、１４点がＳ３０，Ｒ２９区第Ⅲ層を中心に出土している。いずれも側辺が直線的に作り出されているが、脚部端の形状は幅があるもの（７，８，９）と先端がすぼまるもの（５，６，１１）がある。１１は側辺がやや膨らみ丸味を帯びている。７，９，１０は片脚端部が欠損、８は先端部が欠損、１２は片脚部が大きく欠損しているが、残存部の状態からⅠｄ類とした。

Ⅱａ類（第１８図１３）

全体形が正三角形を呈しており、基部、側辺は直線的に作り出されている。半分欠損しているが、

基部は平基式になると判断しⅡａ類とした。

Ⅱｂ類（第１８図１４～１６）

全体形が正三角形を呈しており、側辺は直線的に作り出されている。基部に浅い抉りが見られる。３点がＴ２９，Ｒ２９区第Ⅲ層から出土している。いずれも小型のもので、特に、１４は最大長９．２ｍｍ、最大幅９．７ｍｍと本遺跡出土石鏃の中で最も小さい。１６は片脚部が欠損しているが、残存部の状態からⅡｂ類とした。

Ⅱｃ類（第１８図１７、１８）

全体形が正三角形を呈しており、側辺は直線的に作り出されている。基部はＵ字形凹基式で１７は片脚端が欠損しているが、いずれも基部の抉りは小さい。Ｒ２９区の第Ⅲ層から出土した。

Ⅱｄ類（第１９図１９～２１）

全体形が正三角形を呈しており、基部に大きくＶ字形の抉りが見られる。１９、２０は片脚部の先端が欠損しているが、いずれも脚部の先端はすぼまるものと考えられる。４点がＳ２９、Ｔ３０区の第Ⅲ層から出土している。

Ⅲ類（第１９図２２，２３）

Ⅰ類、Ⅱ類で分類した二等辺三角形、正三角形を呈さない異形の石鏃で、両側辺に抉りを持ち、脚部が左右に張り出すように作られている。基部にもＶ字形の抉りが見られる。いずれも石材は黒曜石で、２３は片脚端部が欠損している。２点がＳ３０、Ｔ３１区の第Ⅲ層から出土している。

Ⅳ類（第１９図２４～２７）

加工途中の未完成品と思われるものが４点出土した。いずれも石材は黒曜石で、２４，２７は全体形の一部が大きく欠損している。２４は欠損した後に加工の跡が見られ、全体に縁辺を打ち欠いたのみの剥片鏃に類すると考えられる。２５～２７はいずれも側辺に刃部加工の痕跡は見られるが、基部、脚部の形成が不完全で、石鏃の未製品と考えられる。２４～２６は第Ⅲ層から、２７は第Ⅳ層から出土している。

剥片（第１９図２８～３５）

２８～３１は二次加工のある剥片で、特に２８，２９はチャート製で、先端部から側辺にかけて刃部形成のための加工が見られ、石鏃製作過程の剥片と考えられるが、基部、脚部の加工については確認できない。３２，３３は大きな剥離の後ほとんど加工を加えていないが、先端部から側片にかけて使用痕と思われる小さな剥離が見られる。３４，３５は頁岩を利用した剥片で、いずれも側片の一部に使用痕が見られる。

敲石（第２０図３６～３９）

全体で６点が出土し、いずれも砂岩を利用した敲石で磨石と兼用された跡が見られる。３６は楕円形の礫の両端に敲打痕が、また中央平面部に広く磨痕が見られる。３７～３９は棒状の礫の両端に敲打痕があり、３８は中央面にも敲打痕がみられる。いずれも正面及び側面の一部に磨痕が見られる。出土位置はＳ２８，２９，Ｔ３０の第Ⅳ層で、層的にはⅠ類、Ⅱ類土器、集石遺構（１号～５号）などと同時期のものと考えられる。

第4節　まとめ

今回の調査によって、権現原第２遺跡が縄文時代早期に営まれた遺跡であることが確認された。その具体的な調査結果については、これまで遺構編、遺物編にわけて述べてきた通りであるが、その成果と問題点について整理してみたい。

まず、遺構として集石遺構が８基検出された。いずれも皿状の掘り込みを持ち構成礫には円礫、破砕礫が使用され、その多くは熱を受けたと考えれる赤変が見られた。はっきり配石と判断できるものは確認できなかった。

遺構の構築時期について、１号集石と３号集石内から土器片が出土しており、特に３号集石から出土の１７、２７は共に前平系であること、また周囲にも同類の土器の分布が見られることから、１号集石から５号集石の構築時期は縄文時代早期前葉が考えられる。しかし、８基の集石遺構の分布状況等を見ると、すべて同一時期とは判断できず、特に６号集石から８号集石については、位置的に見ても、また周囲の土器の分布からも他の集石遺構とは構築時期に差があると考えられる。周囲にＶ類土器（塞ノ神式）の分布が見られることから時期的には縄文時代早期中葉が考えられる。また、用途については石蒸し調理に用いられた等の説があるが、今回の調査ではそれらを判断することのできる資料は確認できなかった。

次に土器についてであるが、Ⅰ類からⅦ類に分類したが、層位的に見てすべて縄文時代早期の土器と考えられる。その中でもⅠ・Ⅱ類は前平式土器、Ⅲ類は下剥峰式土器、Ⅳ類は押型文土器、Ⅴ類は塞ノ神式土器、Ⅵ類は轟式土器に相当すると考えられる。

出土状況を見ると、Ⅰ類、Ⅱ類で１４４点と全体の１／３を占め、出土層は１４４点中１２０点（８３％）が第Ⅳ層より出土しており、本遺跡内で出土した土器の中でも最下層に位置することが確認できる。また分布の範囲がＲ２８、２９，Ｓ２８，２９区に偏っていることが確認できる。Ⅴ類は（塞ノ神式)、Ⅵ類（轟式）は主に第Ⅲ層から出土していること、分布範囲がＲ３０，Ｓ３０区を中心に広がっていることが確認できる。他の類の土器については出土点数の少ないこともあり、分布状況、出土層について明確な傾向は見いだせない。

以上のように土器の分布状況からは縄文時代早期前葉の前平式土器と早期中葉の塞ノ神式の２時期のものに分かれて大きな偏りがあること、また量的には少ないが早期後葉の轟式の出土が確認された。これら出土土器の様式の類別、また出土層の違いから見ても、本遺跡の営まれた時期が縄文時代早期の中でも２時期以上に分かれていたことが伺われる。

次に石器についてであるが、石鏃（３３点)、敲石（６点）の他は、製品を確認することができなかった。石鏃については、３３点中３０点が第Ⅲ層から出土、出土位置についてＲ２９区で１０点と偏りが見られるが、他のグリッドにも広く分布している。また前述の通り４類に大別した中で、Ｉｄ類が１１点と最も多かったが、出土位置は１１点中４点がＲ２９区第Ⅲ層の他、Ｓ３０区第Ⅲ層が３点、Ｓ３１区第Ⅲ層が２点、その他２点と、分布状況に明確な偏りは見られなかった。
また、３３点中１２点が完形品、１７点が脚部欠損、２点が先端部欠損、２点が半分欠損、１点が片脚のみであった。

石鏃と剥片、チップの分布状況の関係を見ると、剥片は１１６点中８３点が第Ⅲ層出土と石鏃に

似る分布状況を見ることができ、本遺跡内で石鏃を製作していた可能性も考えられる。また、石鏃、その他の石器と土器の分布について、明確な関連は見いだせなかった。また、敲石については、出土層、出土位置ともにⅠ類、Ⅱ類土器に似ており、共伴関係が伺われる。

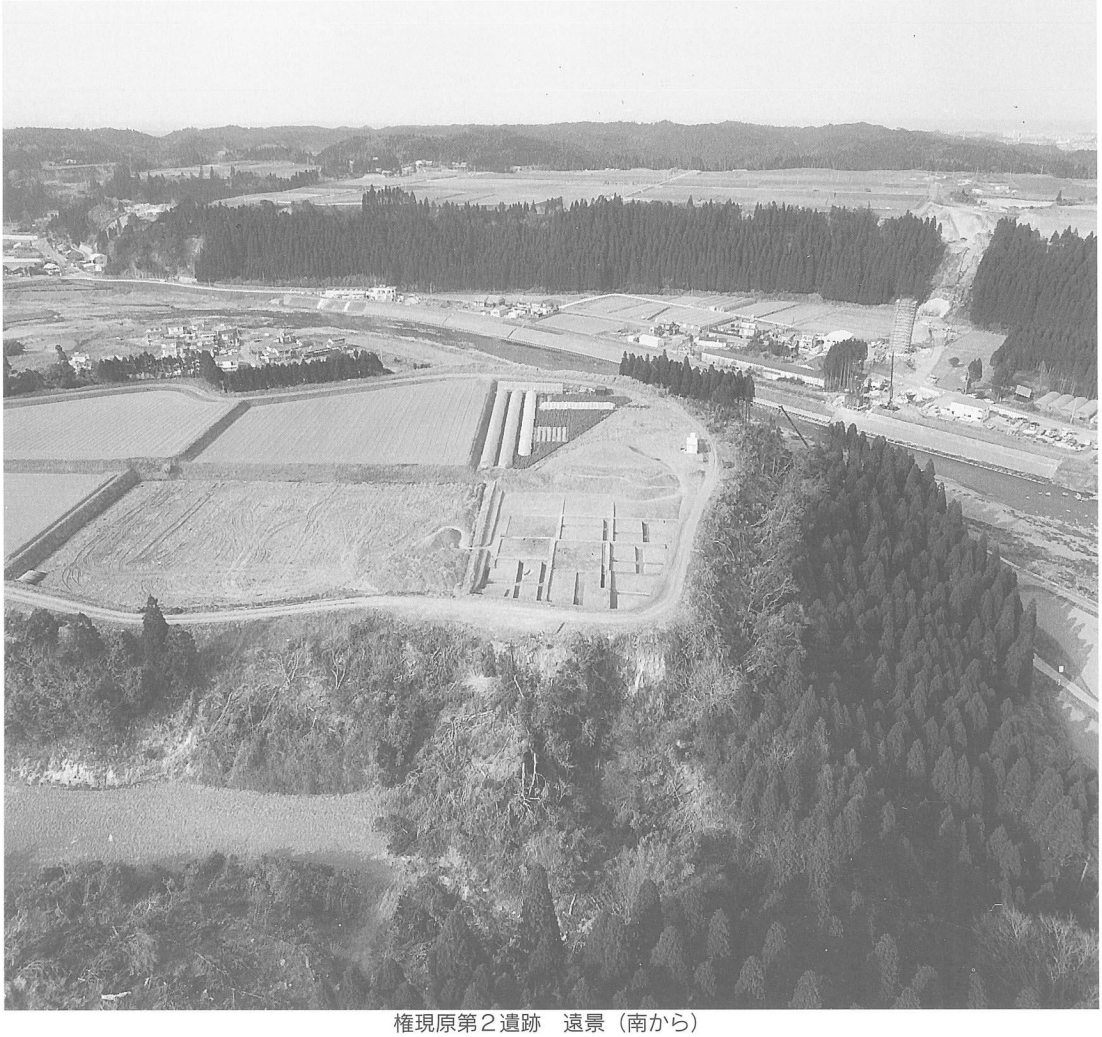
以上の調査結果から判断できることとして

・土器の出土状況から、本遺跡の生活時期として早期前葉（前平式土器）、早期中葉（塞ノ神式）の２時期が考えられる。あるいは、Ⅵ類（轟式）の出土も見ると、３時期にわたる可能性も伺われる。

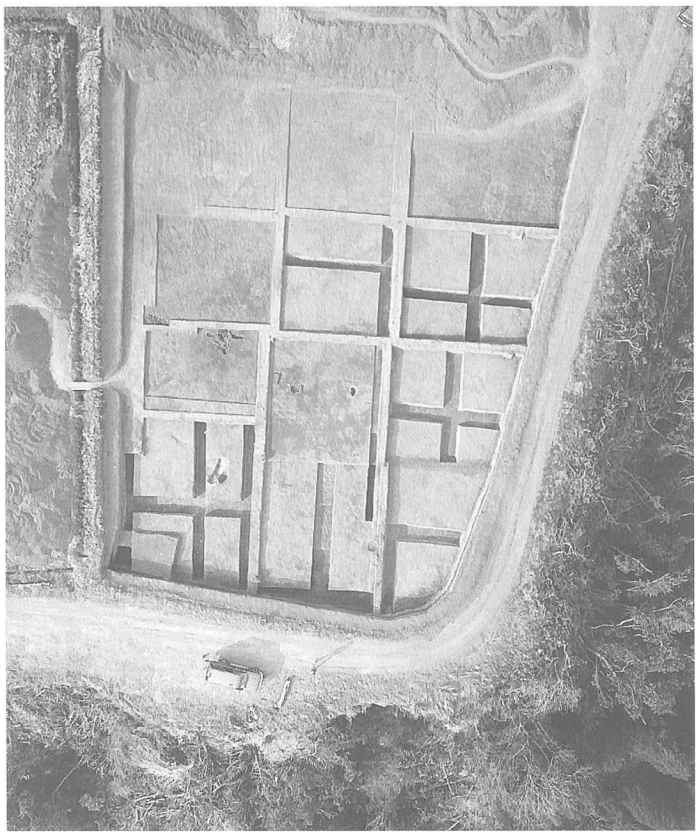
・集石遺構は検出されたが、竪穴住居等の住居関連の遺構が検出されていないこと、石皿、石斧などの生活に関連する遺物が出土していないことから、本遺跡が継続的に生活が営まれたのではなく、断続的に、いわゆるキャンプサイト的に営まれた遺跡であることが伺える。

＜参考文献＞

打扇遺跡、早日渡遺跡、矢野原遺跡、蔵田遺跡
「一般国道２１８号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」
宮崎県教育委員会　１９９５
椎屋形第１遺跡、椎屋形第２遺跡、上の原遺跡
「県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」
宮崎市教育委員会　１９９６
小山遺跡　「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」
鹿児島県教育委員会　１９８２
九州縄文土器編年の諸問題　「九州縄文研究会鹿児島資料集」
九州縄文研究会　１９９８
「南九州縄文通信」Ｎｏ．７，８，１１　南九州縄文研究会
縄文土器大観　１　　小学館

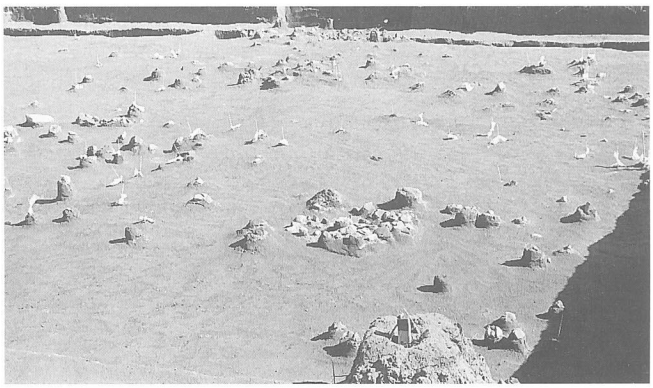


権現原第２遺跡　遠景（南から）



権現原第２遺跡　全景

権現原第２遺跡　近景（北から）

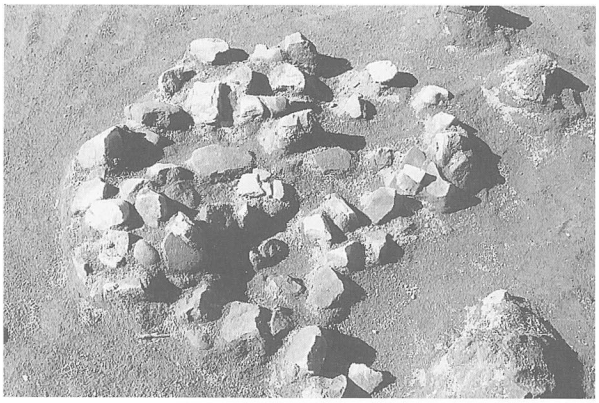


Ⅲ層遺物出土状況

図版２

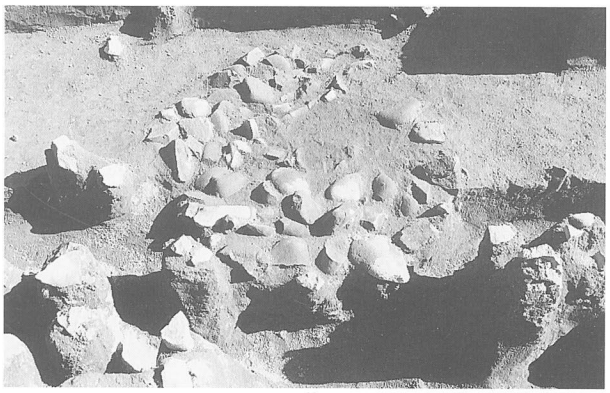
集石遺構検出作業

１号集石　　２号集石

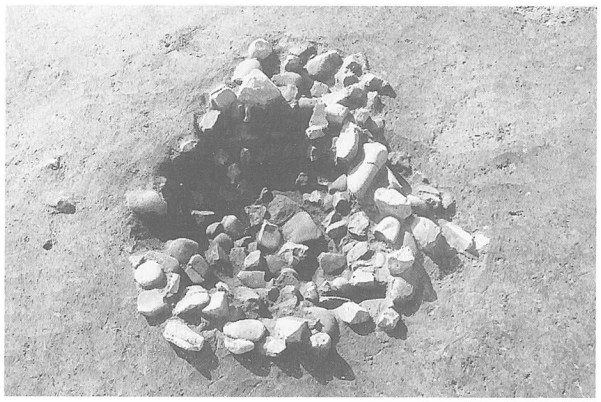


３号集石

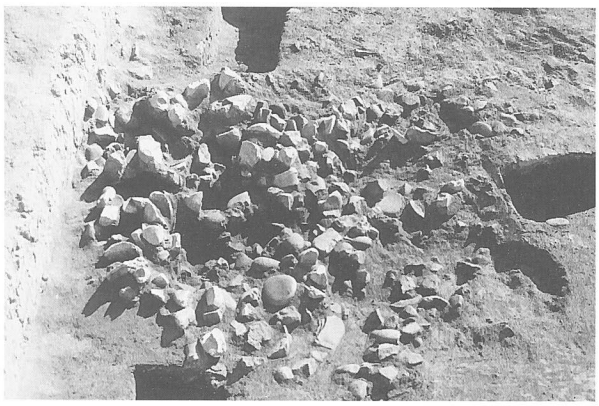
４号集石



５号集石

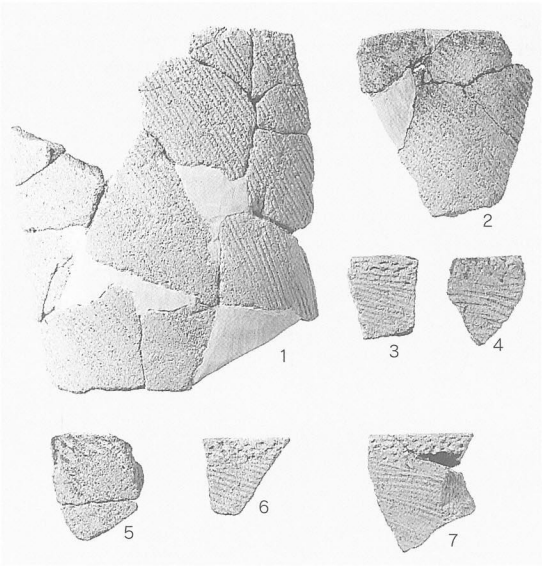


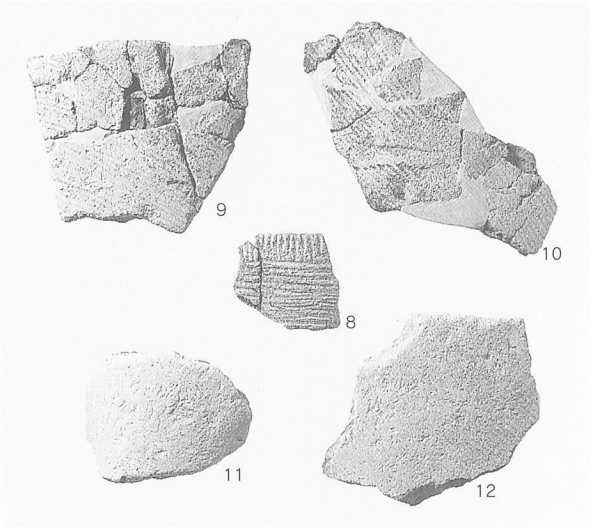
６号集石

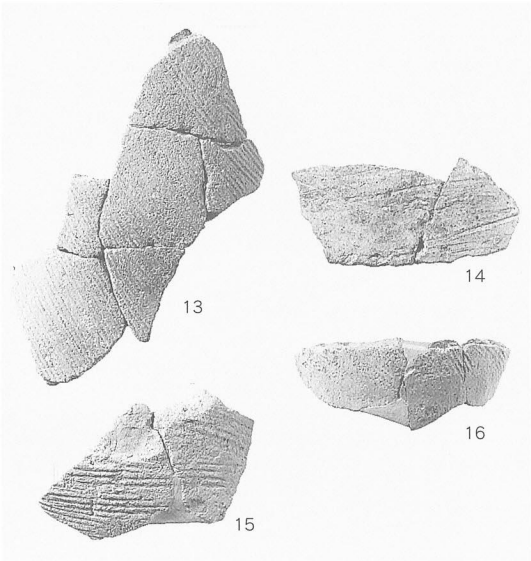


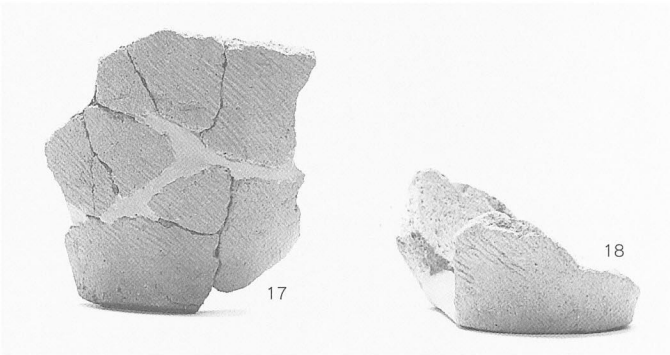
７号集石

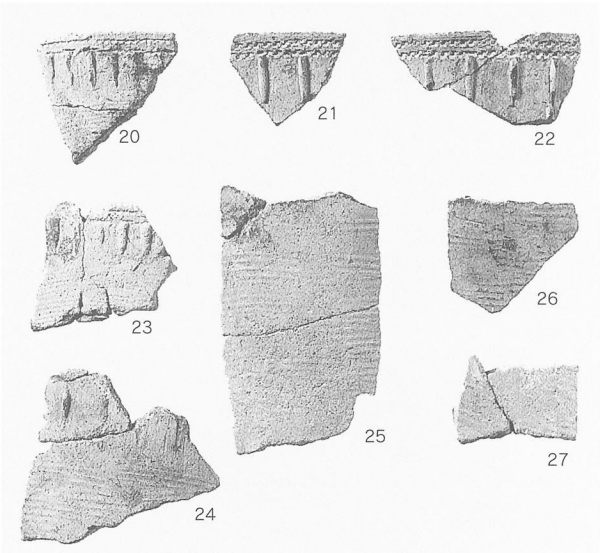
８号集石



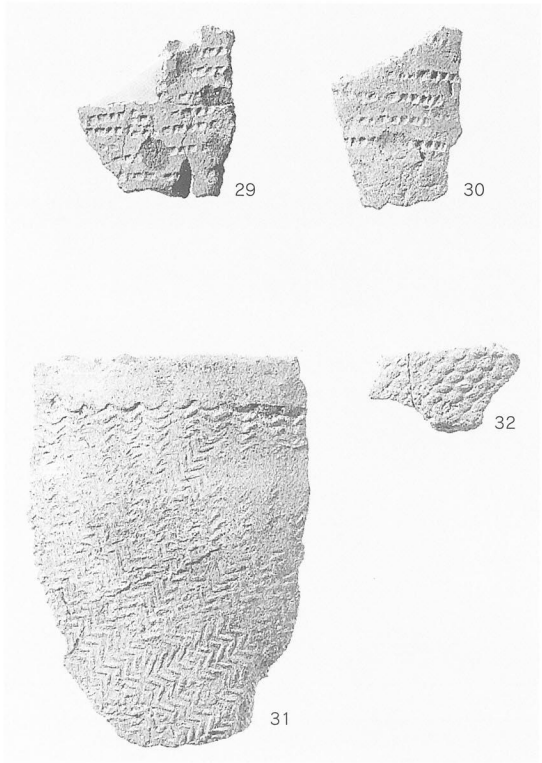


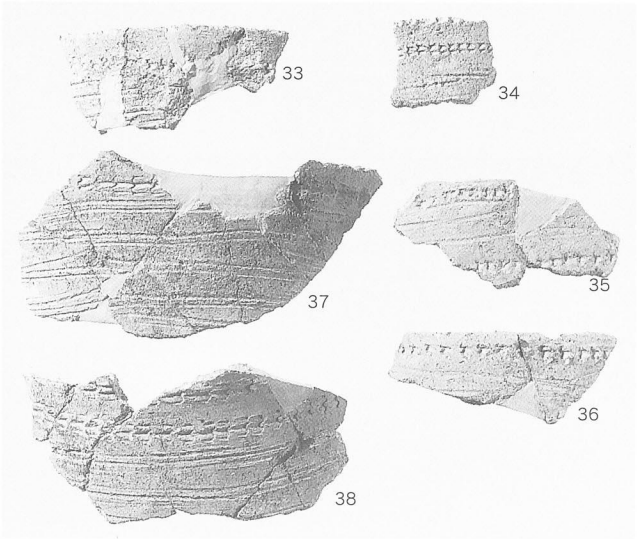


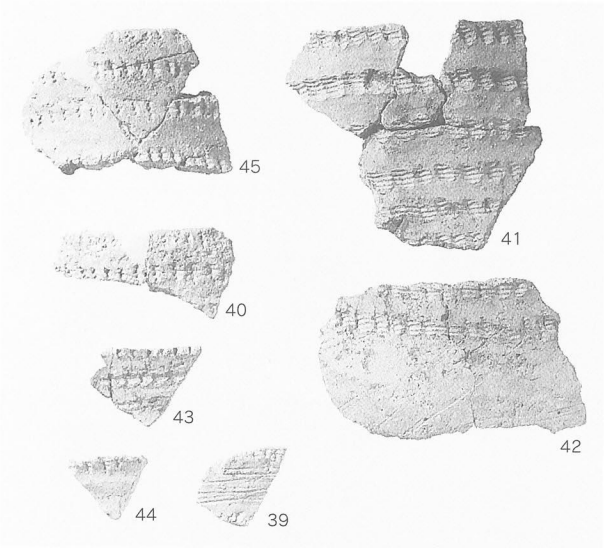


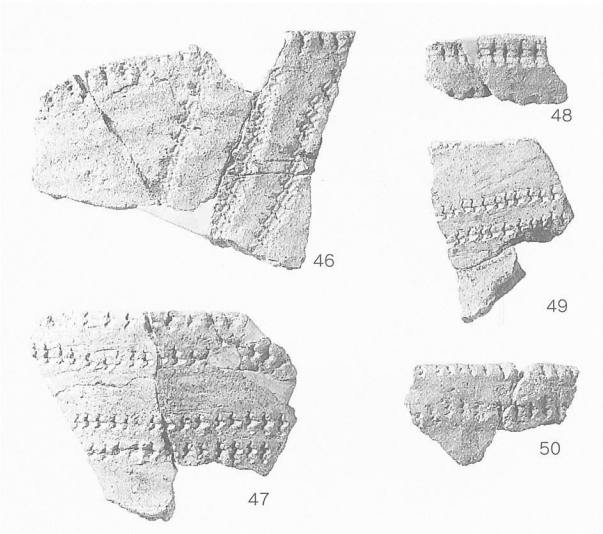


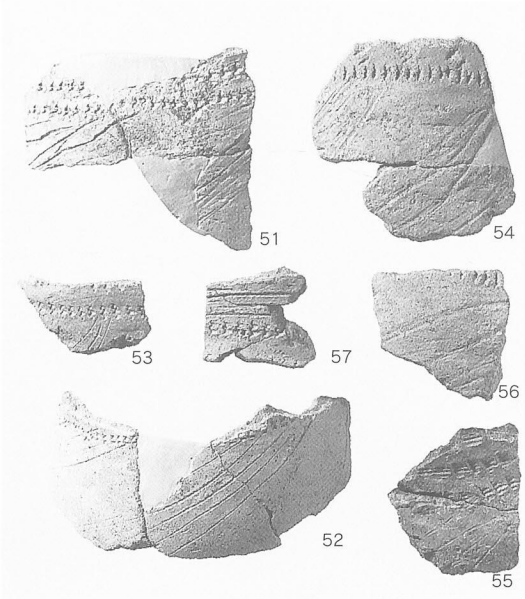
権現原第２遺跡　縄文時代早期土器（１）



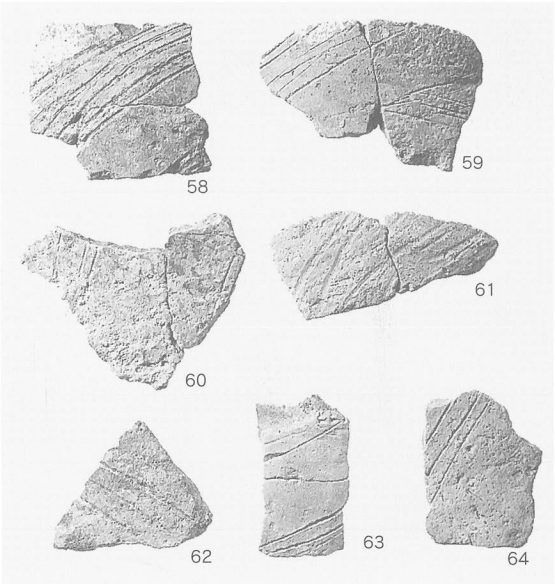


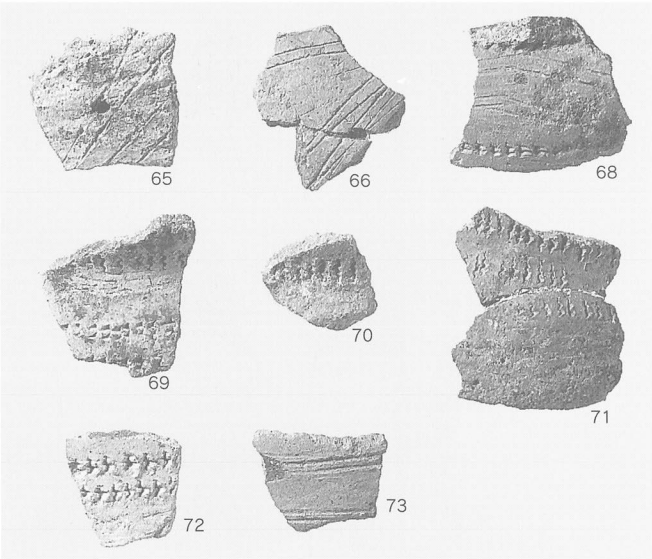


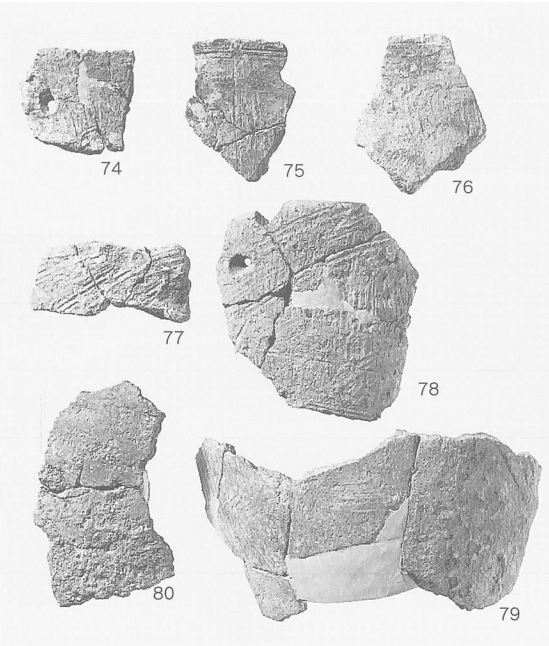


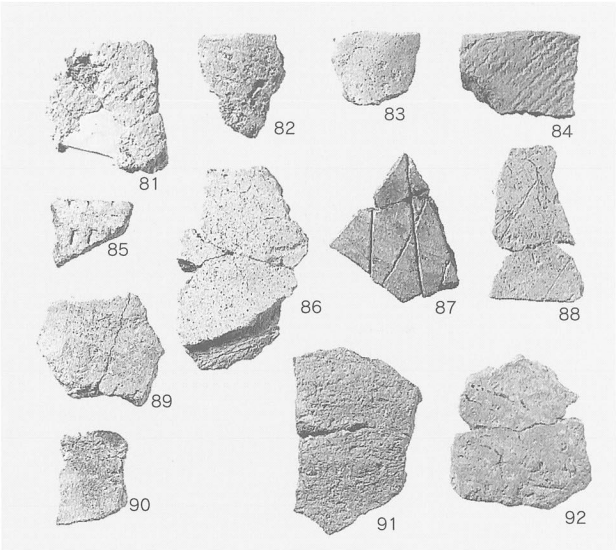


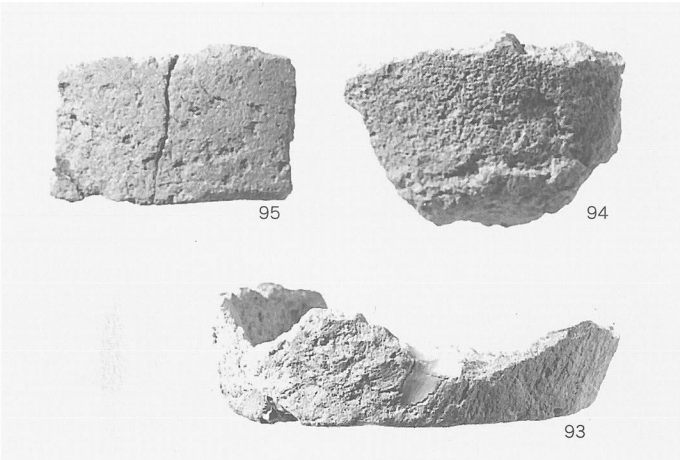
権現原第２遺跡　縄文時代早期土器（２）



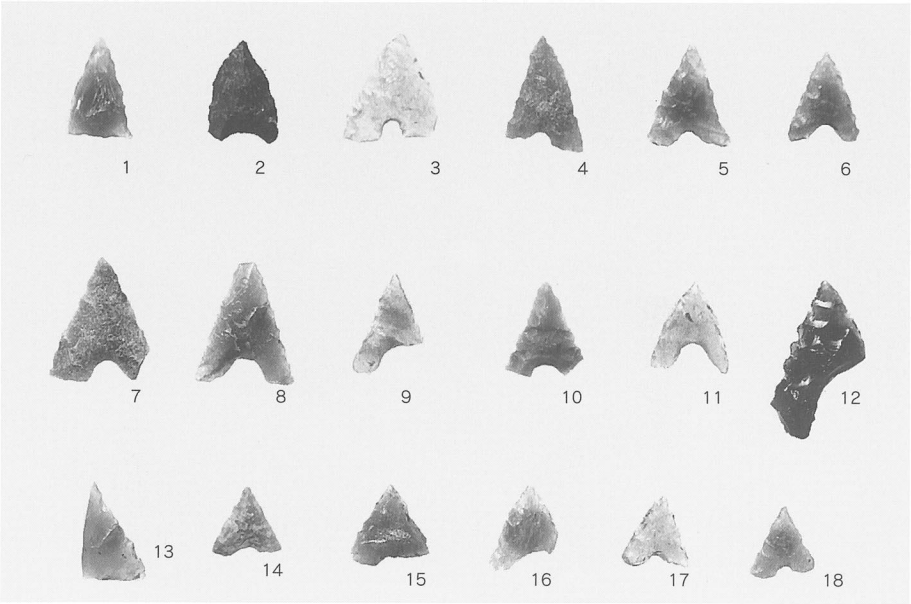


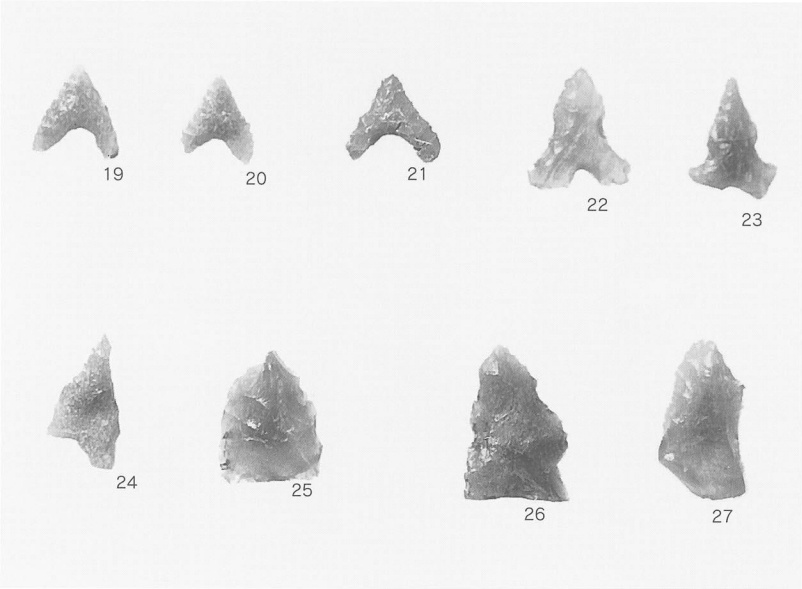


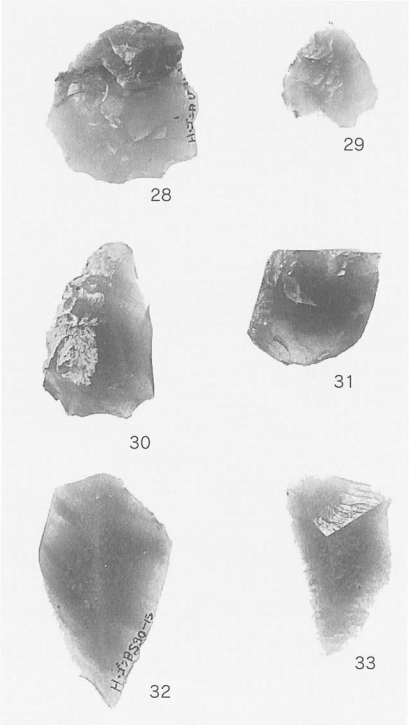


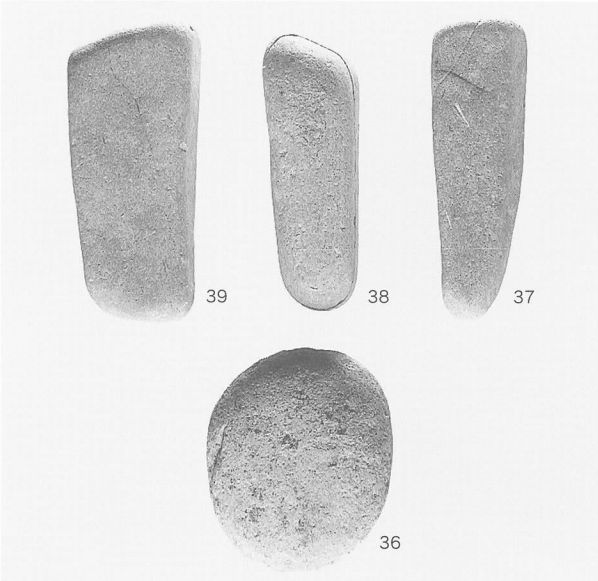


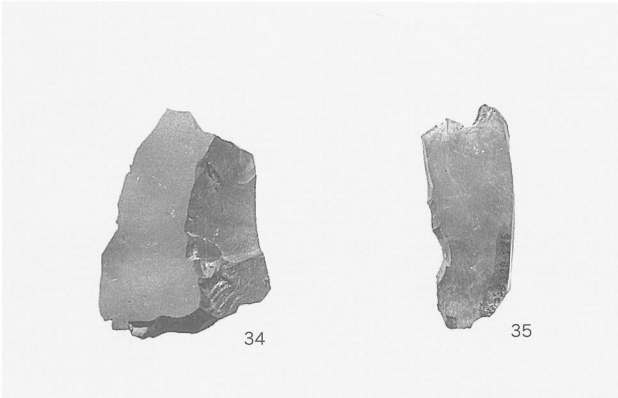
権現原第２遺跡　縄文時代早期土器（３）











権現原第２遺跡　縄文時代早期石器

杉木原遺跡
すぎのきばる

第Ⅲ章　　杉木原遺跡

第１節　調査の経過と概要

杉木原遺跡は清武川右岸の標高約８０ｍを測る小高いシラス台地上に立地する。この台地は背後に山を臨み、北西から南東方向に緩やかに傾斜する地形で、現在はみかんを中心とした果樹栽培、大根やたばこ等の畑地に利用されている。この遺跡は、台地の北端部に位置し、調査前まではみかん畑に利用されていた。分布調査の際、南側の畑地で縄文土器数点が表面採集された他、北側の畑地でも縄文土器や焼礫が確認された。調査対象面積は、１６，０００㎡である。しかし、その後の確認調査で、南側の畑地では遺構は検出されず、数点の土器片が出土したが、果樹栽培の造成が行われており、撹乱層からの出土であった。北側の畑地では耕作土の下位に成層したテフラ層（アカホヤ火山灰）があり、その下位から縄文土器・焼礫が検出された。その結果、調査対象地区を当初の１６，０００㎡から北側の畑地約７，１４０㎡に限定し、平成７年８月１７日から平成８年３月２１日までの期間、調査を実施した。

調査に際しては、確認調査の結果よりアカホヤ火山灰層の下位層で焼礫や縄文早期の土器が検出されていたので、まず伐採されて放置されたみかんの木を重機で慎重に除去した後、表土を重機で剥ぎ取り、第Ⅱ層（アカホヤ火山灰）の上面において遺構・遺物の検出に努めた。しかし、鋤簾がけによる精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。その結果、Ⅱ層も重機で除去しⅢ層面から縄文早期の遺構・遺物の調査を進めることにした。まず、国土座標軸（ＸＹ座標）を基準として５ｍグリッドを設定し、北から南を１・２・３…区、東から西をＡ・Ｂ・Ｃ…区として、その組み合わせで区画を表示した。

縄文早期の包含層は第Ⅲ層・第Ⅳ層である。第Ⅲ層の黒褐色層では、遺物の量は少なかったが焼礫が調査区全体で検出された。第Ⅳ層の暗褐色層では焼礫と共に遺物も多量に出土した。礫群の分布状況を確認するため礫は平板実測を行った。礫群の下から集石遺構・土壙が検出された。Ⅴ層上面における２０㎝コンタで地形測量を行った。Ⅴ層より下位の層ではトレンチによる調査を行い、遺物が出土すればそのグリッドを広げていく調査方法をとった。しかし、遺物の量も少なかったので、調査を途中で打切った。Ⅴ層からは、旧石器時代の遺物が少量検出された。

調査の結果、旧石器時代のナイフ形石器・スクレイパー・細石刃等の遺物、縄文時代草創期の隆帯文（２点）・爪形文土器（１点）、縄文時代早期の土器（貝殻文円筒形土器・押型文土器その他３，６６５点）や打製石鏃（１２０点）・石皿等の石器と集石遺構４２基、土壙４基が確認された。

第２節 遺跡の層序

本遺跡の基本層序は以下に示すとおりである。Ⅲ層～Ⅴ層が遺物の包含層である。

Ⅰ層（表土）
Ⅱ層（アカホヤ）
Ⅲ層（黒褐色土）
Ⅳ層（暗褐色土）
Ⅴ層（暗褐色土）
Ⅵ層（暗褐色土）
Ⅶ層（暗褐色土）
Ⅷ層（黄褐色砂質土）

Ⅰ層の表土（耕作土）は除去すると南から北へ緩やかに傾斜した旧地形が掘削されることなく残存していた。Ⅱ層は、アカホヤ火山灰である。Ⅲ層は黒褐色土：細粒の黄色軽石を多く含む層で、下位から集石遺構が検出された。遺物の出土数は少ない。Ⅳ層は暗褐色土：軟質な褐色土であり、遺構・遺物も多量に出土した。Ⅴ層は暗褐

色土：黄色軽石を少量含みⅣ層より硬質でしまっている褐色土である。旧石器時代の遺物が少量出土した。Ⅵ層は暗褐色土：Ⅴ層に比べて黄色軽石が全体的に広がり量も多く含む。硬質で遺物を伴わない層である。Ⅶ層は暗褐色土：粘性をもつ褐色土である。Ⅷ層は黄褐色砂質土：黄色軽石混じりのシラス火山灰である。また、後述のテフラ検出分析結果より、Ⅱ層の火山灰は鬼界カルデラから噴き出した鬼界アカホヤ火山灰（約６，３００年前）に相当し、Ⅲ層の黄色軽石は桜島から噴き出した嫁坂軽石と考えられる。この軽石については約６，５００年前に桜島火山から噴き出したと推定されている桜島末吉軽石に対比される可能性が考えられる。また、Ⅴ層・Ⅵ層の黄色軽石は約１．４～１．６万年前に霧島火山から噴き出した霧島小林軽石である。

第３節 旧石器時代の遺物

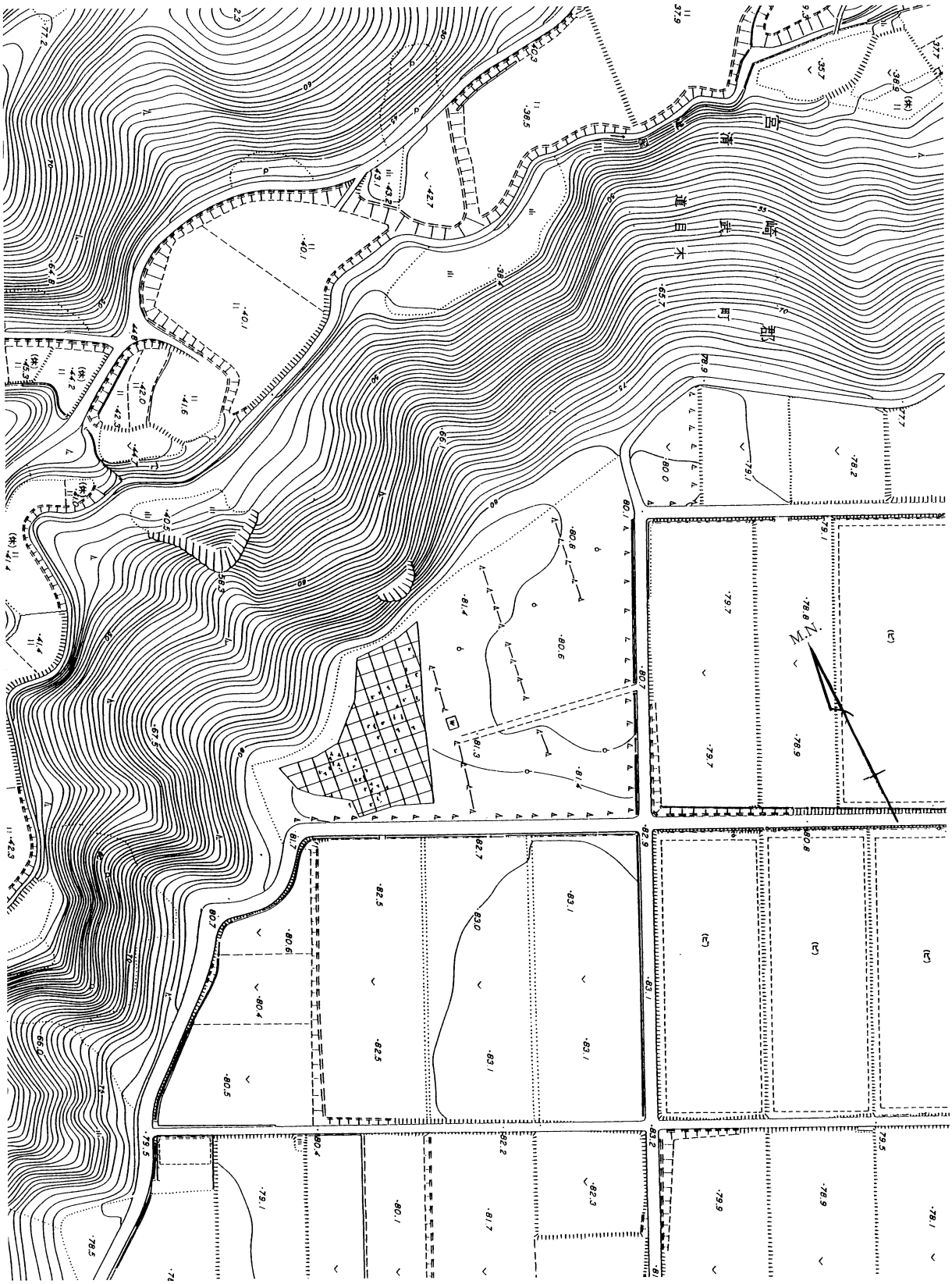
旧石器時代の調査は、トレンチにより実施した。遺構は検出していないが遺物はいくつか検出している。層的には、基本層序の小林軽石を含む暗褐色を呈するⅤ層が旧石器時代の包含層に相当する。しかし部分的には縄文早期の文化層との混在が認められる。遺物の分布状況であるが遺跡全体に散らばっており、明確なブロックは把握できなかった。旧石器の出土総数は、９８点である。内訳はナイフ形石器４点・スクレイパー６点・縦長剥片７点・石核類２６点・細石刃１９点・剥片１５点・チップ２１点である。なお、細石刃とナイフ形石器の層位の上下関係は明確に確認できなかった。

ナイフ形石器（第３図１～４）

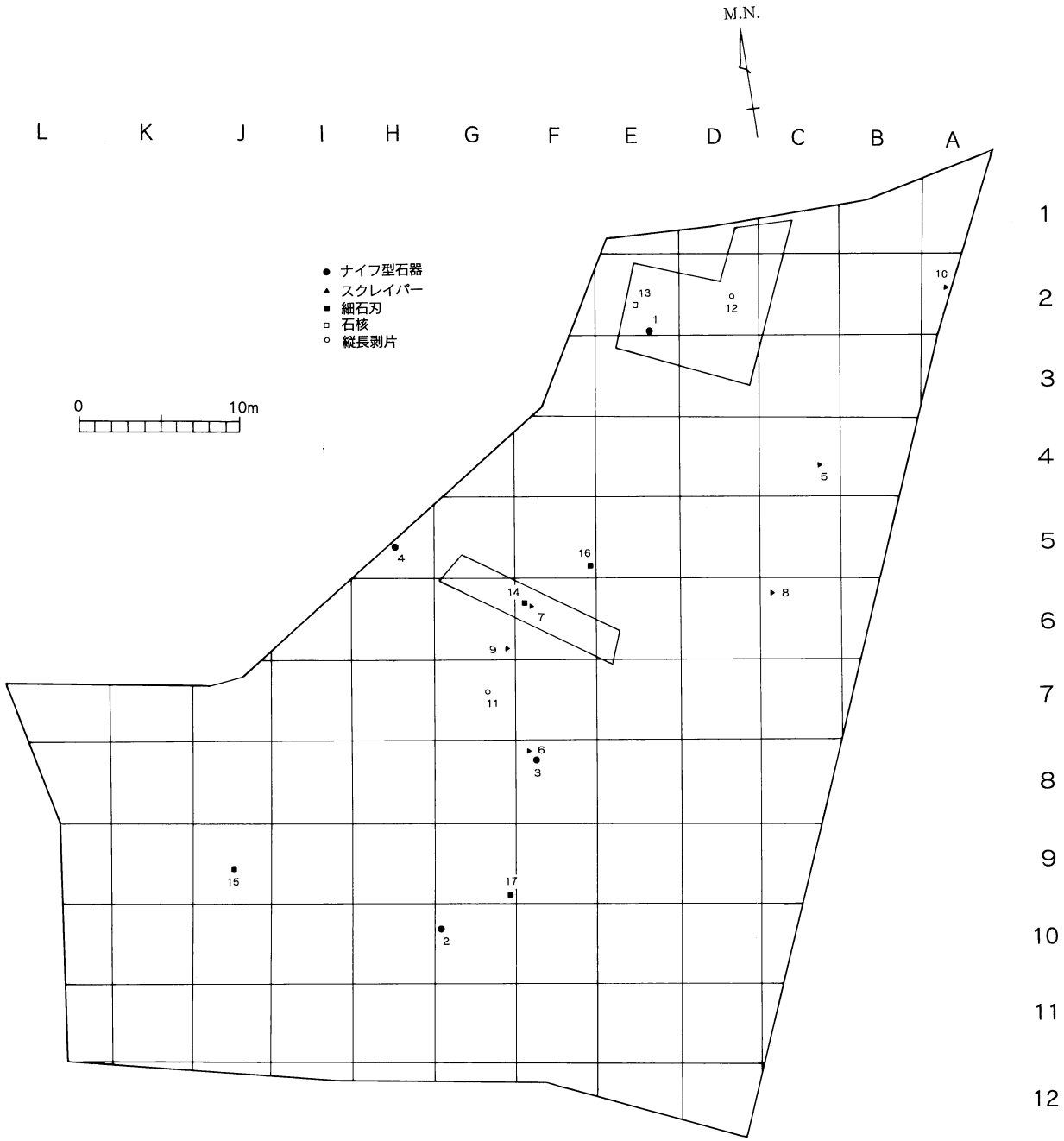
ナイフ形石器は全部で４点検出している。１は、頁岩製の縦長剥片を素材としている。一側辺に加工を施したものである。Ⅴ層下部で検出している。ブランティングは、両面から施されている。２は、頁岩の縦長剥片を素材としているもので二側辺に加工を施したものである。同じくⅤ層下部から検出したものである。ブランティングが裏面から施されている。３も頁岩の縦長剥片を素材としたもので、二側辺に加工を施したものである。また、出土層位は、Ⅴ層下部である。二側辺加工を施したもので、ブランティングが両面から施されている。４は、先端が欠けているが九州で言う剥片尖頭器である。石材は頁岩を使用している。基部加工とブランティング加工を施してある。出土層位は、Ⅴ層である。

スクレイパー（第３図５～１０）

旧石器時代のスクレイパーは全部で６点検出している。石器組成に占める割合は６％ほどである。５は、頁岩の不定形剥片を素材としたサイドスクレイパーで二側辺に細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はⅤ層下部である。６は、頁岩の不定形剥片を素材としたサイドスクレイパーである。出土層位は同じくⅤ層下部である。７は、頁岩の横長剥片を素材としたエンドスクレイパーである。下縁部に両面から調整が施されている。８は、頁岩の横長剥片を素材としたエンドスクレイパーである。表面に細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はⅤ層下部である。９は、頁岩の不定形剥片を素材としたエンドスクレイパーである。下縁部に裏側から細かい調整を加え刃部を形成している。出土層位はⅤ層下部である。１０は、横長剥片を素材としたエンドスクレイパーである。下縁部に両面から細かな調整を加え刃部を形成している。出土層位はⅤ層下部である。



第１図　　杉木原遺跡　調査区周辺地形図（1/2000）



第２図　　杉木原遺跡　旧石器遺物分布図（1/400）

第３図　杉木原遺跡　旧石器実測図（１～12…S=1/3,14～17…S=2/3）

使用痕のある縦長剥片（第３図１１・１２）

１１は、剥離方向が縦に長い縦長剥片を素材にして調整の痕跡がみられるものである。石材は砂岩である。１２も縦長剥片で、素材は流紋岩製の使用痕のあるものである。

石核（第３図１３）

石核類は全部で２６点検出されている。１３は、石材は頁岩で縦長剥片の剥出作業面と幅広の剥片の剥出作業面とがある。

細石刃（第３図１４～１７）

細石刃は全部で１９点ほど出土している。石器組成における割合は２０％ほどである。石材は不純物が少ない良質の黒曜石である。細石刃は、小林軽石層が含まれるＶ層（旧石器の包含層）から出土している。１４～１６までのものは胴部や先端が欠損したものである。１７はほとんど完形に近いものである。

表１　杉木原遺跡旧石器観察表（１）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
3	1	E-2	ナイフ形石器	4.33	2.329	0.66	5.6	頁岩
3	2	G−10	ナイフ形石器	3.825	1.88	0.67	4.4	頁岩
3	3	F−8	ナイフ形石器	4.175	1.916	1.046	7.3	頁岩
3	4	H-5	ナイフ形石器	4.05	2.75	0.798	10.1	頁岩
3	5	C−4	スクレイパー	4.5	3.2	1	15.7	頁岩
3	6	F-8	スクレイパー	2.53	3.851	1.527	12.2	頁岩
3	7	F−6	スクレイパー	2.1	3.6	0.6	4.1	頁岩
3	8	C−6	スクレイパー	3.1	5.7	0.7	11.4	頁岩
3	9	G−6	スクレイパー	2.296	3.61	0.56	4.4	頁岩
3	10	A−2	スクレイパー	4.617	7.412	0.718	28	頁岩
3	11	G−7	縦長剥片	11.925	5.557	1.9	120	頁岩
3	12	D−2	縦長剥片	3.8	1.7	0.6	4.1	流紋岩
3	13	E-2	石核	6.679	7.862	2.984	196.6	砂岩
3	14	F−6	細石刃	1.2	0.578	0.166	0.1	黒曜石
3	15	J-9	細石刃	1.144	0.63	0.202	0.1	黒耀石
3	16	F-5	細石刃	1.414	0.87	0.14	0.1	黒曜石
3	17	G−9	細石刃	1.722	0.943	0.293	0.3	黒耀石
		B−1	石核	1.05	1.4	1.55	1.7	黒耀石
		D−8	石核	2.523	1.271	1.302	3.5	黒耀石
		B−5	石核	1.7	1.4	1.155	1.7	黒耀石
		F−5	石核	1.7	1.8	1.66	4	黒耀石
		E−7	石核	2.5	3	1.324	5.7	黒耀石
		F−10	石核	3.941	2.649	1.484	10.7	頁岩
		F−6	石核	2.163	2.494	1.178	4.4	黒耀石
		E−7	石核	1.576	3.101	1.481	7.9	黒耀石
		H−6	石核	1.881	2.553	1.146	6.5	黒耀石
		F−7	石核	1.575	2.011	0.926	2.6	黒耀石
		D−5	石核	6.774	4.926	3.047	128.3	頁岩
		B−1	石核	2.027	1.431	0.736	1.8	チャート
		K−8	石核	1.466	1.462	1.409	2.7	黒耀石
		K−8	石核	6.059	4.518	2.578	74.1	頁岩
		K−8	石核	2.014	1.846	1.846	3.9	黒耀石
		D−12	石核	0.991	1.77	1.544	2.4	黒耀石
		D−12	石核	1.954	1.401	1.022	2.2	黒耀石
		D−6	石核	1.806	1.893	1.275	3.5	黒耀石
		C−3	石核	2.15	1.358	1.888	2.9	黒耀石
		C−9	石核	2.022	2.003	1.151	3.8	黒耀石
		G−7	石核	2.829	3.748	1.58	11	頁岩
		一括	石核	1.45	2.011	1.318	2.5	黒耀石
		一括	石核	1.205	1.726	1.44	2.4	チャート

表１　杉木原遺跡旧石器観察表（２）

		一括	石核	1.38	2.019	1.086	2.9	黒耀石
		一括	石核	5.931	4.713	3.073	77.7	頁岩
		G−6	縦長剥片	6.8	3.3	1.4	25.3	流紋岩
		H−7	縦長剥片	8.35	3.1	0.65	14.3	頁岩
		D−2	縦長剥片	7.1	4.45	2.1	34.8	砂岩
		J−7	縦長剥片	6.2	1.95	0.6	7	頁岩
		一括	縦長剥片	5.8	2.9	1	17.9	頁岩
		B−5	細石刃	1.75	0.95	0.3	0.6	黒耀石
		G−7	細石刃	1.45	0.9	0.4	0.4	黒耀石
		G−7	細石刃	0.65	0.8	0.1	0.1	黒耀石
		F−4	細石刃	1.85	1	0.45	0.8	黒耀石
		K−8	細石刃	2.45	1.3	0.2	0.9	チャート
		E−6	細石刃	3.35	0.9	0.6	1.3	黒耀石
		D−8	細石刃	1.45	0.85	0.15	0.1	黒耀石
		H−7	細石刃	1.4	0.8	0.1	0.1	黒耀石
		F−11	細石刃	1.7	0.95	0.4	0.5	黒耀石
		F−11	細石刃	0.9	0.5	0.1	0.1	黒耀石
		一括	細石刃	1.5	0.95	0.25	0.4	黒耀石
		一括	細石刃	1.25	0.6	0.2	0.2	黒耀石
		一括	細石刃	1	0.55	0.15	0.1	黒耀石
		一括	細石刃	1.3	0.65	0.15	0.1	黒耀石
		一括	細石刃	2	0.95	0.3	0.3	黒耀石

第４節　縄文時代の遺構と遺物

１．草創期の遺物　（第２５図―１～３）

Ⅳ層下部の遺物包含層の中から草創期の土器が３点発見され、隆帯文土器がほぼ同じ位置から、爪形文土器が少し離れた位置から検出された。残念ながら早期土器との層的違いは確認できなかった。１～２は隆帯文土器であり、ｋ－７・Ｊ－７グリッドから出土している。粘土紐を指先で挟みながら押さえつけて三角隆帯をつくる土器（爪先圧痕がわずかに見られる）で、どちらも内面は横方向のナデ調整である。３は爪形文土器で、Ｅ－１１グリッドから出土している。器面をナデ調整し、そのうえに爪形文が斜方向に施文されたと考えられる土器である。内面はナデ調整である。

２．早期の遺構と遺物

（１）遺構

集石遺構

杉木原遺跡では、集石遺構を４２基確認している。遺構は、大きく２つのブロックに分けた形で分布している。またこれらの集石遺構は、Ⅳ層で検出された。集石遺構の分布は、遺跡の北東部と南西部に分けられる。少し標高の落ちた台地の先端部に位置している。

集石遺構は、八木澤一郎氏（註１）の分類を参考に５形態に分類した。

１類－分散型で、掘り込みと底石が共にない形態のもの。

２類－分散型で、掘り込みを持つが底石がない形態のもの。

３類－密集型で、掘り込みと底石が共にない形態のもの。

４類－密集型で、掘り込みはあるが底石はない形態のもの。

５類－密集型で、掘り込みと底石が共にある形態のもの。

それぞれの類の内訳は、１類が３基、２類が１９基、３類が１基、４類が１６基、５類が３基である。一番量が多いのは２類で、全体の４５％を占めている。掘り込みを持つ集石遺構の埋土はⅣ層

を基本とした暗褐色土であり共通している。

１号集石（第５図）

Ｆ－６区のⅣ層で検出されている。約径２．５ｍ×３．５ｍの範囲に１２０個程の礫を集めており（註２）、明瞭な掘りこみはない。礫の分布状況は疎の部分と密な部分に分けられる。埋土中から砂岩性の磨石が検出された。礫は比較的小さな角礫が多い。構成礫は、ほとんどが肉眼的に赤色化してもろくなっており、破損度が高い。

２号集石（第６図）

Ｆ－７区のⅣ層下部で検出されている。約径１．０ｍ×２ｍの範囲に７４個程の礫を集めており（註２）、掘り込みはあったと考えられるが掘りすぎの為確認できていない。礫の密度も比較的疎らである。３基の小さな集石遺構があったと考えられる。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化しており、破損度は高い。

３号集石（第６図）

Ｅ－６区のⅣ層下部で検出されている。約径１．５ｍ×１．５ｍの範囲に１５７個程の礫を集めている。明瞭な掘りこみはない。礫の密度も比較的疎らである。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化している。礫の破損度は高い。

４号集石（第７図）

Ｇ－１０区のⅣ層下部で検出されている。約径１．１ｍ×０．８ｍの範囲に１２４個程の礫をあつめている。１・２・３号集石と違い、約径１．２５ｍ×１．０ｍ、深さ０．２５ｍの浅い楕円形の掘りこみを持つ。埋土はⅣ層を基本とする暗褐色土である。礫が浮いているが礫をはずしても埋土が残っており、締まっている硬い面を床面とした。土坑の床面に配石は持たない。底部はほぼ平らとなっている。構成礫は、肉眼的に赤色化していてもろくなっており破損度は高い。

５号集石（第７図）

Ｇ－１０区のⅣ層下部で検出されている。約径０．５ｍ×０．５５ｍの比較的小型の集石遺構で２２個ほどの礫で構成されるものである。４号集石と同様に、礫の下部に埋土が残っており硬く締まった面を床面とした。約径０．５５ｍ×０．６ｍ、深さ０．１ｍのほぼ円形の浅い掘りこみをもつものである。埋土は、Ⅳ層を主体とした暗褐色土である。礫は浮いているが４号集石遺構と同様に礫の下部に埋土が残っていた。土坑の床面に配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化しておりもろくなっている。砕片も多い。

６号集石（第７図）

Ｃ－５区のⅣ層下部で検出されている。約径０．９０ｍ×１．０ｍの比較的小型の集石遺構である。７７個程の礫で構成される。また、約径１．０４ｍ×１．０２ｍ、深さ０．２０ｍのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を基本とした暗褐色土である。土坑の底部に配石はみられない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

７号集石（第７図）

Ｇ－１１区のⅣ層下部で検出されている。約径１．０ｍ×０．９ｍの小型の集石遺構である。４７個ほどの礫で構成される。また、約径０．７０ｍ×０．７０ｍ、深さ０．１０ｍの円形の浅い掘

りこみを持っている。埋土はⅣ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に２個の配石をもっている。構成礫は、肉眼的に赤色化していてもろくなっている。

８号集石（第８図）

Ｈ－１１区のⅣ層下部で検出されている。約径０．８ｍ×０．９ｍの小型の集石遺構である。９２個程の礫で構成される。また、約径０．８６ｍ×０．８２ｍ、深さ約０．１２ｍのほぼ円形の浅い掘りこみを持っている。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土である。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

９号集石　（第８図）

Ｉ－８区のⅣ層下部で検出されている。約径１．０ｍ×０．９ｍの集石遺構である１３５個程の礫で構成される。また、約径０．８４ｍ×０．７４ｍ、深さ０．１０ｍのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土である。土坑の底部に明確な配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

１０号集石　（第８図）

Ｈ－８区のⅣ層下部で検出されている。１４７個程の礫で、約径０．８０ｍ×０．７４ｍの集石遺構である。また、約径０．８７ｍ×０．８８ｍ、深さ０．１２ｍのほぼ円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土である。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

１１号集石（第８図）

Ｈ－８区のⅣ層下部で検出されている。８５個程の礫で、約径０．８０ｍ×１．０ｍの集石遺構である。また、明確な掘りこみはなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化していた。

１２号集石（第９図）

Ｅ－４区のⅣ層下部で検出されている。約径０．７０ｍ×０．７０ｍの集石遺構である。７７個程の礫で構成される。また、約径０．７４ｍ×０．６０ｍ、深さ０．４０ｍの楕円形の浅い掘りこみを持っている。埋土は暗褐色層でⅣ層を主体としている。土坑の床面には明確な配石はみられなかった。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

１３号集石（第９図）

Ｈ－１０区のⅢ層下部で検出されている。約径１．６０ｍ×１．６５ｍの比較的大きな集石遺構である。４３２個程の礫で砕片が多い。掘りこみは、約径１．８４ｍ×１．８０ｍ、深さ０．７２ｍのほぼ円形の掘り込みで本遺跡の中でも大きなものの１つである。埋土の主体はⅣ層の暗褐色土であるが黒色土も混在している。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化していて砕片が多くなっている。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。

１４号集石（第９図）

Ｇ－１１区のⅣ層下部で検出されている。約径０．６ｍ×０．５４ｍの集石遺構である。４６個程の礫で構成される。また、約径０．６２ｍ×０．５６ｍ、深さ０．１７ｍの楕円形の浅い掘りこみを持っている。埋土は暗褐色である。構成礫は、肉眼的に赤色化しており角礫と砕片が半々ぐらいである。土坑の床面には明確な配石はみられなかった。

１５号集石（第１０図）

Ｄ－６区のⅣ層下部で検出されている。約径０．９２ｍ×１．１８ｍの集石遺構である。１６３個程の礫で砕片が多い。また、約径１．１０ｍ×１．１５ｍの楕円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化して角礫より砕片が多い。

１６号集石（第１０図）

Ｄ－６区のⅣ層下部で検出されている。約径１．０２ｍ×１．０６ｍの集石遺構である。１５５個程の礫で砕片が多い。また、約径０．８３ｍ×０．９２ｍ、深さ０．２６ｍの円形の浅い掘りこみを持っている。埋土はⅣ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられない。構成礫は肉眼的に赤色化しており礫の密度は高い。

１７号集石（第１０図）

Ｈ－９区のⅣ層下部で検出されている。約径０．９０ｍ×０．８５ｍの集石遺構である。１５５個程の礫で小粒の角礫が多い。また、約径１．２ｍ×１．１ｍ、深さ０．２３ｍの楕円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面にな配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

１８号集石（第１０図）

Ｉ－８区のⅣ層下部で検出されている。約径０．７６ｍ×０．５８ｍの集石遺構である。４８個程の礫で小粒の角礫で密度は低い。また、約径１．０ｍ×０．８ｍの楕円形の浅い掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

１９号集石　（第１１図）

Ｃ－７区のⅣ層下部で検出されている。約径０．９０ｍ×０．６０ｍの集石遺構である。８０個程の礫で小粒の礫で密度は低い。また、約径０．８２ｍ×０．９０ｍ、深さ０．２８０ｍの楕円形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に明確な配石はみられなかった。構成礫は肉眼的に赤色化している。

２０号集石（第１１図）

Ｈ－９区のⅣ層下部で検出されている。この集石遺構の近くで貝殻文系の土器が出土していることから、貝殻文系の土器が隆盛を極めた時期に構築されたものであろう。約径１．２ｍ×１．０ｍである。１１２個程の礫で角礫より砕片のほうが多い。また、約径１．２４ｍ×１．３２ｍ、深さ０．４０ｍの円形の掘りこみをもつ。埋土は、Ⅳ層を中心とした暗褐色層であるが一部黒色土が混在する。上場と下場の間に段がつくが途中できえる。土坑の床面に配石はない。構成礫は肉眼的に赤色化している。

２１号集石（第１１図）

Ｇ－１０区のⅣ層下部で検出されている。約径０．８９ｍ×０．９０ｍの集石遺構である。１４１個程の礫で角礫が多く密度は高い。約径０．９５ｍ×０．９５ｍ、深さ０．２０ｍの円形の浅い掘りこみである。埋土はⅣ層を中核とする暗褐色土である。土坑の床面に明確な配石はみられない。

２２号集石（第１２図）

Ｊ－８区のⅣ層下部で検出されている。約径０．３４ｍ×０．５０ｍの小さな集石遺構で２０個

程の礫の砕片で構成される。また、約径０．８０m×０．７８m、深さ０．１３mのほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土は、Ⅳ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２３号集石（第１２図）

Ｊ－８区のⅣ層下部で検出している。約径０．６８m×０．６８mの集石遺構である。６９個程の角礫で構成されている。また、約径１．０４m×１．０５m、深さ０．１８mの楕円形の浅い掘りこみをもつ。土坑の床面に２個体の配石がみられる。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２４号集石（第１２図）

Ｉ－７区のⅣ層下部で検出している。約径０．６０m×０．５０mの集石遺構である。９５個程の角礫と砕片で構成される。約径１．２４０m×１．２５０m、深さ０．５０mの本遺跡の中では、掘りこみがしっかりとしたもののひとつである。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２５号集石（第１２図）

Ｉ－７区のⅣ層下部で検出している。約径０．５m×０．４５mの集石遺構である。６３個程の角礫で構成される。約径０．６m×０．６m、深さ０．１４mの浅い掘りこみである。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２６号集石（第１３図）

Ｉ－８区のⅣ層下部で検出している。約径１．５９m×１．１０mの集石遺構である。３０１個程の円礫と角礫で構成される。約径１．３４m×２．１５m、深さ０．２０mの浅い楕円形状の掘りこみをもつ。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２７号集石（第１３図）

Ｉ－７区のⅣ層下部で検出されている。約径１．４m×１．３４mの集石遺構である。３１９個程の礫で構成される。約径１．１６m×１．０８m、深さ０．１８mの楕円形の掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はない。構成礫は、赤色化している。

２８号集石（第１４図）

Ｊ－１０区のⅣ層下部で検出されている。約径０．８４m×０．７４mの集石遺構である。５４個程の角礫で構成される。約径０．８８m×０．９２m、深さ０．１４mの浅い円形の掘りこみをもっている。埋土は、Ⅳ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

２９号集石（第１４図）

Ｈ－９区のⅣ層下部で検出されている。約径２．０５m×２．２０mの集石遺構である。６３１個程の角礫や円礫で構成される。約径２．５８m×２．２２m、深さ０．２０mの不整形の浅い掘りこみをもっている。埋土はⅣ層で土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３０号集石（第１５図）

Ｄ－５区のⅣ層下部で検出されている。この集石遺構の近くから塞ノ神式土器がまとまって出土していることから、この集石遺構は塞ノ神式土器の時期に構築されたものと考えられる。約径１．

２８m×１．３２mの集石遺構である。１４６個程の角礫や円礫で構成される。また、約径１．３６m×１．３０m、深さ０．６０mのすり鉢状の掘りこみをもっている。土坑の底部に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３１号集石（第１６図）

Ｈ－８区のⅣ層下部で検出されている。約径０．７６m×１．１０mの集石遺構である。５５個程の礫で構成される。約径０．７３m×０．６６m、深さ０．２０mの円形の浅い掘りこみをもっている。土坑の底部に配石が１個確認された。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３２号集石（第１５図）

Ｉ－８区のⅣ層下部で検出されている。約径０．９０m×０．７０mの集石遺構である。７８個程の礫で構成される。約径０．８４m×０．４８m、深さ０．０４mの楕円形の極浅い掘りこみをもっている。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３３号集石（第１５図）

Ｆ－１０区のⅣ層下部で検出されている。約径０．６０m×０．７０mの集石遺構である。５２個程の角礫で構成される。約径０．６０m×０．６０m、深さ０．２５６mでほぼ円形に近い浅い掘り込みを持つ。埋土はⅣ層を主とした暗褐色層である。土坑の床面に配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３４号集石（第１６図）

Ｄ－４区のⅣ層下部で検出されている。約径０．７８m×０．７８mの集石遺構である。７３個程の礫で構成される。約径０．８６m×０．８６m、深さ０．２０mでほぼ円形の浅い掘りこみになっている。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は、配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３５号集石（第１６図）

Ｂ－４区のⅣ層下部で検出されている。約径０．５m×０．５４mの集石遺構である。３１個程の礫で構成される。約径０．９m×０．８m、深さ０．１６mでほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石はない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３６号集石（第１６図）

Ｆ－６区のⅣ層下部で検出されている。約径０．４４m×０．６０mの集石遺構である。４３個程の礫の砕片で構成される。約径０．８１m×０．８１m、深さ０．１６mでほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

３７号集石（第１７図）

Ｅ－５区のⅣ層下部で検出している。約径０．７m×０．７mの集石遺構である。５９個程の礫の砕片で構成される。約径０．９６m×０．９０m、深さ０．１６mでほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はⅣ層を中心とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石を持たない。構成礫は、肉眼的に赤色化している。

杉木原遺跡　遺構分布図（S=1/800）

第４図　　杉木原遺跡　集石遺構と礫の分布状況図（1/200）

３８号集石（第１７図）

Ｃ－４区のⅣ層下部で検出している。約径０．９６ｍ×０．９０ｍの集石遺構である。８２個程の礫の砕片で構成される。また、約径０．９４ｍ×０．９８ｍ、深さ０．２０ｍでほぼ円形の浅い掘りこみをもつ。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は、配石をもたない。構成礫は、ほとんど肉眼的に赤色化している。

３９号集石（第１７図）

Ｅ－８区のⅣ層下部で検出している。約径０．４６ｍ×０．５０ｍの集石遺構である。３９個程の礫の砕片で構成される。約径０．４８ｍ×０．６０ｍ、深さ０．０８ｍでほぼ円形の掘り込みをもつ。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石をもたない。構成礫はほとんど肉眼的に赤色化している。

４０号集石（第１７図）

Ｄ－７区のⅣ層下部で検出している。約径０．７ｍ×０．８ｍの集石遺構である。３４個程の礫の砕片で構成される。約径０．８２ｍ×０．８２ｍ、深さ０．１２ｍでほとんど円形の浅い掘り込みである。埋土はⅣ層を主とした暗褐色土層である。土坑の床面は配石をもたない。構成礫のほとんどは赤色化している。

４１号集石（第１８図）

Ｃ－３区のⅣ層下部で検出している。約径０．２０ｍ×０．２０ｍの集石遺構であるが上の部分は、跳んでしまったと思われる。約径０．４４ｍ×０．４６ｍ、深さ０．２０ｍのほとんど円形の掘りこみをもつ。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土層である。土坑の床面に配石はみられなかった。構成礫のほとんどは肉眼的に赤色化している。

４２号集石（第１８図）

Ｂ－５区のⅣ層下部で検出している。約径０．８８ｍ×０．７０ｍの集石遺構である。８３個程の礫の砕片で構成される。また、約径０．９０ｍ×０．８６ｍ、深さ０．２２ｍのほとんど円形の掘りこみをもつものである。埋土はⅣ層を主体とした暗褐色土層である。土坑の床面には配石はみられなかった。構成礫のほとんどは肉眼的に赤色化している。

註１　八木澤一郎氏の「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』Ｎ０．８を参考にさせていただいた。

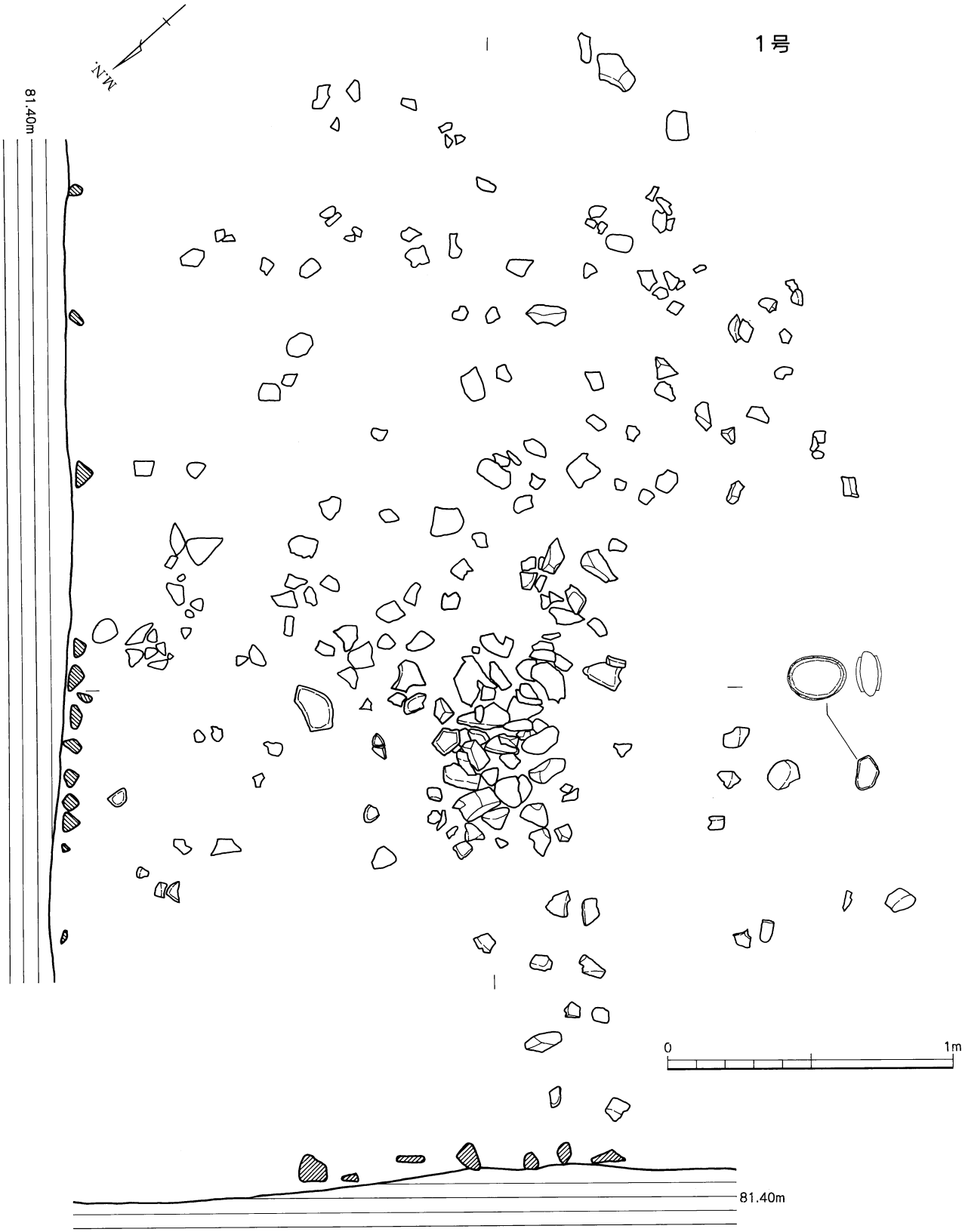
註２　礫の数は、実測した礫を数えたものである。

土壙

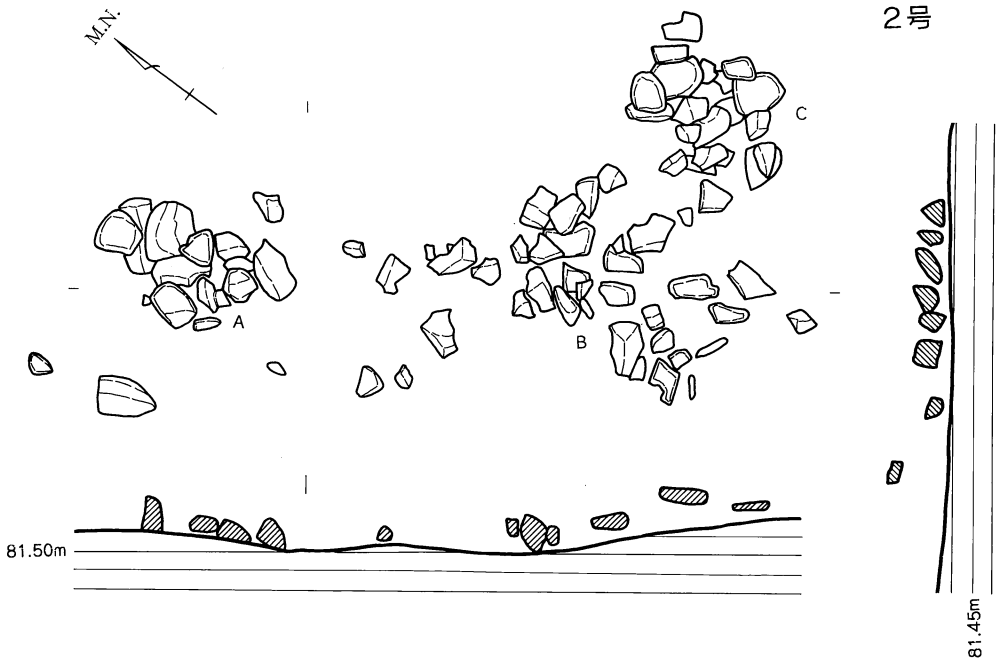
杉木原遺跡で土壙は全部で４基検出された。その分布は遺跡の北東部に位置する。平面形は楕円形・不整形のものがあり、その中でも小穴をもつものと持たないものがある。これらの土壙からは遺物が出土していないために、Ⅳ層上面から掘り込まれている遺構について縄文時代早期に属するものとして取り扱った。

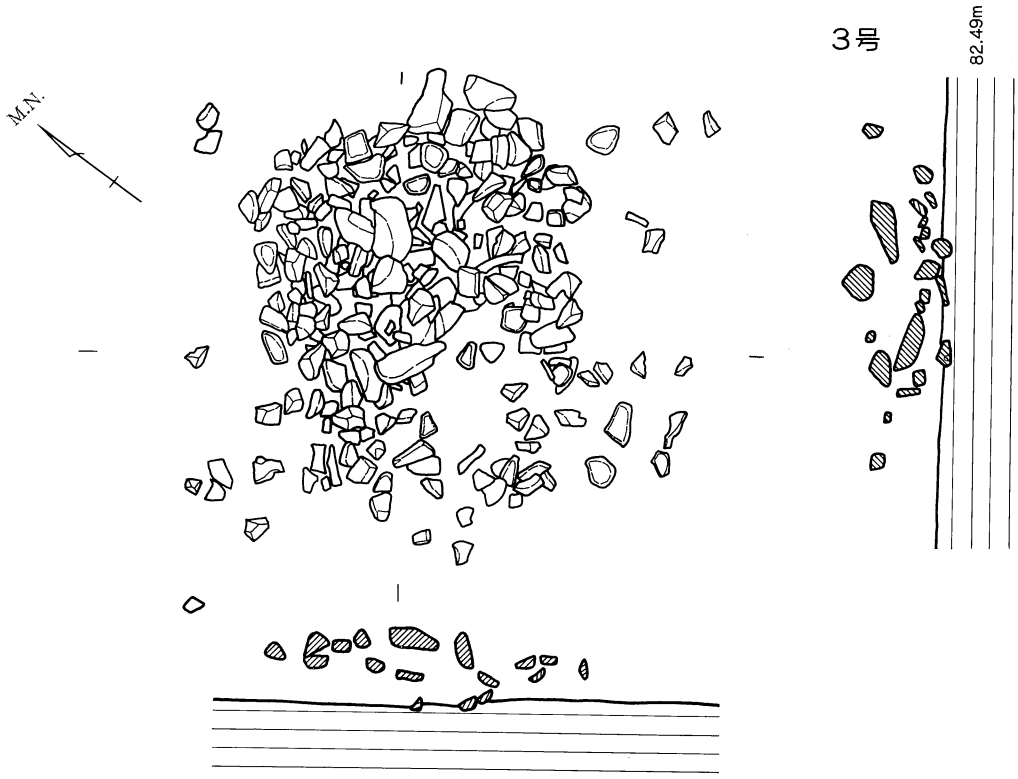
１号土壙（第１９図）

Ｂ－２区に、位置し３号土壙に隣接する。プランは不整形プランを呈する。規模は１．０ｍ×０．９８ｍ、検出面の深さは１，０５ｍを計る。埋土は黒色土混じりの暗褐色土である。第Ⅷ層の黄色軽石混じりの黄褐色砂質土まで掘り込んでいる。

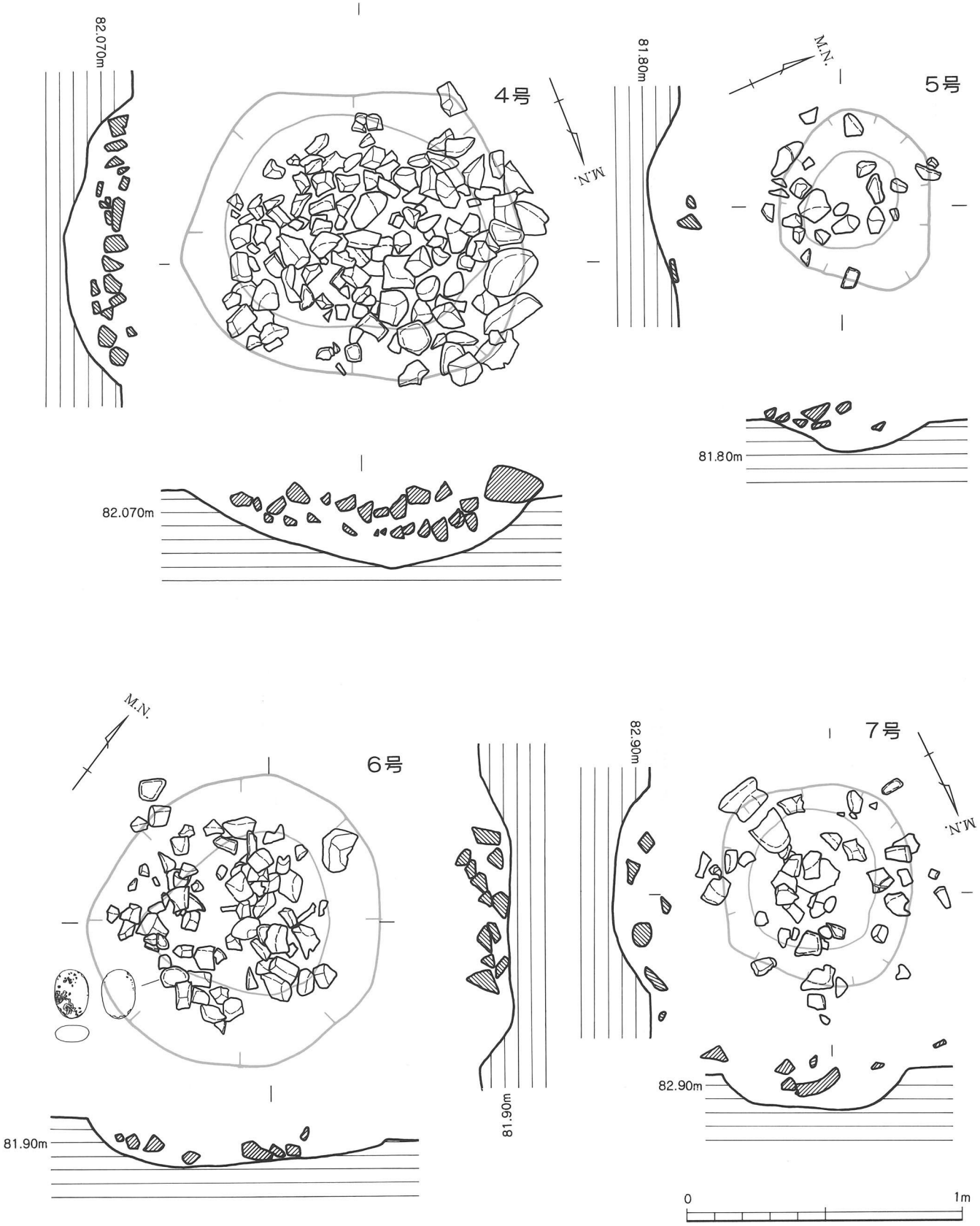


第５図　　杉木原遺跡　集石遺構実測図（１）（1/20）

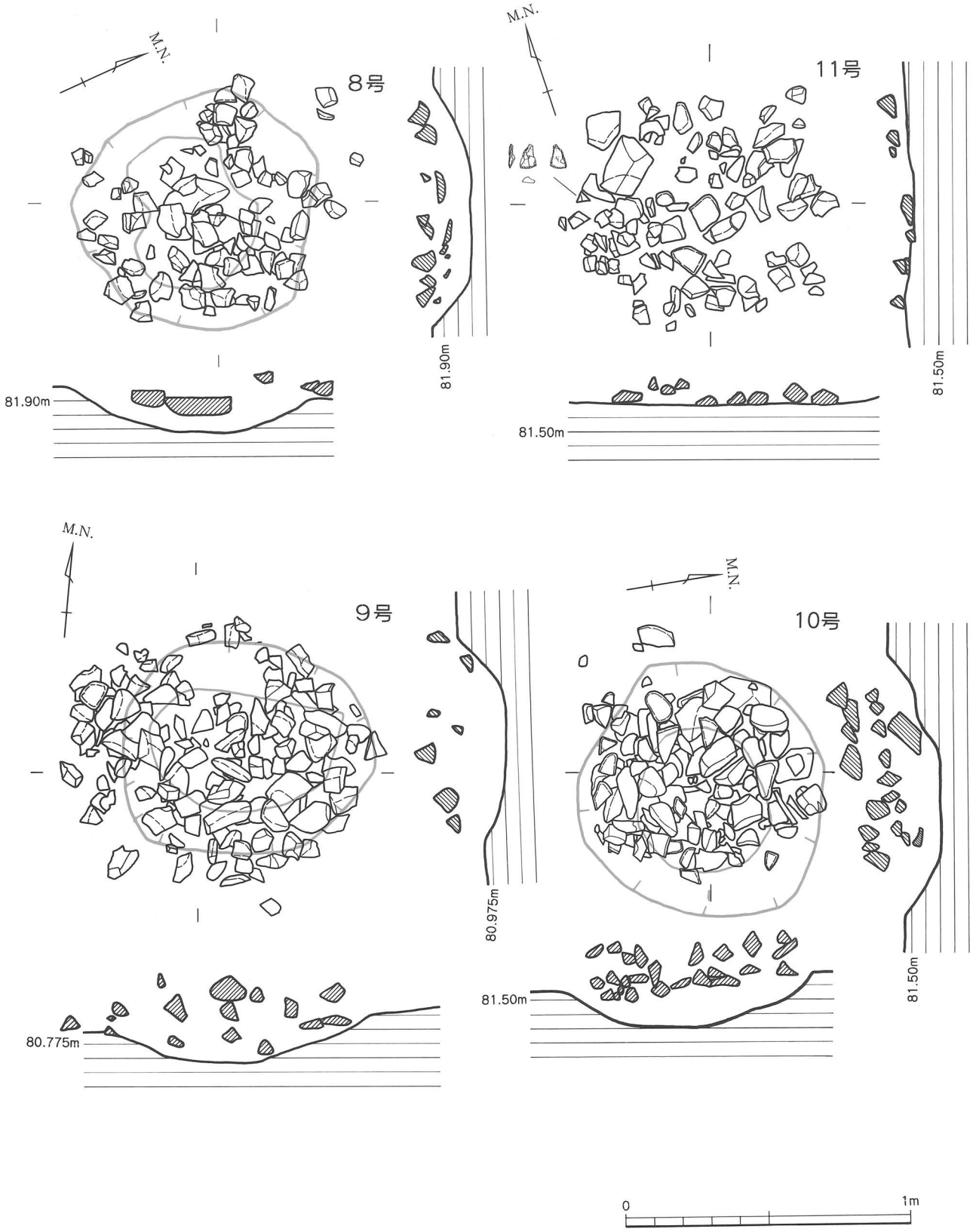




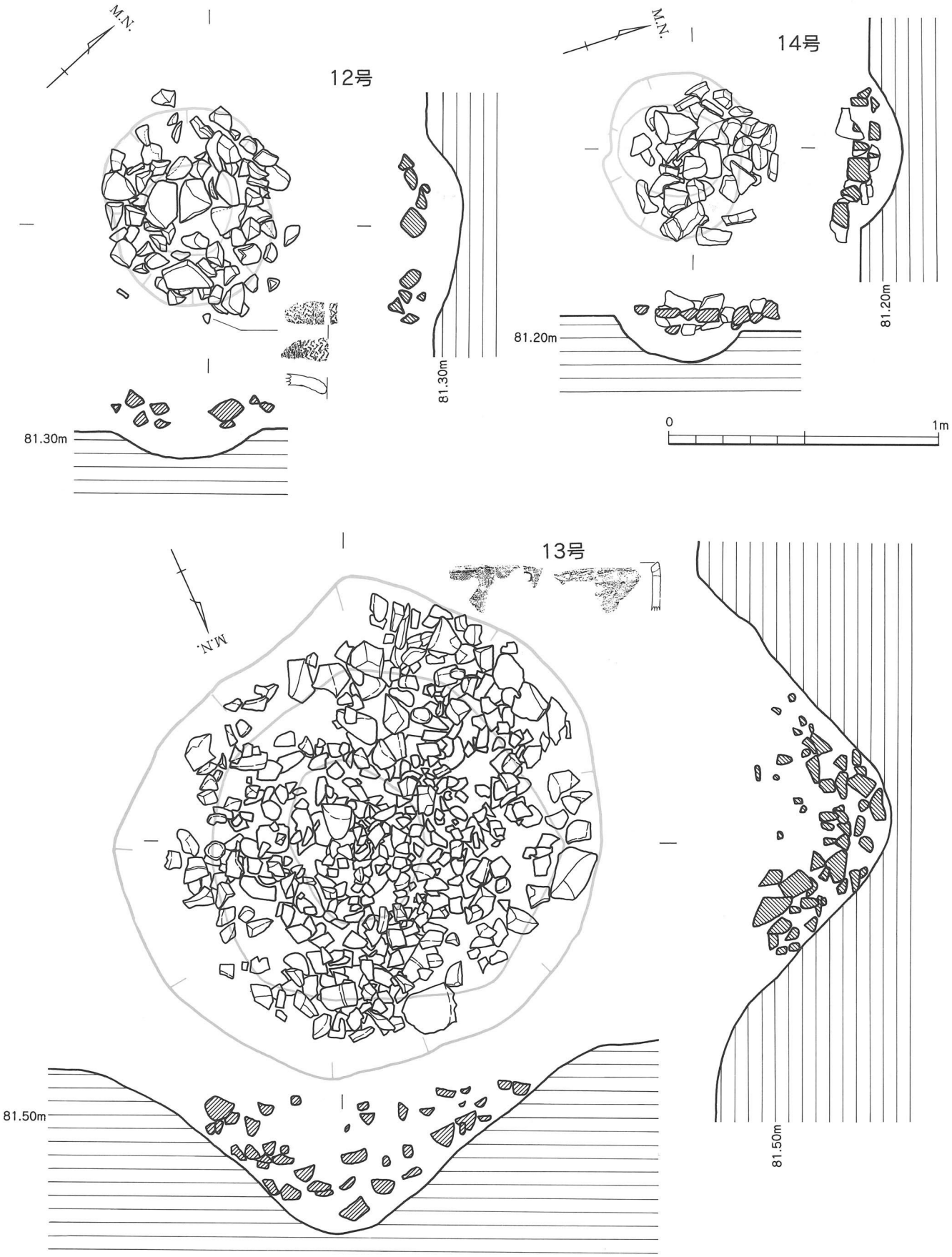
第6図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（2）（1/20）



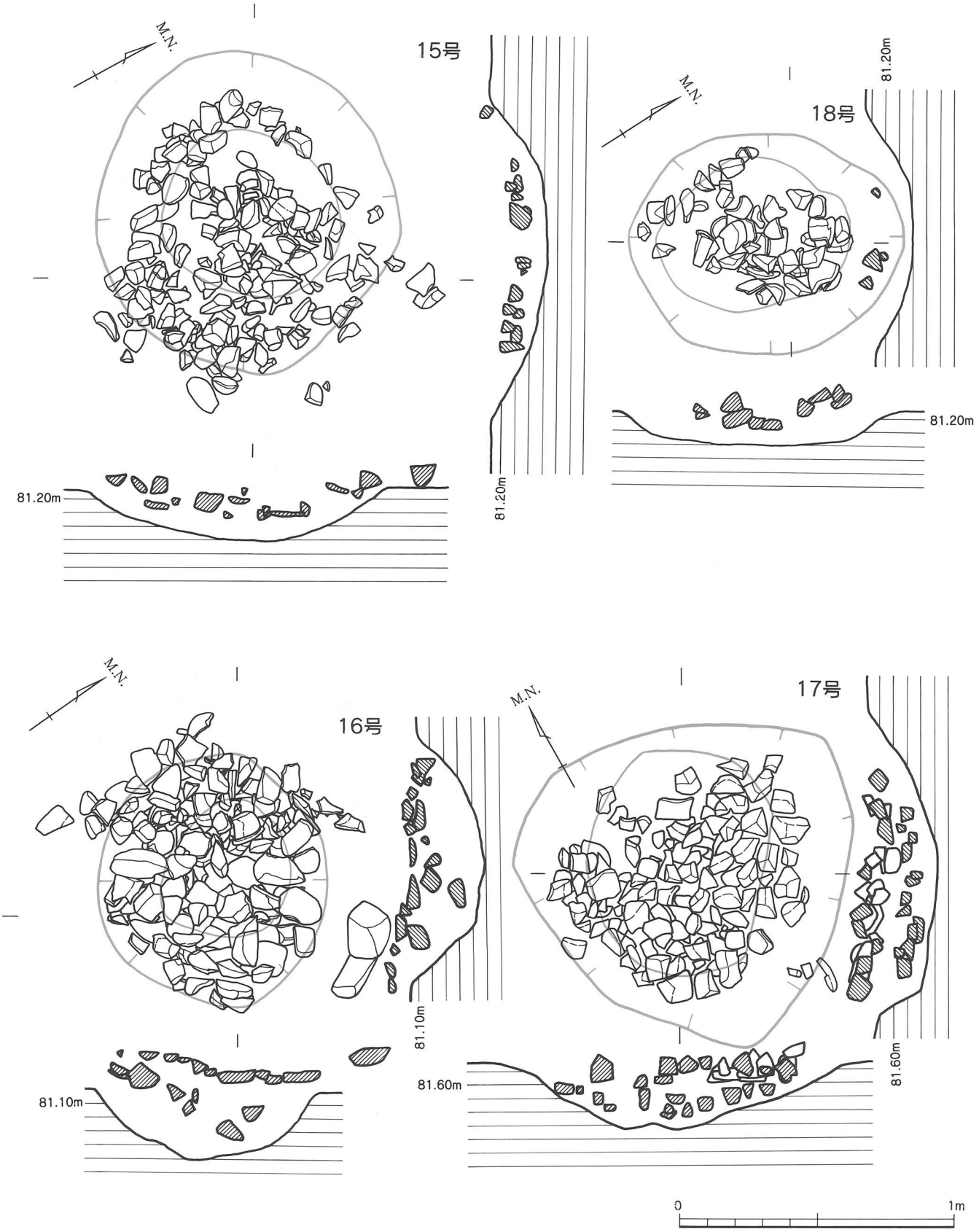
第7図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（3）（1/20）



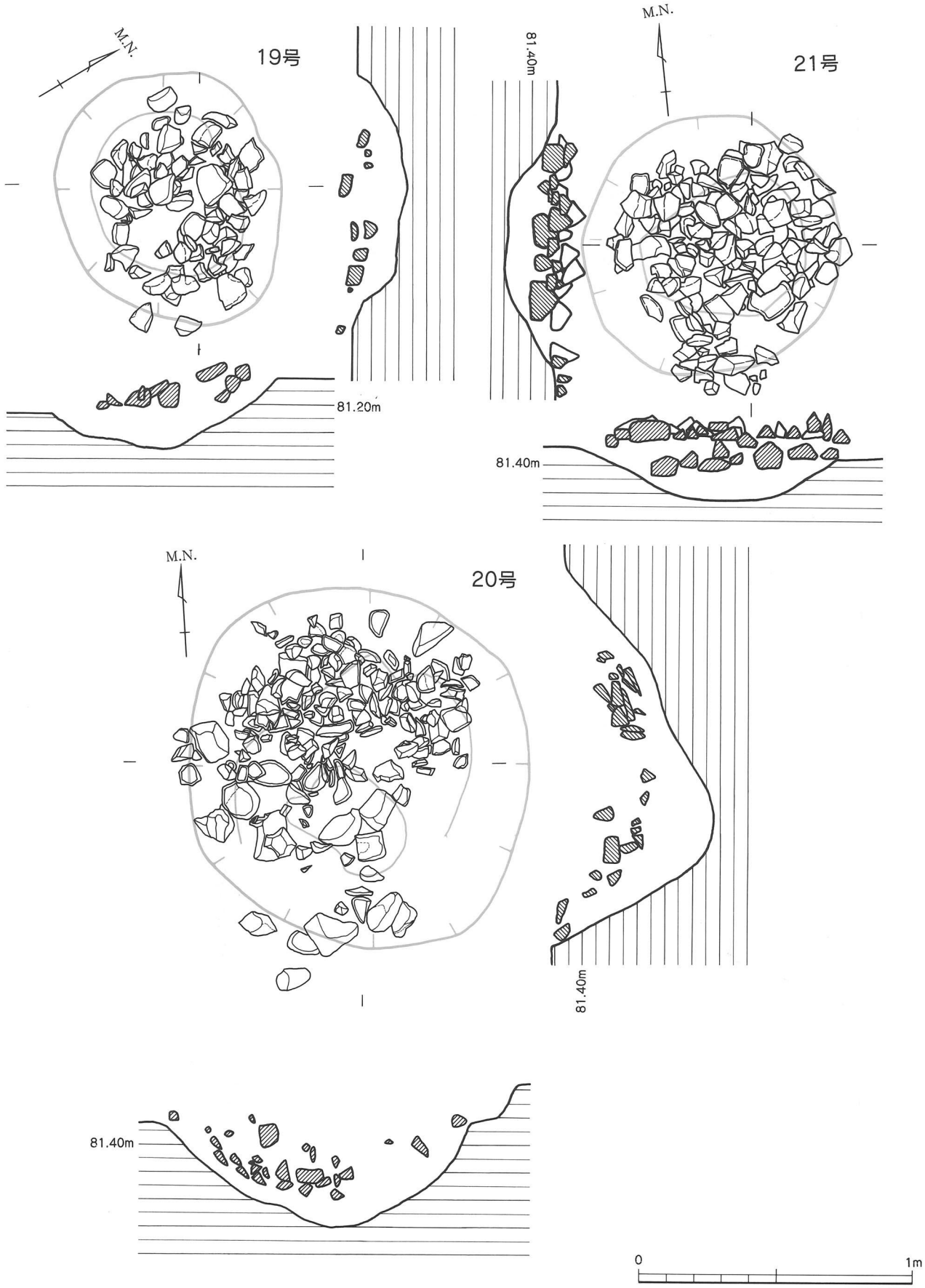
第8図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（4）（1/20）



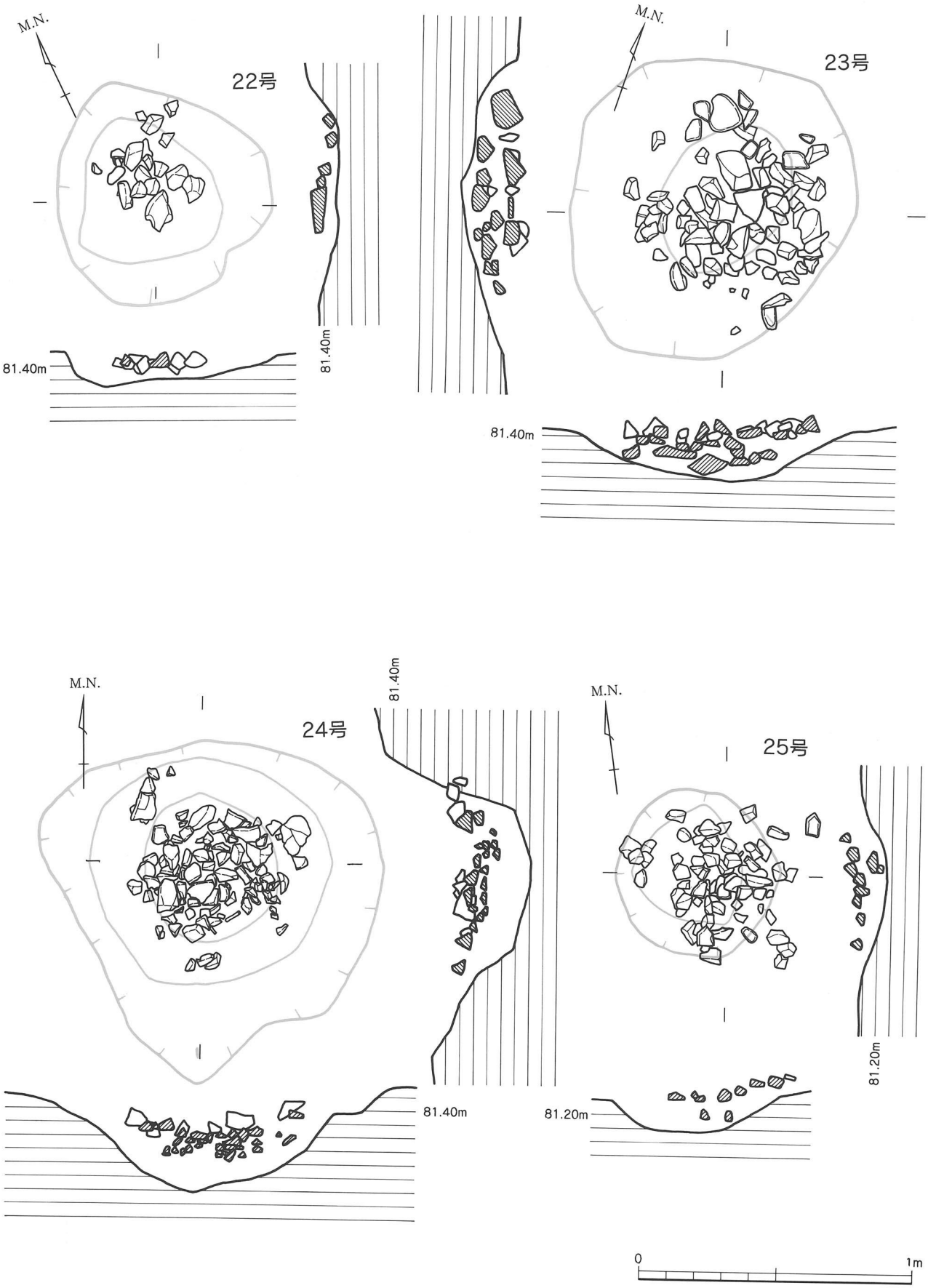
第９図　　杉木原遺跡　集石遺構実測図（５）（1/20）



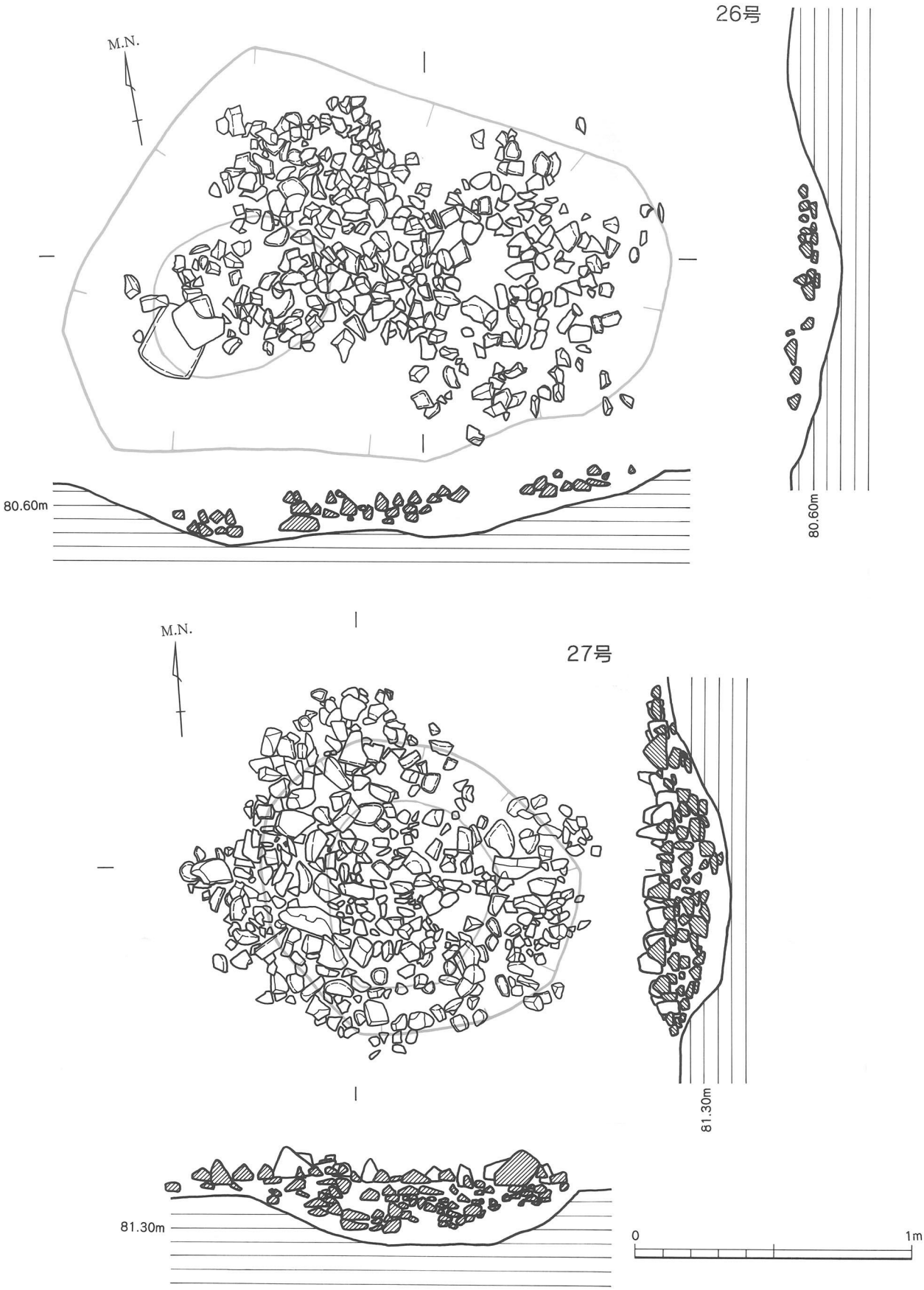
第10図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（6）（1/20）



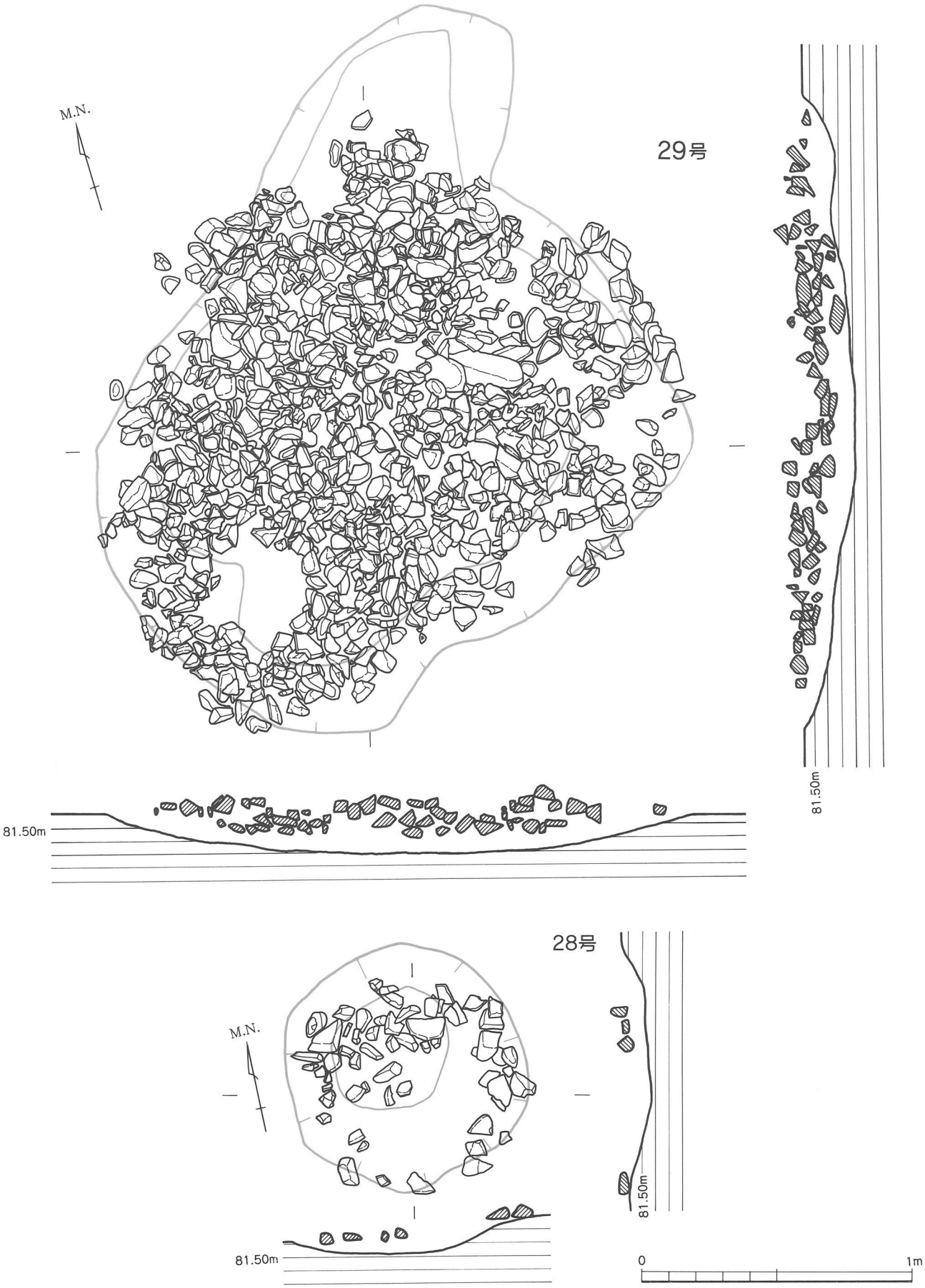
第11図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（7）（1/20）



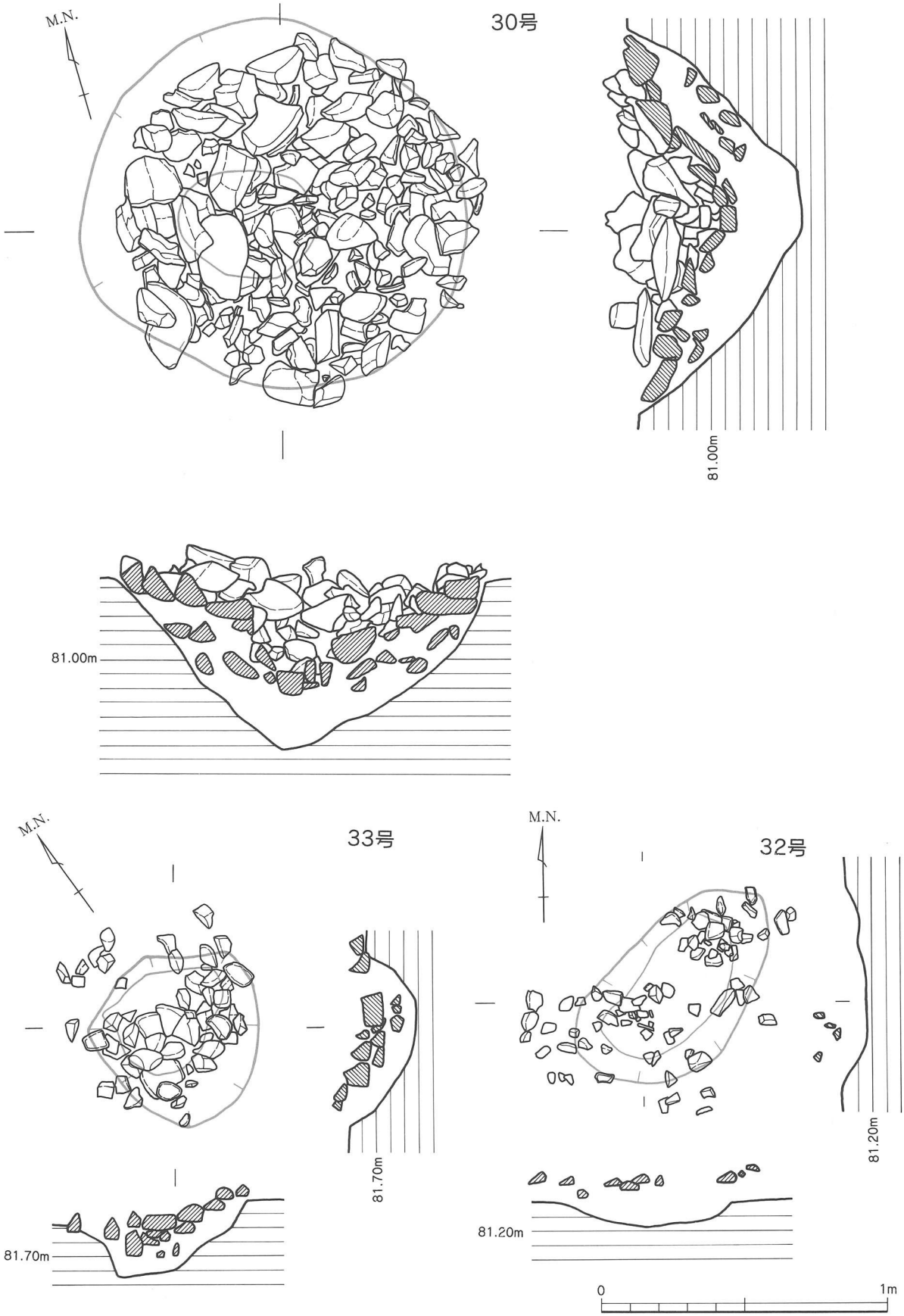
第12図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（8）（1/20）



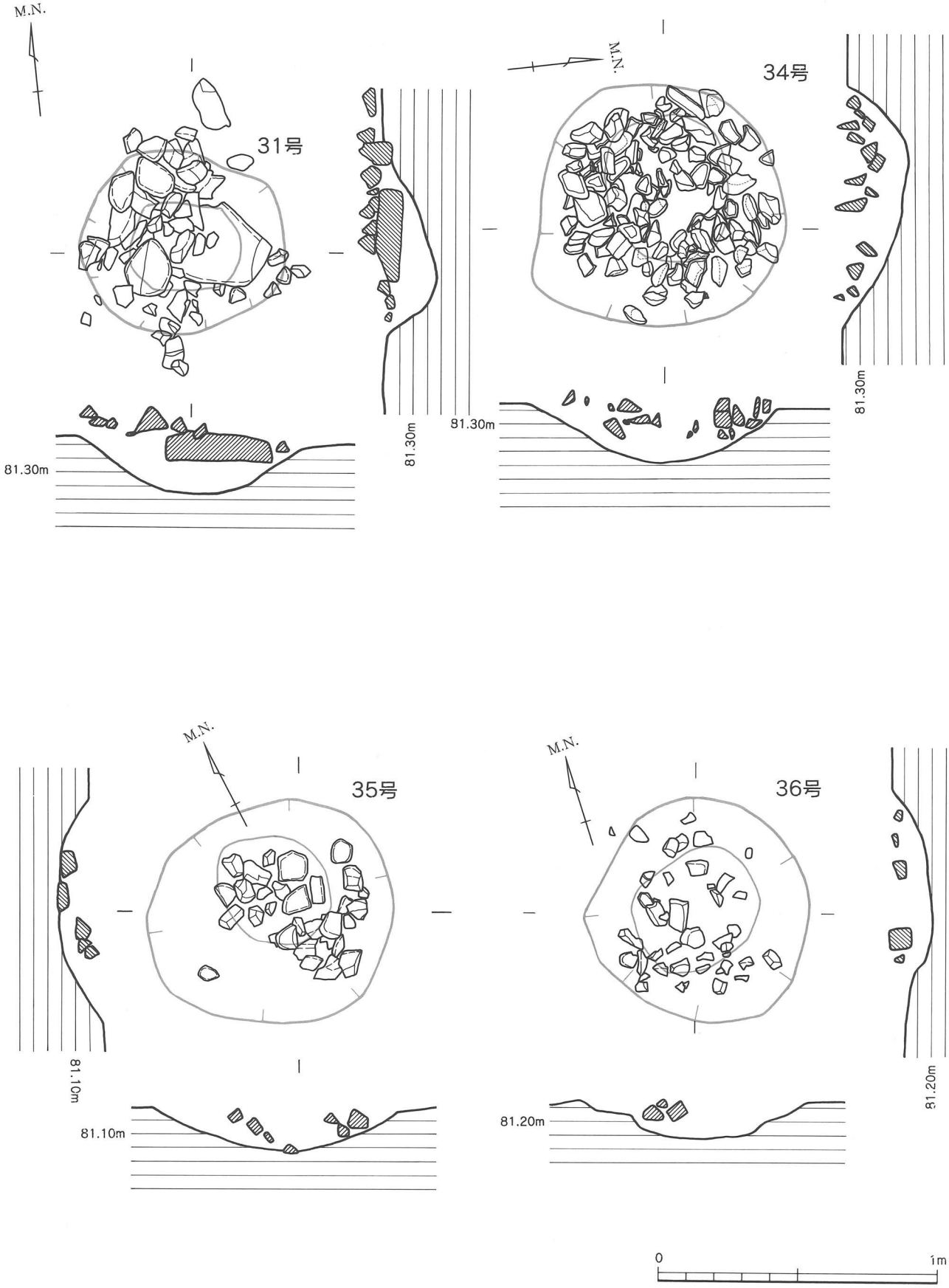
第13図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（9）（1/20）



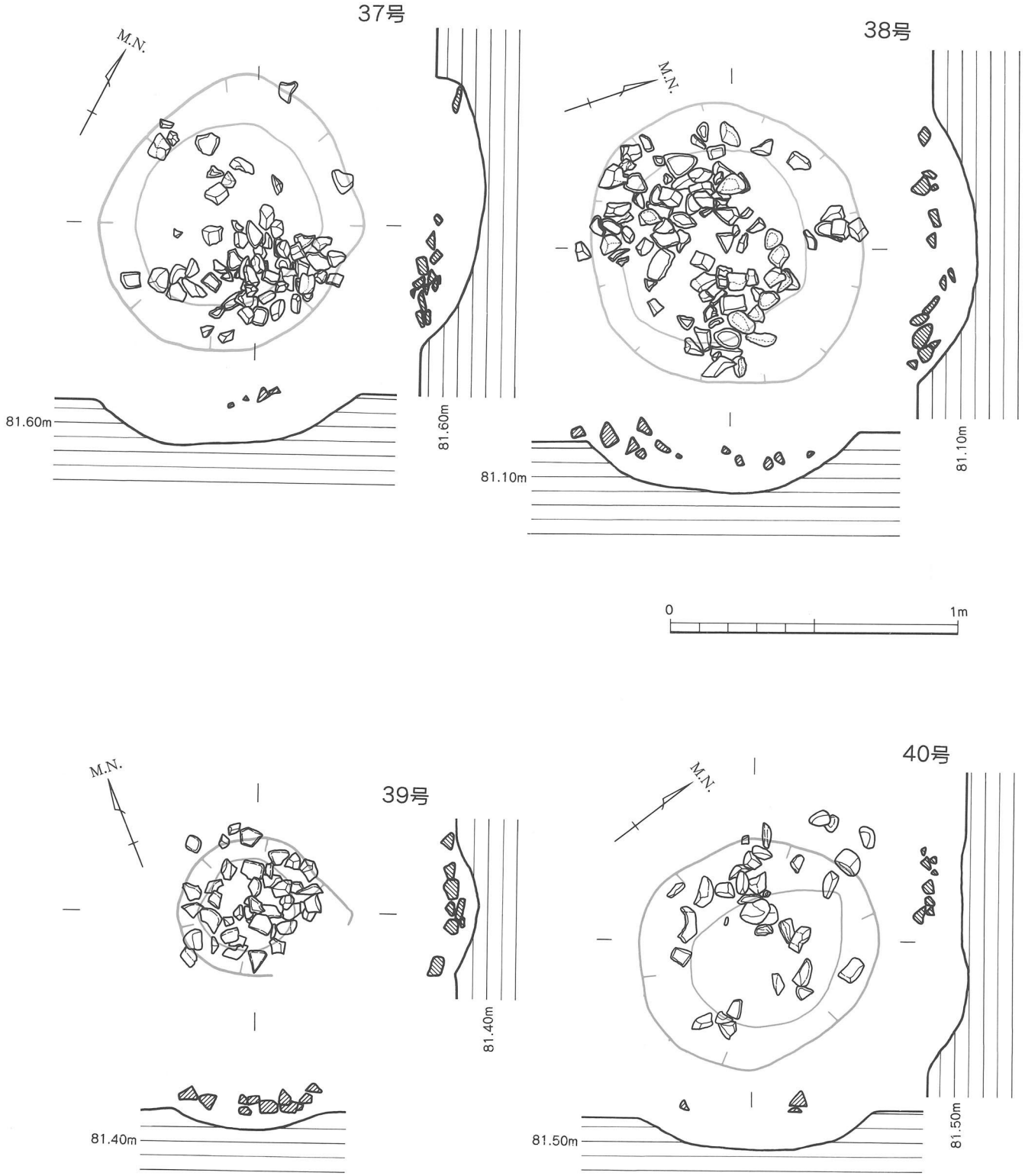
第14図　　杉木原遺跡　集石遺構実測図（10）（1/20）



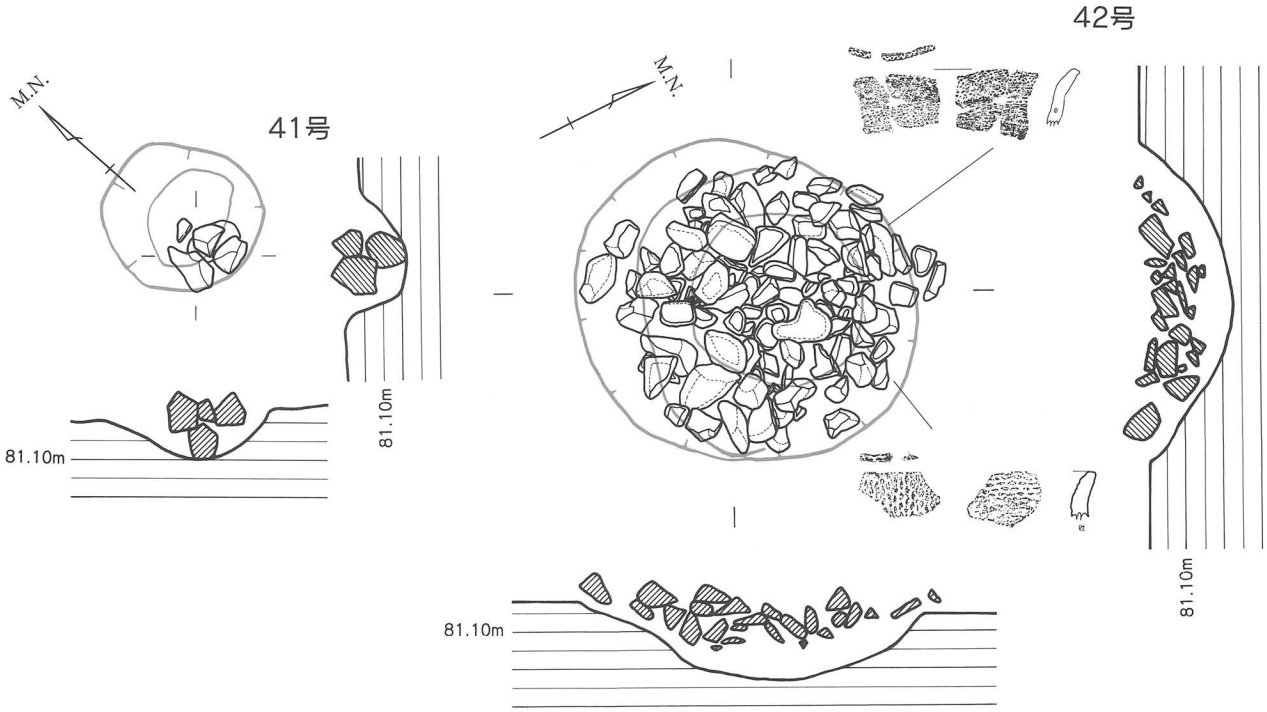
第15図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（11）（1/20）



第16図　杉木原遺跡　集石遺構実測図(12)(1/20)



第17図　　杉木原遺跡　集石遺構実測図（13）（1/20）



第18図　杉木原遺跡　集石遺構実測図（14）（1/20）

2号土壙（第２０図）

Ｅ－２区に位置する。プランは不整形プランを呈する。規模は、１．８ｍ×１．７ｍ、検出面からの深さは０．７ｍを測る。埋土はⅣ層を主体としている暗褐色土層である。Ⅴ層の小林軽石層まで掘り込んであった。

3号土壙（第１９図）

Ｂ－２区に位置する。１号土壙に隣接する。プランは不整形プランを呈する。規模は１．０ｍ×０．９２ｍ、検出面からの深さは０．３４ｍを測る。埋土は、暗褐色土層である。Ⅳ層の褐色層まで掘り込んであった。

4号土壙（第２０図）

Ｇ－９区に位置する。プランは、楕円形プランを呈する。規模は１．３ｍ×０．６ｍ、検出面からの深さは１．３４ｍである。この土壙は、埋土が自然堆積で床面に逆茂木痕を持つことから陥し穴遺構と考えられる。

（２）遺物

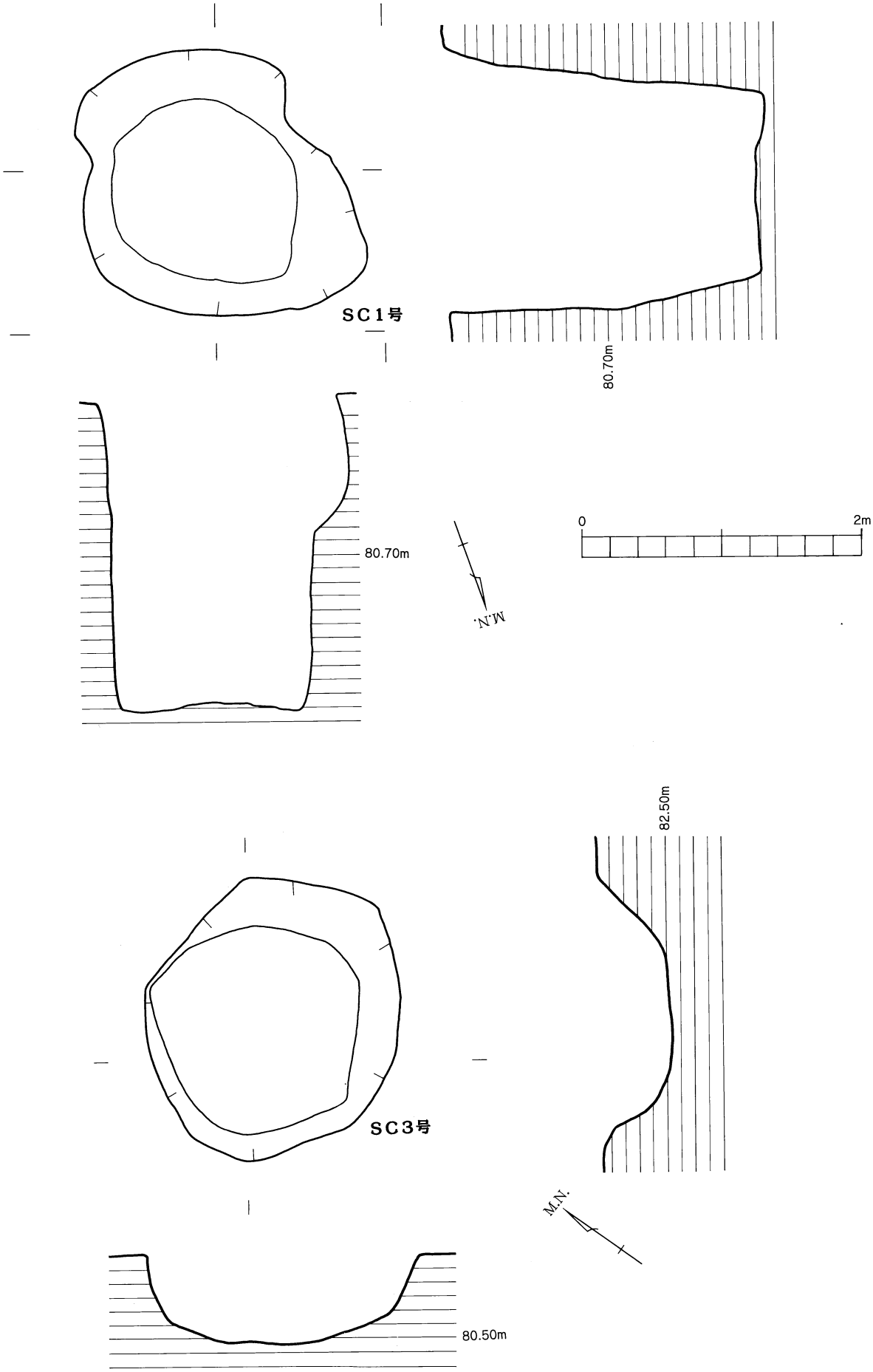
土器

縄文時代の遺構・遺物は、Ⅱ層（アカホヤ火山灰）より下位のⅢ層・Ⅳ層から出土している。

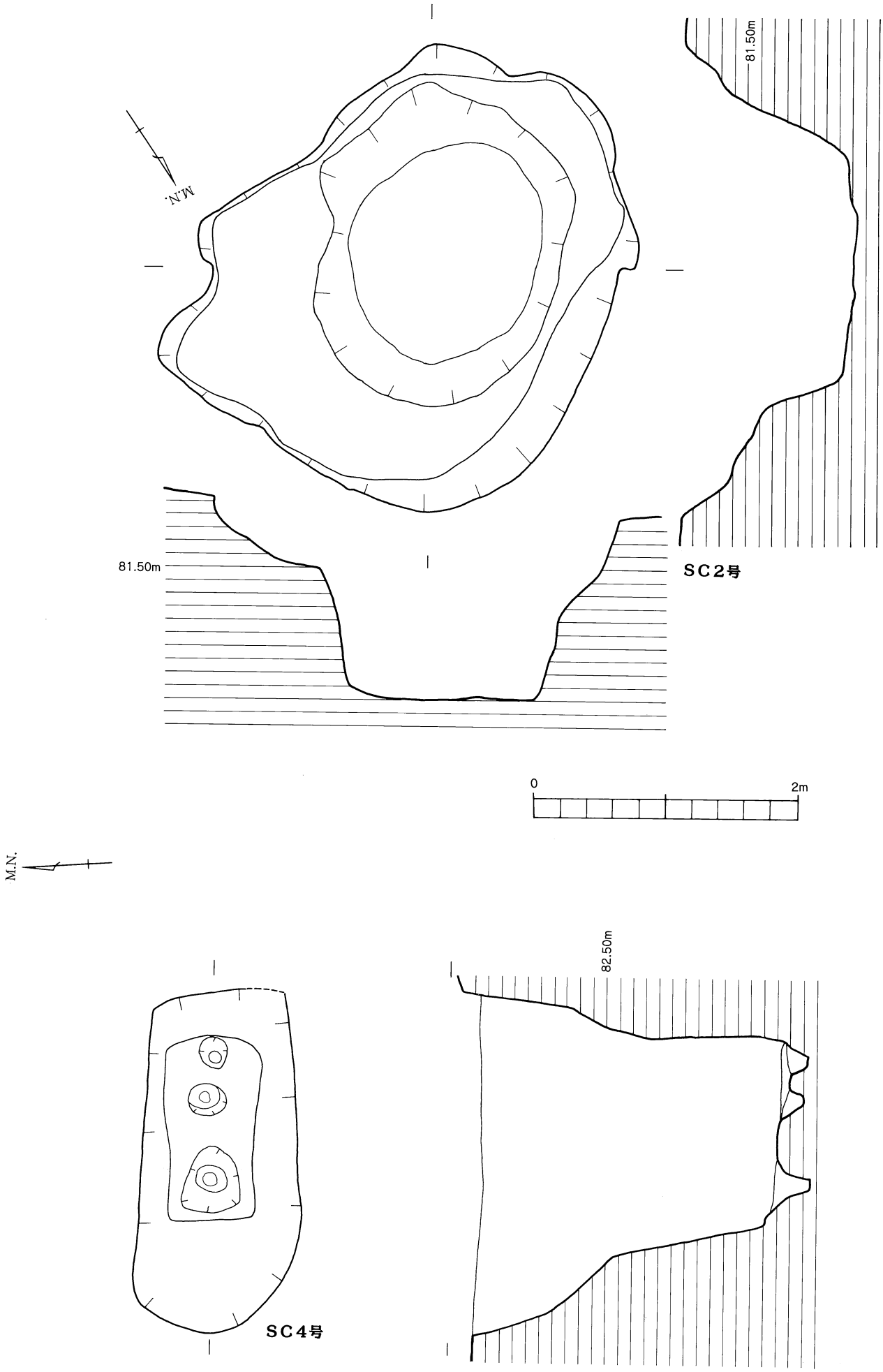
本遺跡の早期土器は、形態上の特徴を中心に文様を加味しながらⅠ類～Ⅹ類に類別を試みた。そのうち、今回の調査においては、Ⅷ類（押型文土器）に類別したものが４５％を占め、本遺跡の特徴を示す土器といえる。以下、類別に説明していく。

表　2　　杉木原遺跡　集石遺構計測表

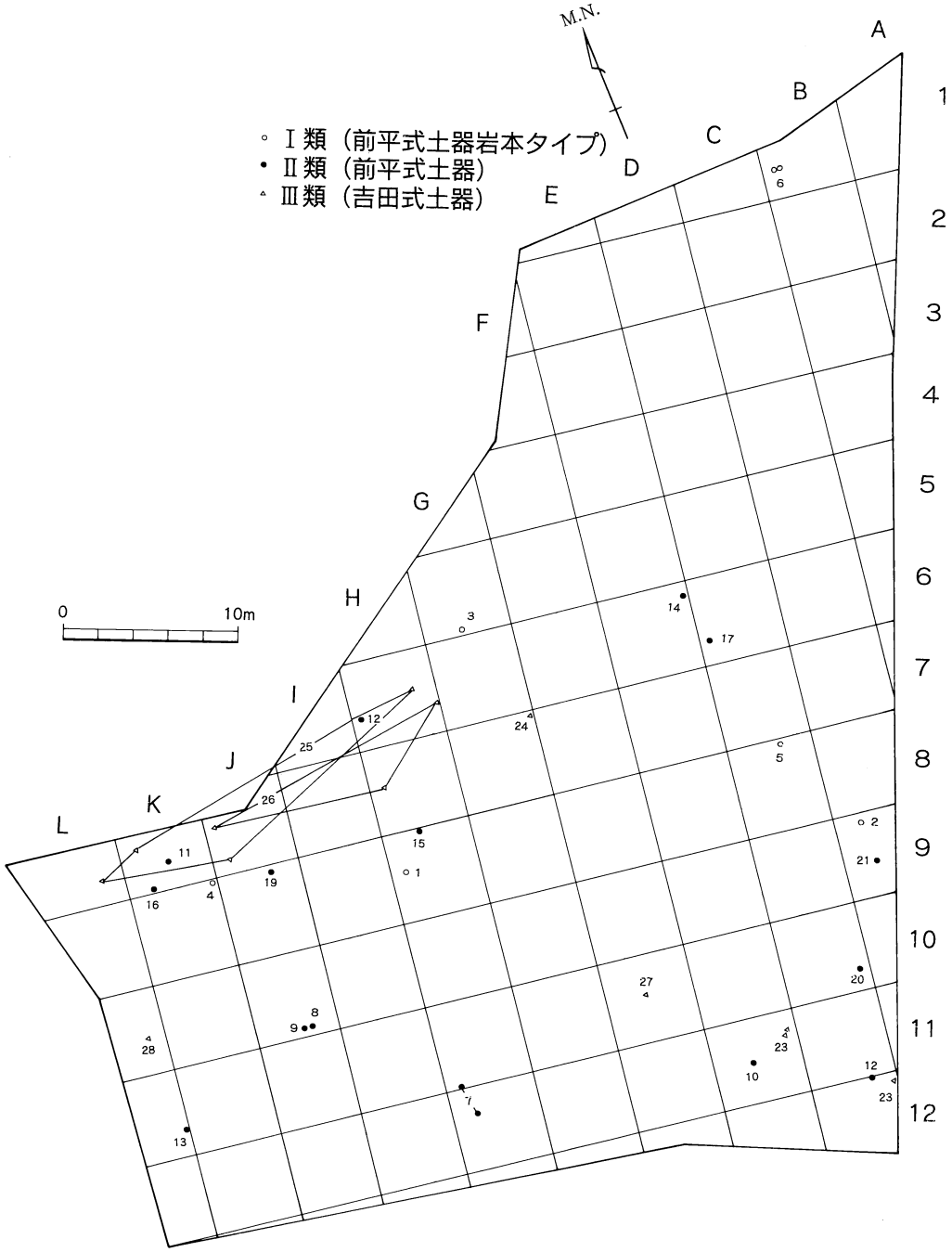
番号	検出位置	礫の範囲	土坑の大きさ	土坑の深さ	配石の有無	備考
1号集石	F－6	2.5m×3.5m	無し	無し	無し	1類
2号集石	F－7	1.0m×2m	無し	無し	無し	1類
3号集石	E－6	1.5m×1.5m	無し	無し	無し	3類
4号集石	G－10	1.1m×0.8m	1.25m×1.0m	0.25m	無し	4類
5号集石	G－10	0.5m×0.55m	0.55m×0.6m	0.1m	無し	2類
6号集石	C－5	0.90m×1.0m	1.04m×1.02m	0.2m	無し	2類
7号集石	G－11	1.0m×0.9m	0.70m×0.70m	0.1m	2個	5類
8号集石	H－11	0.8m×0.9m	0.86m×0.82m	0.12m	無し	2類
9号集石	I－8	1.0m×0.9m	0.84m×0.74m	0.10m	無し	4類
10号集石	H－8	0.8m×0.74m	0.87m×0.88m	0.12m	無し	4類
11号集石	H－8	0.80m×1.0m	無し	無し	無し	1類
12号集石	E－4	0.70m×0.70m	0.74m×0.60m	0.40m	無し	4類
13号集石	H－10	1.60m×1.65m	1.84m×1.80m	0.72m	無し	4類
14号集石	G－11	0.6m×0.54m	0.62m×0.56m	0.17m	無し	2類
15号集石	D－6	0.92m×1.18m	1.10m×1.15m	0.26m	無し	2類
16号集石	D－6	1.02m×1.06m	0.83m×0.92m	0.26m	無し	4類
17号集石	H－9	0.90m×0.85m	1.2m×1.1m	0.23m	無し	4類
18号集石	I－8	0.76m×0.58m	1.0m×0.8m	0.20m	無し	2類
19号集石	C－7	0.90m×0.60m	0.82m×0.90m	0.280m	無し	2類
20号集石	H－9	1.2m×1.0m	1.24m×1.32m	0.40m	無し	2類
21号集石	G－10	0.89×0.90m	0.95m×0.95m	0.20m	無し	4類
22号集石	J－8	0.34m×0.50m	0.80m×0.78m	0.13m	無し	2類
23号集石	J－8	0.68m×0.68m	1.04m×1.05m	0.18m	2個	5類
24号集石	I－7	0.60m×0.50m	1.240m×1.250m	0.50m	無し	4類
25号集石	I－7	0.5m×0.45m	0.6m×0.6m	0.14m	無し	2類
26号集石	I－8	1.59m×1.10m	1.34m×2.15m	0.20m	無し	4類
27号集石	I－7	1.4m×1.34m	1.16m×1.08m	0.18m	無し	4類
28号集石	J－10	0.84m×0.74m	0.88m×0.92m	0.14m	無し	4類
29号集石	H－9	2.05m×2.20m	2.58m×2.22m	0.20m	無し	4類
30号集石	D－5	1.28m×1.32m	1.36m×1.30m	0.60m	無し	4類
31号集石	H－8	0.76m×1.10m	0.73m×0.66m	0.20m	1個	5類
32号集石	I－8	0.90m×0.70m	0.84m×0.48m	0.04m	無し	2類
33号集石	F－10	0.60m×0.70m	0.60m×0.60m	0.256m	無し	2類
34号集石	D－4	0.78m×0.78m	0.86m×0.86m	0.20m	無し	4類
35号集石	B－4	0.5m×0.54m	0.9m×0.8m	0.16m	無し	2類
36号集石	F－6	0.44m×0.60m	0.81m×0.81m	0.16m	無し	2類
37号集石	E－5	0.7m×0.7m	0.96m×0.90m	0.16m	無し	2類
38号集石	C－4	0.96m×0.90m	0.94m×0.98m	0.20m	無し	2類
39号集石	E－8	0.46m×0.50m	0.48m×0.60m	0.08m	無し	2類
40号集石	D－7	0.7m×0.8m	0.82m×0.82m	0.12m	無し	2類
41号集石	C－3	0.20m×0.20m	0.44m×0.46m	0.20m	無し	2類
42号集石	B－5	0.88m×0.70m	0.90m×0.86m	0.22m	無し	4類



第19図　杉木原遺跡　土壙1号・3号実測図（1/20）

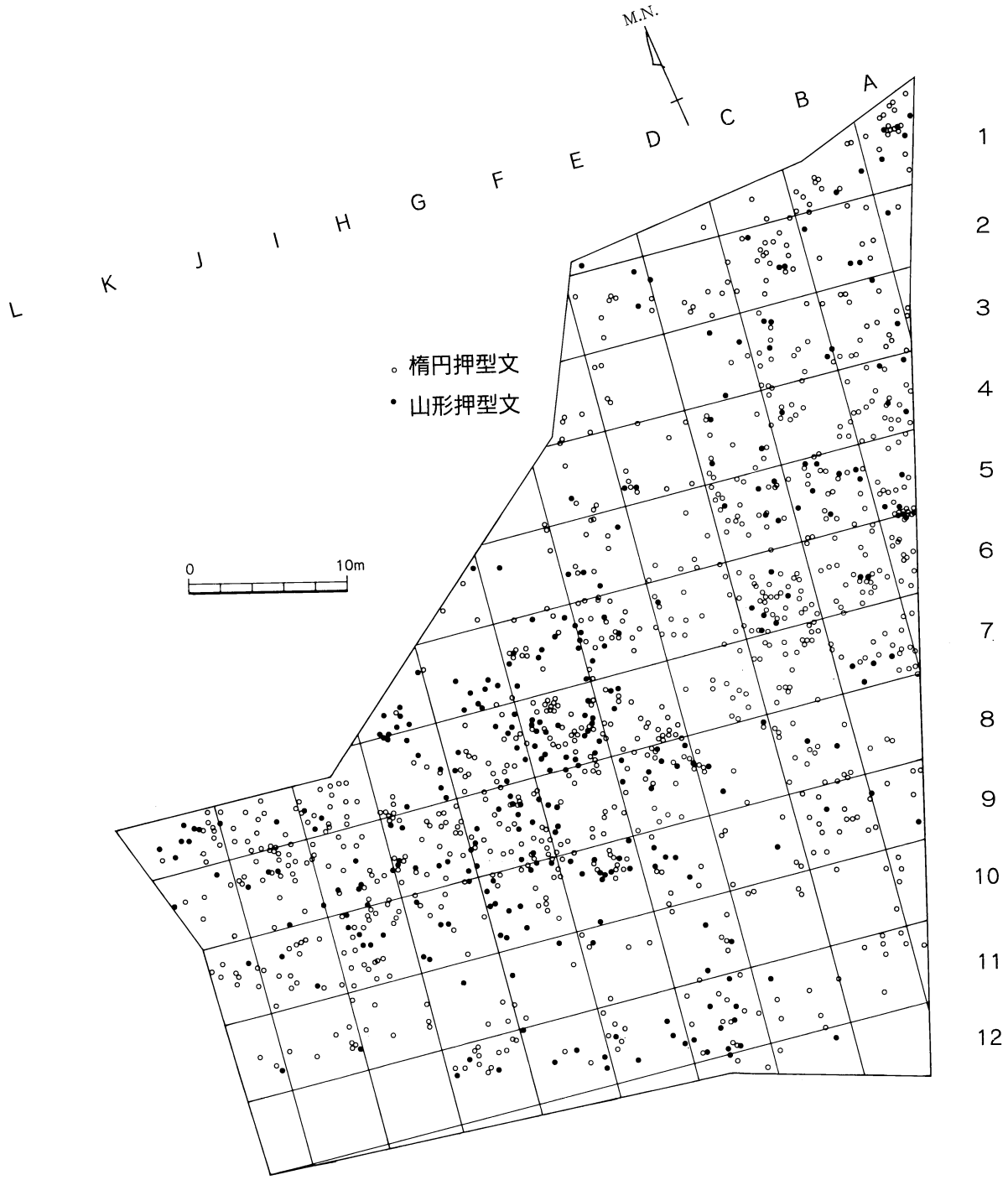


第20図　杉木原遺跡　土壙2号・4号実測図（1/20）

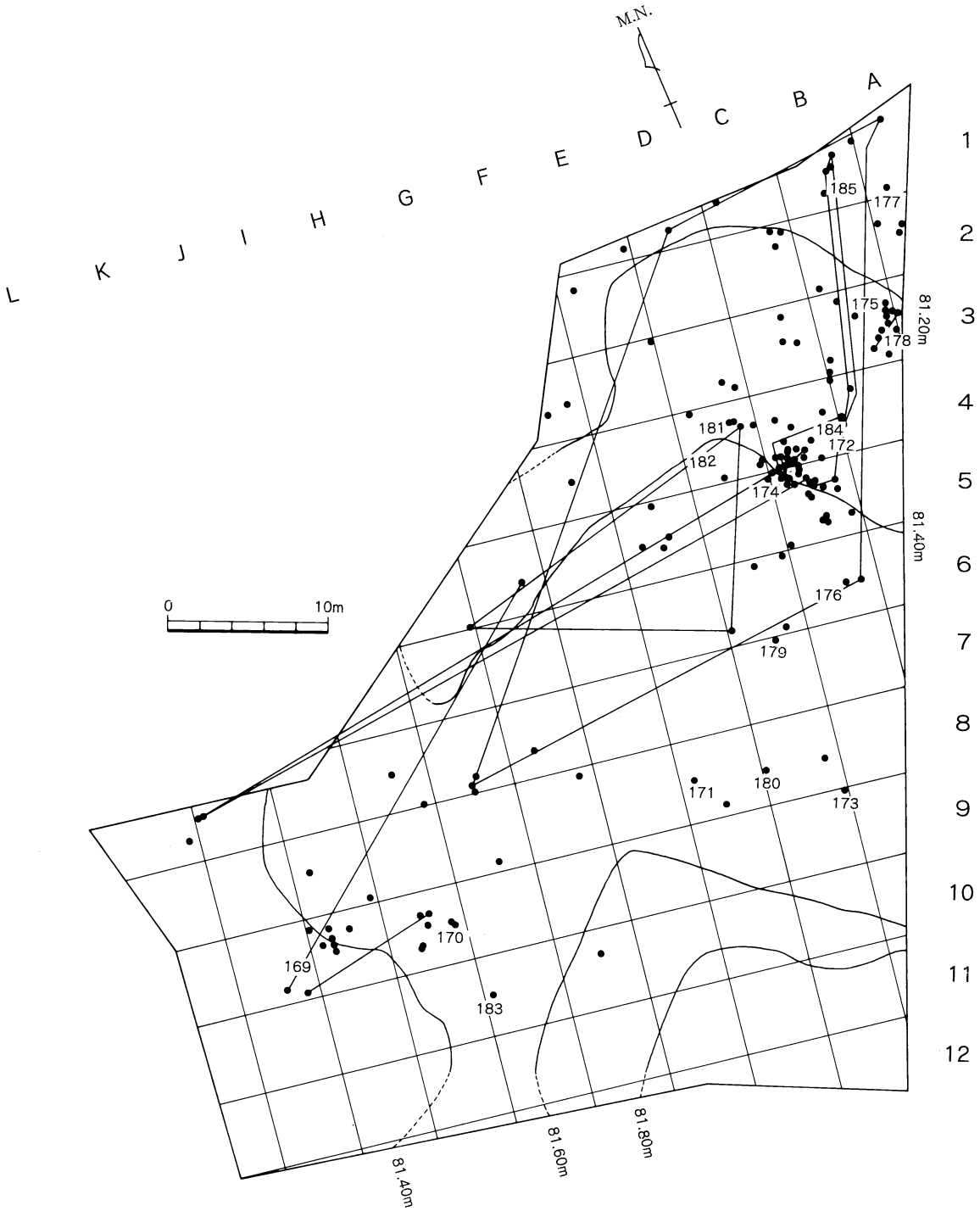


第21図　杉木原遺跡　Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類土器出土分布図（1/400）

第22図　杉木原遺跡　Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類・Ⅶ類土器出土分布図（1/400）



第23図　杉木原遺跡　押型文土器出土分布図（1/400）



第24図　杉木原遺跡　塞ノ神式土器出土分布図（1/400）

Ⅰ類（第２６図－１～６）

器形は円筒形を呈し、口唇部の外面端部に、貝殻復縁、棒状・ヘラ状工具を斜めに押したような三角形の断面を呈する押圧の刻みがみられ、その結果小波状になるという共通した特徴がある土器。口縁外面端部に、貝殻腹縁やヘラ状工具による斜方向や横方向の刺突文がある。胴部は、ナデ、小口状条痕文（細い条痕文）、貝殻条痕文がみられるが、条痕の薄れた細いものが多い。１は口唇部に棒状工具を斜めに押したような刻みがあり口縁内側に段があり、口縁外面端部にヘラ状工具による横方向のふぞろいの刺突文が２列施されている。２は口縁外面端部に斜めに貝殻腹縁刺突文が施され、その下位をナデ調整することで施文部との境に緩やかな段差を作り出している。３・５は口縁部内側に段があり、口縁外面端部に横方向の貝殻腹縁刺突文が３列施され、その下位をナデ調整することで施文部との境に緩やかな段差を作り出している。３には穿孔がある。４は口唇部に段がなく斜方向に規則的な刻みがあり、口縁外面端部に斜方向の連続刺突文が施されている。その下位に一条の細い沈線文がありその下位は浅い貝殻条痕文である。内面は、横方向の貝殻条痕文の後に横ナデが施してある。６は口縁部内側に段があり、口縁外面端部に縦方向の貝殻腹縁刺突文、その下位に横方向の貝殻腹縁刺突文が１列施文されている。この類の分布に特異性はない。

Ⅱ類（第２６図－７～１６・第２７図－１７～２１）

貝殻条痕文・条痕文をもつ土器。器形は円筒形を呈し、口唇部・内面は丁寧なナデまたはミガキ調整である。文様は、口縁部外面に集約する。貝殻及びヘラ状工具で連続刻文を一列巡らす。胴部は斜方向の条痕文である。７～１２は口縁外面端部に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施され、７は口唇部・内面とも横方向の磨きがなされている。１３は口縁外面端部にヘラ状工具による二段の刺突文がある。口唇部は舌状にナデ調整されている。１４～１６は斜方向の条痕文を施文後に口縁端部に斜方向の刺突文がある。１６には穿孔がある。１７～２１は同類の胴部である。この類の分布に特異性はない。

Ⅲ類（第２７図－２２～２８）

器形は円筒形を呈し、口縁部は直行している。口縁部外面上端に横方向の貝殻刺突文を巡らし下位に縦方向の貝殻刺突文を施すもの。２２・２３は口縁部文様に楔形突帯のあるものである。どちらとも、口唇部にヘラ状工具を押圧した浅い連続刻みがある。２２は口縁部外面上端を横ナデしたあと貝殻腹縁刺突文を二列巡らし、その下位に楔形突帯を施しその間に縦方向の貝殻腹縁刺突文があり、下位に横方向の条痕文を巡らしている。２３は口縁部外面上端を横ナデしたあと貝殻腹縁刺突文を三列巡らし、その下位に楔形突帯を施しそのまわりに櫛歯状工具による刺突文があり、楔形突帯間に横方向の貝殻条痕文・縦方向の貝殻腹縁刺突文が施してある。２４は口唇部は横ナデで口縁端部が肥厚している。口縁外面端部に横方向の貝殻腹縁刺突文が数条、雑に巡らしてある。その下位に縦方向の貝殻腹縁刺突文が施されている。２５・２６は底部付近、２７・２８は胴部である。

Ⅳ類（第２７図－２９～３０）（第２８図－３１～３８）

器形は円筒形で、口縁部は内湾し器壁も上部にかけて厚くなっている。文様は横方向や斜め方向の貝殻腹縁刺突文が巡らされている。２９・３０は口縁上部から胴部にかけて目の広い貝殻腹縁刺突文が丁寧に横方向に巡らされている。３１は目の狭い貝殻腹縁刺突文が口縁外面上部に横方向に

巡らされ、その下位に斜方向に施文されている。内面には工具か指頭による成形痕がある。３２は横方向に貝殻腹縁刺突文が粗雑に施文されている。３３は成形も丁寧であり、口縁外面上部から胴部にかけて横方向の貝殻腹縁刺突文が丁寧に巡らされている。３４～３８は同類の胴部と思われる。

ｖ類（第２９図－３９～４６）

器形は円筒形で、口縁部は内湾するか直行である。口縁部が肥厚化する特徴をもつ。ヘラ描きによる綾杉文が特徴で、沈線文や貝殻腹縁刺突文の組み合わせもみられる。３９は口縁部が内湾し口唇部は外傾する。口縁外面上部に貝殻腹縁刺突文が４列巡らされその下位に短沈線文が見られる。４３と同タイプの土器と考えられ、貝殻腹縁刺突文と縦方向の沈線文を交互に施文していると思われる。４０は口縁部が内湾し、口唇部が内傾している。口縁外面上部から横方向の貝殻腹縁刺突文とヘラ描きの羽状文を交互に施文している。内面はていねいな横方向のヘラナデである。４１は口縁部が直行し、口縁外面には綾杉文が施文されている。４２～４６は同類の胴部である。

Ⅵ類（第２９図－４７～５７）（第３０図－５８～６１）

器形は円筒形で、口縁部は内湾か直行である。口唇部は平縁を呈し内傾しているのが特徴である。底部は５１のように平底を呈し、胴部に移行するにしたがってふくらみをもつものが多い。文様は櫛歯状施文具で沈線を描くものが多い。４７は、口縁部が内湾し、口唇部が内傾するⅥ類土器の基本的器形である。３条の幅１ｃｍ程度の櫛歯状施文具で縦方向に沈線を描き胴部は横方向の沈線も見られる。施文に規則性はない。穿孔がある。４９も４７と同じ施文方法で５条の櫛状施文具を使用している。８号集石から出土している。４８・５０は同一個体である。口縁部が直行し肥厚している。文様は口縁部から胴部にかけて縦の沈線文を描き、次に横の沈線文を描いている。５２は口縁部が内湾し、口唇部は内傾している。器壁も厚く口唇部は丁寧な横ナデである。口縁外部に櫛歯状工具による横方向の刺突文が巡っている。５３・５４は器形の特徴からこの類に入れた。５３は無文土器で内面に工具痕あり。５４は斜方向の縄文が施文され口唇部の内外端部を台形状にナデて仕上げている。５５は貝殻腹縁による流水状の条痕文が施文されている。穿孔がある。１３号集石から出土している。５６は半裁竹管の浅い平行曲線文が施されている。５７～６１は同類の胴部である。

Ⅶ類（第３０図－６２～６７）

器形は円筒形であるが、この類の口縁部は出土しなかった。器面全体に貝殻や櫛歯状工具で縦・横方向の刺突文や綾杉文、羽状文などを施文する。６６は底部付近の外径が１２．８ｃｍのバケツ状の円筒形土器である。外径２０ｍｍ、穴の中径５ｍｍ、内径７ｍｍの穿孔がある。

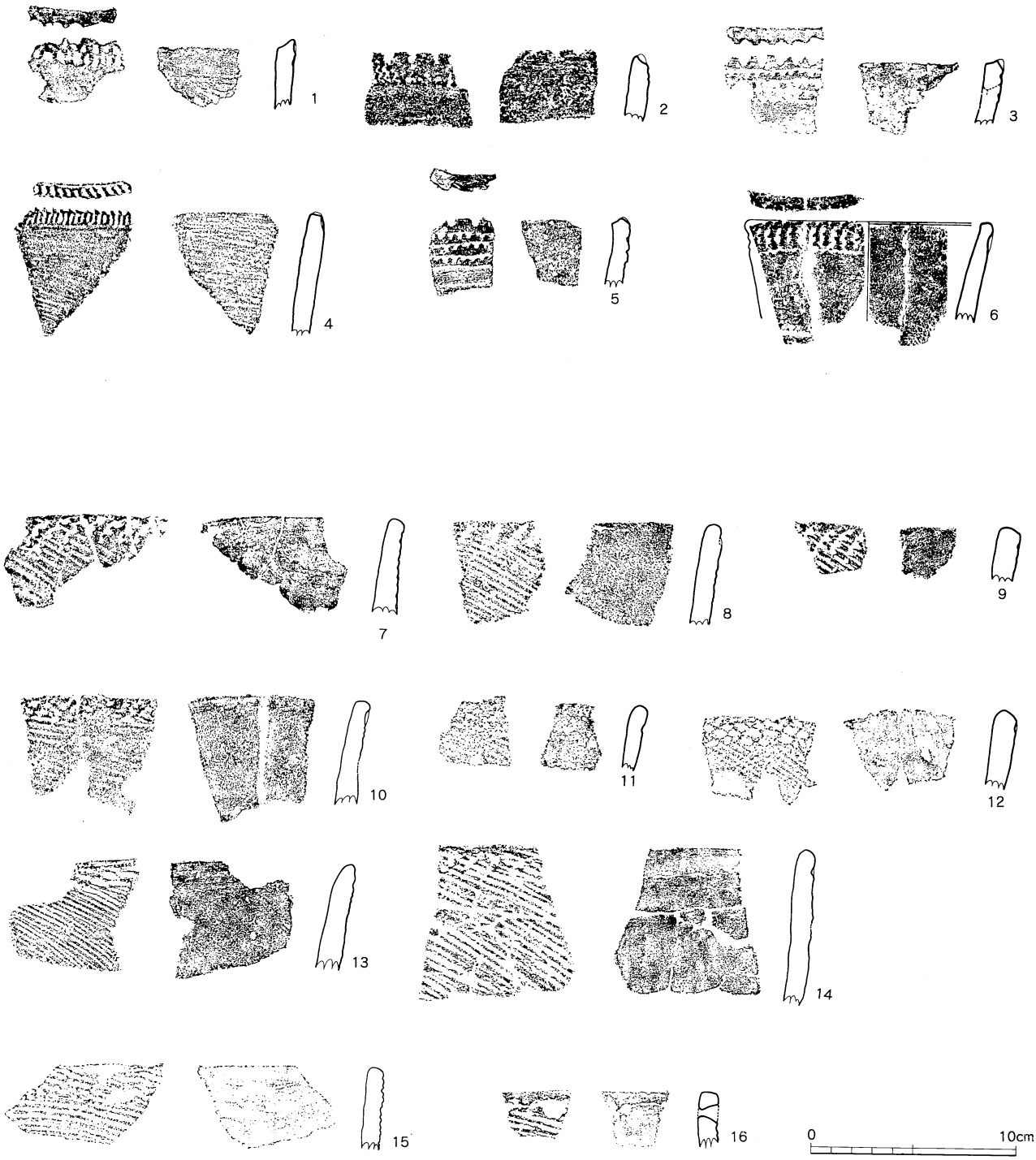
Ⅷ類（押型文土器）

器形の特色からａ：器形が円筒形で口縁部が直行するもの、ｂ：口縁部が外反し、内面の施文部と無文部の境がナデ調整のもの、ｃ：口縁部が外反し、内面の施文部と無文部の境がケズリによってなしているものの３類に分類した。

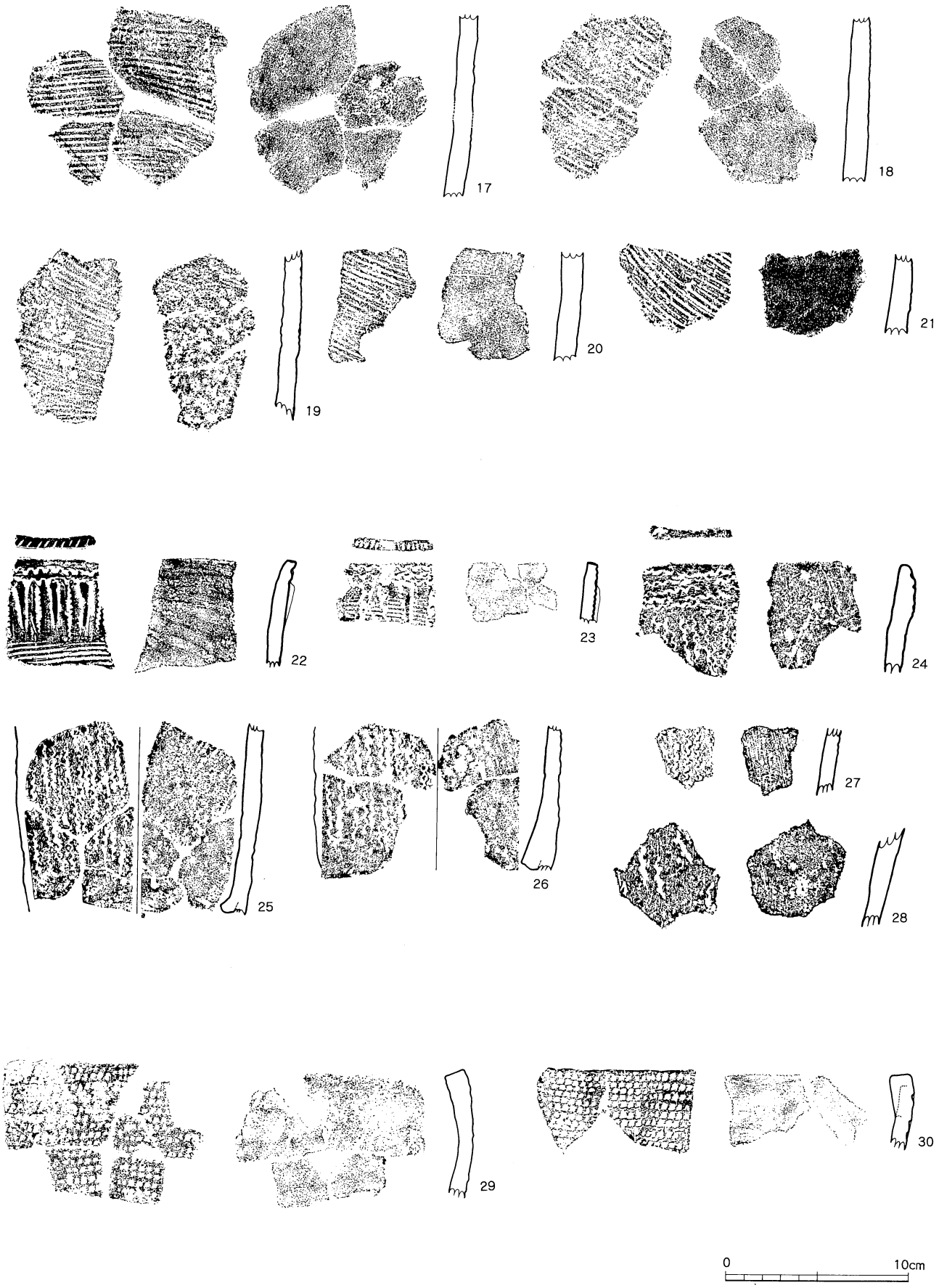
Ⅷａ類（第３１図－６８～７３）

器形が円筒形であり、口縁部が直行するもの。６８・６９は楕円押型文土器の同一個体である。器壁も厚く、底部の外径は１５．０ｃｍ、厚みは１．２ｃｍである。文様は口縁外面端部に無文帯

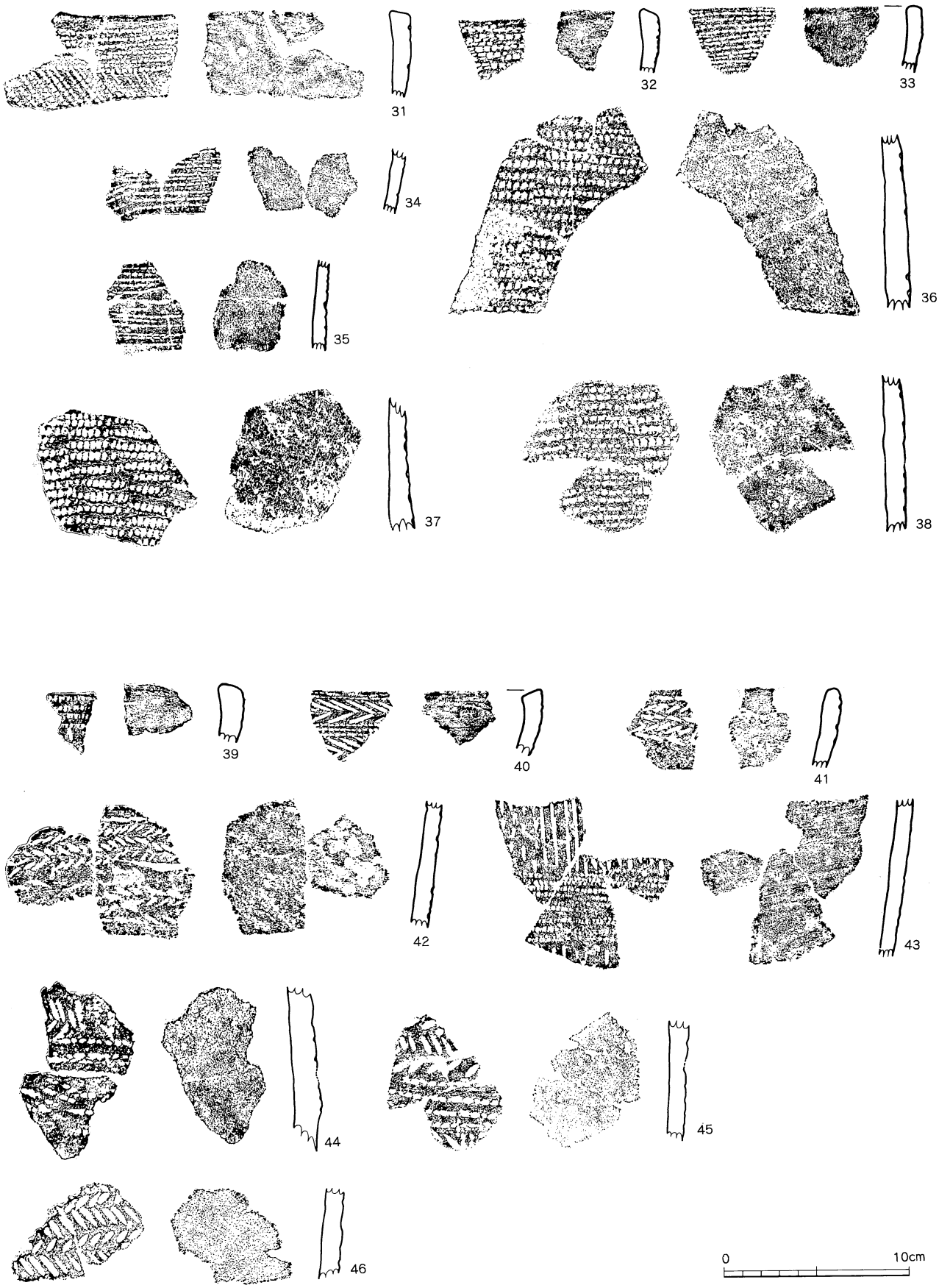
第25図　杉木原遺跡　縄文時代草創期土器実測図



第26図　杉木原遺跡　土器実測図（1）

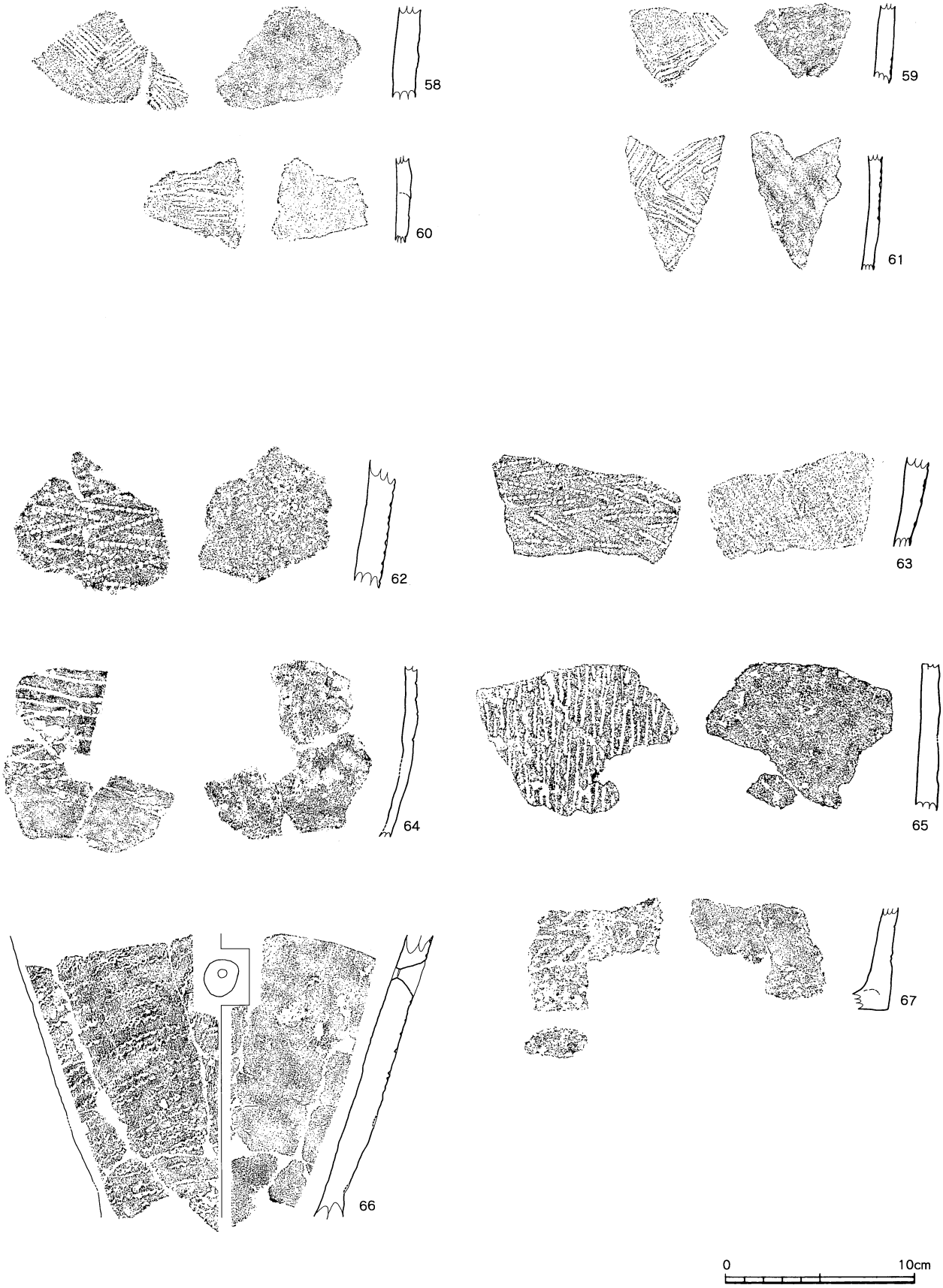


第27図　　杉木原遺跡　土器実測図（2）

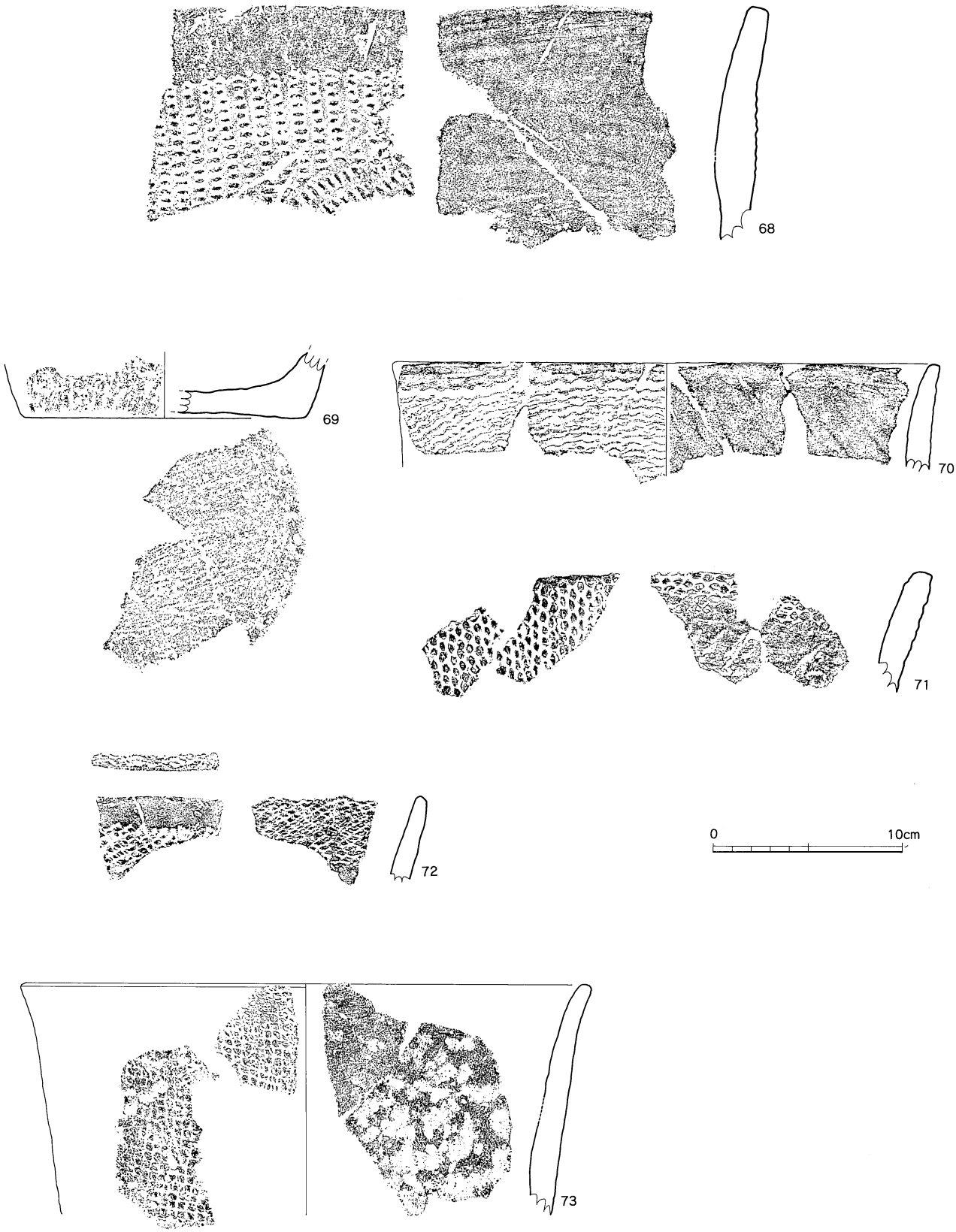


第28図　　杉木原遺跡　土器実測図（3）

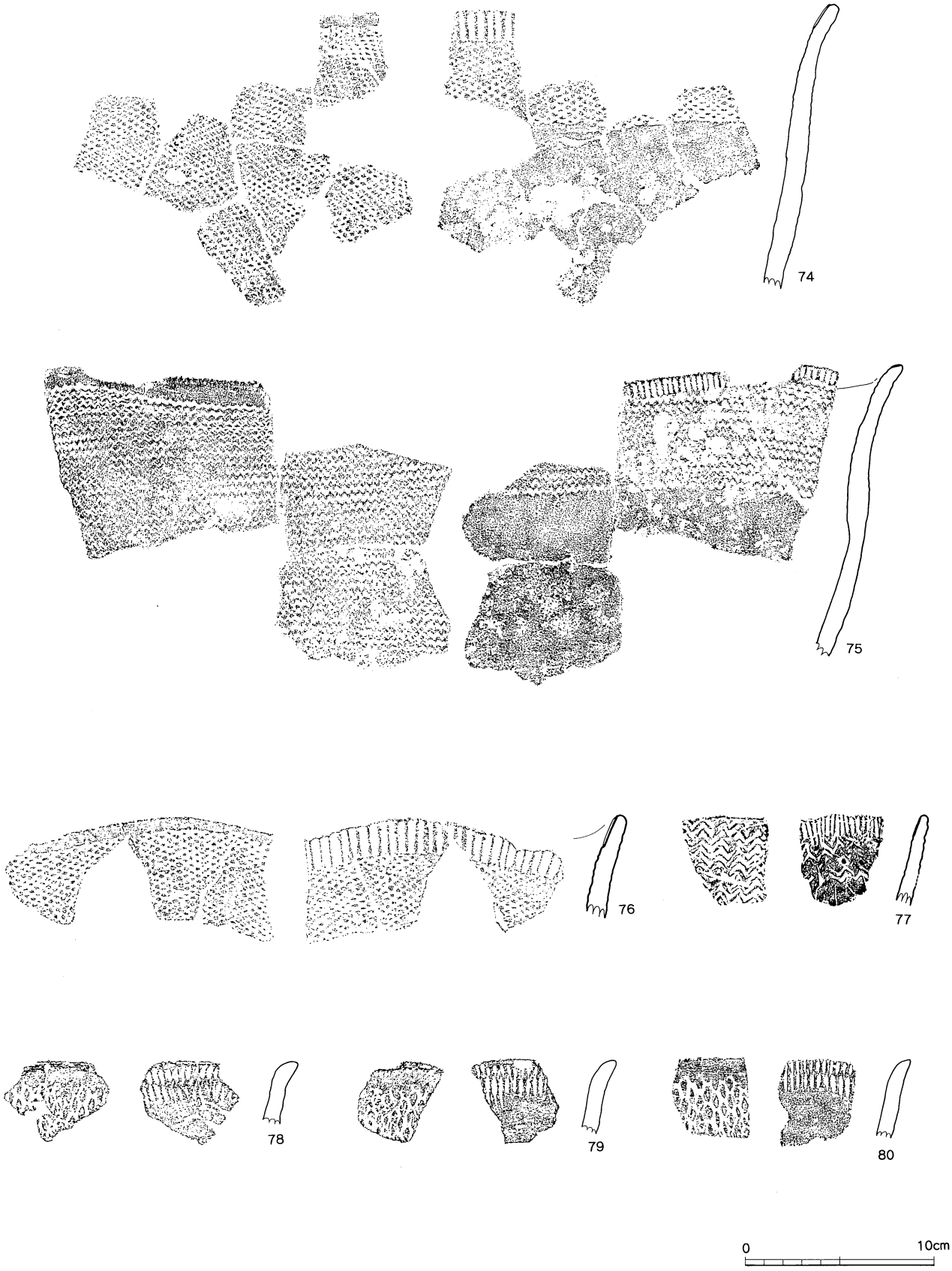
第29図　　杉木原遺跡　土器実測図（4）



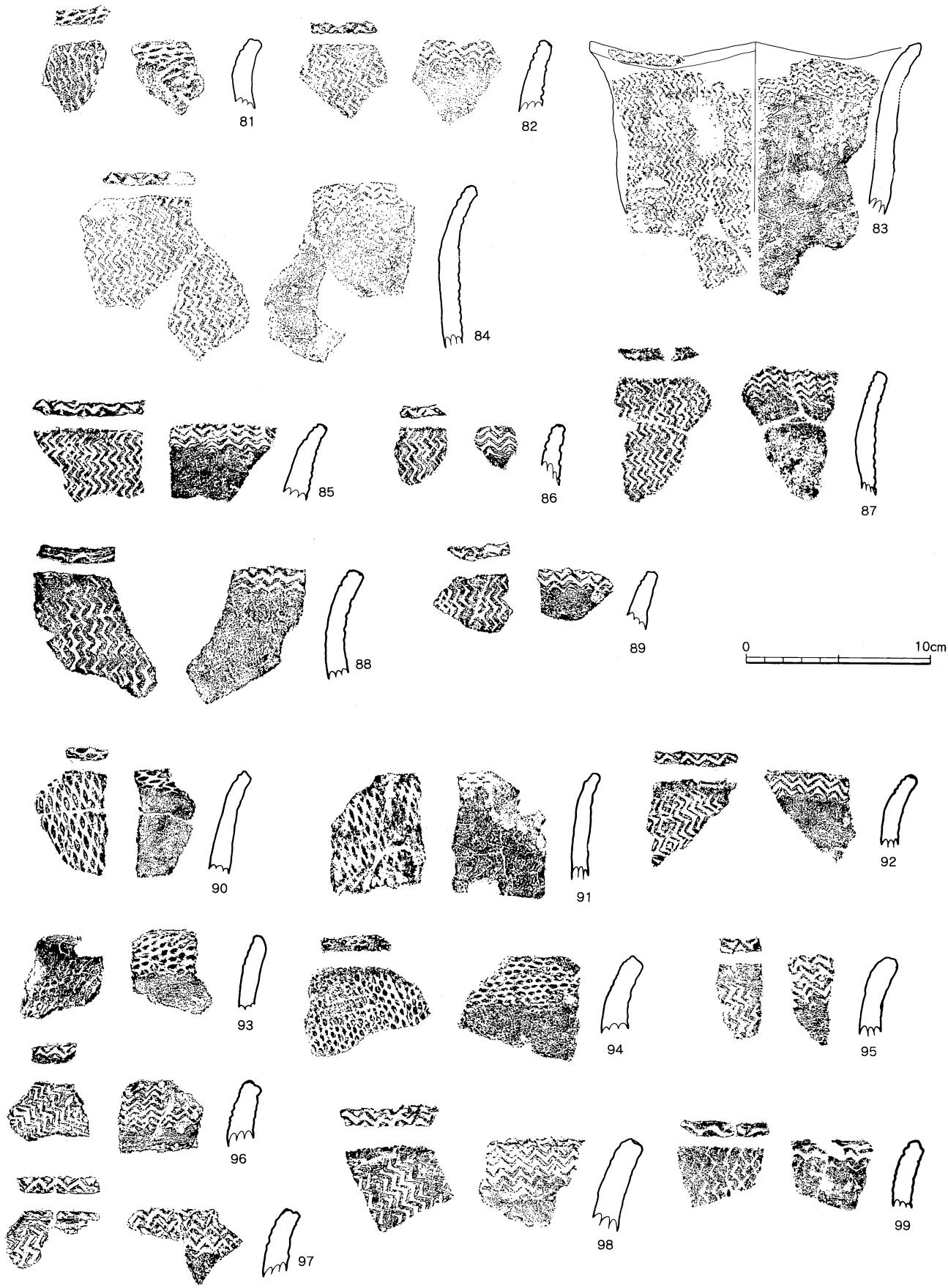
第30図　　杉木原遺跡　土器実測図（5）



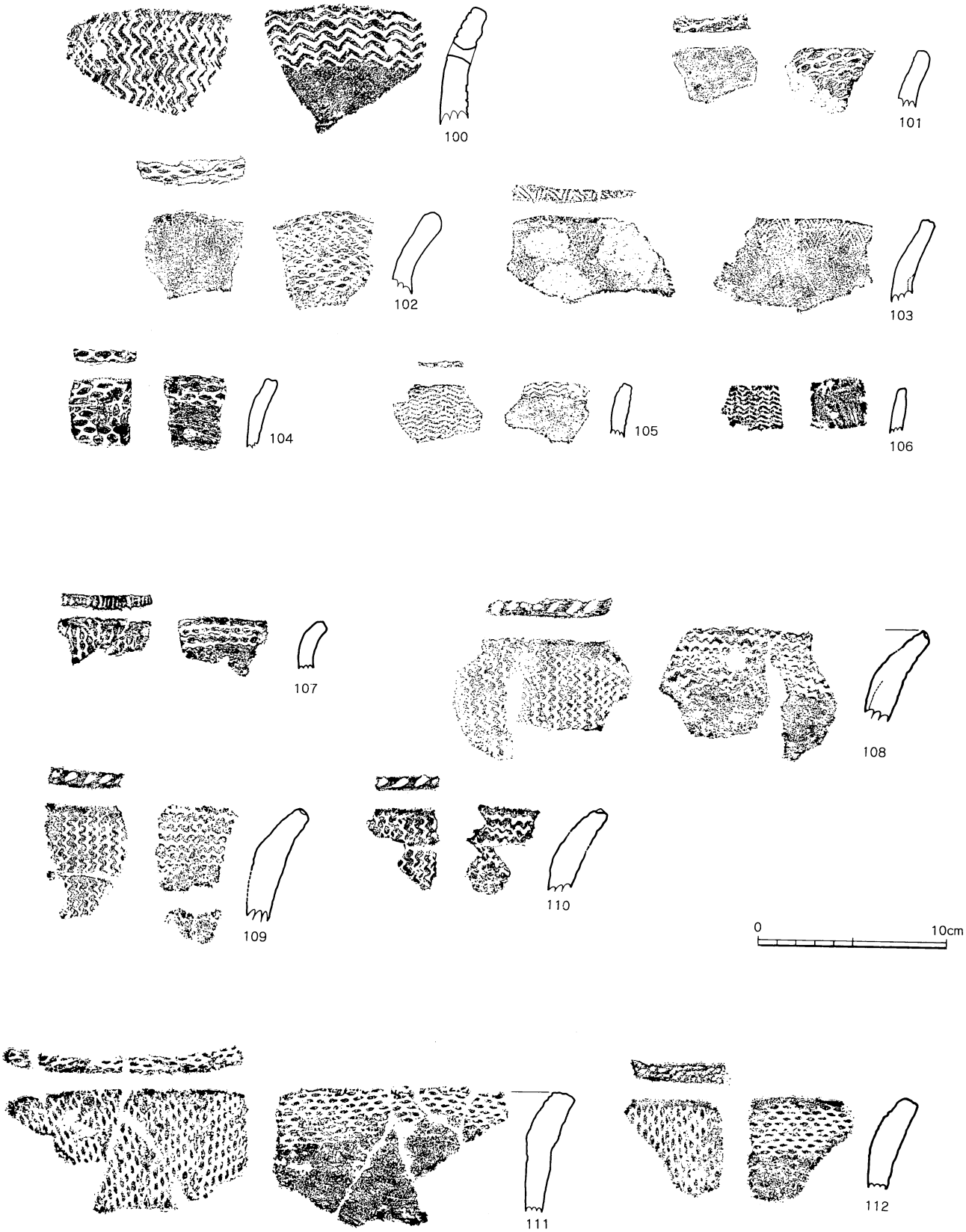
第31図　杉木原遺跡　土器実測図（6）



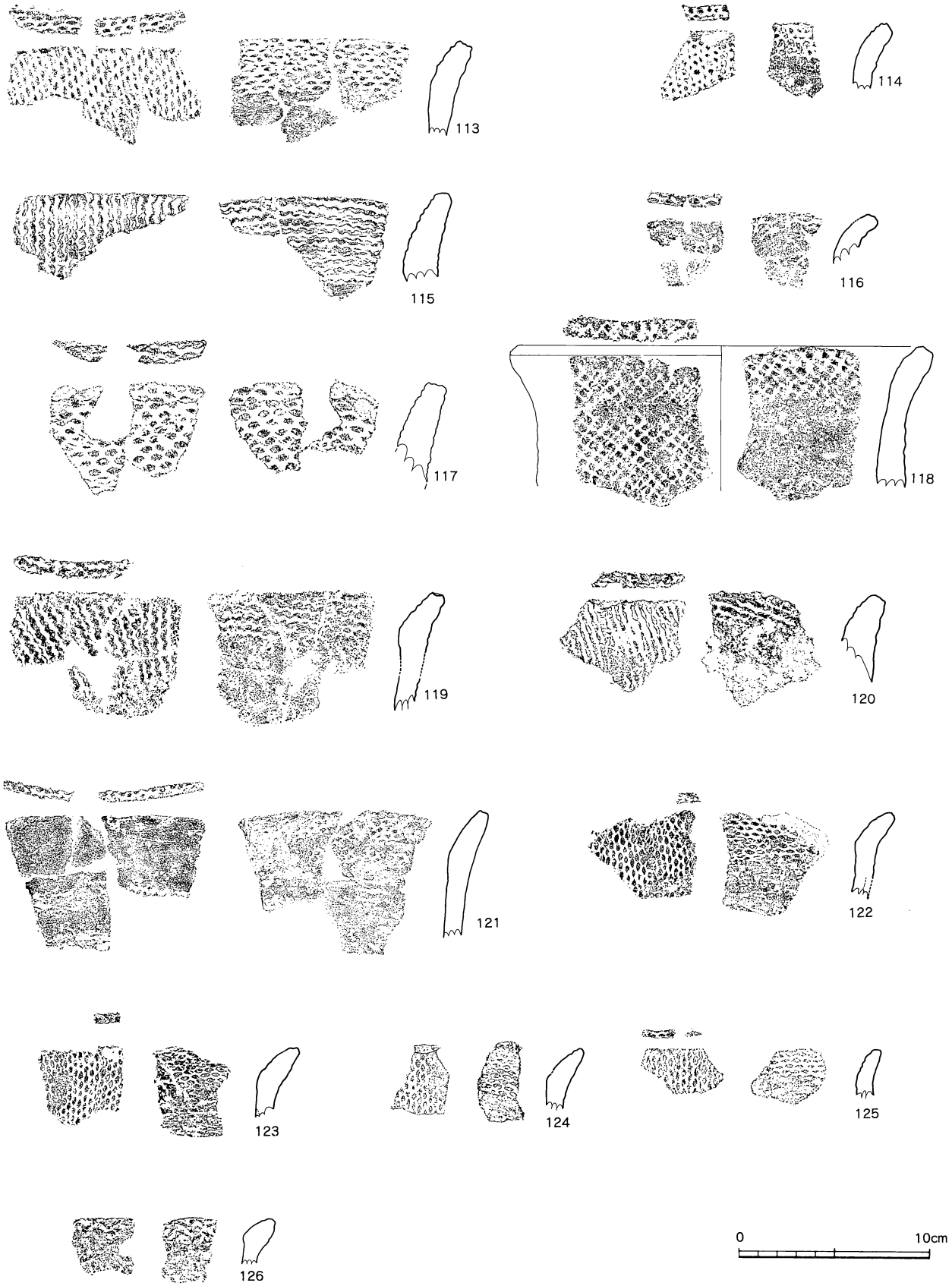
第32図　杉木原遺跡　土器実測図（7）



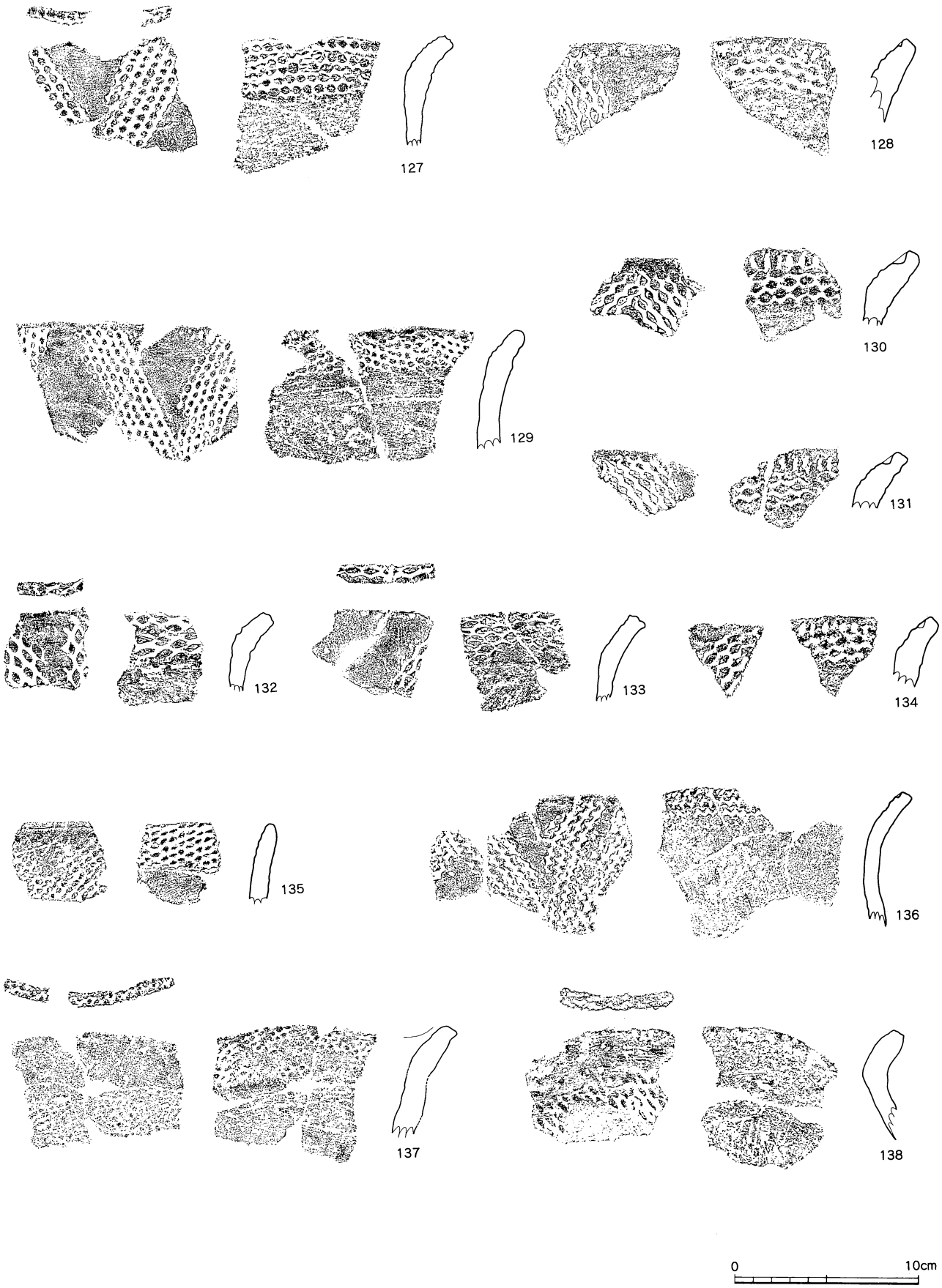
第33図　杉木原遺跡　土器実測図（8）



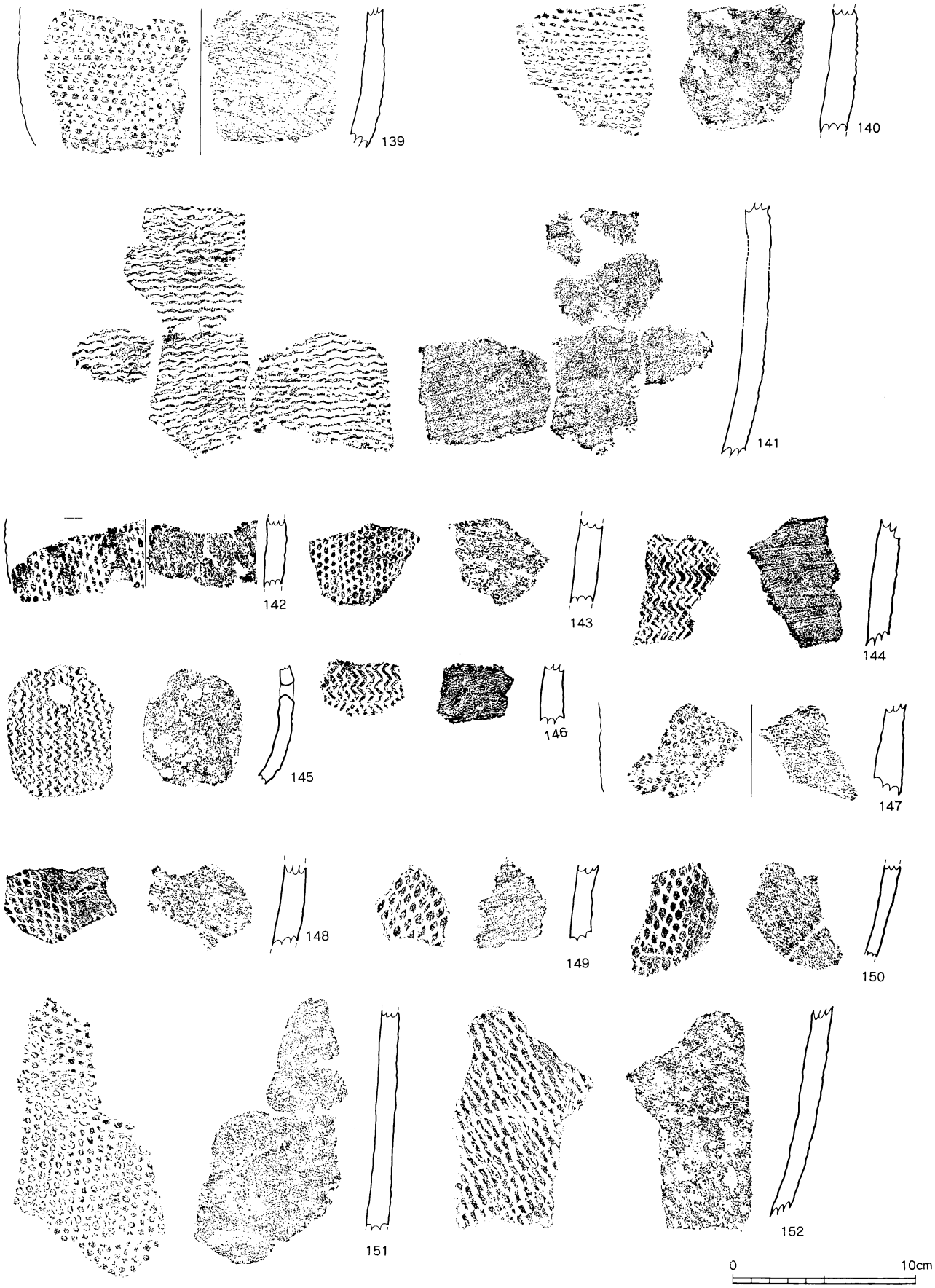
第34図　杉木原遺跡　土器実測図（9）



第35図　杉木原遺跡　土器実測図(10)

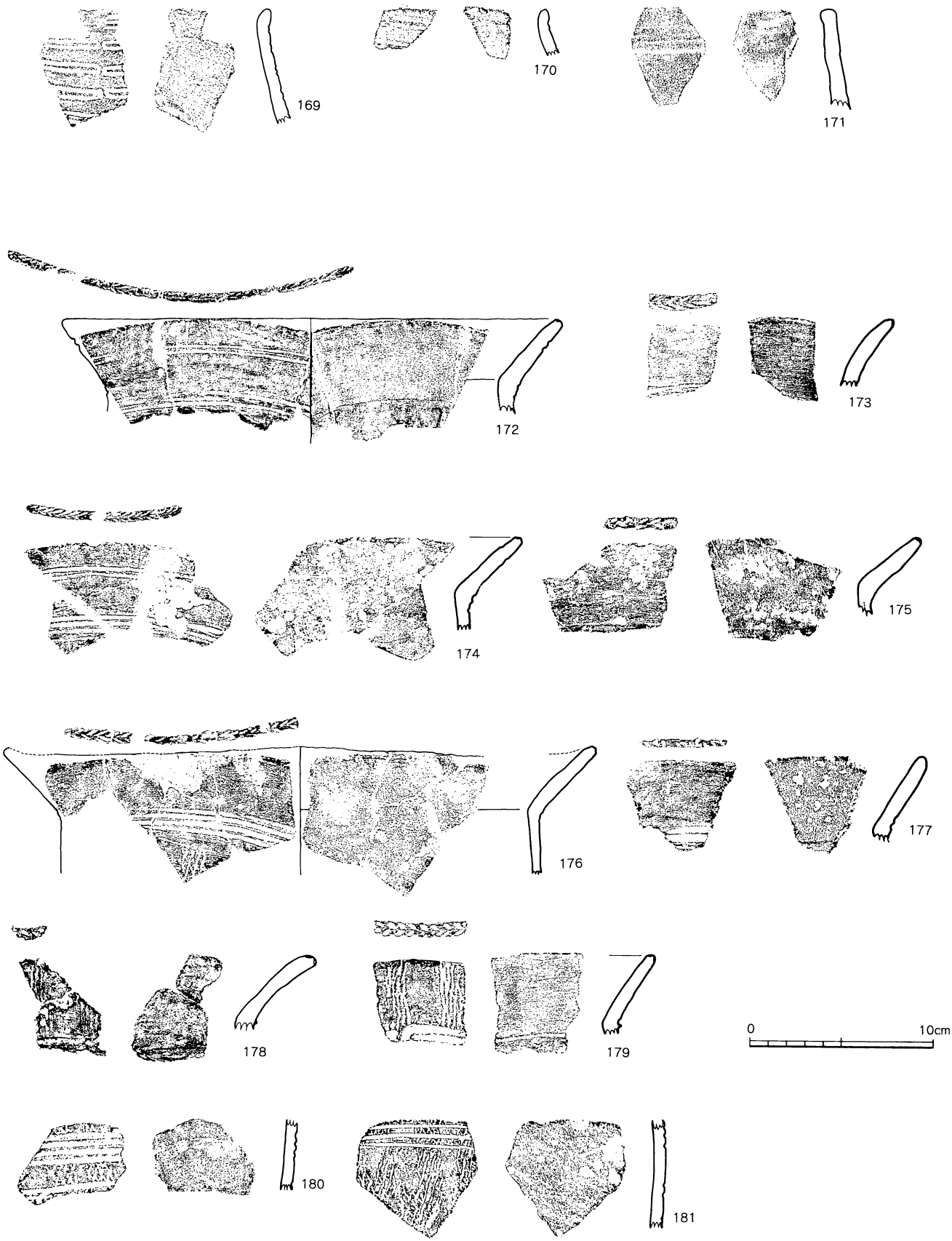


第36図　杉木原遺跡　土器実測図(11)

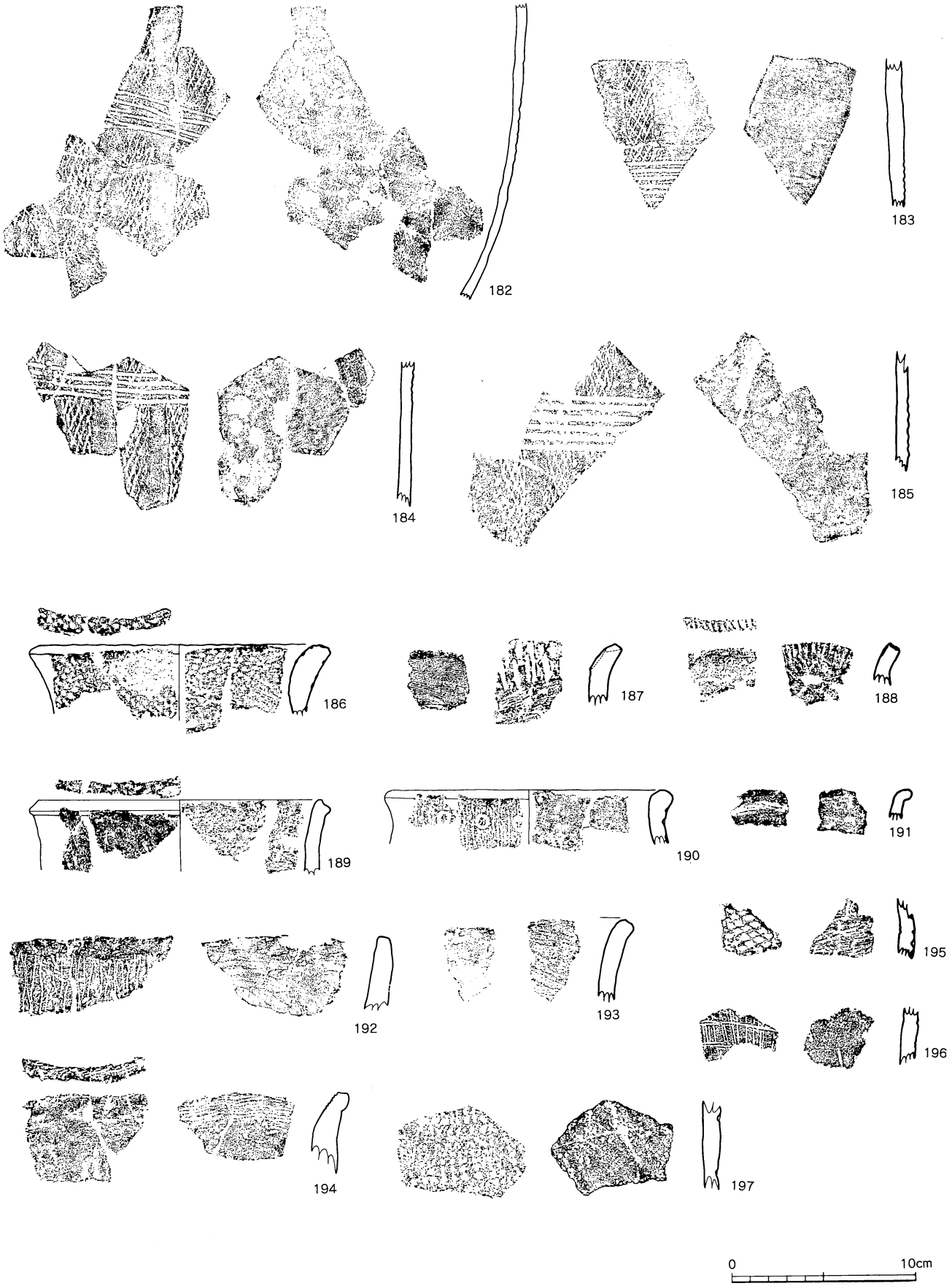


第37図　杉木原遺跡　土器実測図(12)

第38図　杉木原遺跡　土器実測図(13)



第39図　杉木原遺跡　土器実測図(14)



第40図　杉木原遺跡　土器実測図(15)

第41図　杉木原遺跡　土器実測図(16)

表３　杉木原遺跡縄文時代（草創期）の遺物観察表

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
25	1	K-7	深鉢	胴部	隆帯文上に指頭押え ナデ	横方向ナデ	明黄褐 灰黄褐	にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の灰白色の粒、1ミリ以下の半透明に光る粒。	草創期 隆帯文土器
25	2	J-7	深鉢	胴部	隆帯文上に指頭押え 横方向のナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の灰白色の粒、0.5ミリ以下の黒い粒。	草創期 隆帯文土器
25	3	E-11	深鉢	胴部	ナデ 斜方向連続爪形文	ナデ	にぶい黄橙	橙	良好	0.5ミリ〜1.1ミリの灰白色の砂粒、微細〜0.8ミリの黒灰色の砂粒。	草創期 爪形文土器

表４　杉木原遺跡縄文時代（早期）の遺物観察表（１）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
26	1	H-8	深鉢	口縁部	口唇部押圧刻み下位にヘラ状工具の横方向刺突文 ナデ	ナデ 横ナデ	にぶい褐	にぶい橙	良好	灰白の2ミリ〜1ミリ以下の粒、1ミリ以下の金色に光る粒、1ミリ以下の褐灰色の粒、4ミリ〜3ミリの白い粒。	Ⅰ類
26	2	C-9	深鉢	口縁部	口唇部刻み下位に貝殻腹縁刺突文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の灰白色の粒、2ミリ以下の黒褐色の粒。	Ⅰ類
26	3	G-5	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に工具による横ナデ上を縦方向の刻み下位に貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	0.5ミリ以下の淡黄色、黒くて光る砂粒。	1類 穿孔あり
26	4	K-8	深鉢	口縁部	口唇部斜方向の刻み下位に斜方向連続刺突文下位に浅い沈線・貝殻条痕文	横ナデ 横方向の貝殻条痕文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2.5ミリ以下の淡黄色の砂粒、1.5ミリ以下の茶褐色、黒くて光る砂粒、1ミリ以下の無色透明で光る砂粒。	Ⅰ類
26	5	D-8	深鉢	口縁部	縦方向刻み 横方向貝殻腹縁刺突文 横ナデ	横ナデ 斜方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の褐・淡黄色の砂粒、0.5ミリ以下の無色透明で光る黒くて光る砂粒。	Ⅰ類
26	6	B-1	深鉢	口縁部	口唇部押圧刻み下位に縦方向貝殻腹縁刺突文・横方向貝殻腹縁刺突文	ナデ	橙	橙	良好	2ミリ以下の黒褐色の粒、2ミリ以下の黒色光沢の粒。	Ⅰ類
26	7	H-10 H-11	深鉢	口縁部	口唇部横方向ミガキ下位に貝殻腹縁刺突文下位に斜方向条痕文	横方向磨き	にぶい橙	にぶい橙	良好	2ミリ〜1ミリ以下の灰白の粒、1ミリ以下の黒い粒。	Ⅱ類
26	8	J-9	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に貝殻腹縁刺突文下位に斜方向貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色、光沢のある黒色の粒。	Ⅱ類
26	9	J-9	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の白色、光沢のある黒色の粒。	Ⅱ類
26	10	E-11	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位貝殻腹縁刺突文下位に貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色の粒、光沢のある黒色の粒。	Ⅱ類
26	11	K-7	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に貝殻腹縁刺突文下位に斜方向貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	0.2ミリ〜0.8ミリの灰白色の砂粒、微細〜1.8ミリのガラス質の粒子。	Ⅱ類
26	12	D-11	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に斜方向貝殻腹縁刺突文下位に斜方向条痕文	ナデ	にぶい黄	黄灰	良好	2ミリ以下の乳白色の粒、2ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅱ類
26	13	L-10	深鉢	口縁部	ヘラ状工具による斜方向の刺突文 斜めの条痕文	ヘラナデ	明黄褐	明黄褐	良好	2ミリ以下の褐色の砂粒、長方形の光る黒色の砂粒、光る無色の砂粒。	Ⅱ類
26	14		深鉢	口縁部	ケズリの上ミガキ 斜方向の条痕文 斜方向の連続刺突文	ナデ	浅黄橙 褐灰	にぶい黄橙 黒褐	良好	0.5ミリ〜1.8ミリの灰白色の砂粒。	Ⅱ類
26	15	H-8	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に横方向条痕文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	0.5ミリ以下の光る粒、1ミリ以下の黒い粒。	Ⅱ類
26	16	K-7	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ上ミガキ下位に斜方向条痕文	横ナデ	にぶい黄橙 灰褐	にぶい黄橙	良好	0.2ミリ〜0.8ミリの灰白色の砂粒、微細〜0.5ミリのガラス質の光る粒子。	Ⅱ類 穿孔あり
27	17		深鉢	胴部	斜方向貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の白色、光沢のある黒色の粒。	Ⅱ類
27	18	H-6	深鉢	胴部	斜方向貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色、黒色の粒。	Ⅱ類
27	19	J-8	深鉢	胴部	斜方向条痕文	不明	にぶい黄 にぶい黄橙		良好	2ミリ以下の乳白色の粒、3ミリ以下の褐灰色の粒、2ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅱ類
27	20	D-10	深鉢	胴部	斜めの条痕文	ヘラナデ	橙	橙	良好	2ミリ以下の赤茶色、褐色、乳白色の砂粒。無色、黒色の光る砂粒。	Ⅱ類
27	21	C-9	深鉢	胴部	斜方向条痕文	縦方向ヘラナデ	橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下のガラス質の粒、2ミリ以下の黒色光沢の粒。	Ⅱ類 黒斑あり
27	22	D-12	深鉢	口縁部	口唇部斜方向の刻み・口縁部貝殻腹縁刺突文・楔形突帯文条痕文	横方向の粗いミガキ	にぶい赤褐	明赤褐	良好	1ミリ以下の黒くて光る無色透明で光る砂粒、0.5ミリ以下の淡黄色の砂粒。	Ⅲ類

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（2）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
27	23	E-11	深鉢	口縁部	口唇部凹圧刻み、口縁部貝殻腹縁刺突文・楔形突帯文・櫛歯状工具刺突文・貝殻条痕文	丁寧な横ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	1ミリ以下の淡黄、褐色、黒くて光る砂粒、2ミリ以下の無色透明で光る砂粒。	Ⅲ類
27	24	G-6 G-7	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位にナデ上を横方向貝殻腹縁刺突文下位に縦方向貝殻腹縁刺突文	縦方向ケズリ上を横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	0.2ー1.2ミリの灰白色の砂粒。	Ⅲ類
27	25	H-6 J-7 K-7 L-7	深鉢	底部付近	ナデ 縦方向貝殻腹縁刺突文	横方向に強いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下の黒色粒。	Ⅲ類
27	26	J-7 H-6 H-7	深鉢	底部付近	ナデ 縦方向貝殻腹縁刺突文	斜方向ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1.5ミリ以下の白色粒、2ミリ以下の黒色粒、3ミリ以下の褐色粒、光沢微細粒。	Ⅲ類
27	27	F-10	深鉢	胴部	縦方向貝殻腹縁刺突文	縦方向ナデ	にぶい黄橙	明赤褐	良好	2ミリ以下の透明な粒、1ミリ以下の柱状黒色の粒。	Ⅲ類
27	28	L-9	深鉢	胴部	縦方向のナデ 貝殻腹縁刺突文	ナデ	明赤褐	黒褐	良好	3ミリ以下の金色の粒、3ミリ以下の灰白色の粒、2ミリ以下の乳白色の粒。	Ⅲ類 黒斑あり
27	29	C-4 D-5 E-5	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に貝殻腹縁平行刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	良好	4ミリ以下の乳白色の粒、5ミリ以下の灰白色の粒、3ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅳ類
27	30	F-5 G-5	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ・横ミガキ下位に横方向貝殻腹縁刺突文	縦ナデ 粗い横方向のミガキ	浅黄	浅黄	良好	2ミリ以下の白色の粒。	Ⅳ類
28	31	C-9 D-5 D-10	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位横方向貝殻腹縁刺突文下位に斜方向貝殻腹縁刺突文	斜方向ナデ 工具・指頭の成形痕あり	浅黄	浅黄	良好	1ミリ以下の白色の粒。	Ⅳ類
28	32	K-9	深鉢	口縁部	口唇部丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	1ミリー0.5ミリの金色の粒、1ミリ以下の灰白の粒。	Ⅳ類
28	33	G-7	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に平行な貝殻腹縁刺突文	丁寧な横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2.5ミリ以下の白色の砂粒。	Ⅳ類 一部スス付 一部黒斑
28	34	H-6 J-8	深鉢	胴部	横方向の貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	3ミリ以下の灰黄色の粒、2ミリ以下の灰白色の粒。	Ⅳ類
28	35	H-6	深鉢	胴部	横方向の貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	3ミリ以下の灰白色の粒、2ミリ以下の金色の粒を含む	Ⅳ類
28	36	F-5 F-6	深鉢	胴部	横方向貝殻腹縁刺突文	横ナデ	淡黄	淡黄	良好	3ミリ以下の白色、灰色の粒。	Ⅳ類
28	37	J-8	深鉢	胴部	横方向の貝殻腹縁刺突文	斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	3ミリ以下の白色の粒、黒色の粒。	Ⅳ類
28	38	C-3 F-5	深鉢	胴部	横方向の貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色の粒、黒色の粒。	Ⅳ類
28	39	I-8	深鉢	口縁部	口唇部ナデ・横方向ミガキ下位に櫛状工具か貝殻腹縁による横方向の刺突文	ナデ・ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2.5ミリ以下の灰色、褐色の砂粒、0.5ミリ以下の金色の砂粒。	Ⅴ類
28	40	C-3	深鉢	口縁部	口唇部丁寧な横ナデ下位に貝殻腹縁刺突文下位に短沈線羽状文の繰り返し	横方向のヘラナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	良好	2.5ミリ以下の赤茶色、白色、金色、褐色の砂粒。	Ⅴ類
28	41	F-9 G-7	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に短沈線下位に羽状短沈線	ナデ	橙	にぶい褐	良好	1.8ミリ以下の黄褐色、赤茶色、灰色、白色、光る無色、光る黒色(棒状)の砂粒。	Ⅴ類 一部スス付着
28	42	G-7	深鉢	胴部	短沈線 羽状短沈線 ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい褐	橙	良好	2.5ミリ以下の黄褐色、赤茶色、光る無色、灰色、白色、光る黒色(長方形)の砂粒。	Ⅴ類 一部スス付着
28	43	G-7 K-7	深鉢	胴部	縦方向の直線文・短沈線文 櫛状施文具の横方向刺突文 短沈線文	ヘラ成形後斜方向ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2.8ミリ以下の白色、灰色、金色、赤茶色の砂粒。	Ⅴ類
28	44	F-7	深鉢	胴部	貝殻腹縁羽状文・ナデ 横方向の貝殻腹縁刺突文 斜方向貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色の粒。	Ⅴ類
28	45	I-7 I-9	深鉢	胴部	貝殻腹縁羽状文 横方向の貝殻腹縁刺突文 縦方向の貝殻腹縁刺突文	ナデ	橙	にぶい橙	良好	2ミリ以下の白色の粒。	Ⅴ類
28	46	I-10	深鉢	胴部	貝殻腹縁刺突文	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	2ミリ以下の白色の粒。	Ⅴ類
29	47	D-7 G-10 H-7 H-10	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に櫛状工具の縦方向条痕文下位に横方向の櫛状工具条痕文	横ナデ	にぶい黄橙	黒褐 にぶい黄橙	良好	2ミリー0.5ミリの灰白の砂粒を多く含む。1ミリ以下の黒い粒、0.5ミリ以下の半透明に光る粒。	Ⅵ類
29	48	I-9	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に縦・横・斜方向に細沈線文	ナデ	にぶい黄褐	橙	良好	3ミリ以下の乳白色の粒、3ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅵ類 穿孔あり
29	49	SI8 G-10 H-6 H-7 I-8	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に櫛状工具によるナデ	ナデ	にぶい黄 灰黄	にぶい黄橙 明灰	良好	1ミリー1.5ミリの白色粒、灰色粒、褐色粒、1ミリ以下の透明光沢粒。	Ⅵ類 SI8
29	50	G-7	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に縦・横・斜方向に細沈線文	ナデ	橙	にぶい黄褐	良好	3ミリ以下の灰白色の粒、2ミリ以下の金色の粒、2ミリ以下の乳白色の粒。	Ⅵ類

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（3）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
29	51	G-10 G-11 H-6 H-7 H-11	深鉢	底部	縦方向の櫛状工具条痕文 櫛状工具による鋸歯状文 ナデ	斜方向ナデ(工具痕あり) ナデ	にぶい黄橙	黒褐 灰黄	良好	3ミリ以下の灰白色の砂粒を多量に含む。0.5ミリ〜2ミリ程のガラス質のような粒。	VI類
29	52	I-7	深鉢	口縁部	口唇部丁寧な横ナデ下位丁寧なナデの下部に櫛歯状工具による刺突文	横ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	2ミリ以下の白色、黒色の粒。	VI類
29	53	F-11	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位横方向横ナデ	横方向ヘラナデ(工具痕あり)	にぶい黄褐	暗灰黄	良好	3ミリ以下の金色の粒、2ミリ以下の乳白色の粒、2ミリ以下の灰白色の粒。	VI類
29	54	I-10	深鉢	口縁部	横ナデ 縄文(中に繊維痕あり)	横ナデ	浅黄	にぶい黄	良好	3.5ミリ以下の赤茶色、乳白色の砂粒、光る乳白色の砂粒。	VI類
29	55	SI13 H-10 J-10 K-10	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位横ナデ上を貝殻腹縁による条痕文	横方向ナデ	褐灰 にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ〜1ミリ以下の灰白色の粒、1ミリ以下の黒い粒。	VI類 穿孔あり SI13
29	56	F-12	深鉢	口縁部	横方向の雑なミガキ 半裁竹管の浅い平行曲線文	ヘラ状工具による横ナデ	黄褐	にぶい黄橙	良好	4.3ミリ以下の白色、灰色、赤茶色、金色の砂粒。	VI類
29	57	E-11	深鉢	胴部	丁寧なナデ 貝殻腹縁条痕文	横ナデ	浅黄	にぶい黄	良好	4ミリ以下の白色、黒色に光る粒。	VI類
30	58	C-8	深鉢	胴部	ナデ 貝殻腹縁による条痕文	横ナデ 指頭によるナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2.5ミリ以下の淡黄色の砂粒、1.5ミリ以下の無色透明で光る砂粒、1ミリ以下の黒色の砂粒。	VI類
30	59	H-9	深鉢	胴部	ナデ 櫛状工具による鋸歯状文	斜方向ナデ 工具痕あり	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	1ミリ以下の灰白色の粒を多く含む。0.5ミリ以下の金色に光る粒。	VI類
30	60	J-9	深鉢	胴部	縦方向の貝殻条痕文の上をナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	2ミリ以下の白色の粒を含む。	VI類
30	61	E-8 H-7	深鉢	胴部	縦ナデ 櫛状工具による鋸歯状文	ヘラ状工具の斜方向のナデ	明黄褐 灰黄褐	灰黄	良好	1ミリ以下の灰白色の粒。	VI類
30	62	E-2	深鉢	胴部	櫛状工具刺突の羽状文	横ナデ	橙	橙	良好	4ミリ以下の灰色、褐色の砂粒、6.6ミリ以下の赤灰色の砂粒、2ミリ以下の黒色、光る無色の砂粒。	VII類
30	63	G-7	深鉢	胴部	櫛状工具刺突の羽状文	＼方向のケズリ(工具痕あり) ⇔方向のナデ	橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2.2ミリ以下の黒色、光る黒色、白色、灰色の砂粒。	VII類
30	64	H-6 I-7	深鉢	胴部	横ナデ・一部ミガキ 横方向の貝殻腹縁刺突文 貝殻腹縁による鋸歯文	ナデ	橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の灰色、白色の粒。	VII類
30	65	F-12	深鉢	胴部	縦方向の貝殻腹縁刺突文	やや強い横ナデ	にぶい黄橙	橙	良好	2ミリ以下の白色の粒、金色に光る粒。	VII類・スス付着外面下部赤変
30	66	F-12 I-10 H-9	深鉢	胴底部	縦ナデ 横・斜方向に貝殻腹縁押圧文	丁寧な横ナデ	にぶい橙 灰黄褐	褐灰 灰褐	良好	0.1ミリ〜1.2ミリの灰白色の砂粒、1.0ミリ〜2.3ミリの茶色の砂粒、微細〜1.2ミリのガラス様に光る粒。	VII類 穿孔あり一部スス付着
30	67	K-8 L-8	深鉢	底部	横方向の貝殻腹縁羽状文 丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	3ミリ以下の乳白色の粒、3ミリ以下の灰白色の粒。	VII類 継ぎ目あり
31	68	I-11	深鉢	口縁部	横ナデ 縦方向の楕円押型文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	3ミリ以下の乳白色の砂粒。8ミリの赤褐色の粒、2ミリ以下の赤褐色の砂粒。	VIIIa
31	69	I-7 J-7	深鉢	底部	側辺部に縦の条痕？	ナデ	橙	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の灰白色の砂粒を多く含む。 3ミリ以下の粒。	VIIIa 68と同一個体？
31	70	G-8 H-6 H-7 H-8	深鉢	口縁部	口唇部横方向ミガキ下位ナデ その下位に斜・横方向山形押型文	ナデ 一部斜方向指頭によるナデ	にぶい橙	橙 にぶい橙	良好	0.1ミリ〜4.0ミリの灰白色の砂粒、0.3ミリ〜0.9ミリの茶色の砂粒。	VIIIa
31	71	B-3 D-4 E-7	鉢	口縁部	横ナデ 縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 横ナデ	にぶい赤褐 にぶい橙	にぶい橙 褐灰	良好	5ミリ以下の乳白色の砂粒、2ミリ以下の黒、褐色の砂粒。	VIIIa
31	72	D-5	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	良好	1ミリ以下の褐色、乳白色の砂粒。	VIIIa
31	73	F-8 G-8 G-9	深鉢	口縁部	楕円押型文	横ナデ	橙 褐灰	橙	良好	2〜4．5ミリの灰白色の細礫及び1ミリ以下の灰黄色、茶色の砂粒。2ミリ以下の黒色鉱物粒。	VIIIa
32	74	B-4 E-6 F-9 I-7 L-7 L-10	深鉢	口縁部	ナデ 楕円押型文	工具による縦方向の原体条痕 楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ程度の半透明色の粒。2〜3ミリ程度の半透明、灰白、黄白色の粒。	VIIIb1
32	75	E-11 I-6 I-8 I-10	深鉢	口縁部	ナデ 横方向山形押型文	縦方向刻み 横方向山形押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	3.5ミリ以下の灰白色の粒、3ミリ以下の黒褐、茶色の粒、2．5ミリ以下の軟質な赤褐色、黒くて光る粒、2ミリ以下の無色透明で光る粒。	VIIIb1 一部にスス付着
32	76	F-7 K-9 L-8	深鉢	口縁部	ナデ 楕円押型文	工具による縦方向の原体条痕 楕円押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ程度の乳白色の粒。	VIIIb1
32	77	H-6	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に横方向山形押型文	貝殻押圧文 横方向山形押型文 ナデ	橙	橙	良好	1.5ミリ以下の光る無色と乳白色の砂粒。	VIIIb1 一部黒斑スス付着
32	78	I-11	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	原体条痕 ナデ	明赤褐	明赤褐	良好	1ミリ以下の黒灰色、灰白色、茶色、黄白色の砂粒。	VIIIb1

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（4）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
32	79	I-11	深鉢	口縁部	横ナデ 縦方向の楕円押型文	原体条痕 横ナデ	明赤褐	明赤褐	良好	1ミリ以下の黒色、灰色、茶色、乳白色、金色の砂粒。	Ⅷb1
32	80	I-11	深鉢	口縁部	横ナデ 縦方向の楕円押型文	原体条痕 横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 橙	良好	1ミリ以下の乳白色、茶色、黒色の砂粒。	Ⅷb1
33	81	C-7	深鉢	口縁部	口唇部に横方向の楕円押型文、下位に縦方向の楕円押型文	楕円押型文	灰黄褐	にぶい黄褐	良好	径が2ミリ大の半透明、灰白の粒、径が1ミリ以下の灰白、半透明、金色の砂粒。	Ⅷb2
33	82	E-6	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文	灰黄	にぶい黄	良好	5ミリ以下の白色の粒、1ミリ以下の黒い粒。	Ⅷb2
33	83	D-5	深鉢	口縁胴部	横方向山形押型文 縦方向山形押型文	横方向山形押型文 ナデ	橙・にぶい橙	にぶい黄橙 灰白 黒褐	良好	0.8ミリ―2ミリの灰白色の砂粒。	Ⅱb2 一部にスス付着
33	84	E-7 E-8	深鉢	口縁部	口唇部横方向山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 横ナデ	浅黄橙	浅黄橙	良好	3ミリ以下の柱状黒色光沢粒、2ミリ以下の乳白色粒、4ミリ以下の灰白色粒、5ミリ以下の赤褐色粒。	Ⅷb2
33	85	G-8	深鉢	口縁部	口唇部横方向山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 ナデ	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙	良好	5ミリ以下灰色の粒、1.5ミリ以下長方形に光る黒い粒。	Ⅱb2 黒斑あり
33	86	H-6	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に縦方向山形押型文 一部ナデ	横方向山形押型文 ナデ	浅黄	浅黄	良好	2ミリ以下の灰白色の粒、1ミリ以下の黒い光る粒。	Ⅷb2
33	87	B-4	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 横ナデ	浅黄	にぶい黄橙	良好	赤褐色の粒、0.5ミリ以下の黒い粒。	Ⅷb2
33	88	D-4	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文 ナデ	横方向山形押型文 ナデ	浅黄橙	にぶい橙	良好	4ミリ以下灰色の粒、1ミリ以下半透明の粒、赤褐色。	Ⅷb2
33	89	H-7	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 横ナデ	にぶい黄	浅黄	良好	6ミリ以下の褐灰色粒、5ミリ以下の灰白色粒、4ミリ以下の黒色粒、3ミリ以下の柱状黒色光沢粒、2ミリ以下のガラス質粒。	Ⅷb2
33	90	D-5 E-6	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ナデ	灰黄 浅黄	黄灰 にぶい黄	良好	0.5ミリ以下の黒色粒。	Ⅷb2
33	91	D-5	深鉢	口縁部	ナデ 斜方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 丁寧な横ナデ	黒褐 にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	0.1ミリ―2.0ミリの灰白色の砂粒、微細―0.5ミリの黒色の砂粒。	Ⅷb2
33	92	B-2	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に縦方向山形押型文	横方向の山形押型文 ナデ	黄橙	黄橙	良好	2ミリ以下の光る黒色の長方形、乳白色等の砂粒。	Ⅷb2
33	93	I-7 J-7	鉢	口縁部	横ナデ・斜方向ナデ 楕円押型文 繊維痕あり？	楕円押型文 横ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	良好	2ミリ以下の赤褐色、灰白、暗褐色の砂粒。	Ⅷb2
33	94	B-1	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	1―1.5ミリ程度の透明、半透明粒。	Ⅷb2
33	95	E-4	深鉢	口縁部	口唇部横方向山形押型文下位に斜方向山形押型文	横方向山形押型文 ナデ	橙	黄橙	良好	3ミリ以下の光る無色の砂粒、灰色、淡い褐色の砂粒。	Ⅷb2 一部黒斑 SI12-2
33	96	B-1	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位に斜方向山形押型文	横方向山形押型文	にぶい黄橙 黒褐	にぶい橙	良好	4ミリ以下の白い粒、1ミリ以下の黒い粒。	Ⅷb2 部分的に黒変あり
33	97	C-7 D-6	深鉢	口縁部	口唇部横方向山形押型文 横ナデ 縦方向山形押型文	横方向山形押型文 横ナデ	にぶい黄橙	橙	良好	4ミリ以下の白色粒、4ミリ以下の黒色光沢粒、2ミリ以下のガラス質粒、8ミリ以下の褐色粒。	Ⅷb2
33	98	G-7	深鉢	口縁部	口唇部横方向山形押型文下位に斜方向山形押型文	横方向の山形押型文 ナデ	にぶい黄橙	明褐	良好	5ミリ以下の乳白色、褐色、灰色、光る黒色の砂粒。	Ⅷb2
33	99	D-8	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位縦方向山形押型文	横方向山形押型文	にぶい黄橙 黒斑	にぶい橙	良好	3ミリ以下の白色の粒、1ミリ以下の灰色の粒。	Ⅷb2 黒斑あり
34	100	H-9	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の黒い光る粒。5ミリの赤灰色粒。	Ⅷb2 穿孔あり
34	101	B-4	深鉢	口縁部	口唇部楕円押型文 ナデ	楕円押型文	赤褐	明赤褐	良好	径が2.5ミリ―3ミリの茶色の礫と1ミリ以下の黒色、灰色、金色の砂礫。	Ⅷb2
34	102	K-7	深鉢	口縁部	縦方向のナデ	楕円押型文	橙	橙 黒褐	良好	3ミリ以下の乳白色、灰色、茶色、金色に光る砂粒。	Ⅷb2 黒変部あり
34	103	E-8	深鉢	口縁部	口唇部山形押型文下位ナデ	横方向山形押型文 ナデ	橙	橙	良好	3ミリ以下の乳白色粒、2ミリ以下の白色粒、2ミリ以下の金色に光る粒。	Ⅷb2
34	104	K-7	鉢	口縁部	口唇部横方向の楕円押型文下位に横ナデ後に横方向楕円押型文	横方向の楕円押型文 工具による横ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の褐色、灰白の砂粒。	Ⅷb2
34	105	H-11	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に横方向山形押型文	横方向山形押型文 横ナデ指頭痕あり	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	0.5―1ミリ程度の半透明、褐色、黄白色の粒。	Ⅷb2 一部にスス付着
34	106	G-9	深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	0.5ミリ以下の透明・黄白・灰・黒色粒。	Ⅷb2

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（5）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
34	107	E-3	深鉢	口縁部	口唇部縦方向の原体条痕下位に縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ナデ	にぶい黄	灰黄	良好	1ミリ程度の半透明粒。	Ⅷc1
34	108	I-9 J-9	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ上に斜方向連続刺突の刻み下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 ケズリ	にぶい橙 灰褐	灰褐 にぶい橙	良好	0.1ミリ〜3.5ミリの灰白色、微細〜2.8ミリの金色に光る砂粒、0.5ミリ〜2.0ミリの茶色の砂粒。	Ⅷc1
34	109	H-10	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ上に斜方向連続刺突の刻み下位に縦方向山形押型文	横方向山形押型文 ←方向ケズリ	灰褐	にぶい褐 褐灰	良好	0.1ミリ〜3.0ミリの灰白色、微細〜2.8ミリの金色に光る砂粒、0.5ミリ〜2.0ミリの茶色の砂粒。	Ⅷc1
34	110	G-6	深鉢	口縁部	口唇部斜方向連続刺突文下位縦方向山形押型文	横方向山形押型文 横方向ケズリ	にぶい褐	褐	良好	2ミリ以下の淡黄、灰白色の砂粒、1ミリ以下の金色に光る砂粒、0.5ミリ〜1ミリの赤茶色の砂粒。	Ⅷc1
34	111	C-7 D-5 F-5	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	良好	1ミリ以下の透明、黒色粒。	Ⅷc2
34	112	C-5	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文	橙	橙	良好	2〜3ミリ程度の半透明の砂粒。	Ⅷc2
35	113	D-7 E-6 H-7	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文	橙	にぶい黄橙 オリーブ黒	良好	1ミリ程度の半透明、0.5〜2ミリ程度の輝く黒色粒。	Ⅷc2
35	114	D-6	鉢	口縁部	斜方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 横ナデ	にぶい赤褐	橙 明赤褐	良好	3〜6ミリ大の灰白の粒、4ミリ大の黒色光沢粒、2ミリ以下の乳白色、橙色の砂粒。	Ⅷc2
35	115	F-10 H-7	深鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	橙 明黄褐	明黄褐 にぶい黄褐	良好	1ミリ以下の白・黄の粒。	Ⅷc2
35	116	E-9	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文の下位に粗なナデ	灰黄褐	灰黄褐	良好	径が2〜3ミリの褐色の粒を含む。径が1ミリ以下の白色、金色、褐色の砂粒。	Ⅷc2
35	117	D-7 D-8 E-8	深鉢	口縁部	ナデ 横方向の楕円押型文	ナデ 横方向の楕円押型文	橙	橙	良好	4ミリ大の黄白色の粒、1.5ミリ以下の黄白色、茶色、金色、灰白色、黒色の砂粒。	Ⅷc2
35	118	E-2	深鉢	口縁部	斜め方向楕円押型文	斜め方向の楕円押型文 ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	径4ミリ以下の乳白色、黒、無色透明、金色に光る砂粒。	Ⅷc2
35	119	B-5	深鉢	口縁部	口唇部に山形押型文下位に斜方向山形押型文	横方向の山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	6ミリ以下の黒色粒、5ミリ以下の灰白色の砂粒、2ミリ以下の無色透明で光る砂粒、1.5ミリ以下の黒くて光る砂粒。	Ⅷc2
35	120	C-12	深鉢	口縁部	楕円押型文	楕円押型文	黄灰	灰黄	良好	1〜2ミリ程度の白、黄白、半透明粒。	Ⅷc2
35	121	B-5 F-8	深鉢	口縁部	ナデ	斜め方向の楕円押型文 ナデ	暗灰黄	暗灰黄	良好	3〜4ミリ程度の半透明、乳白色粒。	Ⅷc2
35	122	H-6	深鉢	口縁部	口唇部横方向の楕円押型文下位に縦方向の楕円押型文	横方向に楕円押型文 横方向の粗いナデ	にぶい褐	黒褐 にぶい褐	良好	微細〜2.3ミリの金色に光る砂粒、0.5ミリ〜3ミリの茶色の砂粒、0.5ミリ〜1.8ミリの灰白色の砂粒。	Ⅷc2 炭化物付着
35	123	H-10	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ケズリ	にぶい赤褐	にぶい赤褐 黒褐	良好	3ミリ大の茶色の粒、2ミリ以下の金色乳白色、茶色、灰色の砂粒。	Ⅷc2 継ぎ目あり
35	124	D-11	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ケズリ	褐	暗褐	良好	径が2〜3ミリの半透明の粒と1ミリ以下の半透明、灰白の砂粒。	Ⅷc2
35	125	B-5	深鉢	口縁部	縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ナデ	にぶい赤褐	暗赤褐	良好	径が2ミリ以下の茶色、灰色、褐色の砂粒。	Ⅷc2 SI42
35	126	C-2	壺	？口縁部	山形押型文 ナデ	横方向山形押型文 ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良好	3ミリ以下の灰白色の粒、2ミリ以下の金色に光る粒、2ミリ以下の乳白色の粒。	Ⅷc2 一部炭化物付着
36	127	C-6	深鉢	口縁部	楕円押型文 ナデ消し	楕円押型文 ケズリ状ナデ	橙	橙	良好	4ミリ大、及び2ミリ以下の淡黄の砂粒、1ミリ以下の金色、黒色の砂粒。	Ⅷc3
36	128	C-4	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	横ナデ ヘラ状工具による連続刺突文 楕円押型文	橙	橙	良好	3ミリ大の黄白色、黒灰色の粒、2ミリ以下の黒色透明の鉱物粒。	Ⅷc3
36	129	C-2 G-7	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文 部分的にナデ消し	楕円押型文 ケズリ	橙 にぶい黄橙	橙 褐灰	良好	1.5ミリ以下の乳白色、茶色の砂粒を含む。1ミリ以下の黒色及び透明な鉱物粒。	Ⅷc3
36	130	D-5	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	ナデ ヘラ状工具による連続刺突文 楕円押型文	橙	橙	良好	4ミリ大の浅黄色（半透明）、灰白の粒。	Ⅷc3
36	131	C-7	深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	横ナデ ヘラ状工具による連続刺突文 楕円押型文	黄橙	橙	良好	1.5ミリ以下の灰白色の砂粒。	Ⅷc3
36	132	G-8	深鉢	口縁部	横ナデ 縦方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ケズリ	にぶい橙	にぶい橙	良好	2ミリ以下の灰白、金色、茶色の砂粒。	Ⅷc3
36	133	D-7 D-9	深鉢	口縁部	ナデ消し 楕円押型文	楕円押型文 ナデ	明赤褐	明赤褐 暗灰	良好	1ミリ以下の金色、灰白色、乳白色、赤茶色の砂粒。	Ⅷc3
36	134		深鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文	ヘラ状工具による連続刺突文 横ナデ	明黄褐	明褐	良好	5ミリ大の黄白色の粒、2ミリ以下の黄白色、橙色の砂粒、2ミリ以下の透明な鉱物粒。	Ⅷc3

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（6）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
36	135	H-8	鉢	口縁部	横ナデ 楕円押型文 繊維痕・工具痕あり？	楕円押型文 横ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	良好	3.5ミリ大の灰褐色、淡橙の粒、2ミリ以下の赤褐色、褐色の砂粒。	Ⅷc3
36	136	L-7 L-8	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ 鋸歯状山形押型文	刺突列点文 横方向山形押型文 横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の半透明、乳白色、灰色の粒。	Ⅷc3
36	137	B-5	深鉢	口縁部	ナデ 横方向の楕円押型文	横方向の楕円押型文 ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	良好	径3ミリ以下の乳白色、白色、無色透明、灰色の砂粒。	Ⅷc3 全体にスス付着SI42
36	138	D-6	深鉢	口縁部	口唇部横方向の楕円押型文 ナデの下位に斜方向楕円押型文	粗いナデ	にぶい橙	にぶい褐 灰黄褐	良好	1〜2ミリ程度の輝く黄金色、黄白、半透明粒。	Ⅷc3
37	139	C-11 D-10 D-11	深鉢	胴部	楕円押型文	斜・横方向ケズリ	暗赤褐	黒褐	良好	2ミリ以下の乳白色、褐色、金色の砂粒。	Ⅷ
37	140	B-1	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	橙	明赤褐	良好	0.5ミリ以下の乳白色、半透明色、黒色粒。	Ⅷ
37	141	G-6 H-7 H-8	深鉢	胴部	横方向山形押型文	横方向ミガキ風のナデ	にぶい黄橙	灰黄褐 褐灰	良好	4.0ミリ以下の灰白、黒褐色の砂粒、2ミリ以下の金色に光る砂粒、1.5ミリ以下の軟質な赤茶色の砂粒。	Ⅷ 薄く黒変
37	142	G-7 H-9	深鉢	胴部	縦方向楕円押型文	粗いナデ	にぶい赤褐	赤褐 暗褐	良好	1ミリ程度の透明、0,5ミリ以下の黒色の砂粒。	Ⅷ
37	143	B-3	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	灰黄 黄灰	にぶい橙	良好	2〜4ミリ程度の白色、1ミリ程度の透明、半透明色粒。	Ⅷ
37	144	G-8	深鉢	胴部	縦方向山形押型文	横ナデ	にぶい黄橙	灰黄	良好	3.5ミリ以下の灰白、褐色の砂粒、2.5ミリ以下の黒くて光る砂粒、1.5ミリ以下の無色透明で光る砂粒、0.1ミリ〜1.5ミリの茶色の砂粒。	Ⅷ 一部炭化物付着
37	145	K-8	鉢	胴部	縦方向の山形押型文	ナデ	明黄褐 橙	浅黄橙	良好	4ミリ以下の白・灰色・光沢のある黒の粒。	Ⅷ 穿孔あり
37	146	G-6	深鉢	胴部	縦方向山形押型文	横ナデ 一部斜方向に指頭によるナデ	灰黄	灰黄	良好	0.5ミリ〜4.5ミリの黒褐色の砂粒、2.5ミリ以下の灰白色、黒くて光る砂粒、1ミリ以下の無色透明で光る砂粒。	Ⅷ
37	147	D-8 E-7 E-9	深鉢	胴部	斜方向楕円押型文	ケズリ	明褐	灰黄褐	良好	2ミリ以下の乳白色、灰色の砂粒。	Ⅷ 黒斑あり
37	148	G-9	深鉢	胴部	斜め方向の楕円押型文 ナデ	ケズリ	明黄褐	明黄褐	良好	2ミリ以下の灰白色、黄白色の砂粒。2ミリ以下の金色鉱物粒。	Ⅷ 一部スス付着
37	149	C-3	鉢	胴部	縦方向の楕円押型文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良好	2ミリ以下の乳白色、半透明、赤褐色の砂粒。	Ⅷ
37	150	F-5	鉢	胴部	縦方向の楕円押型文	粗いナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	良好	2ミリ以下の褐色、乳白色の砂粒、1ミリ以下の金雲母。	Ⅷ
37	151	B-2 D-2 F-3	深鉢	胴部	楕円押型文	斜方向ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 灰黄褐	良好	7ミリ大の灰色の粒、4ミリ以下の赤褐色、黒灰色の砂粒、2ミリ以下の黒、透明の光沢粒。	Ⅷ
37	152	H-9	深鉢	胴部	斜方向の楕円押型文	粗いナデ	にぶい褐 褐灰	橙	良好	1ミリ以下の黄白、半透明、1〜2ミリ程度の褐色、0.5ミリ以下の輝く黄金色の粒。	Ⅷ 一部黒変
38	153	F-6	鉢	底部	楕円押型文 ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	良好	2ミリ以下の半透明の砂粒。3ミリ以下の乳白色、灰色の砂粒、黒色の光沢粒。	Ⅷ
38	154	B-6	深鉢	底部	楕円押型文 横ナデ	粗いナデ	灰褐 にぶい赤褐	褐灰 黒褐	良好	0.5ミリ程度の黄白、半透明色、0.5〜1ミリ程度の透明粒。	Ⅷ
38	155	B-5 G-7 G-8	鉢	底部	縦方向の楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の淡橙、灰白の砂粒。	Ⅷ 黒変
38	156		鉢	底部	楕円押型文 ナデ	ナデ	橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄褐	良好	3ミリ以下の灰白の砂粒、1ミリ以下の黒色、半透明の砂粒。	Ⅷ 粘土のつなぎあり
38	157	E-10	深鉢	底部	楕円押型文 ナデ	不明	にぶい黄橙	にぶい黄	良好	2ミリ以下の乳白色の粒、2ミリ以下の灰白色の粒。	Ⅷ
38	158	E-9	鉢	底部	楕円押型文 ナデ	ナデ	橙	橙	良好	3ミリ以下の黄褐色の砂粒、2ミリ以下の光る半透明の黄白色の砂粒。	Ⅷ
38	159	E-5	甕？	底部	底部ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	良好	3.2ミリ以下の白色、褐色、赤茶色の砂粒、1.6ミリ以下の金色の砂粒。	Ⅷ
38	160	F-6	深鉢	底部	楕円押型文 ナデ	不明	にぶい黄褐	にぶい褐	良好	3ミリ以下の乳白色の粒、2ミリ以下の金色に光る粒。	Ⅷ
38	161	C-6 D-7	鉢	底部	楕円押型文 ナデ	粗いナデ	暗灰黄	灰黄	良好	2ミリ以下の淡橙の砂粒、半透明、黒色、金色の光沢粒。	Ⅷ
38	162	E-6	深鉢	底部	楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の乳白色の砂粒。	Ⅷ

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（7）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
38	163	E-6 F-6	鉢	底部	楕円押型文 丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐 暗灰黄	良好	2ミリ以下の半透明、淡橙の砂粒。黒、金色の光沢粒。	Ⅷ
38	164	E-3 K-7	深鉢	底部	横方向楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙 橙	黒褐 にぶい黄橙	良好	1ミリ以下の乳白色、黒色の微細粒。	Ⅷ
38	165	F-11	深鉢	底部	斜・横方向の山形押型文 ナデ	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1ミリ以下黒色透明砂粒、1ミリ以下軟質茶色砂粒、2ミリ以下黒くて光る砂粒、0.5ミリ〜2.5ミリ茶色砂粒、6ミリ以下灰白色砂粒。	Ⅷ
38	166	D-6	深鉢	底部	刺突文 横方向の沈線文	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	良好	3ミリ以下の灰白色の粒、3ミリ以下の黒色の粒。	Ⅷ 一部スス付着
38	167	I-9	深鉢	底部	楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	1〜2ミリ程度の黄白、黄金色、2〜3ミリ程度の灰色、半透明の砂粒。	Ⅷ
38	168	D-5	深鉢	底部	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 浅黄	浅黄 黄灰	良好	1ミリ以下の灰白、黒色粒。	Ⅷ 粘土の継ぎ目あり
39	169	G-5 K-9	壺	口縁部	口唇部ナデ下位にナデ上に沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	良好	2ミリ以下の光る黒色粒、白色の粒。	Ⅸ類
39	170	I-9	壺	口縁部	口唇部丁寧なナデ下位ナデ上に沈線文	丁寧なナデ	橙	橙	良好	1ミリ以下の光る黒色粒。	Ⅸ類
39	171	E-8	深鉢	口縁部	口唇部ナデ下位に沈線文	横ナデ	橙	にぶい橙	良好	黒色、灰色、褐色、乳白色0.5ミリ以下砂粒と柱状の黒色光沢粒、ガラス質の透明光沢粒及び1.5ミリ〜2ミリ大の赤茶色の砂粒。	Ⅸ類
39	172	B-4 C-4 C-5 K-7	深鉢	口縁部	口唇部へら状工具による羽状の刻み下位横ナデ上部に横方向に浅い沈線文	押圧 横ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙	良好	微細〜1.8ミリのガラス様に光る砂粒、0.2ミリ〜2.3ミリの砂粒。	Ⅸ類
39	173	D-9	深鉢	口縁部	口唇部ヘラ状工具による羽状の刻み下位横ナデその下位に沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下のガラス質の粒、2ミリ以下の柱状黒色光沢粒。	Ⅸ類 波状口縁
39	174	C-4 C-5	深鉢	口縁部	口唇部ヘラ状工具による羽状の刻み下位横ナデ上部に横方向の浅い沈線文	横ナデ	にぶい橙	にぶい橙 灰褐	良好	微細〜1.0ミリのガラス様の光る砂粒、0.2ミリ〜2.0ミリの灰白色の砂粒。	Ⅸ類 波状口縁
39	175		深鉢	口縁部	ヘラ状工具による羽状の刻み 横ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	5ミリ大の黒色の光る砂粒、1.5ミリ以下の灰白、淡黄色、黒くて光る砂粒。	Ⅸ類 継ぎ目あり
39	176	A-1 C-6 D-1 H-7	深鉢	口縁部	口唇部羽状の刻み・口縁部横方向の浅い沈線文その下位に一部縦方向の網目状撚糸文	横ナデ	にぶい黄橙 灰黄	にぶい黄橙 灰黄	良好	2.5ミリ以下の軟質な淡黄色の砂粒、1ミリ以下の黒くて光る、無色透明で光る砂粒。	Ⅸ類
39	177	A-1	深鉢	口縁部	口唇部斜方向の浅い刻み下位 横ナデその下位に横方向の沈線	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	良好	1ミリ以下の淡黄色、黒くて光る、無色透明で光る砂粒。	Ⅸ類
39	178	A-3 B-3	深鉢	口縁部	口唇部押圧刻み下位に撚糸文 その下位に横方向沈線文	ナデ	橙	橙	良好	5ミリ以下の灰黄色の粒、2ミリ以下の柱状黒色光沢粒。	Ⅸ類
39	179	D-7	深鉢	口縁部	口唇部羽状の押圧刻み・口縁部縦方向に撚糸文下位に棒状工具による深い沈線文	横ナデ	橙	橙	良好	3ミリ以下の灰白色の粒、3ミリ以下の黒色の粒、2ミリ以下の柱状黒色光沢粒。	Ⅸ類 中央にスス付着
39	180	D-8	深鉢	胴部	縦ナデ 縦方向の網目状撚糸文 横方向の沈線文	横ナデ	にぶい黄橙	橙	良好	2ミリ以下の柱状黒色光沢粒、2ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅸ類
39	181	D-4	深鉢	胴部	網目状撚糸文・ナデ 棒状工具による浅い沈線 部分的にナデ消し	斜方向ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	0.1ミリ〜1.2ミリの灰白色の砂粒。	Ⅸ類・ねずみのかじり痕スス付着
40	182	D-4 D-6 H-5	鉢	胴部	撚糸文 横方向の沈線文 縦方向の網目状撚糸文	斜方向のナデ	にぶい黄橙	浅黄	良好	1ミリ以下の白、黒の砂粒。	Ⅸ類
40	183	H-10	深鉢	胴部	横方向の沈線・横ナデ 縦方向の帯状の網目状撚糸文	横ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙 橙	良好	0.1ミリ〜0.8ミリの灰白色の砂粒、微細〜2.2ミリのガラス質の砂粒。	Ⅸ類 一部スス付着
40	184	C-4	深鉢	胴部	縦ナデ 縦方向の網目状撚糸文 浅い沈線文	ナデ	橙	橙	良好	2ミリ以下の柱状黒色光沢粒、2ミリ以下のガラス質の粒。	Ⅸ類
40	185	B-1 B-4	深鉢	胴部	ナデ 縦方向の連続撚糸文 横方向の沈線文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい橙	良好	0.1ミリ〜2.8ミリの灰白色の砂粒、0.3ミリ〜0.9ミリのガラス質の砂粒。	Ⅸ類
40	186	A-1 F-4	深鉢	口縁部	縦・横規則的に並んだ突起物を有するもので斜方向に回転させた文様	斜方向のケズリ 横ナデ	にぶい黄	オリーブ黒 にぶい黄橙	良好	1.5ミリ以下の淡黄色の砂粒、2ミリ以下の淡黄色でガラス質の砂粒、1ミリ以下の赤茶色、金色に光る黒い砂粒。	Ⅹ
40	187	C-6 G-7	深鉢	口縁部	口唇部押圧刻み下位横ナデ	刻み ナデ	橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下のガラス質の粒、1ミリ以下の黒色光沢の粒。	Ⅹ
40	188	F-6	深鉢	口縁部	口唇部横方向刻み文下位ナデ	縦方向刻み文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 橙	良好	1ミリ以下の乳白色の粒。	Ⅹ
40	189	B-1 C-2	鉢	口縁部	口唇部工具による連続刺突文	粗い横ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の乳白色の砂粒。1．5ミリ以下の金雲母。	Ⅹ
40	190	B-6 K-7	深鉢	口縁部	口唇部丁寧なナデ下位に条痕文その上に竹管状工具の連続刺突文	横ナデ	浅黄	にぶい黄	良好	1ミリ以下の光る粒、1ミリ以下の灰白色の砂粒。	Ⅹ

表 4　杉木原遺跡　縄文時代（早期）の遺物観察表（8）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
40	191	D-6	深鉢	口縁部	ナデ口縁上部に爪で押したような跡あり	ナデ	明灰黄	橙	良好	1ミリ以下の柱状黒色光沢の粒。	X
40	192	D-5	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位に縦方向の撚糸文	横方向の粗いヘラミガキ 斜方向の粗いヘラミガキ	橙 にぶい黄橙	橙 灰黄	良好	1.5ミリ以下の褐色の砂粒、1ミリ以下の無色透明で光る砂粒。	X
40	193	L-8	深鉢	口縁部	口唇部横ナデ下位横方向のヘラミガキ	横ナデ 横方向のケズリ状ナデ	にぶい橙	暗灰黄	良好	1ミリ以下の褐色粒、白色粒、黒色粒、1.5ミリ以下の金色、光沢粒と磨りガラス様の粒。	X 一部スス付着
40	194	H-7	深鉢	口縁部	ナデ	櫛状工具による横方向の条痕文ナデ	浅黄	浅黄橙	良好	2ミリ以下のガラス質の粒。	X
40	195		深鉢	胴部	櫛状工具によるナデ 斜方向の連続刺突文	横ナデ	にぶい黄橙	灰黄	良好	0.5ミリ〜1.1ミリの灰白色の砂粒、微細〜0.8ミリの黒灰色の砂粒。	X
40	196	K-7	鉢	胴部	櫛状工具による縦方向条痕文 沈線文	横ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の白色の粒。	X
40	197	H-11	深鉢	胴部	ナデ 横方向の貝殻腹縁刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	微細〜2.8ミリの灰白色の砂粒、微細〜0.8ミリの黒色に光る砂粒。	X
41	198	F-7	深鉢	底部	ナデ	ナデ(黒斑あり)	明黄褐	灰	良好	2ミリ以下の乳白色の粒、3ミリ以下の黒色の粒、2ミリ以下のガラス質の粒。	一部スス付着 黒斑あり
41	199	E-10	深鉢	底部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の乳白色の砂粒。	
41	200	E-9	深鉢	底部	縦方向の丁寧なナデかミガキ	粗いナデ	にぶい黄橙 褐灰	暗灰黄	良好	1ミリ以下灰白色砂粒、3ミリ〜1ミリガラス質粒、3.5ミリ以下黒褐色粒、3.5ミリ以下赤灰色粒、1.5ミリ以下長方形の黒く光る粒。	
41	201	I-9	深鉢	底部	丁寧なナデ	ナデ	にぶい橙	橙	良好	1ミリ以下の灰白色の粒、1ミリ以下のガラス状の粒、0.5ミリ以下の金色に光る粒。	
41	202	F-6	深鉢	底部	ナデ	丁寧なナデ	淡黄 褐灰	灰黄	良好	1ミリ以下のガラス状の粒、1ミリ以下の灰白色、黒い粒。	
41	203	I-8	深鉢	底部	ナデ	ナデ	にぶい橙	褐灰	良好	0.5ミリ以下の灰白の粒。	
41	204	L-9	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	3ミリ以下の白色、褐色、赤茶色、光る黒色、褐色の砂粒。	一部にスス付着
41	205	F-7	深鉢	底部	不明	不明	橙	暗黄褐	良好	2.5ミリ以下の褐色、生成色の砂粒、1.5ミリ以下の黒色、光る無色の砂粒。	
41	206	F-9	深鉢	底部	指頭によるナデか？	不明	灰黄褐 黄灰	にぶい褐 暗灰黄	良好	2.5ミリ以下のガラス質で灰白色、金色に光る砂粒、2ミリ以下の淡黄色の砂粒。	炭化物わずかに付着 粘土の継ぎ目あり
41	207	G-7	鉢	底部	ナデ	ナデ	浅黄	淡黄	良好	1ミリ以下の白色の粒。	一部スス付着
41	208	D-5	深鉢	底部	ナデ 斜方向の条痕あり	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	良好	2ミリ以下の灰白色の粒、1.5ミリの黒褐色の粒。	
41	209	E-10	鉢	底部	ナデ・指押さえ痕あり	ナデ	にぶい橙	橙	良好	5ミリ以下の灰色、白色、黒色の粒。	
41	210	J-7	鉢	胴底部	ナデ・指押さえ痕あり	ナデ・指押さえ痕あり	にぶい黄	にぶい黄	良好	3ミリ以下の白色の粒。	

註　土器の色調については、標準土色帳によるが色相明度/彩度については省略した。

があり、その下位に縦方向に楕円押型文が施文されている。内面は無文である。７０は外面に横方向の山形押型文を施文し、内面は無文で一部斜方向の指頭によるナデが見られる。７１は外面は縦方向、内面端部に横方向の粗大で密な楕円押型文が施文されている。７２は外面・内面とも楕円押型文で、外面上部に無文帯がある。口唇部にも横方向の楕円押型文がある。７３は内面が無文の楕円押型文土器で風化が激しい。

Ⅷｂ類

口縁部が外反し内面の施文帯の下部はナデ調整の土器。口縁部内面上部の文様の特色よりⅡｂ１・Ⅱｂ２の２類に分けた。

Ⅷｂ１類（第３２図－７４～８０）

口縁内面端部に原体条痕（平行沈線文）があるものをいう。口縁外面端部に幅の狭い無文帯があるもの（７４・７５・７６・７８・７９・８０）が多い。また、押型文土器では珍しい波状口縁の土器がある（７５・７６）。おそらく器形の特色から（７４）も同じといえる。口唇部は舌状のものが多く（７５・７８・７９・８０）、器壁もうすい。内面の原体条痕は、口縁内面端部に縦に同じ太さの原体で１列施文しているもの（７４・７５・７６）、口唇部内面端部から口縁内面端部にかけて２列原体を施文しているもの（７８・７９・８０）、太さの違う原体で口縁内面端部に平行押型文を施文しているもの（７７）がある。また、（７８・７９・８０）は原体条痕の下部は無文であり、それ以外は横方向の押型文が施文されている。

Ⅷｂ２類（第３３図－８１～９９）（第３４　図－１００～１０６）

口縁内面端部に原体条痕（平行沈線文）がないものをいう。外面が縦方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の狭い横方向の押型文が施文されているタイプ（８１～８９）、外面が斜方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の狭い横方向の押型文が施文されているタイプ（９０～９２）、外面が斜方向の押型文で、内面は口縁端部に幅の広い横方向の押型文が施文されているタイプ（９３～９９）、口唇部がナデで穿孔のあるタイプ（１００）、外面が無文のタイプ（１０１～１０３）、外面・内面とも横方向の押型文のタイプ（１０４・１０５）、外面が横方向の押型文、内面が無文のタイプ（１０６）がある。口唇部は１００・１０６がナデの他は横方向の押型文が施文されている。また、８３は口径１８ｃｍの深鉢で波状口縁である。

Ⅷｃ類

この遺跡の押型文土器のなかで注目すべき土器群である。口縁部が外反し、口縁内面端部の施文帯と無文帯の境がケズリによって稜をなすものをいう。施文の特徴からⅧｃ１・Ⅷｃ２・Ⅷｃ３の３つに分類した。

Ⅷｃ１類（第３４図－１０７～１１０）

口唇部に刻みや押圧文のあるタイプ。外面は縦方向の楕円押型文、内面は横方向の楕円押型文で口唇部に縦方向の原体条痕（平行沈線文）があるタイプ（１０７）、外面は縦方向の山形押型文、内面は横方向の山形押型文、口唇部に斜方向の押圧文があるタイプ（１０８～１１０）がある。

Ⅷｃ２類（第３４図－１１１～１１２）（第３５図－１１３～１２６）

外面・内面に押型文が施文され、口唇部は平縁で外傾し厚みのあるタイプ（１１１～１２０）、

口唇部が舌状になっているタイプ（１２１～１２６）がある。

Ⅷｃ３類（第３６図－１２７～１３８）

外面の押型文の施文が帯状に鋸歯状・斜方向・横方向に施文されており（１２７～１３６）、口縁内面端部にヘラ状工具による刺突文（１２８・１３０・１３１・１３４）があるタイプのものがある。また、１３７は、波状口縁で外面の風化が激しく文様が明確でないが、特殊なタイプということでこの類に入れた。１３８も同様でくの字形口縁の特徴でこの類に入れた。

Ⅷ類胴部（第３７図－１３９～１５２）

Ⅷ類底部（第３８図－１５３～１６８）

（１６８）は潰れたような歪な形の丸底であり、それ以外はすべて平底である。

Ⅸ類（第３９図－１６９～１８１）（第４０図－１８２～１８５）

器形は円筒形の胴部のうえに「く」の字状に口縁部が外反する。口唇部にはヘラ状工具による斜方向や羽状の刻みがある。口縁部・胴部に横方向の浅い沈線文が巡らされ、縦方向の網目状撚糸文や撚糸文が施文されている（１７２～１８５）。また、壺形土器もあり（１６９～１７１）口縁部に横方向沈線や横方向沈線と半円つなぎ文が巡らされている。

Ｘ類（第４０図－１８６～１９７）

これまでに分類したもの以外に時期や類別の判別が困難なものをこの類に集めた。１８６は口縁部が外反し肥厚化している。外面・内面端部・口唇部に縦・横規則的に並んだ突起物を有する工具で斜方向に回転施文したものである。１８７は口縁部が外反し口唇部は外傾し、やや深い押圧刻みがあり口縁内面上端にヘラ状工具による不揃いの横方向の刺突文がある。外面は、横ナデの無文である。１８８は口縁部が外反し口唇部は外傾し横方向の刻みがあり、口縁内面上端に原体条痕（平行沈線文）が二列巡らされている。外面は無文でナデ調整である。１８９は円筒形の無文土器であるが、口唇部は外傾し工具による連続刺突文がある。調整が粗雑で口唇外面端部がところどころせりだしている。１９０は器形が円筒形で口縁上部は肥厚化している。外面には条痕文が施文され口縁上部に竹管状工具による連続刺突文がある。内面は横ナデである。１９１は無文土器である。口唇外面端部の下位に爪で押圧した跡がある。１９２は円筒形の撚糸文系土器である。口縁外面端部に幅の狭い無文帯がある。１９３は無文土器である。外面は横方向のヘラ磨きである。１９４は円筒形の土器で波状口縁である。口縁部上端が肥厚している。口唇部から口縁部内面上端にかけて櫛歯状工具による横方向の条痕文がある。外面は無文である。１９５は外面に櫛歯状工具による斜方向の連続刺突文がある。１９６は外面に櫛歯状工具による縦方向の条痕文の後に横方向の沈線文を施文している。１９７は外面に貝殻腹縁でロッキングしながら刺突文を施文している。

底部（第４１図－１９８～２１０）

（２０５）は上げ底である。それ以外は平底である。（２０９・２１０）には指頭痕がある。（２１０）はミニチュア土器である。

石器

杉木原遺跡での早期の石器の総数は６３０点を数える。内訳は石鏃が１２０点・スクレイパーが３２点・磨石７９点・タタキ石４３点・凹石２点・石皿８点・縦長剥片１３点・剥片等（チップも

含む。）が３３３点ほど出土している。出土層位は、Ⅳ層からⅤ層上部である。また、この層と同じ層から集石遺構４２基を検出しており、本遺跡の主要包含層でもある。この集石遺構の時期差については、集石遺構内の遺物が乏しく層的に同じ層で検出されたので、特定できなかった。

石鏃（第４４～４６図）

杉木原遺跡から出土した石鏃の総数は１２０点である。石器組成に占める割合は１９％である。ここでは形態等を考慮し、４類に分類した。

Ⅰ－a類（１～５）

二等辺三角形を呈する平基のものである。資料数は、１２点でそのうち５点を実測している。形状では、２～５のように左右対称をなすものと、１のように左右対称をなさずやや右上がりに作りだされたものとがある。

Ⅰ－b類（６～１２）

全体形が二等辺三角形を呈する浅い抉りの凹基のものである。資料数は１９点でそのうち７点を実測している。形状では、最大幅が石器の基部にあるもの（６～１１）とやや基部の上にあるものがある。（１２）

Ⅰ－c類（１３～２１）

全体形が二等辺三角形を呈するU字状の抉りの凹基である。資料数は１８点でそのうち９点を実測している。形状では基部末端が平坦のもの（１４・１５・１６・１７）基部末端がやや尖るもの（１８）基部末端が丸みを持つもの（１３・１９～２１）などがある。

Ⅰ－d類（２２～２３）

全体形が二等辺三角形を呈するV字状の抉りをもつ凹基である。資料数は２点である。
形状は、２２は全体的に小さくV字状に抉りを施して基部を作り出している。２３は２２よりも抉りがやや深い。

Ⅱ－a類（２４～２７）

全体形が正三角形を呈する平基のものである。資料数は１４点でそのうち４点を実測している。形状は両側縁とも直線的に作り出されているが急速にすぼまる形でつくりだされている。また、２５・２６は、先端部が欠損している。

Ⅱ－b類（２８）

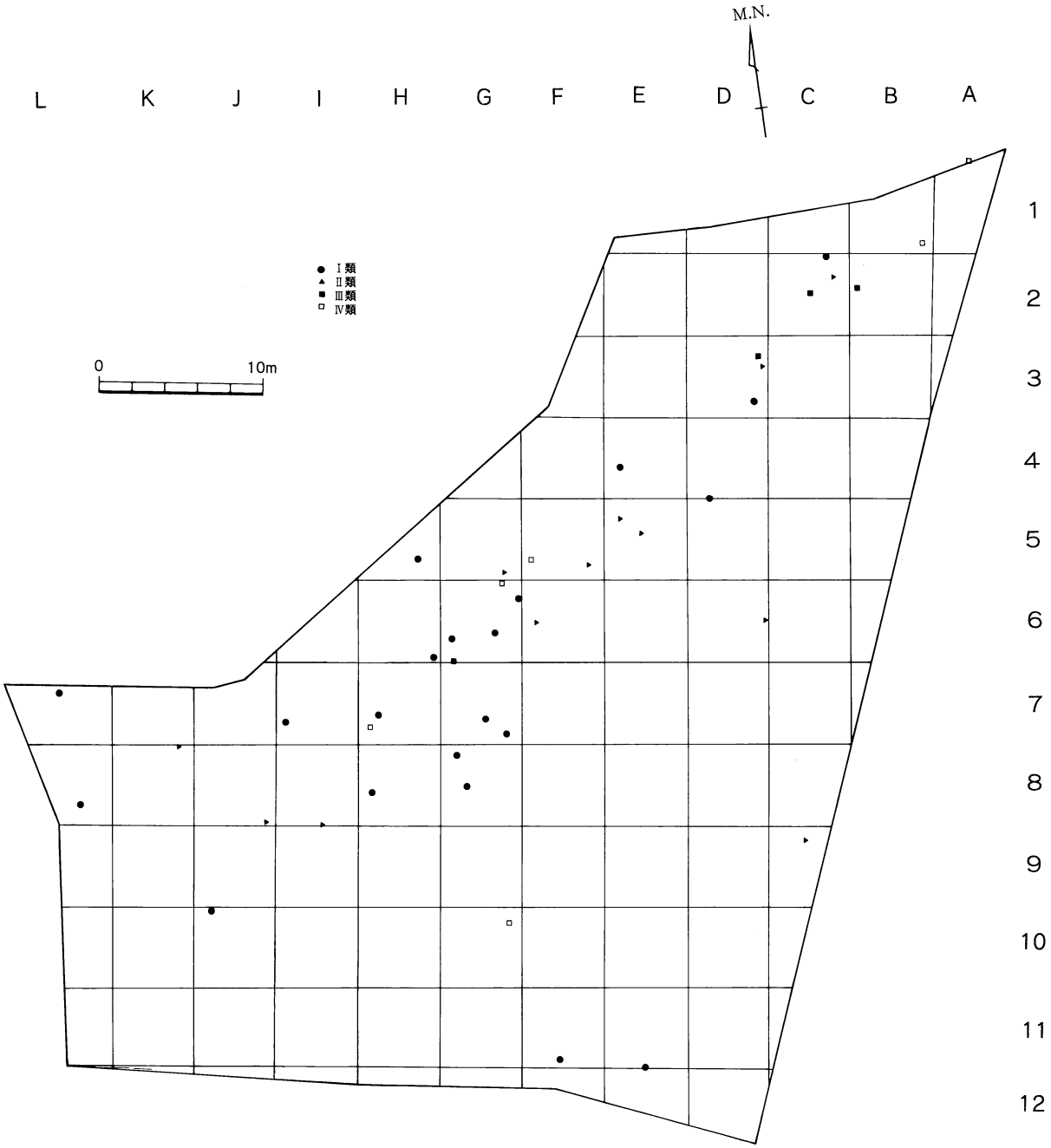
全体形が正三角形を呈する浅い抉りの凹基である。資料数は、５点でそのうち１点を実測した。形状は基部の先端が丸みを持っている。

Ⅱ－c類（２９～３５）

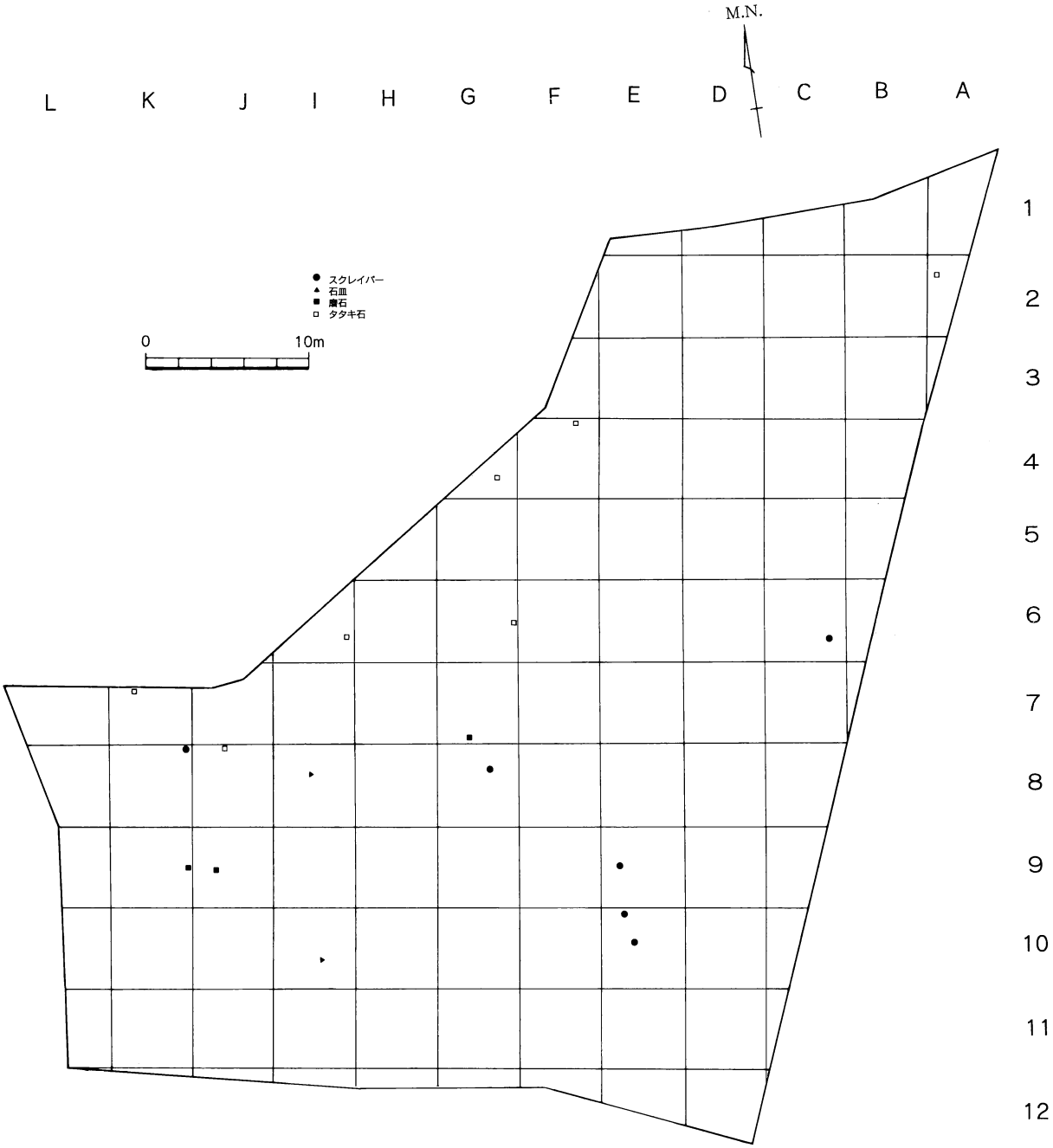
全体形が正三角形を呈するU字状に抉りをもつ凹基である。資料数は、１２点でそのうち７点を実測している。形状は、基部末端が平坦なもの（２９・３０）・基部末端が丸みをもつもの（３１～３５）などがある。

Ⅱ－d類（３６～３７）

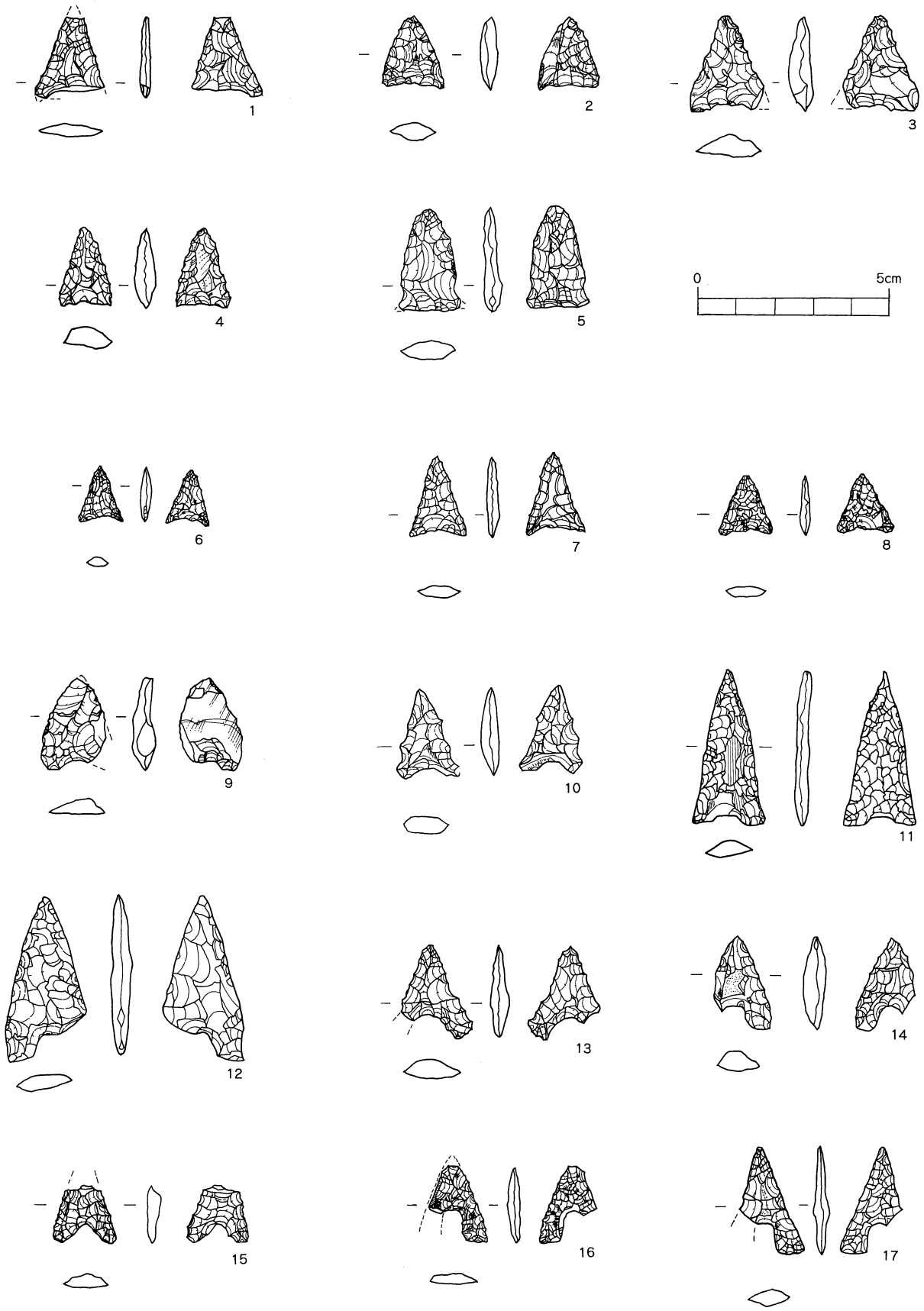
全体形が正三角形を呈するV字状に抉りを持つ凹基である。資料数は、２点である。
形状は３６・３７の基部末端が平坦である。



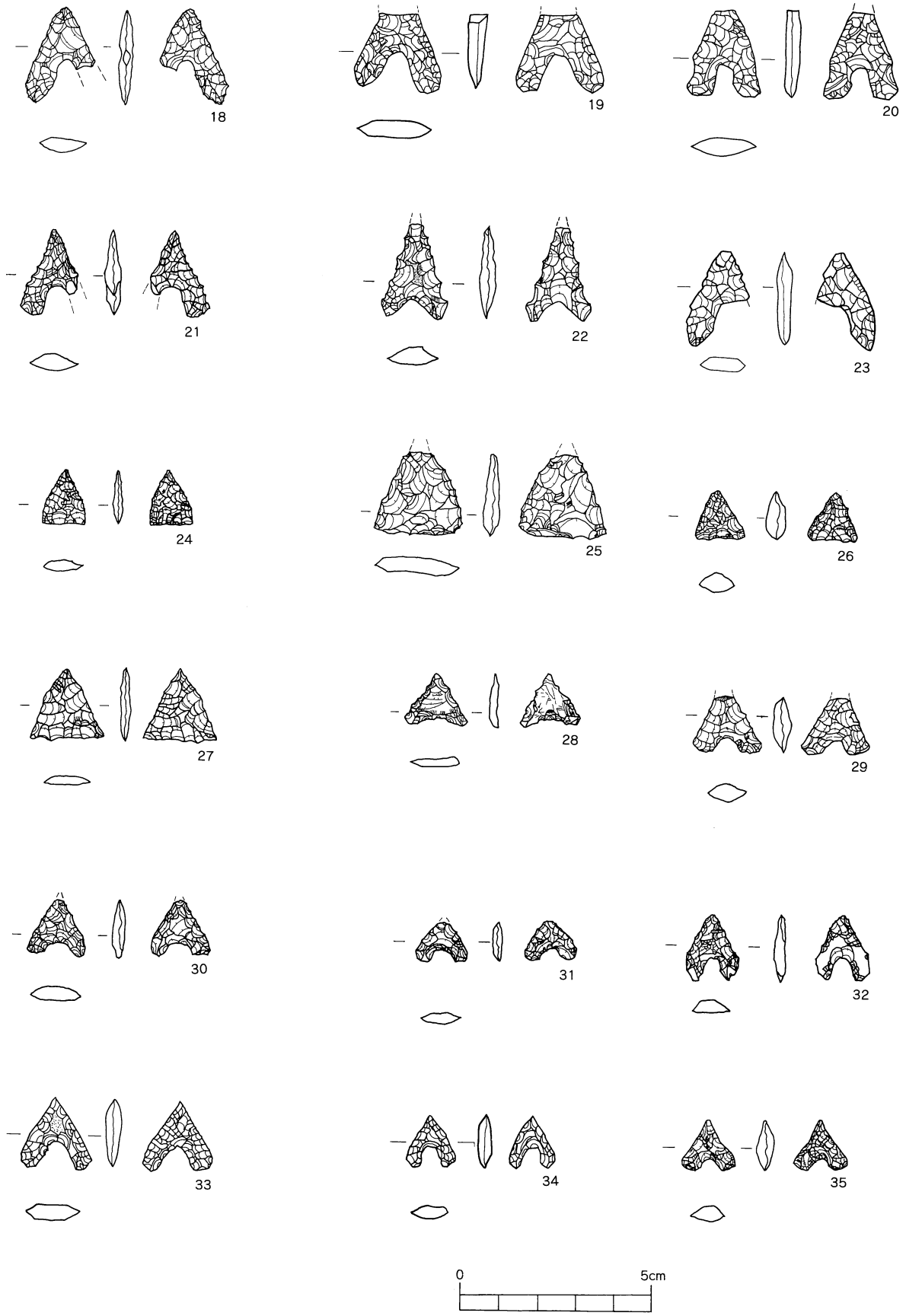
第42図　　杉木原遺跡　縄文石鏃分布図（1/400）



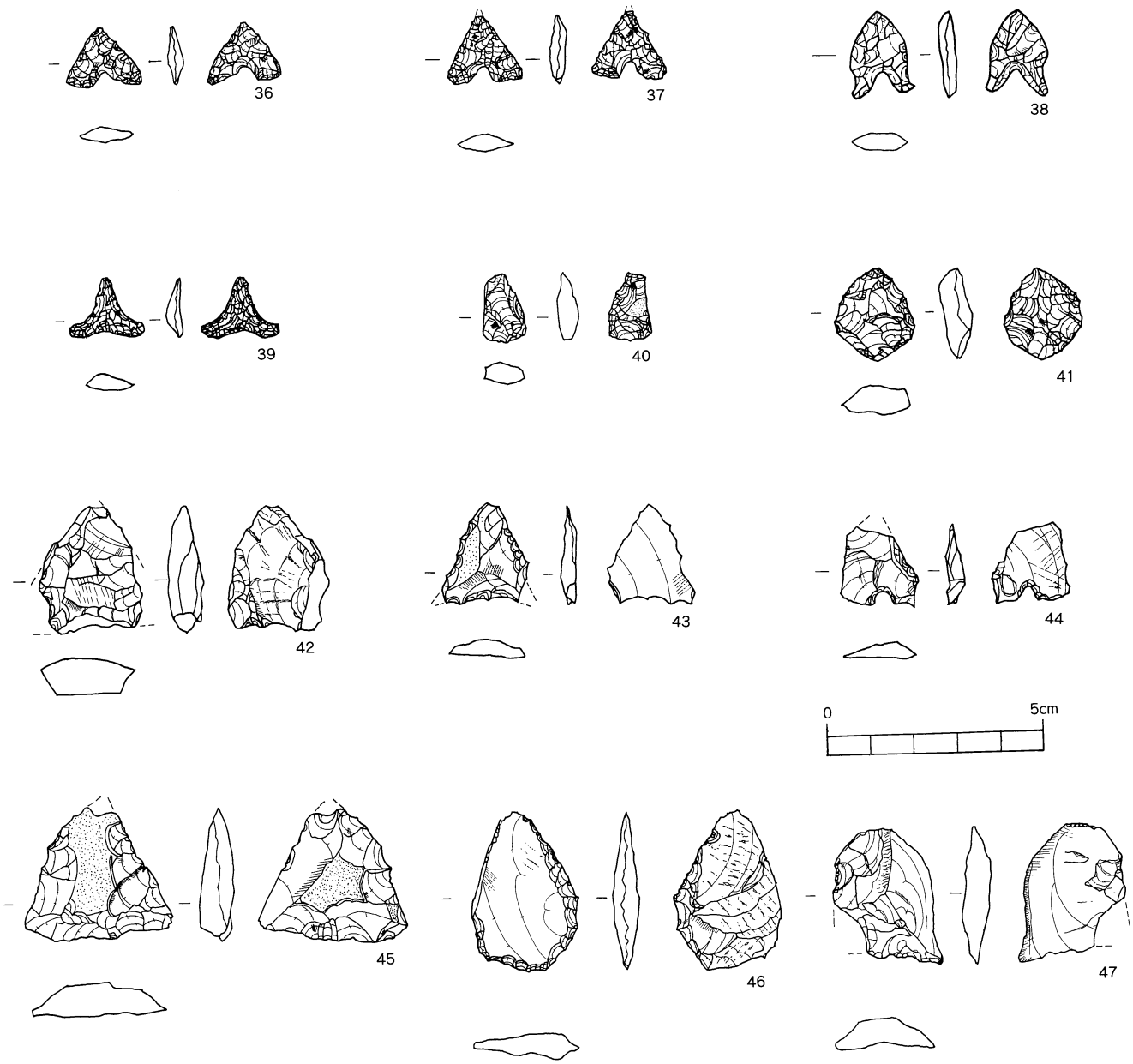
第43図　杉木原遺跡　縄文石器分布図（1/400）



第44図　杉木原遺跡　縄文石器実測図（1）(2/3)



第45図　杉木原遺跡　縄文石器実測図（2）（2/3）



第46図　杉木原遺跡　縄文石器実測図（3）（2/3）

Ⅲ類ー異形鏃に属するもの。（３８～３９）

全体形が１・２類に分類した二等辺三角形や正三角形を呈さない、異形のものである。３８は、最大幅が中央にあるもので基部末端が尖っている。３９は、基部先端が外半しているのが特徴である。資料数は２点である。

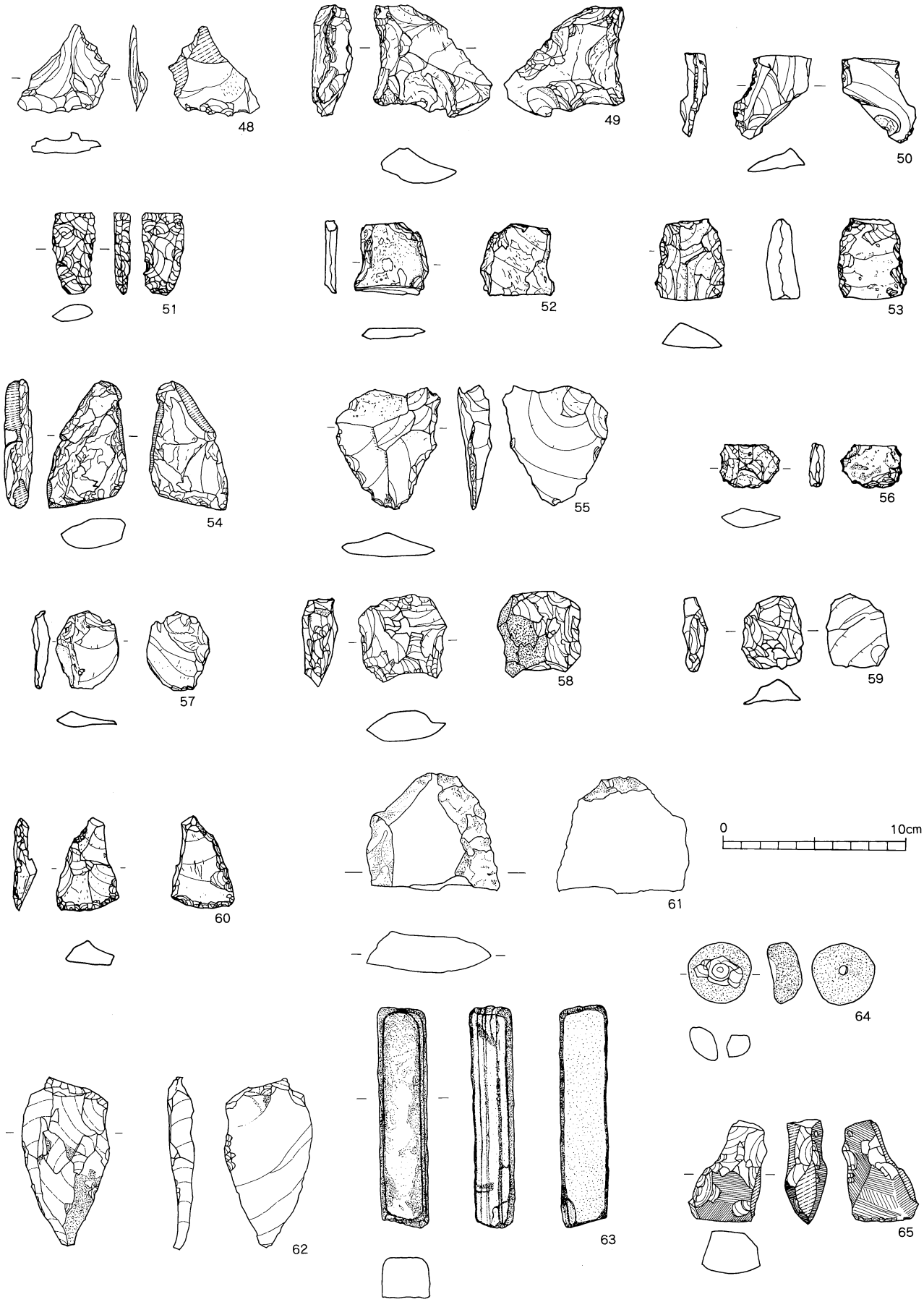
Ⅳ類ー未製品に属するもの（４０～４７）

未製品を一括してⅣ類とした。資料数は、３４点である。そのうち８点を実測した。

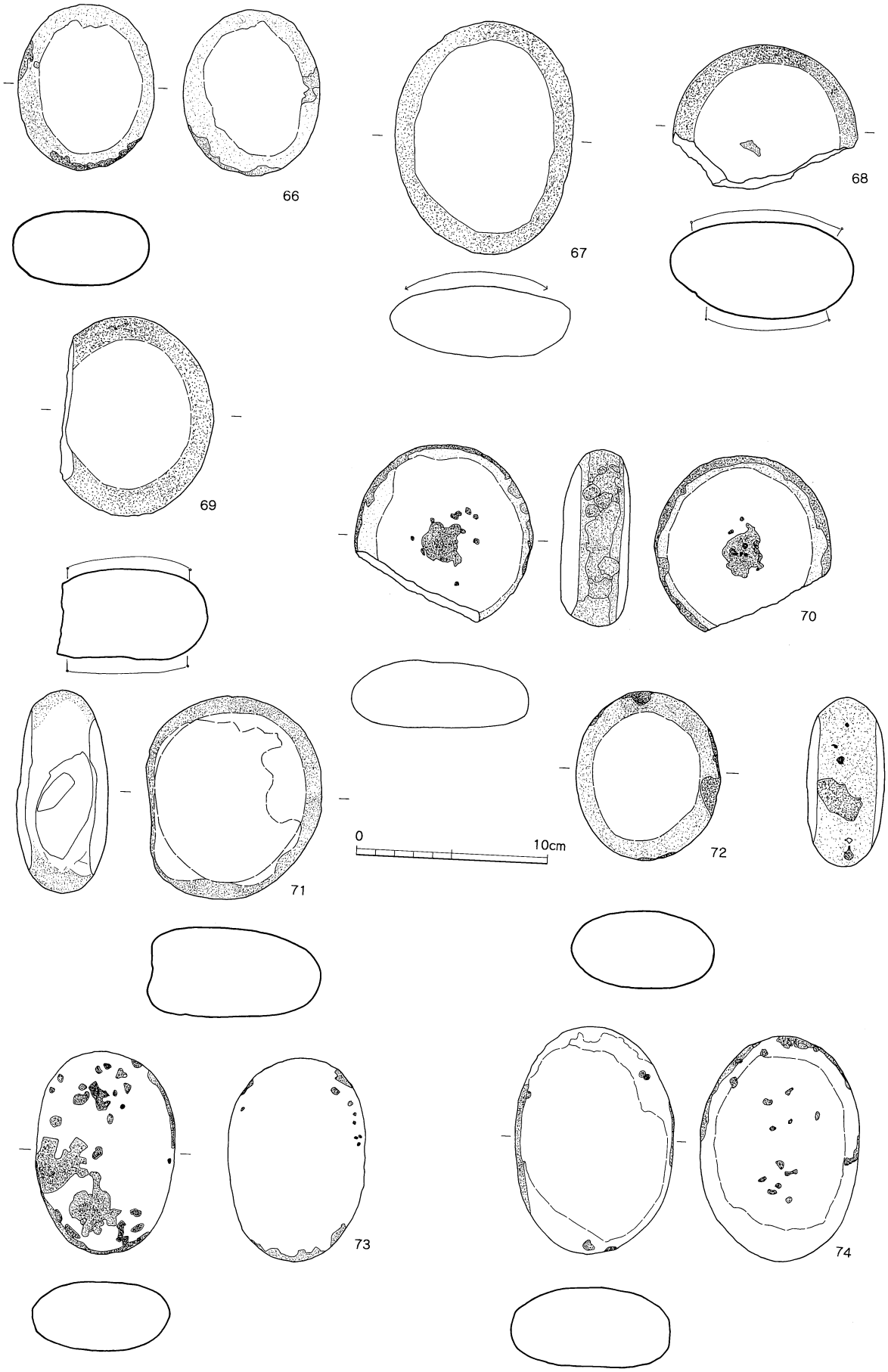
スクレイパー（第４７図４８～６１）

早期のスクレイパーは、全部で３２点検出している。そのうち１４点ほど実測した。その石器組成に占める割合は５％であった。ここでは、形態等を考慮し三類に分類した。

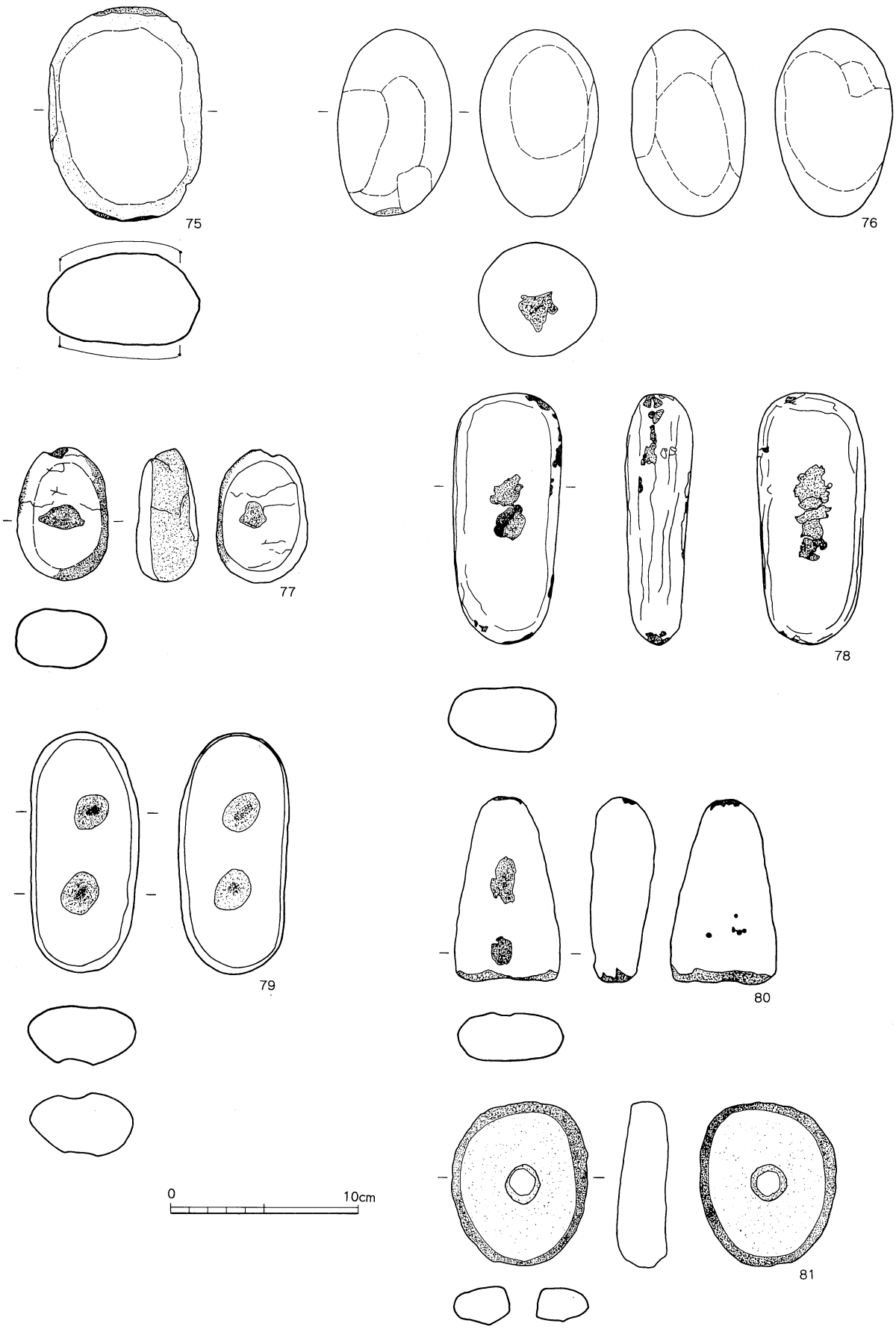
Ⅰ類ー剥片の側縁に、縁辺が長さの二分の一以上に連続的な調整によって刃部を作り出したもの。（４８～５５）総数１９



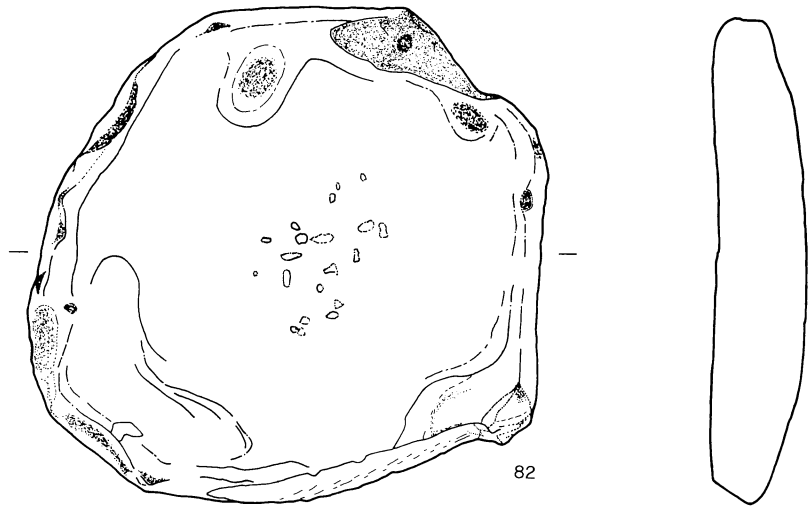
第47図　　杉木原遺跡　縄文石器実測図（4）

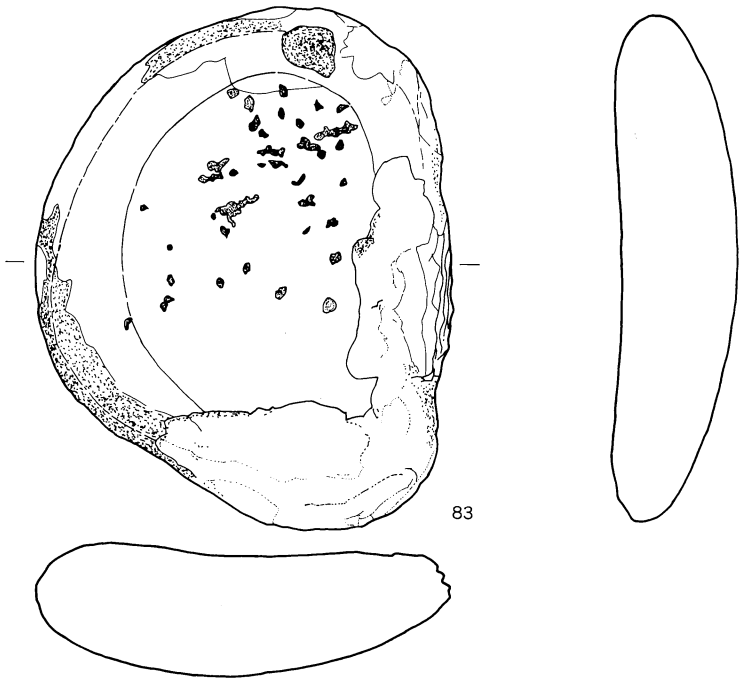


第48図　　杉木原遺跡　縄文石器実測図（5）

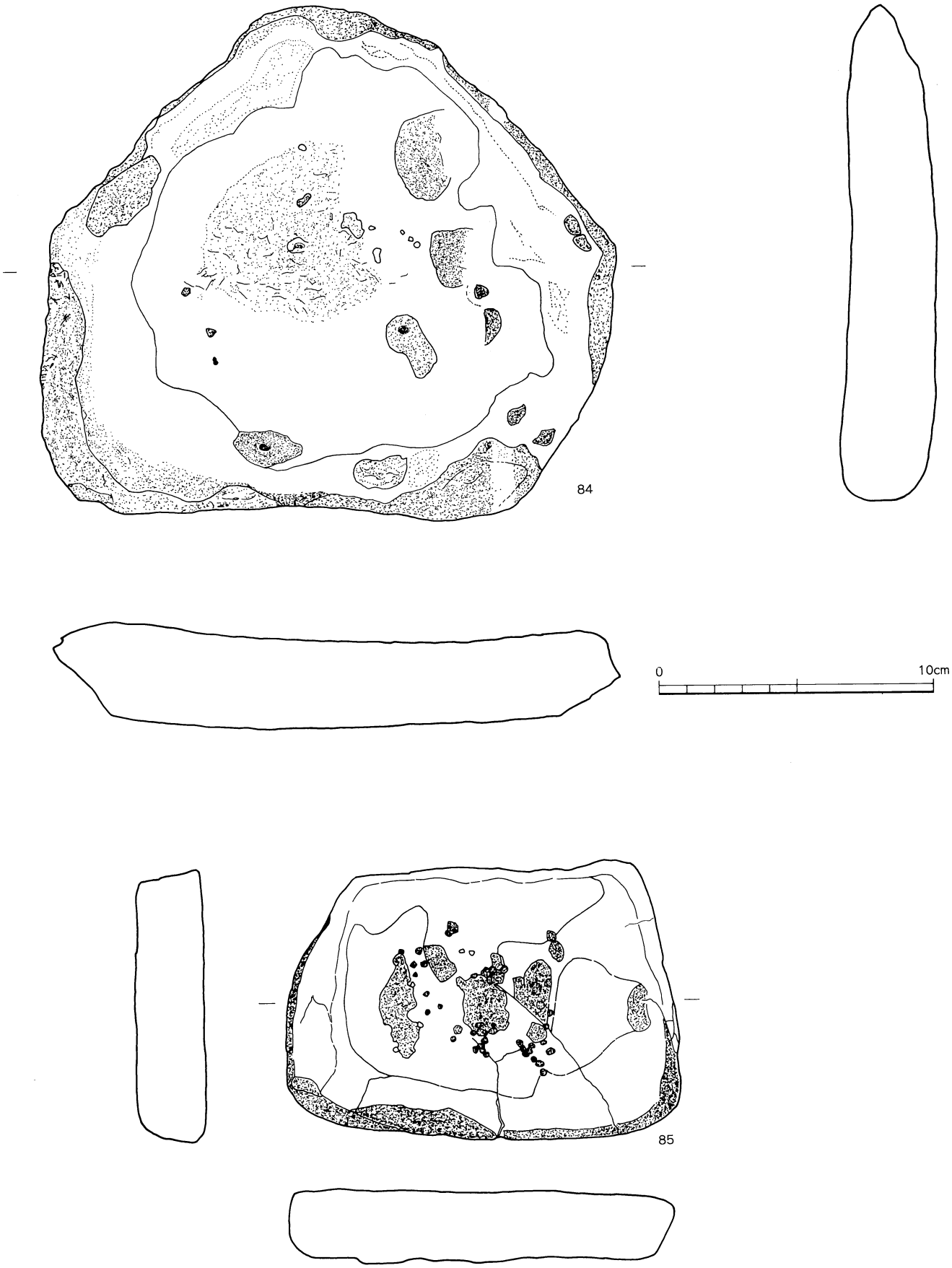


第49図　　杉木原遺跡　縄文石器実測図（6）





第50図　杉木原遺跡　縄文石器実測図（7）（1/3）



第51図　杉木原遺跡　縄文石器実測図（8）（2/3）

表　5　杉木原遺跡　縄文石器計測表（1）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
44	1	G－6	石鏃	2.605	1.796	0.286	0.8	頁岩	Ⅰ－a
44	2	D－3	石鏃	1.904	1.599	0.454	0.9	黒曜石	Ⅰ－a
44	3	H－6	石鏃	24.300	19.550	5.900	1.9	頁岩	Ⅰ－a
44	4	G－6	石鏃	2.056	1.386	5.300	1.3	頁岩	Ⅰ－a
44	5	C－2	石鏃	2.682	1.508	0.462	1.9	チャート	Ⅰ－a
44	6	H－7	石鏃	1.424	1.136	0.275	0.3	黒曜石	Ⅰ－b
44	7	L－8	石鏃	2.101	1.525	5.300	1.3	頁岩	Ⅰ－b
44	8	G－7	石鏃	1.150	1.474	0.282	0.4	黒曜石	Ⅰ－b
44	9	K－8	石鏃	2.393	1.800	0.624	2.1	チャート	Ⅰ－b
44	10	C－2	石鏃	2.424	1.658	0.442	1.1	頁岩	Ⅰ－b
44	11	G－7	局部磨製石鏃	4.020	1.940	0.470	2.8	頁岩	Ⅰ－b
44	12	F－9	石鏃	4.294	1.828	0.452	2.5	頁岩	Ⅰ－b
44	13	G－8	石鏃	2.415	1.853	0.469	1.1	黒曜石	Ⅰ－c
44	14	D－4	石鏃	2.404	1.322	0.573	1.4	頁岩	Ⅰ－c
44	15	E－3	石鏃	1.508	1.623	0.348	0.5	黒曜石	Ⅰ－c
44	16	H－5	石鏃	1.950	1.250	0.350	0.7	チャート	Ⅰ－c
44	17	G－7	石鏃	2.793	1.178	0.409	0.9	チャート	Ⅰ－c
44	18	H－8	石鏃	2.478	1.746	0.331	0.8	黒曜石	Ⅰ－c
45	19	G－6	石鏃	2.176	2.246	0.455	1.7	チャート	Ⅰ－c
45	20	E-11	石鏃	2.209	1.234	0.406	1.4	チャート	Ⅰ－c
45	21	J-10	石鏃	2.208	1.385	0.431	0.8	チャート	Ⅰ－c
45	22	G－8	石鏃	2.435	1.658	0.442	1.1	頁岩	Ⅰ－d
45	23	I－7	石鏃	2.637	1.315	0.343	0.8	黒曜石	Ⅰ－d
45	24	一括	石鏃	1.391	1.120	0.228	0.2	黒曜石	Ⅱ－a
45	25	C－2	石鏃	1.893	1.869	0.264	0.6	黒曜石	Ⅱ－a
45	26	D－3	石鏃	1.281	1.290	0.501	0.5	頁岩	Ⅱ－a
45	27	G－5	石鏃	1.424	1.789	0.485	0.8	頁岩	Ⅱ－a
45	28	J－8	石鏃	2.181	2.274	0.442	2.2	頁岩	Ⅱ－b
45	29	B－2	石鏃	1.400	1.600	0.200	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
45	30	D－6	石鏃	1.502	1.519	0.318	0.5	頁岩	Ⅱ－c
45	31	E－5	石鏃	1.010	1.332	0.224	0.2	頁岩	Ⅱ－c
45	32	F-11	石鏃	1.712	1.352	0.303	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
45	33	L－7	石鏃	1.856	1.773	0.354	0.6	黒曜石	Ⅱ－c
45	34	I－9	石鏃	1.422	1.234	0.424	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
45	35	F－6	石鏃	1.320	1.405	0.424	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
46	36	E－5	石鏃	1.608	1.734	0.341	0.6	黒曜石	Ⅱ－d
46	37	C－9	石鏃	1.388	1.755	0.351	0.5	黒曜石	Ⅱ－d
46	38	G－6	石鏃	1.980	1.528	0.365	0.9	チャート	Ⅲ
46	39	D－3	石鏃	1.377	1.765	0.362	0.4	黒曜石	Ⅲ
46	40	G－6	石鏃	1.544	1.011	0.455	0.6	黒曜石	Ⅳ
46	41	F-10	石鏃	2.082	1.834	0.620	2.1	黒曜石	Ⅳ
46	42	H－7	石鏃	2.889	2.288	0.818	5.5	頁岩	Ⅳ
46	43	F－8	石鏃	2.323	1.825	0.361	1.5	頁岩	Ⅳ
46	44	B－1	石鏃	1.875	1.748	0.374	1.0	チャート	Ⅳ
46	45	F－5	石鏃	2.840	3.400	0.744	7.4	頁岩	Ⅳ
46	46	A－1	石鏃	3.685	2.449	0.600	4.6	頁岩	Ⅳ
46	47	F－5	石鏃	3.128	2.312	0.577	4.0	頁岩	Ⅳ
47	48	A－2	スクレイパー	4.698	5.405	1.052	14.8	頁岩	Ⅰ
47	49	F－9	スクレイパー	5.500	6.300	2.000	67.8	頁岩	Ⅰ

表 5　杉木原遺跡　縄文石器計測表（2）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
47	50	E-10	スクレイパー	4.500	3.200	1.100	18.2	頁岩	Ⅰ
47	51	B－2	スクレイパー	4.446	2.438	0.821	10.4	珪質岩	Ⅰ
47	52	K－8	スクレイパー	2.400	3.200	1.100	8.1	流紋岩	Ⅰ
47	53	E-10	スクレイパー	6.400	5.300	1.400	46.3	頁岩	Ⅰ
47	54	H－7	スクレイパー	3.306	3.555	1.295	20.7	頁岩	Ⅰ
47	55	J－7	スクレイパー	4.300	3.500	0.800	9.9	頁岩	Ⅰ
47	56	J－8	スクレイパー	6.500	4.200	1.500	54.0	頁岩	Ⅱ
47	57	C－6	スクレイパー	4.160	3.933	1.174	14.0	頁岩	Ⅱ
47	58	G－7	スクレイパー	5.200	1.200	3.400	15.2	頁岩	Ⅱ
47	59	E－9	スクレイパー	4.400	3.800	1.300	30.2	頁岩	Ⅱ
47	60	G－7	スクレイパー	4.000	3.800	0.600	15.4	頁岩	Ⅱ
47	61	J－7	スクレイパー	6.400	7.000	2.000	128.6	砂岩	Ⅲ
47	62	G－7	縦長剥片	9.175	4.820	0.941	47.9	凝灰岩	
47	63	I－6	砥石	12.193	2.662	2.333	162.9	砂岩	
47	64	一括	有孔石器	3.446	1.862	1.862	23.5	砂岩	
47	65	C-10	局部磨製石斧	6.002	3.723	2.192	46.3	砂岩	
48	66	J－9	磨石	8.780	7.180	3.920	357.0	砂岩	
48	67	G－7	磨石	12.300	9.400	3.700	584.3	砂岩	
48	68	G－4	磨石	7.650	9.700	5.100	515.4	砂岩	
48	69	一括	磨石	10.520	7.790	4.700	574.4	砂岩	
48	70	A－2	磨石	9.300	9.300	3.550	409.3	砂岩	
48	71	F－5	磨石	10.720	9.200	4.750	664.7	砂岩	
48	72	K－9	磨石	8.900	7.500	6.050	402.7	砂岩	
48	73	C－4	磨石	10.700	7.200	3.600	388.8	砂岩	
48	74	F－7	磨石	11.950	9.350	4.200	610.3	砂岩	
49	75	G－7	磨石	9.950	6.320	6.040	521.5	砂岩	
49	76	G－4	敲石	11.500	8.200	4.900	675.3	砂岩	
49	77	G－6	敲石	7.130	4.820	3.350	136.4	砂岩	
49	78	F－4	敲石	9.900	5.500	3.350	136.4	砂岩	
49	79	G－7	敲石	13.400	5.700	3.500	388.5	砂岩	
49	80	J－8	窪み石	12.900	5.700	3.300	336.5	砂岩	
49	81	I－8	軽石製品	8.699	7.180	2.155	107.3	砂岩	
50	82	I－8	石皿	25.600	26.350	4.800	5,500.0	砂岩	
50	83	I-10	石皿	27.750	21.500	6.650	5,000.0	砂岩	
51	84	K－7	石皿	32.600	37.200	64.000	5,600.0	砂岩	
51	85	H-11	石皿	28.850	20.300	5.300	5,500.0	砂岩	
		F－6	石鏃	2.050	1.700	0.300	0.7	頁岩	Ⅰ－a
		E－5	石鏃	1.000	1.350	0.450	0.5	黒曜石	Ⅰ－a
		K－8	石鏃	1.850	1.250	0.300	0.6	黒曜石	Ⅰ－a
		G－5	石鏃	0.650	0.600	0.100	0.1	黒曜石	Ⅰ－a
		D-10	石鏃	1.450	0.900	0.300	0.3	黒曜石	Ⅰ－a
		F－9	石鏃	1.150	0.900	0.200	0.2	黒曜石	Ⅰ－a
		G－7	石鏃	1.400	0.950	0.200	0.3	頁岩	Ⅰ－a
		一括	石鏃	0.800	0.850	0.250	0.2	黒曜石	Ⅰ－b
		D－6	石鏃	1.400	1.200	0.400	0.5	チャート	Ⅰ－b
		F－8	石鏃	2.100	1.600	0.500	1.2	チャート	Ⅰ－b
		F－6	石鏃	1.800	1.700	0.400	1.3	黒曜石	Ⅰ－b
		I-10	石鏃	2.050	1.400	0.400	0.8	黒曜石	Ⅰ－b
		D-11	石鏃	1.700	1.050	0.450	0.7	黒曜石	Ⅰ－b

表　5　　杉木原遺跡　縄文石器計測表（3）

図面番号	遺物番号	出土位置	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石　材	備　考
		C－2	石鏃	2.200	1.200	0.450	1.1	黒曜石	Ⅰ－b
		L-10	石鏃	2.000	1.400	0.300	0.5	チャート	Ⅰ－b
		B－5	石鏃	1.100	1.450	0.550	0.8	黒曜石	Ⅰ－b
		一括	石鏃	1.000	0.800	0.150	0.1	黒曜石	Ⅰ－b
		一括	石鏃	0.900	1.550	0.200	0.1	黒曜石	Ⅰ－b
		一括	石鏃	0.900	1.550	0.200	0.1	黒曜石	Ⅰ－b
		一括	石鏃	1.250	0.950	0.200	0.1	黒曜石	Ⅰ－c
		K－8	石鏃	2.200	1.800	0.350	0.9	黒曜石	Ⅰ－c
		B－6	石鏃	2.350	1.600	0.350	1.0	黒曜石	Ⅰ－c
		B－4	石鏃	2.350	1.600	0.350	1.0	黒曜石	Ⅰ－c
		K－9	石鏃	2.550	1.750	0.400	0.9	チャート	Ⅰ－c
		K－9	石鏃	1.700	1.150	0.400	0.4	黒曜石	Ⅰ－c
		I－10	石鏃	2.550	2.100	0.400	1.6	チャート	Ⅰ－c
		F-12	石鏃	2.300	1.900	0.400	1.1	チャート	Ⅰ－c
		K－7	石鏃	2.200	1.700	0.400	0.8	チャート	Ⅰ－c
		G-11	石鏃	3.000	1.950	0.500	1.9	チャート	Ⅱ－a
		D－3	石鏃	1.700	1.850	0.350	1.0	黒曜石	Ⅱ－a
		I－7	石鏃	2.130	1.550	0.550	1.5	頁岩	Ⅱ－a
		J－9	石鏃	2.100	1.000	0.600	1.8	チャート	Ⅱ－a
		G－6	石鏃	0.950	1.150	0.250	0.3	黒曜石	Ⅱ－a
		F-10	石鏃	1.200	1.200	0.500	0.6	黒曜石	Ⅱ－a
		G－5	石鏃	1.800	1.400	0.400	0.8	頁岩	Ⅱ－a
		C－2	石鏃	1.450	1.300	0.200	0.4	黒曜石	Ⅱ－a
		I-10	石鏃	1.650	1.450	0.300	0.6	頁岩	Ⅱ－a
		J－8	石鏃	1.850	2.300	0.300	1.4	頁岩	Ⅱ－a
		C－4	石鏃	2.950	2.450	0.900	5.7	頁岩	Ⅱ－b
		G－7	石鏃	1.000	1.050	0.250	0.3	黒曜石	Ⅱ－b
		G－9	石鏃	0.750	0.650	0.200	0.1	チャート	Ⅱ－b
		G－7	石鏃	1.150	0.750	0.250	0.1	黒曜石	Ⅱ－b
		H－9	石鏃	1.950	1.300	0.500	0.8	黒曜石	Ⅱ－c
		F-11	石鏃	1.150	1.300	0.400	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
		I－8	石鏃	1.300	1.450	0.200	0.4	黒曜石	Ⅱ－c
		I－7	石鏃	1.550	1.350	0.200	0.4	頁岩	Ⅱ－c
		一括	石鏃	0.900	1.000	0.300	0.2	黒曜石	Ⅱ－c
		C－5	石鏃	1.100	0.850	0.300	0.2	黒曜石	Ⅳ
		G－11	石鏃	1.000	1.300	0.400	0.4	黒曜石	Ⅳ
		I－11	石鏃	1.000	1.200	0.200	0.1	頁岩	Ⅳ
		D－9	石鏃	1.200	1.550	0.200	0.3	黒曜石	Ⅳ
		J－8	石鏃	1.050	1.250	0.200	0.2	黒曜石	Ⅳ
		D－7	石鏃	1.300	1.100	0.500	0.5	黒曜石	Ⅳ
		H－6	石鏃	3.200	2.200	1.200	6.2	チャート	Ⅳ
		H－7	石鏃	1.850	1.050	0.300	0.5	黒曜石(姫島)	Ⅳ
		K－9	石鏃	1.550	1.100	0.400	0.7	黒曜石	Ⅳ
		F－6	石鏃	2.400	1.900	0.400	1.7	黒曜石	Ⅳ
		H－5	石鏃	3.950	3.000	1.200	12.9	チャート	Ⅳ
		H－6	石鏃	1.700	0.900	0.350	0.7	黒曜石	Ⅳ
		H－7	石鏃	2.200	1.050	0.250	0.6	黒曜石	Ⅳ
		D－6	石鏃	2.650	2.135	0.900	4.9	チャート	Ⅳ
		B－3	石鏃	3.300	1.650	1.100	5.1	チャート	Ⅳ

表 5　杉木原遺跡　縄文石器計測表（4）

図面番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
		H－7	石鏃	3.100	2.300	0.800	5.8	チャート	Ⅳ
		K－9	石鏃	1.400	0.800	0.200	0.3	チャート	Ⅳ
		I－9	石鏃	2.350	1.150	0.300	0.7	頁岩	Ⅳ
		H－8	石鏃	3.700	2.450	1.000	7.9	頁岩	Ⅳ
		J－8	石鏃	1.200	1.750	0.400	0.7	黒曜石	Ⅳ
		I－8	石鏃	1.500	1.100	0.200	0.4	チャート	Ⅳ
		H-10	石鏃	1.550	0.950	0.300	0.5	黒曜石	Ⅳ
		一括	石鏃	0.750	0.500	0.150	0.1	黒曜石	Ⅳ
		一括	石鏃	0.850	1.200	0.300	0.4	黒曜石	Ⅳ
		一括	石鏃	1.050	0.950	0.200	0.3	黒曜石	Ⅳ
		一括	石鏃	1.550	1.150	0.500	0.8	黒曜石	Ⅳ
		B－1	スクレイパー	3.000	4.000	0.750	8.3	頁岩	Ⅰ
		J－9	スクレイパー	3.400	4.650	1.000	24.9	頁岩	Ⅰ
		F－6	スクレイパー	2.300	3.600	0.600	4.0	頁岩	Ⅰ
		F－9	スクレイパー	2.900	1.700	0.550	2.6	チャート	Ⅰ
		G－7	スクレイパー	3.000	1.900	0.400	2.1	チャート	Ⅰ
		D－3	スクレイパー	2.050	1.450	0.300	1.0	チャート	Ⅰ
		F－3	スクレイパー	2.400	1.750	0.450	2.3	頁岩	Ⅰ
		K－7	スクレイパー	3.750	3.050	0.900	10.5	頁岩	Ⅰ
		K－8	スクレイパー	3.900	2.950	0.850	9.6	頁岩	Ⅰ
		D－4	スクレイパー	4.200	3.100	0.500	6.4	頁岩	Ⅰ
		B－5	スクレイパー	4.600	4.600	1.500	36.3	頁岩	Ⅰ
		G－7	スクレイパー	4.950	6.000	1.600	41.2	頁岩	Ⅱ
		D－2	スクレイパー	3.450	2.550	0.800	6.9	頁岩	Ⅱ
		G－8	スクレイパー	4.350	7.600	1.800	41.1	頁岩	Ⅱ
		J－7	スクレイパー	6.200	6.100	1.600	49.3	砂岩	Ⅲ
		G－8	スクレイパー	6.450	5.500	1.100	35.7	頁岩	Ⅲ
		I－7	スクレイパー	5.100	4.300	0.950	21.2	流紋岩	Ⅲ
		I－7	スクレイパー	3.400	4.000	0.800	9.9	頁岩	Ⅲ
		B－4	磨石	9.800	8.700	4.600	538.3	砂岩	
		D－4	磨石	7.400	6.800	3.800	262.8	砂岩	
		B－3	磨石	6.400	7.250	5.300	319.1	砂岩	
		B－3	磨石	7.700	6.100	4.250	247.5	砂岩	
		B－4	磨石	3.150	2.950	2.300	30.3	砂岩	
		C－4	磨石	6.300	5.200	4.000	208.5	砂岩	
		D－5	磨石	7.200	4.400	4.200	175.9	砂岩	
		D－5	磨石	7.100	4.100	2.600	115.7	砂岩	
		C－7	磨石	12.700	7.100	7.100	845.5	砂岩	
		E－6	磨石	8.300	5.700	2.400	170.7	砂岩	
		F－8	磨石	6.950	5.800	4.600	253.8	砂岩	
		H－8	磨石	4.550	3.900	3.300	83.7	砂岩	
		E－7	磨石	9.700	9.900	2.300	274.8	砂岩	
		E－6	磨石	8.300	6.900	4.600	373.9	砂岩	
		G－8	磨石	8.700	6.700	4.900	427.7	砂岩	
		E－7	磨石	8.750	5.150	5.100	268.4	砂岩	
		C－6	磨石	6.850	5.650	4.050	197.5	砂岩	
		G-10	磨石	5.000	6.350	5.600	344.2	砂岩	
		G－9	磨石	6.400	6.000	2.700	128.8	砂岩	
		C-10	磨石	8.800	6.600	4.800	319.8	砂岩	

表　5　　杉木原遺跡　縄文石器計測表（5）

図面番号	遺物番号	出土位置	器　　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石　　材	備　　考
		C－10	磨石	8.400	5.500	5.300	358.6	砂　岩	
		D－5	磨石	6.400	4.150	3.500	129.9	砂　岩	
		D－6	磨石	6.500	5.750	4.700	227.2	砂　岩	
		E－6	磨石	10.300	4.400	3.200	223.6	砂　岩	
		D－5	磨石	7.900	6.400	4.900	353.8	砂　岩	
		D－5	磨石	8.800	7.550	5.500	503.6	砂　岩	
		F－7	磨石	8.400	6.950	5.350	418.3	砂　岩	
		C－4	磨石	12.000	10.500	5.000	876.0	砂　岩	
		B－4	磨石	8.700	7.700	4.950	476.3	砂　岩	
		B－3	磨石	12.800	9.300	5.500	926.3	砂　岩	
		B－3	磨石	12.700	9.500	4.400	698.7	砂　岩	
		I－7	磨石	9.600	6.000	5.550	377.5	砂　岩	
		C－2	磨石	5.800	5.200	4.550	187.0	砂　岩	
		C－10	磨石	8.900	6.500	5.150	381.2	砂　岩	
		C－4	磨石	8.700	6.200	4.800	367.5	砂　岩	
		G－7	磨石	10.100	9.000	5.200	606.0	砂　岩	
		H－7	磨石	8.050	6.900	4.600	358.2	砂　岩	
		H－7	磨石	9.150	6.100	4.250	342.8	砂　岩	
		H-11	磨石	6.400	6.100	5.100	279.3	砂　岩	
		I－9	磨石	4.900	4.100	3.400	93.4	砂　岩	
		I－9	磨石	3.500	2.300	2.200	25.6	砂　岩	
		J－7	磨石	6.800	6.100	5.200	290.3	砂　岩	
		J－7	磨石	10.100	10.100	4.900	655.3	砂　岩	
		I-10	磨石	5.100	4.100	3.300	79.7	砂　岩	
		J－7	磨石	7.900	5.500	3.400	180.1	砂　岩	
		L－7	磨石	6.800	4.800	4.300	187.7	砂　岩	
		G-11	磨石	4.200	3.800	2.300	70.3	砂　岩	
		K－7	磨石	14.300	8.300	5.900	1,009.5	砂　岩	
		K－9	磨石	8.700	8.000	4.300	371.1	砂　岩	
		J－7	磨石	13.700	9.900	5.800	882.6	砂　岩	
		I－8	磨石	8.100	6.900	3.300	252.2	砂　岩	
		L－8	磨石	8.200	4.400	3.900	195.7	砂　岩	
		J－7	磨石	6.600	6.500	3.000	124.1	頁　岩	
		K－9	磨石	8.100	5.800	4.400	285.4	砂　岩	
		I－9	磨石	8.600	7.400	5.100	460.4	砂　岩	
		J－7	磨石	9.100	8.500	4.150	406.2	砂　岩	
		J－7	磨石	5.700	5.600	4.000	170.3	砂　岩	
		I－7	磨石	8.800	6.400	5.400	367.0	砂　岩	
		F－12	磨石	6.900	4.900	4.600	208.8	砂　岩	
		J－6	磨石	11.800	6.000	3.800	390.4	砂　岩	
		E－2	磨石	9.800	6.100	4.100	3,582.0	砂　岩	
		D－2	磨石	7.200	6.400	4.400	290.7	砂　岩	
		D－5	磨石	6.600	6.000	2.900	144.6	砂　岩	
		A－2	磨石	9.400	8.500	4.900	545.3	砂　岩	
		I－8	磨石	9.300	6.400	6.200	499.6	砂　岩	
		D－9	磨石	11.100	8.200	4.800	599.1	砂　岩	
		E－6	磨石	10.300	9.500	5.500	700.4	砂　岩	
		一括	磨石	9.100	6.700	5.500	476.0	砂　岩	
		一括	磨石	5.400	4.500	3.900	145.1	砂　岩	

表　5　　杉木原遺跡　縄文石器計測表（6）

図面番号	遺物番号	出土位置	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石　材	備　考
		B－5	敲石	9.400	8.600	5.850	576.3	砂　岩	
		B－6	敲石	4.200	7.200	2.700	105.4	砂　岩	
		D－5	敲石	7.300	6.300	4.800	294.5	砂　岩	
		D－5	敲石	10.100	8.400	4.600	573.2	砂　岩	
		G－6	敲石	9.600	5.600	3.700	288.1	砂　岩	
		F－5	敲石	7.400	6.900	3.900	263.5	砂　岩	
		E－6	敲石	9.400	6.900	5.100	485.7	砂　岩	
		I－8	敲石	7.200	6.400	4.700	288.0	砂　岩	
		K－8	敲石	9.800	7.100	4.800	373.0	砂　岩	
		K－7	敲石	6.400	5.700	4.800	237.8	砂　岩	
		G－9	敲石	8.200	5.700	5.100	290.4	砂　岩	
		D－5	敲石	11.900	6.000	5.400	561.4	砂　岩	
		D－5	敲石	10.700	10.100	3.300	504.8	砂　岩	
		B－4	敲石	10.200	8.000	4.800	526.4	砂　岩	
		A－2	敲石	6.500	4.500	3.800	134.5	砂　岩	
		B－1	敲石	9.100	7.200	3.900	336.4	砂　岩	
		C－3	敲石	9.600	6.100	4.900	382.0	砂　岩	
		C－2	敲石	10.300	8.200	7.100	810.5	砂　岩	
		F－4	敲石	7.000	8.100	3.800	302.5	砂　岩	
		F－4	敲石	7.000	11.000	4.200	392.3	砂　岩	
		F－4	敲石	10.400	8.900	7.000	915.4	砂　岩	
		H－6	敲石	9.200	5.900	3.600	259.3	砂　岩	
		G－6	敲石	13.700	6.500	5.900	696.1	砂　岩	
		H－9	敲石	8.700	6.000	5.200	372.5	砂　岩	
		K－7	敲石	11.600	5.100	2.700	246.7	砂　岩	
		K－7	敲石	8.400	7.400	4.600	391.0	砂　岩	
		J－7	敲石	10.600	7.500	5.800	627.7	砂　岩	
		J－7	敲石	6.700	7.200	5.100	334.4	砂　岩	
		L－9	敲石	9.200	8.200	3.200	383.0	砂　岩	
		J－10	敲石	7.200	6.500	2.200	160.6	砂　岩	
		K－7	敲石	6.400	4.500	3.500	139.5	砂　岩	
		I－8	敲石	9.800	4.500	4.800	328.3	砂　岩	
		G－7	敲石	13.600	4.900	213.000	243.6	砂　岩	
		J－6	敲石	11.800	4.900	4.200	311.8	砂　岩	
		D－5	敲石	14.800	7.000	3.900	599.6	砂　岩	
		D－5	敲石	9.300	5.600	3.500	289.1	砂　岩	
		E－7	敲石	6.700	5.700	2.600	138.3	砂　岩	
		F－9	敲石	13.800	5.900	3.600	432.1	砂　岩	
		H－7	敲石	12.200	8.000	5.800	701.3	砂　岩	
		J－7	敲石	14.600	5.000	2.500	365.8	砂　岩	
		一括	石皿	321.200	23.600	4.900	3,000.0	砂　岩	
		H－7	石皿	33.100	19.600	4.800	4,500.0	砂　岩	
		J－7	石皿	29.200	20.900	6.900	4,500.0	砂　岩	
		I－10	石皿	21.700	16.500	4.900	2,000.0	砂　岩	

Ⅱ類－長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたもの。（５６～６０）総数８

Ⅲ類－未製品のものを一括した。（６１）総数５

石材は頁岩が最も多く他に流紋岩や珪質岩などが使用されている。４８は、刃部が右側辺に表面から細かな調整加工により作り出されているものである。石材は頁岩を使用している。Ａ－２より出土している。４９は、左右側縁に表裏両面から細かな調整加工により作り出されているもので石材は頁岩を使用している。Ｆ－９より出土している。５０は、左側縁に表裏両面からの細かな調整加工により刃部が作り出されているものである。Ｅ－１０より出土し、石材は頁岩である。５１は、両側縁に表裏両面から細かい調整加工が施されたものである。Ｂ－２より出土して石材は珪質岩を使用している。５２は、左側縁に表裏両面からの細かな調整加工により刃部が構成されたものでＫ－８より出土していて石材は、流紋岩が使用されている。５３は、左右側縁表裏両面からの細かな調整加工により刃部が形成されたものである。Ｅ－１０より出土している。石材は頁岩製である。５４は、左側辺表裏両面からの調整加工により刃部を形成しているものである。Ｈ－７より出土しており、石材は頁岩製である。５５は、両側辺に表面からの調整加工により刃部が形成されたものである。Ｊ－７より出土し、石材は頁岩製である。以上は剥片の側縁に連続的な調整を施して刃部を作成していることからサイドスクレイパーでⅠ類として分類した。

５６は、端部に調整加工を施したものでＪ－８から出土し、石材は頁岩製である。５７も、長軸上の端部に調整加工を施したものでＣ－６から出土している。５８も端部に調整加工で刃部を設けている。Ｇ－７から出土している。石材は頁岩である。５９は、Ｅ－９から出土したもので端部に調整加工がみられる。６０は、端部に明瞭に調整加工による刃部が確認できるものでＧ－７から出土し、石材は頁岩である。以上は長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたものであることからエンドスクレイパーでⅡ類に分類した。６１は、スクレイパーの未製品でⅢ類とした。Ｊ－７から出土していて、石材は砂岩製である。

縦長剥片（第４７図６２）

６２は、凝灰岩製の使用痕のある縦長剥片でＧ－７で検出されている。

砥石（第４７図６３）

６３は、Ｉ－６で出土した砥石である。石材は砂岩製である。

有孔石器（第４７図６４）

６４は、一括遺物であるが、有孔石器で用途については不明である。

局部磨製石斧（第４７図６５）

６５は、頁岩製の局部磨製石斧で表裏両面の一部に磨きがみられる。

磨石（第４８～４９図６６～７５）

磨石は全部で７９点出土している。川原石をあまり変形しないものが多く、石材の多くは尾鈴酸性岩と思われる砂岩が使われている。磨面は表裏とも使いほぼ楕円形状に磨り面がみられる。

敲石（第４９図７６～７８）・凹石（第４９図７９～８０）

敲石は、全部で４３点ほど出土している。石材は磨石と同じ砂岩で７６は、敲打痕が端部にあるものである。７７・７８は、表裏両面に敲打痕を持つものである。また、凹石としても転用された

と考えられる。

凹石は、全部で２点ほど出土している。石材は砂岩で７９は、表裏両面に窪み部分を持つものである。また、８０は片面だけに窪み部分を持つものである。

軽石製品（第４９図８１）

軽石製の有孔石器で、用途については不明である。

石皿（第５０～５１図８２～８５）

石皿の総数は８点検出されている。８２は、Ｉ－８で検出され扁平な川原石を使用し磨り面があまり明瞭なものではない。８３は、Ｉ－１０で検出されたもので、磨り面は８２と同様で明瞭なものではない。８４は、杉木原遺跡の石皿の中で最大の大きさを誇るものでＫ－７から出土している。しかしこの石皿も磨り面はあまり明瞭なものではない。８５は、Ｈ－１１で検出されている。これも同様に磨り面は明瞭ではない。

第５節　まとめ

杉木原遺跡は、平成７年度東九州自動車道建設に伴い発掘調査された遺跡で、旧石器時代の石器、縄文時代草創期の土器・縄文時代早期の遺構（集石遺構・土壙）・遺物（土器・石器）が出土した複合遺跡であることが確認された。以下、調査の成果について簡略ではあるが整理して述べてみたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構は確認できなかったが、旧石器の遺物は前述のとおり９８点ほど出土している。包含層は薄く、良好な状態では検出できなかった。その内訳は、ナイフ形石器（４点）・サイドスクレイパー・エンドスクレイパー（６点）・縦長剥片（７点）・石核（２６点）・細石刃（１９点）・剥片（１５点）・チップ（２１点）である。製品の石器全体に対する割合は、１０％を占めている。出土層はⅤ層でほとんど検出されている。しかし、遺跡全体では一部縄文時代早期の包含層と混在し、また、遺物の量としても９８点と少ないため、検出した石器組成が当時の本来の状況であるかは不明である。遺物のブロックであるが、ナイフ形石器は、石核と近い場所でレベルもⅤ層下部で検出している。また、細石刃が縄文草創期との関連で隆帯文や爪形文などの土器群と共伴する事例が増えてきている。九州地方では、縄文草創期まで細石器文化が残ることが実証される発見例が増えている。本遺跡は隆帯文や爪形文などが僅か３点しか検出されておらず細石刃を伴うことが明確でないため、細石刃を旧石器時代の遺物として報告することにした。

縄文時代草創期の土器

Ⅳ層下部のＪ－７・Ｋ－７から隆帯文土器がそれぞれ１点、Ｅ－１１から爪形文土器が１点出土した。類似の土器が宮崎市南部の堂地西遺跡Ｂ区、宮崎市南西部の椎屋形第１遺跡のＡ区等で出土している。しかし、遺物量が３点と少なく単独層としての出土が明確でないし、当遺跡から出土している石器との層位的関係も明確でない。

縄文時代早期の遺構と遺物

本遺跡の早期の遺物は、早期前葉から早期後葉までのものがみられる。南九州の縄文時代早期の土器は、早期前葉から中葉に貝殻円筒形土器が早期後葉に塞ノ神式土器が位置付けられている。こ

こでは時期ごとにみていきたい。

早期前葉の土器

早期前葉の土器には前平式土器の岩本タイプ・前平式土器・吉田式土器などがみられる。このタイプは、貝殻円筒形のものである。遺物の出土状況であるが特異性はみられない。遺物数からして本遺跡の主体的時期ではないが、早期前葉にはこの地域に生活の跡がみられ始める。

早期中葉の土器

早期中葉の土器には、下剥峰式土器・桑ノ丸式土器・押型文土器などがみられた。遺物の出土状況は、押型文土器が本遺跡の中でも一番の出土量を誇っている。遺物もまんべんなく出土している。県南部に特徴的な土器としては、円筒形土器に類似し、外面に粗大な押型文を施すもの（本遺跡ではⅦａ類に相当する。）外反する器形の外面に大きく山形文や楕円文を鋸歯状に施文するもの（本遺跡ではⅧｃ３類に相当する。）などがある。

早期後葉の土器

早期後葉の土器には塞ノ神式土器が出土している。土器の特徴は円筒形の胴部の上に「く」の字状に口縁部が外反し、口唇部にヘラ状工具による斜め方向や羽状の刻みをもっている。

土器はＸ類に分類した。Ⅰ類は前平式土器岩本タイプ・Ⅱ類は前平式土器、Ⅲ類は吉田式土器、Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類は下剥峰式土器で、その内Ⅴ類は清武町辻遺跡出土のものと類似しており辻タイプに相当する。Ⅶ類は桑ノ丸式土器、Ⅷ類は押型文土器、Ⅸ類は高橋信武の言う塞ノ神Ⅰ式土器、Ｘ類はその他の土器である。本遺跡出土の早期土器は全部で３，６６５点出土したが、その内訳は前述のように押型文土器が１，６５１点（楕円；１，２４４点・山形；４０７点）と全体の４５％を占め、塞ノ神式土器２２０点・貝殻文円筒形土器３２５点、無文土器１０２点、形式不明土器１，３６７点となっている。押型文土器の編年は大分編年があるが、それに当てはめると本遺跡の押型文土器は、下菅生Ｂ式土器→田村式土器→ヤトコロ式土器あたりに位置付けられる。本遺跡では同一層（Ⅳ層）から押型文土器と貝殻文円筒形土器・塞ノ神式土器が出土している。そこで、移入土器である押型文土器と在地系土器である貝殻文円筒形土器・塞ノ神式土器の関係について一考したい。Ⅷａ類土器に見られるように口縁部が直行し器形が円筒形平底を呈する押型文土器は、その器形は在地系の貝殻文円筒形土器（下剥峯式土器・桑ノ丸式土器）に似ている。これは押型文土器がその分布範囲を拡大する過程の中で、貝殻文円筒形土器との接触・影響によって生じたものと思われる。ただ、その接触の始まりをどこに位置付けるかである。第２３図から下剥峯・桑ノ丸式土器はＧ・Ｈ・Ｉの６～１０グリッドに集中しており、第２５図の塞ノ神式土器はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの１～６グリッドに集中している。同一層内でのレベル差は確認できなかったが、分布の状況から時期差はあったものと思われる。それに対して第２４図の押型文土器の分布図を見ると調査区一帯から満遍なく出土している。また、出土量も貝殻文系円筒土器や塞ノ神式土器に比べて圧倒的に多い。このことから、本遺跡の押型文土器文化は、縄文時代早期中葉の下剥峯・桑ノ丸式土器以前に移入し塞ノ神式土器が登場する早期後葉まで営まれていたのではないかと思われる。その間、下剥峯式土器・桑ノ丸式土器等の在地系土器と頻繁な接触を繰り返したと思われる。また、そのことが、器形や施文方向の関係において一概に大分編年にあてはまらない押型文土器文化を育み、また、宮崎

県の中でも大分県の影響を強く受ける県北と貝殻文系土器の影響を強く受ける県南とに違いを生じさせたものと思われる。本遺跡は両文化の中間に位置しており、両文化の影響を受けつつも、その中から両文化に見られない独自の押型文土器文化が育ったことが考えられる.。そこで、本遺跡の押型文土器を分類するときに施文方向にはとらわれず、器形や調整から分類することにした。結果、注目すべき事実を見出した。Ⅷｃ類土器のように、口縁部が外反し、口縁内面端部の施文帯と無文帯の境がケズリによって稜をなすものが多く出土している。このタイプの押型文土器が何に影響を受けているか、それとも独自の調整なのかは、筆者の研究不足で筆舌出来ないのが残念である。本遺跡出土土器の中でも特筆すべきものである。今後の類例を待ちたい。

次に本遺跡の石器について見てみると、石錘などの漁労具は出土していない。このことから本遺跡の主な成業は、狩猟や採集であったことが想像される。また、石鏃は丘陵の縁辺部に沿うように帯状に出土していることと先端部等が欠損しているものも多いことからこの遺跡の部分が狩猟の場となっていたのではないかと考えられる。製品の石器の総数に対する比率は４５％である。この中で磨石・敲石は、石器組成の中心を成し、石器全体の１９．０６％を占める。石鏃等の出土層はⅣ層である。南九州の場合、石器組成における磨石・敲石の占める割合が高いのが特徴のひとつであるが、本遺跡も例外ではない。縄文石器の製品総数の４４％を占めている。また、石鏃の製品に占める割合も高く４２％を占めている。石鏃の平面的な広がりは台地の縁辺部に見られるような傾向にある。しかし、Ⅰ類からⅣ類までの類的な特徴を見出すことはできなかった。石鏃の石材としてチャート・黒曜石・頁岩等が使用されている。石材の使用頻度は、ほぼ平均化していて偏りはみられない。

早期の遺構

本遺跡の集石遺構は、全体的に小規模のものが多い。それぞれの類の内訳は、１類が３基・２類が１９基・３類が１基・４類が１６基・５類が３基である。一番量が多いのは２類で、全体の４５％をしめている。掘り込みをもつ集石遺構の埋土はⅣ層を基本とした暗褐色土であり共通している。また、埋土の中から桑ノ丸式土器や押型文土器が検出された集石遺構が存在し、縄文早期中ごろの遺構の可能性もある。なお２０号集石遺構は、古環境研究所に委託して放射性炭素年代測定を行っている。それによると８５７０±５０（C年代）と暦年代ＢＣ７５３５（ＢＣ７５５０～ＢＣ７５１０）という結果がでている。３０号集石遺構は同じく古環境研究所に委託している。それによるとこの集石遺構の年代が８２２０±６０である。暦年代としてＢＣ７０６０（ＢＣ７２２５～ＢＣ７０３５）という結果がでている。また、土壙の中に、「陥し穴」に類似する遺構が１基存在した。このような陥し穴遺構は、関東や東北地方で多数検出されている遺構で、ここ最近は西日本でも検出例が増えてきた遺構である。この陥し穴遺構は埋土が自然堆積であり、埋土中に遺物を含まない、土壙の床面に逆茂木痕を持つという特徴を持っている。しかし、前述したように埋土中から遺物が検出されないため時期等については不明であるが、埋土が自然堆積で暗褐色層を基本とすることから早期の遺構として捉えている。

縄文時代早期の本遺跡周辺は、自然科学分析の結果から、森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。調査区の一部にブナやクリの照葉樹があり堅果類を

食したり集石を使って石蒸し料理等をしていたものと思われる。今回の調査では、確認できていないが住居跡があった可能性は、否定できないと思われる。

以上、事実報告だけの内容のないものになってしまったが、ここで紹介した資料が今後の研究に生かされれば幸いである。

なお、調査時から報告書の作成に至るまで御協力、御助言、御指導に預かった方々に謝意を表し本報告を終わりたい。

＜参考文献＞

(1) 下菅生Ｂ遺跡 「菅生台地と周辺の遺跡」 竹田市教育委員会 １９８６

(2) 手崎遺跡「日田市高瀬遺跡群の調査２」 大分市教育委員会 １９９８

(3) 柏原遺跡群「福岡市埋蔵文化財報告書第１９０集」 福岡市教育委員会 １９８８

(4) ヘゴノ原遺跡「加世田市埋蔵文化財報告書（１４）」 加世田市教育委員会 １９９７

(5) 榎崎Ｂ遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（４）」 鹿児島県立埋蔵文化財センター １９９３

(6) 下剥峯遺跡「西之表市埋蔵文化財発掘調査報告集」 鹿児島県西之表市教育委員会 １９７８

(7) 小山遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書２０」 鹿児島県教育委員会 １９８２

(8) 妙見遺跡「九州縦貫自動車（人吉～えびの間）建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第２集」 宮崎県教育委員会 １９９４

(9) 前畑遺跡「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（５２）」 鹿児島県教育委員会 １９９０

(10) 椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡 「県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎市教育委員会 １９９６

(11) 桑ノ丸遺跡「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（７）」 鹿児島県教育委員会 １９７７

(12) 岩本遺跡「南薩畑かん事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査概報」 指宿市教育委員会 １９７８

(13) 宮崎県内の平栫式土器・塞ノ神式土器 「宮崎縄文研究会資料集２」 宮崎縄文研究会 １９９８

(14) 九州の押型文土器「縄文集成シリーズ３」 九州縄文研究会 １９９８

(15) 神殿遺跡Ａ地区「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第７集」 宮崎県埋蔵文化財センター １９９７

(16) 打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡「一般国道２１８号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎県教育委員会 １９９５

(17) 芳ヶ迫・札ノ元遺跡「田野町文化財調査報告書第３集」 田野町教育委員会 １９８６

(18) 九州縄文土器編年の諸問題「九州縄文研究会鹿児島資料集」 九州縄文研究会 １９９８

(19) 内野々遺跡「林業試験場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 宮崎県教育委員会 １９９２

(20) 「縄文通信№２・№４・№７・№８・№１０・№１１・№１２」 南九州縄文研究会

(21) 縄文土器大観１ 小学館

第6節　杉木原遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．杉木原遺跡の土層とテフラ

1．はじめに

宮崎平野とその周辺にはすでに噴出年代が明らかにされている示標テフラが多く確認されている。そこで杉木原遺跡において地質調査を行い、土層の層序を記載するとともに、示標テフラの層位を把握して土層の形成年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象とした地点は、第１～５地点の５地点である。

2．土層の層序

（1）第１地点

この地点では、下位より黄色軽石混じ黄褐色砂質土（層厚２５ｃｍ以上)、暗褐色土（層厚３１ｃｍ)、黄色軽石を多く含む暗灰色土（層厚１８ｃｍ，軽石の最大径８ｍｍ)、黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚１８ｃｍ)、暗褐色土（層厚１９ｃｍ)、暗褐色土（層厚１２ｃｍ)、細粒の黄色軽石を多く含む黒褐色土（層厚１１ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ)、細粒の黄色軽石混じり黒灰色土（層厚９ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ)、成層したテフラ層（層厚２７ｃｍ)、暗褐色作土（層厚３８ｃｍ）の連続が認められる（図１)。

これらの土層のうち下位より３層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相から約１．４-１．６万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石（Ｋｒ-Ｋｂ，町田・新井，１９９２，早田，１９９６）に由来すると考えられる。また上位より４層目の黒褐色土に多く含まれる黄色軽石は、縄文時代に桜島火山から噴出した嫁坂軽石（Ｙｍ，仮称）と考えられる。この軽石については約６，５００年前に桜島火山から噴出したと推定されている桜島末吉軽石（Ｓｚ-Ｓｙ，森脇，１９９４）に対比される可能性が考えられる。

さらにその上位の成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む下部の黄色軽石層（層厚２ｃｍ，軽石の最大径５ｍｍ，火山豆石の最大径３ｍｍ）と、上部の黄橙色細粒火山灰層（層厚２５ｃｍ）から構成されている。このテフラ層は、層相から約６，３００年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ａｈ，町田・新井，１９７８）に同定される。

（2）第２地点

ここでは、下位より黄色軽石を含む黄灰色火砕流堆積物（層厚５ｃｍ以上，軽石の最大径８２ｍｍ，石質岩片の最大径２７ｍｍ)、黄色軽石混じり黄灰色砂質土（層厚２２ｃｍ，軽石の最大径１３ｍｍ)、暗褐色土（層厚３１ｃｍ)、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚２４ｃｍ，軽石の最大径８ｍｍ)、黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚２３ｃｍ)、暗褐色土（層厚１８ｃｍ)、細粒の黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚１０ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ)、細粒の黄色軽石を多く含む暗褐色土（層厚９ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ)、黒灰色土（層厚９ｃｍ)、成層したテフラ層の連続が

認められる（図２）。

これらの土層のうち最下位の火砕流堆積物は、層位や層相から約２．２-２．５万年前に姶良カルデラから噴出した姶良入戸火砕流堆積物（A-Ｉｔｏ，荒牧，１９６９，町田・新井，１９７６，１９９２）に同定される。また下位より４層目の暗灰褐色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からＫｒ-Ｋｂに由来すると考えられる。また上位より３層目の暗灰色土に多く含まれる黄色軽石については、Ｙｍに由来する可能性が考えられる。最上位の成層したテフラ層はK-Ａｈに同定される。

（３）第３地点

この地点では、下位より黄色軽石混じり黄灰色砂質土（層厚２８ｃｍ，軽石の最大径２２ｍｍ）、褐色土（層厚１０ｃｍ）、暗褐色土（層厚２５ｃｍ）、黄色軽石を多く含む暗灰色土（層厚２７ｃｍ，軽石の最大径８ｍｍ）、暗褐色土のブロック混じり褐色土（層厚３０ｃｍ）、褐色土（層厚１５ｃｍ）、細粒の黄色軽石を少量含む褐灰色土（層厚７ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ）、細粒の黄色軽石を多く含む暗灰色土（層厚１３ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ）、黒灰色土（層厚８ｃｍ）、成層したテフラ層（層厚３０ｃｍ）、暗褐色土（層厚５ｃｍ）、黒褐色表土（層厚２８ｃｍ）の連続が認められる（図２）。

これらの土層のうち、下位より４層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からＫｒ-Ｋｂに由来すると考えられる。また上位より５層目の暗灰色土に多く含まれる黄色軽石については、Ｙｍに由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む黄色軽石層（層厚２ｃｍ，軽石の最大径５ｍｍ，火山豆石の最大径３ｍｍ）と、上部の黄橙色細粒火山灰層（層厚２８ｃｍ）から構成されている。このテフラ層は、層相からK-Ａｈに同定される。

（４）第４地点

ここでは、下位より褐色土（層厚１０ｃｍ以上）、黄色軽石を多く含む黒灰色土（層厚１９ｃｍ，軽石の最大径７ｍｍ）、黄褐色土（層厚２３ｃｍ）、褐色土（層厚２０ｃｍ）、細粒の黄色軽石を多く含む暗褐灰色土（層厚８ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ）、黒灰色土（層厚８ｃｍ）、成層したテフラ層の連続が認められる（図４）。

これらの土層のうち、下位より２層目の黒灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相からＫｒ-Ｋｂに由来すると考えられる。また上位より５層目の暗灰褐色土に多く含まれる黄色軽石については、Ｙｍに由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、層相からK-Ａｈに同定される。

（５）第５地点

この地点では、下位より黄灰色砂質土（層厚２６ｃｍ）、暗褐色土（層厚２３ｃｍ）、黄色軽石を多く含む黒灰色土（層厚３１ｃｍ，軽石の最大径４ｍｍ）、暗褐色土（層厚１３ｃｍ）、細粒の黄色軽石を少量含む暗褐色土（層厚８ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ）、細粒の黄色軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚１１ｃｍ，軽石の最大径２ｍｍ）、黒灰色土（層厚８ｃｍ）、成層したテフラ層（層厚２１ｃｍ）の連続が認められる（図５）。

これらの土層のうち、下位より３層目の暗灰色土中に多く含まれる黄色軽石は、その層位と岩相

からＫｒ-Ｋｂに由来すると考えられる。また上位より６層目の暗灰褐色土に多く含まれる黄色軽石については、Ｙｍに由来する可能性が考えられる。成層したテフラ層は、褐色火山豆石を含む下部の黄色軽石層（層厚３ｃｍ，軽石の最大径４ｍｍ，火山豆石の最大径３ｍｍ）と、上部の黄橙色細粒火山灰層（層厚１８ｃｍ）から構成されている。このテフラ層は層相からK-Ａｈに同定される。

３．小結

杉木原遺跡において地質調査を行った。その結果、姶良入戸火砕流堆積物（A-Ｉｔｏ）の上位の火山灰土中に、下位より霧島小林軽石（Ｋｒ-Ｋｂ）と桜島末吉軽石に同定される可能性のある嫁坂軽石（Ｙｍ)、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ａｈ）の３層の示標テフラの堆積が認められた。

文献

荒牧重雄（１９６９）鹿児島県国分地域の地質と火砕流堆積物．地質学雑誌，７５，ｐ．　４２５-４４２．

町田　洋・新井房夫（１９７６）広域に分布する火山灰－姶良Ｔｎ火山灰の発見とその　意義．科学，４６，ｐ．３３９-３４７．

町田　洋・新井房夫（１９９２）火山灰アトラス．東京大学出版会，２７６ｐ．

森脇　広（１９９４）桜島テフラ－層序・分布と細粒火山灰層の層位－．「鹿児島湾　周辺における第四紀後期の細粒火山灰にかんする古環境学的研究」．平成４・　５年度文部省科学研究費研究成果報告書，ｐ．１-２０．

Ⅱ．杉木原遺跡における放射性炭素年代測定結果

１．試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SI-20	炭化材 （コナラ節）	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 (長時間測定)
No.2	SI-30	炭化材 （クリ）	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法

２．測定結果

試料名	^{14}C年代 (年 BP)	δ^{13}C (‰)	補正 ^{14}C年代 (年 BP)	暦年代 交点（1σ）	測定No. (Beta-)
No.1	8570±50	-27.7	8530±50	BC7535 (BC7550～7510)	92805
No.2	8220±60	-28.2	8160±60	BC7060 (BC7255～7035)	92806

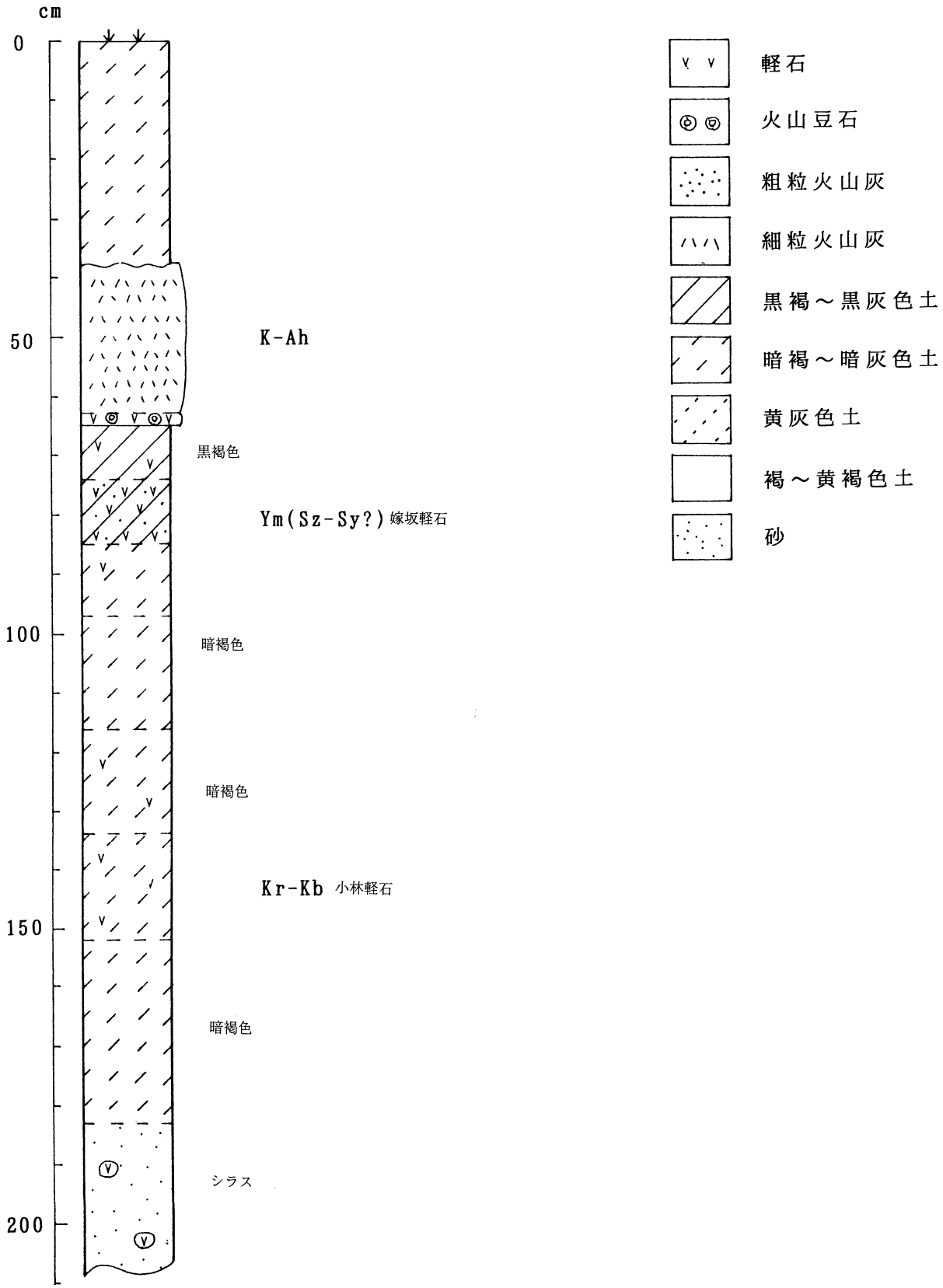


図１　第１地点の土層柱状図

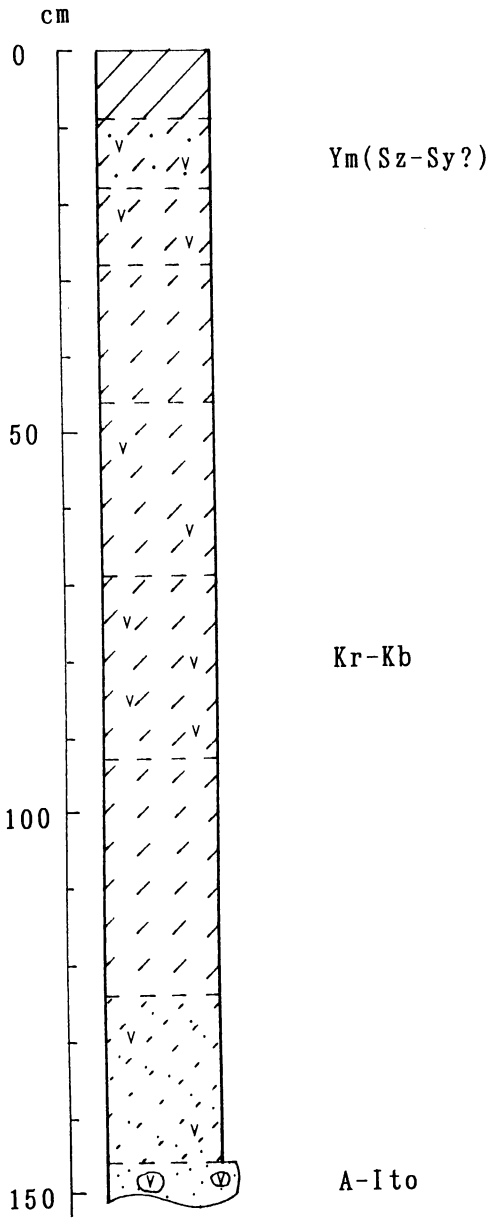


図２　第２地点の土層柱状図

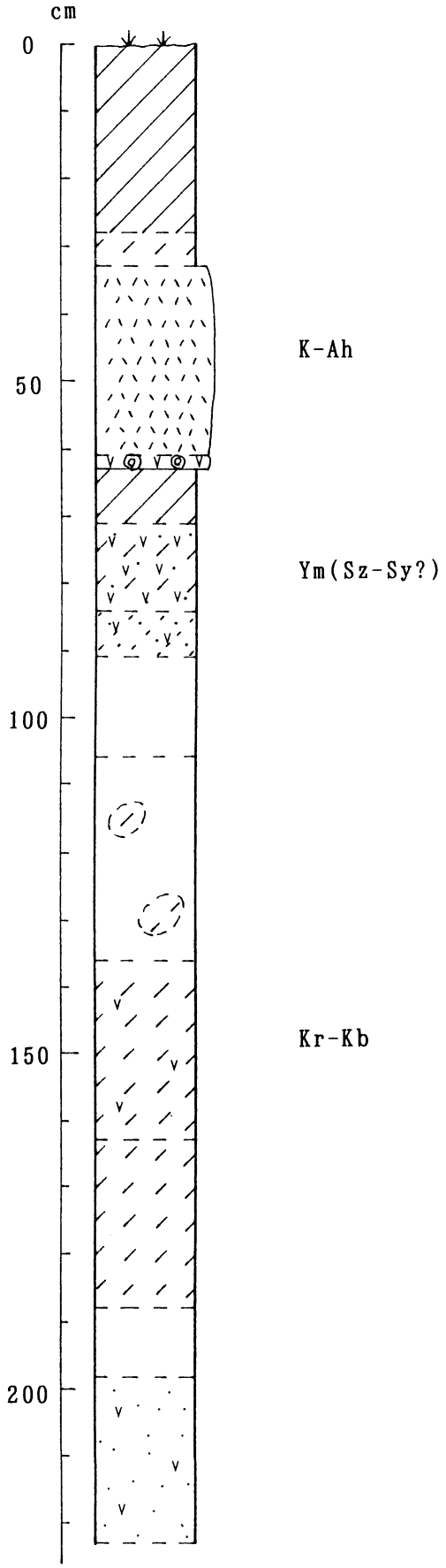


図３　第３地点の土層柱状図

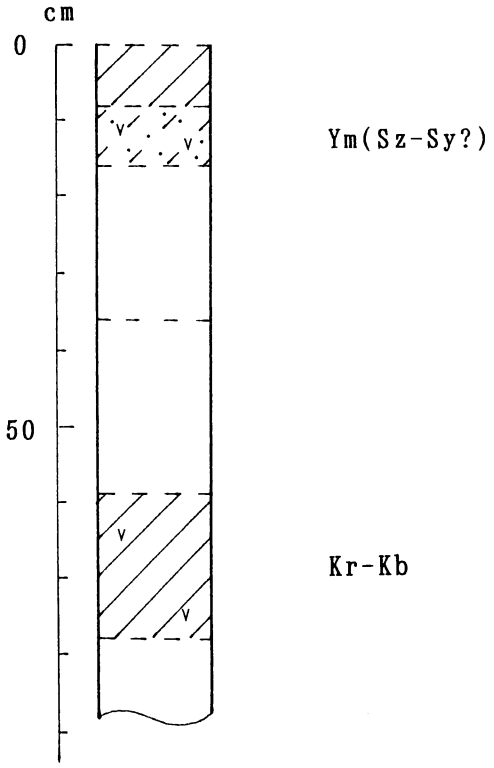


図４　第４地点の土層柱状図

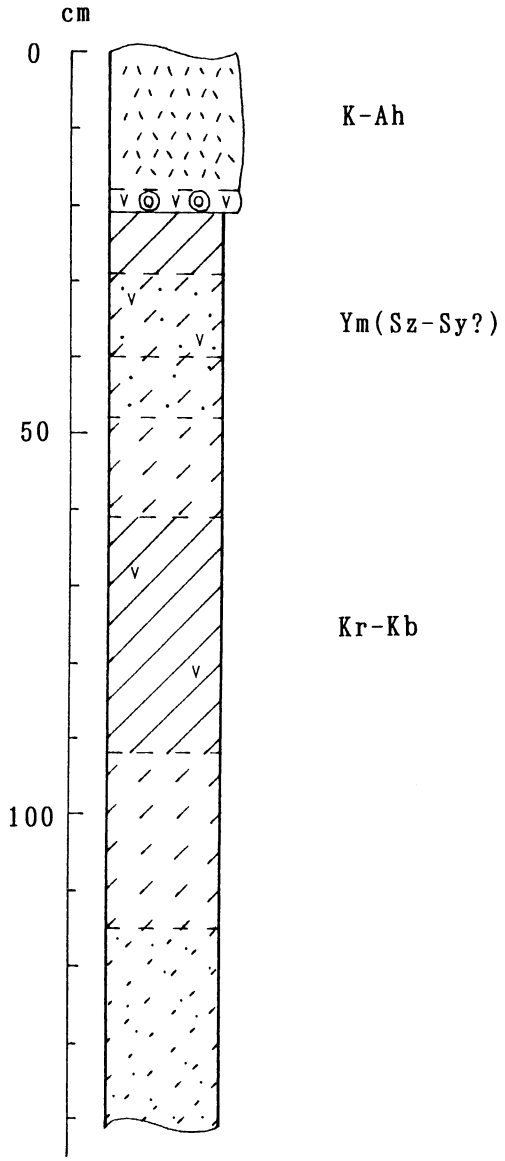


図５　第５地点の土層柱状図

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C／^{12}C比から、単純に現在（１９５０年ＡＤ）から何年前（ＢＰ）かを計算した値。^{14}Cの半減期は５，５６８年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C／^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C／^{12}C）。この値は標準物質（ＰＤＢ）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は１０，０００年ＢＰより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。１σは補正^{14}C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の１σ値が表記される場合もある。

Ⅲ．杉木原遺跡から出土した炭化材の樹種同定

１．試料

試料は、ＳＩ-２０およびＳＩ-３０から採取された２点の炭化材である。これらは、放射性炭素年代測定に用いられたものと同一試料である。

２．方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって７５～７５０倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結果

結果を表１に示し、図版に各断面の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表１　炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）	
SI-20	コナラ属コナラ節	Quercus sect. Prinus
SI-30	クリ	Castanea crenata Sieb. et Zucc.

a．クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版１

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では、小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の直径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ２０ｍ、径４０ｃｍぐらいであるが、大きいものは高さ３０ｍ、径２ｍに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

b．コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版２

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の直径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ１５ｍ、径６０ｃｍぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

参考文献

佐伯浩・原田浩（１９８５）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，Ｐ．４９-１００．